

- 3000 禎(てい・田宮たみや、号;言籟ごんかい)?-? 大阪の俳人;雑俳、  
1694「奈良土産」撰(大坂雁金屋庄兵衛版/来山らの高点句・万海らの冠附・長歌など)  
平野良弘の仮名か? → 良弘(りょうこう・平野、俳人) H 4 9 4 6
- 3016 貞(てい・伊佐いさ、号;未済館みせいかん主人)?-? 江後期京の本草学者;中心的活動、  
1799「多識会品目」編
- 3017 鼎(てい) ? - ? 俳人;1690不角「二葉之松」入  
[姉様のおとこくさきは誰たが匂ひ](二葉之松;405/前句;廻り返して腹を居にけり)
- 3018 鼎(てい・岩瀬いわせ、通称;秀平、良平男)1768-1800<sup>33</sup> 三河の医者;父門、儒/仏を修学、  
1800「剥蕉瑣言」著
- 3019 鼎(てい/かなえ・津川つがわ、別名;万鈞まんきん)?-? 江後期備後の儒者;中島棕隠門、詩人、  
1826「棕隠軒集」編/1839「櫻隠軒四集」巻下編
- F3009 てい(・光源寺こうげんじ) ? - 1861 肥前長崎の浄土真宗本願寺派光源寺住職諦順女、  
国学者/歌人
- F3017 貞(てい・富沢とみざわ、旧姓;上野)1841-1902<sup>62</sup> 上野群馬郡の国学者;朝香文敬ふみたか(山井)門・  
歌人;飯塚久敏・近藤芳樹門、上野吾妻郡吏、神道修成派(神道13派の1)、権大講義、  
[貞(;名)の字/号]字:文哉、号:峩琴
- F3020 貞(てい・橋本はしもと、旧姓;日野)1849-1919<sup>71</sup> 陸奥仙台の神職;黄金山神社社司、  
伊達宗基(仙台藩主伊達家14代/1866-1917)家従、権中教正
- 鼎(てい・小河) → 鼎(かなえ・小河、儒者/詩人) F 1 5 5 9
- 鼎(てい・岡) → 鼎(かなえ・岡、藩士/儒者) O 1 5 2 4
- 鼎(てい・喜多村) → 鼎(かなえ・喜多村きたむら、藩士/医者) O 1 5 2 5
- 鼎(てい・森) → 鼎(かなえ・森、藩士/砲術家) O 1 5 2 6
- 鼎(てい・佐野) → 鼎(かなえ・津川、砲術家) O 1 5 2 7
- 鼎(てい/かなえ・宇野) → 明霞(めいか・宇野/宇、商家/儒者) 4 3 0 7
- 鼎(てい・藤田) → 鷗洲(おうしゅう・藤田ふじた、詩人) C 1 4 4 7
- 鼎(てい・佐久間) → 華邨(かそん・佐久間さくま、儒者/詩人) M 1 5 8 6
- 鼎(てい・片山/朝川) → 善庵(ぜんあん・朝川あさかわ/片山、儒者) 2 4 2 4
- 鼎(てい・秦) → 滄浪(そうろう・秦はた、儒者) D 2 5 2 6
- 鼎(てい・山井) → 崑崙(こんろん・山井やまのい) G 1 9 6 9
- 鼎(てい・青柳) → 高鞞(たかとも・青柳、国学/歌) D 2 6 2 8
- 鼎(てい・津下/島村) → 鼎甫(ていほ・島村、医者) B 3 0 6 7
- 鼎(てい・河合) → 道臣(ひろおみ・河合、家老/詩歌) F 3 7 6 1
- 鼎(てい・小野) → 杜陵(とりょう・小野おの、藩士/儒詩) R 3 1 9 1
- 鼎(てい・古屋) → 愛日齋(あいじつさい・古屋ふるや、儒/漢学) C 1 0 1 8
- 鼎(てい・宇野) → 明霞(めいか・宇野うの、儒者) 4 3 0 7
- 鼎(てい・大野) → 拙斎(せつさい・大野おの、儒/医者) E 2 4 3 2
- 鼎(てい・岡井) → 赤城(せきじょう・岡井おかい、藩士/儒者) D 2 4 5 4
- 鼎(てい・喜多村/川合) → 大壑(たいがく・川合かわい、儒者) J 2 6 4 5
- 鼎(てい・加藤) → 雲堂(うんどう・加藤、空門子/俳人) B 1 2 5 8
- 鼎(てい・重富) → 繩山(じょうざん・重富しげとみ、藩士/儒者) J 2 2 3 6
- 鼎(てい・小林) → 鼎輔(ていすけ・小林、幕臣/洋学) B 3 0 3 1
- 鼎(てい・進藤) → 周人(しゅうじん・進藤しんどう、藩医/詩歌) X 2 1 6 3
- 鼎(てい・杉生) → 方策(ほうさく・杉生さざう、蘭医者) 3 9 9 7
- 鼎(てい・深尾) → 重先(しげもと・深尾、藩士/国事/日記) S 2 1 9 4
- 鼎(てい・福田) → 理軒(りけん・福田ふくだ、和/洋算) 4 9 9 4
- 鼎(てい・青柳) → 高鞞(たかとも・青柳あおやぎ、国学者) D 2 6 2 8

鼎(てい・西村)	→	茂樹(しげき・西村にしむら、藩士/洋学者)	C 2 1 1 6
鼎(てい・喜多村/川合)	→	大壑(たいがく・川合/喜多村、儒者)	J 2 6 4 5
丁(てい; 一字名)	→	光宣(みつのが・烏丸からすまる/藤原、廷臣/連歌)	E 4 1 3 3
汀(てい・羽生)	→	良熙(よしひろ・羽生はにゅう/堀川/萩原、藩医)	G 4 7 7 0
理(てい・野本)	→	白巖(はくがん・野本のもと、儒者/詩)	C 3 6 9 0
貞(てい; 諡号)	→	頼順(らいじゅん・徳川/源/松平、幕臣/詩)	4 8 6 3
貞(てい・西村)	→	馬曹(ばそう・西村、歌人)	E 3 6 7 6
貞(てい・西)	→	以三(いさん・西にし、僧/医者/史家)	F 1 1 5 4
貞(てい・伊藤/伊東)	→	澹斎(たんさい・伊藤/伊東、医/儒者)	I 2 6 1 4
貞(てい・沢田)	→	訥斎(とつさい・沢田さわだ、儒者)	O 3 1 5 0
貞(てい・沢/酒井)	→	貞(さだ; 名・沢さわ/酒井さかい、儒/歌人)	H 2 0 5 7
貞(てい・小倉)	→	尚斎(しょうさい・小倉おぐら、藩儒/詩文)	S 2 2 3 0
貞(てい・高村)	→	幹斎(かんさい・高村たかむら、医者/本草)	Q 1 5 6 2
貞(てい・高宮)	→	環中(かんちゅう・高宮たかみや、医者/国学)	G 1 5 5 3
貞(てい・入江)	→	北海(ほっかい・入江いりえ、儒者)	E 3 9 4 9
貞(てい・泉/銭)	→	必東(ひつとう・泉/銭せん、書家/画/詩)	C 3 7 7 3
貞(てい・織田/伊東)	→	貫斎(かんさい・伊東いとう、蘭医/幕府医)	Q 1 5 6 9
貞(てい・蒔田)	→	雁門(がんもん・蒔田まきた、儒者)	R 1 5 6 8
貞(てい・小林)	→	其楽(きらく・楠里亭なんりてい、戯作者)	H 1 6 6 3
貞(てい・石川)	→	金谷(きんこく・石川いしかわ、儒者)	I 1 6 9 7
貞(てい・仁科)	→	琴浦(きんぼ・仁科にしな、儒者)	R 1 6 7 6
貞(てい・石作)	→	駒石(くせき・石作いしづくり、漢学/詩人)	1 7 5 1
貞(てい・川本)	→	衡山(こうざん・川本かわもと、同心/詩人)	J 1 9 3 6
貞(てい・原/島方)	→	松蔭(しょういん・島方しまかた/島、俳人/詩)	G 2 2 8 2
貞(てい・大橋)	→	卓丈(たくじょう・大橋/石橋、俳人)	O 2 6 0 6
貞(てい・小松原)	→	翠溪(すいけい・小松原こまつばら、絵師)	2 3 4 5
貞(てい・村上)	→	貞助(ていすけ・村上/秦はた、幕臣/蝦夷地誌)	B 3 0 1 7
貞(てい・藤川)	→	整斎(せいさい・藤川ふじかわ、剣道/故実)	I 2 4 2 7
貞(てい・藤川)	→	冬斎(とうさい・藤川ふじかわ、藩儒/教育)	E 3 1 3 0
貞(てい・斎藤)	→	貞常(さだつね・斎藤/堀、藩士/文筆家)	I 2 0 6 7
貞(てい・大野)	→	定子(さだむるこ・大野/井上/榎本、歌人)	J 2 0 8 7
貞(てい・平山)	→	亮斎(りょうさい・平山ひらやま、藩士/文筆)	H 4 9 6 2
貞(てい・高洲)	→	之幹(しかん・高洲たかす、儒者)	P 2 1 8 6
貞(てい・滋賀)	→	萊橋(らいきょう・滋賀しが、儒者/詩人)	4 8 3 3
貞(てい・植村)	→	貞(さだ・於貞・植村うゑむら、藩主室/歌)	N 2 0 9 6
貞(てい・宍道)	→	貞(ただし・宍道しんじ/楊井やない、藩士/歌)	X 2 6 6 2
貞(てい・林)	→	貞(ただし・林はやし、歌人)	Z 2 6 0 5
貞(てい・吉田)	→	貞(ただし・吉田よしだ、藩士/歌人/絵師)	2 7 3 0
禎(てい・菊池/関口)	→	衡岳(こうがく・菊池、藩儒/詩人)	1 9 8 5
禎(てい・鎌田)	→	環斎(かんさい・鎌田/修姓; 鎌、儒者)	H 1 5 6 2
禎(てい・淵上)	→	旭江(きよくこう・淵上ふちかみ、絵師)	I 1 6 9 0
禎(てい・吉田)	→	長禎(ちやうてい・吉田よしだ、幕府医官)	J 2 8 5 0
禎(てい・吉田/山県)	→	太華(たいか・山県/吉田、藩士/儒者)	B 2 6 0 8
禎(てい・河村)	→	竹溪(ちくけい・河村かわむら、儒者)	C 2 8 9 1
禎(てい・河野)	→	禎造(ていぞう・河野こうの、藩士/医者)	B 3 0 3 8
禎(てい・大槻)	→	西磐(せいばん・大槻、儒者/西洋史)	J 2 4 4 5
禎(てい・内田)	→	周斎(しゅうさい・内田うちだ、儒者)	H 2 1 4 3
棟(てい・岡内)	→	綾川(りょうせん・岡内おかうち、藩儒)	I 4 9 5 5
定(てい・新楽)	→	閑叟(かんそう・新楽にいら、幕臣/蝦夷紀行)	G 1 5 4 9
定(てい・茅原)	→	虚斎(きよさい・茅原ちはら、医者/本草)	P 1 6 5 0

- 定(てい・井口/伊藤) → 定(さだ・伊藤/井口、東所の妻/記録) H 2 0 5 8  
 定(てい・小川/杉山/赤松/中西) → 元瑞(げんずい・中西、藩士/医者) K 1 8 3 5  
 定(てい・河瀬/戸田) → 太宰(ださい・河瀬/戸田、儒/勤王家) O 2 6 9 2  
 定(てい・柳田) → 正斎(しょうさい・柳田やなぎだ、書家) J 2 2 0 6  
 定(てい・吉川) → 良佑(りょうゆう・吉川よしかわ、蘭学者) J 4 9 5 8  
 廷(てい・市川) → 一学(いちがく;通称・市川いちかわ、儒者) G 1 1 1 1  
 氏(てい・円山) → 応挙(おうきよ・円山/藤原・源、絵師) 1 4 4 6  
 鄭(てい・橋本) → 宗吉(そうきち・橋本、蘭学/蘭医) 2 5 9 8
- 3020 **底阿**(ていあ;法諱、別法諱;渡船) 1305-8177 時宗僧:1354遊行上人8世を相続、  
 1354相模藤沢清浄光院住、藤沢清浄光院四代;当寺に没、連歌;菟玖波2句入、  
 [月の半にかゝるうきくも](菟;秋396/前句;富士のねのけふりやよそにしらるらん)  
 貞阿(ていあ) → 貞阿(じょうあ、浄土僧) K 2 1 8 9  
 貞阿(ていあ;字) → 玄貞(げんてい;法諱、真宗仏光寺派僧) E 1 8 4 2  
 定阿(ていあ→じょうあ;法名) → 定能(さだよし・藤原、廷臣/神楽) C 2 0 6 4  
 定阿(ていあ) → 定阿(じょうあ、時宗僧) G 2 2 5 1
- 3021 **底安**(ていあん) ? - ? 室町期永正1504-21頃の連歌師;梢柏一座、  
 1516宗碩庵「十花千句」/宗長「何人百韻」参加、18宗長「東山千句」参加、18安養寺千句参加
- 3022 **貞安**(ていあん;法諱・字;退魯/法名;教蓮社聖誉) 1539-161577 相模小田原の後北条氏の一族、  
 浄土僧;小田原大蓮寺堯誉門、下総飯沼弘経寺で修学、1575能登西光寺住/近江円通寺住、  
 中村要光寺開創;信長の帰依、1579安土宗論[浄土宗と日蓮宗]参加;浄土代表として勝利、  
 1587京二条烏丸に信長・信忠追善の大雲院建立、山科隠棲、1601「宗法問答」「貞安問答」
- 3023 **哲庵**(ていあん;鼎菴ていあん・石原いしはら/修姓;石、名;魯/学魯) 1657-9842 長崎の医者;渡来僧澄一・心越門、  
 江戸遊学/儒詩;木下順庵門、詩/書を嗜む、「梓山拾翠しざんしゅうすい集」「哲菴詩集」、  
 白石「木門十四家詩集」入、  
 [哲庵(;号)の字/別号]字;貫卿、別号;梓山しざん
- 3024 **貞庵**(ていあん;窪津/久保津くぼつ/修姓;窪む、名;欣) ?-? 江中期大阪の医者、  
 1774「高台頌釈辨」/78「食療手引草」、  
 [貞庵(;号)の字/別号]字;敬元、別号;竜柯主人
- 3025 **定庵**(ていあん・松岡まつおか、名;典、怨庵男) ?-? 江中期京室町四条上ル町の本草家、  
 1778「千金方薬註」、父怨庵の著述校正(「食療正要」など)、  
 [定庵(;号)の字/通称/別号]字;子勅、通称;善吾、別号;復真
- 3026 **貞庵**(ていあん・浅井あさい、名;正封まさよし、茅渟男) 1770-182960 母;浅井凶南女と貴、8歳で両親と死別、  
 祖父凶南に養育され医学修得/1782凶南没、同年(13歳)尾張藩医継承、朱子学;中村習斎門、  
 詩文;岡田新川門、博学多識;門人3千余、技芸にも通ず、「医学録」「以呂波本草」「天地名」、  
 「貞庵隨筆」「榊園詩存」「榊園詩存」「医書筆記」「医書雜記」「傷寒口訣」1828「浅井塾則」、  
 [貞庵(;号)の字/通称/別号]字;堯甫、通称;小藤太/平之丞、  
 別号;榊園こくえん/静観堂/文燭亭
- 3027 **挺庵**(ていあん・神波かんなみ) ? - ? 江後期本草学者:吉田高憲門、  
 1859高憲「物殊品名」刊行、「声括本草」著  
 貞庵(ていあん・渡辺) → 蘭翠(らんすい・渡辺元義、医者) C 4 8 7 4  
 貞庵(ていあん・小田) → 眞卿(しんけい・小田おだ/田、儒者) O 2 2 0 0  
 貞庵(ていあん・橋;変名) → 任筋(にんせつ・富小路、坊官/勤王家) G 3 3 6 0  
 貞庵(ていあん・香月) → 牛山(きゅうざん/ござん・香月かつき、医者/隨筆) M 1 6 6 6  
 貞庵(ていあん・日野) → 春靄(しゅんあい・日野/秋良/秋、医者/詩) 2 1 9 0  
 貞庵(ていあん・皆川) → 良礎(りょうそ・皆川みながわ、医者/俳人) I 4 9 6 3  
 貞安(ていあん・伊勢) → 貞為(さだため・伊勢/平、故実家) I 2 0 4 8  
 貞安(ていあん・臼井) → 貞安(さだやす・臼井うすい、国学者・歌人) N 2 0 9 7  
 定安(ていあん・尾池) → 定安(さだやす・尾池おいけ、連歌) K 2 0 0 1  
 定安(ていあん・間宮) → 定安(さだやす・間宮まみや、藩士/国学者) P 2 0 3 5

- 定安(ていあん・勝間) → 龍水(りょうすい・勝間かつま、絵師/書) I 4 9 3 0  
 定安(ていあん・布施) → 定安(さだやす・布施ふせ、藩士/文筆家) K 2 0 0 3  
 定安(ていあん・松岡) → 定安(さだやす・松岡まつおか/越智/宮崎、神道/歌) P 2 0 3 9  
 定安(ていあん・星野) → 宗以(そらい・星野ほしの、宇治茶師) F 2 5 9 7  
 訂庵(ていあん・阿部) → 櫟齋(れきさい・阿部あべ、医者/本草家) 5 1 7 5  
 酌庵(ていあん;号) → 景轍(けいてつ・玄蘇、臨濟僧、朝鮮外交) G 1 8 4 0
- 3028 程已(ていい・朝倉、名;進弥、別号;白日堂)?-? 江中期近江彦根藩士/俳人;許六門、  
 1696許六「韻塞いんふたぎ」入(初見)、俳文「艸字藤ノ説」著(;風俗文選所収)  
 定以(ていい・坪内/松平) → 定以(さだゆき・松平/坪内、幕臣/歌人) K 2 0 1 6  
 定為(ていい) → 定為(じょうい、藤原為氏男、真言僧/歌人) F 2 2 0 1  
 定位(ていい) → 定位(じょうい、真言学僧) G 2 2 7 3  
 定伊(ていい) → 定伊(じょうい;法諱、天台僧) F 2 2 0 3  
 定伊(ていい) → 定伊(じょうい;法諱、真言僧) F 2 2 0 4  
 定伊(ていい・樋口) → 定伊(さだこれ・樋口ひぐち、武芸者) I 2 0 1 5  
 貞為(ていい・伊勢) → 貞為(さだため・伊勢/平、故実家) I 2 0 4 8  
 貞為(ていい・和海軒) → 和海(わかい・紅風軒、俳人) 5 3 0 3  
 貞意(ていい・伊勢) → 貞意(さだむね・伊勢/平、藩士/故実家) J 2 0 8 5  
 貞維(ていい・富小路) → 貞維(さだつな・富小路/藤原、廷臣/日記) I 2 0 6 0  
 貞彙(ていい・若村) → 貞彙(さだしげ・若村わかむら/小林、神職/歌) P 2 0 8 2  
 貞一(ていいち・桑田) → 抱臍(ほうさい・含笑舎、狂歌) 3 9 8 2  
 貞一(ていいち・赤根/松崎) → 武人(たけと・赤根あかね、奇兵隊総督) O 2 6 5 0  
 貞一(ていいち・伊藤) → 威山(いざん、伊藤いとう、儒者) F 1 1 5 6  
 貞一(ていいち・重田) → 一九(初世いっく・十返舎、滑稽本) 1 1 2 0  
 貞一(ていいち・箕作) → 阮甫(げんぼ・箕作みつくり、蘭学者/幕臣) D 1 8 0 3  
 貞一(ていいち・郡司) → 筑海(ちくかい・郡司ぐんじ、藩士/儒者) C 2 8 7 5  
 貞一(ていいち・前田) → 貞一(さだかず・前田、藩家老/記録) H 2 0 9 3  
 貞一(ていいち・池田) → 貞一(さだかず・池田/紀、幕臣/和算家) H 2 0 9 4  
 貞一(ていいち・清家) → 貞一(さだかず・清家せいけ、神職/歌人) O 2 0 7 6  
 貞一(ていいち・高野) → 貞一(さだかず・高野たかの/新貝、藩士/歌) Q 2 0 8 4  
 貞一(ていいち・佐原) → 豊山(ほうざん・佐原さわら、儒者/欧州視察) B 3 9 1 6  
 定一(ていいち・天野) → 恬庵(てんあん・天野、藩士/儒者) D 3 0 1 0  
 定一(ていいち・河合) → 道臣(ひろおみ・河合かわい、家老/殖産) F 3 7 6 1  
 亭一(ていいち・城戸) → 広文(ひろぶみ・城戸きと、書家) H 3 7 0 9  
 貞一郎(ていいちろう・箕作みつくり) → 麟祥(りんしょう・箕作、蘭学) K 4 9 4 9  
 貞一郎(ていいちろう・石作) → 駒石(くせき・石作いしづくり、漢学/詩人) 1 7 5 1  
 貞一郎(ていいちろう・石川) → 香山(こうざん・石川いしかわ、儒者/詩人) G 1 9 3 5  
 貞一郎(ていいちろう・石川) → 竹厓(ちくがい・石川いしかわ、儒者) C 2 8 7 7  
 貞一郎(ていいちろう・三島) → 中洲(ちゅうしゅう・三島みしま、藩士/儒者) G 2 8 2 3  
 貞一郎(定一郎ていいちろう・児玉) → 雅氏(まさじ・児玉、藩士/詩歌) B 4 0 3 3  
 貞一郎(定一郎ていいちろう・磯谷) → 正躬(まさみ・磯谷いそがや、藩士/国学) H 4 0 3 4  
 貞一郎(ていいちろう・箕作) → 麟祥(りんしょう・箕作みつくり、幕臣/洋法学) K 4 9 4 9  
 貞一郎(ていいちろう・糊沢) → 花頼(はなより・糊沢くるみざわ/源、国学者) K 3 6 1 3  
 貞一郎(ていいちろう・山本) → 弘素(ひろもと・山本やまもと/久保田/近藤、国学/尊攘) J 3 7 6 1  
 定一郎(貞一郎ていいちろう・山口) → 菅山(かんだん・山口、藩士/儒者) G 1 5 3 0  
 提一郎(ていいちろう・堀江) → 春野(はるの・大久保おおくぼ、勤王/陸軍) J 3 6 8 4  
 定逸(ていいつ・花山院/野宮) → 定逸(さだはや・野宮のみや/藤原、権大納言) J 2 0 3 2  
 亭一館(ていいつかん) → 魯斎(ろさい・酒井さかい、藩士/俳人) B 5 2 5 6  
 貞逸郎(ていいつろう・羽生) → 信英(のぶひで・羽生はにゅう、藩士/歌人) J 3 5 6 4
- 3029 貞胤(ていいん/さだたね・沼田ぬまた)?-? 連歌;1479-81賢守「諸家月次連歌抄」入  
 3001 貞因(ていいん・榎並えなみ/永田/藤原) 1621-1700 80 江前期大阪の菓子商(屋号:鯛屋たいや)、

1656山城大掾を受領、俳人：安原貞室門/狂歌作者、妻；妙因、  
 油煙斎貞柳・紀海音[貞娥]の父、1656貞室「玉海集」入/1676「誹諧屋網ひるあみ」編、  
 1678一時軒「太郎五百韻」参加、1673西鶴?「哥仙大坂誹諧師」/76西鶴「俳諧師手鑑」入、  
 1681賀子「山海集」入/82土橋春林「俳諧百人一句難波色紙」入、  
 狂歌；66「古今夷曲集」4首入、歌；1688浅井忠能「難波捨草」6首入、  
 [添ひ飽きし妹いとはかほり見るたびにものぐさからぬこ望月哉](古今夷曲集；三秋歌、  
 添ひ飽きし妹は古女房/こ望月は14日の月と子持ちを掛ける)  
 [橋掛りや花の外ほかには松ばかり](百人一句/手鑑・山海集には初五「芝居にや」、  
 謡曲「道成寺」；花の外には松ばかり暮れそめて鐘や響くらん)  
 [貞因の通称/別号]通称；鯛屋善右衛門/庄九郎、別号；宗継/長閑堂/白后斎

- 3030 **貞因**(ていゐん) ? - ? 江戸俳人；貞山座点者、1754竹翁「誹諧童的」評点句入  
 定員(ていゐん・二見) → 定員(さだかず・二見、神職) G 2 0 8 7  
 定允(ていゐん・竹屋/野宮) → 定允(さだみつ・野宮/竹屋、廷臣/記録) J 2 0 8 3  
 定允(ていゐん・鷹見) → 星臯(星岡せいこう・鷹見、藩士/儒/詩) B 2 4 4 5  
 定寅(ていゐん・松平) → 定寅(さだとら・松平まつだいら、幕臣/園芸) I 2 0 9 6  
 定胤(ていゐん・和田) → 定胤(さだたね・和田/平、国学者) I 2 0 4 7  
 貞胤(ていゐん・奥平) → 貞胤(さだたね・奥平おくだいら、家老/歌人) O 2 0 2 2  
 貞贇(ていゐん・桜井) → 貞贇(さだよし・桜井さくらい/八洲、神職/国学) O 2 0 5 8  
 梯蔭(ていゐん・岡田) → 閑林(かんりん・岡田おかだ、絵師) R 1 5 8 3  
 檉陰(ていゐん・熊田) → 休庵(きゅうあん・熊田くまだ、商家/儒詩) M 1 6 2 4
- 3031 **櫻宇**(ていゝ・林はやし、名；甍ひかる、述斎男) 1793-1846<sup>54</sup> 林家9代目/儒学；大郷信斎・佐藤一斎門、  
 程朱学修学、松崎慊堂こうどう門、幕府儒官；1819見習御用/29左近将監/中奥小姓次席、  
 1838大学頭/41家督継嗣、詩人/能書家、  
 「観光集」「陽春百絶」「筠亭消閑録」「聴雨軒詩文集」「烟霞痼者集」「培斎焚余」著、  
 1840蘭溪「坤斎詩存」序/40「澡泉録」「攀日光山記」/43「盛典賀箋」44「癸卯詩歌漫録」外多数、  
 鳥居耀蔵・林家11代復斎の兄、壮軒の父、  
 [櫻宇(；号)の字/通称/別号]字；用韜、通称；又三郎、  
 別号；培斎/邱壑主人きゆうがくしゅじん/筠亭いんてい/闕下迂夫、諡号；恭恪きょうかく
- 3032 **庭雨**(ていゝ・潤樹亭、通称；松屋伊兵衛) ?-? 江後期大阪の狂歌作者；発果亭庭栗社中、  
 1815「夷曲厄弘調星田妙見男山紀行」、「岩屋村紅葉紀行」「多田院屏風岩紀行」著
- 3033 **隄雲**(ていゝん；号・山内やまうち、名；一式/通称；六三郎、豊城とよき男) 1838-1923<sup>86</sup> 江戸の蘭学者、  
 西洋医学；1852下総佐倉の叔父佐藤泰然主宰の順天堂で学ぶ/56江戸の箕作阮甫門、  
 蕃書調所の句読教授；蘭文典を教授/松本弘安・安井息軒に従学/1861神奈川奉行翻訳方、  
 1867渡欧、戊辰戦争で榎本武揚に従い敗戦；入獄/70赦免、「下之関事件」訳
- 貞運(ていゝん) → 貞運(じょうゝん、連歌) H 2 2 0 5  
 停雲(ていゝん・岩室) → 楽々(らくらく・岩室、醸造家/俳人) D 4 8 3 7  
 停雲(ていゝん・加部) → 琴堂(きんどう・加部かべ、名主/俳人) R 1 6 4 8  
 停雲(ていゝん・大道寺) → 忠(ただし・大道寺だいでうじ、庄屋/歌人) P 2 6 5 4  
 提雲(ていゝん) → 慧敏(恵正えしやう；法諱、真宗僧) D 1 3 9 8  
 停雲院(ていゝんいん) → 冠山(かんざん・松平/池田、藩主/和漢学) D 1 5 8 0  
 停雲館(ていゝんかん) → 桂山(けいざん・川井/川合/河合、医/詩歌) 1 8 5 9  
 停雲館(ていゝんかん) → 立斎(りゅうさい・川井、桂山男/医者/詩歌) E 4 9 0 1  
 停雲居(ていゝんきよ) → 矩州(くしゅう・那須/伊東/椎本、俳人) 1 7 4 8  
 停雲楼(ていゝんろう) → 木米(もくべい・青木あおき、陶工) B 4 4 1 0  
 定慧(ていゝん) → 定慧(じょうゝん、藤原鎌足男、法相僧) H 2 2 0 8
- F3010 **鼎栄**(ていゝい・佐藤さとう、) 1720-1803<sup>84</sup> 江戸の生/歌；冷泉家入門、国学者/伊勢桑名藩士、  
 [鼎栄(；名)の初名/字/通称/号]初名；惟徳、字；成隣/豊民、通称；徳右衛門、号；華山  
 定永(ていゝい/さだなが・大沢) → 順軒(じゅんけん・大沢おおさわ、儒者) J 2 1 4 9  
 定栄(ていゝい・砂沢) → 定栄(さだひで・砂沢すなざわ、藩士/歌人) O 2 0 1 6  
 定英(ていゝい・堀田) → 定英(さだひで・堀田ほった、酒造業/歌人) P 2 0 3 0

- 貞永(ていえい・岡本) → 貞永(さだなが・岡本おかもと、藩士/国学) O 2 0 2 0
- 貞衛(ていえい・玉井) → 貞衛(さだもり・玉井たまのい、家老/日記) J 2 0 9 8
- 貞盈(ていえい・檜垣) → 貞盈(さだみつ・檜垣ひがき/度会、神職) J 2 0 8 1
- 貞盈(ていえい/さだみつ・小西) → 帯河(たいが・小西こにし、俳人) J 2 6 3 9
- 貞栄(ていえい・堤/恵美) → 三白(さんぱく・恵美えみ/堤、医者) M 2 0 6 9
- 貞英(ていえい・伊勢) → 貞英(さだひで・伊勢いせ/平、故実家) J 2 0 4 5
- 貞栄(ていえい・藤田) → 貞栄(さだひで・藤田ふじた、暦算家) J 2 0 4 9
- 貞栄(ていえい・吉井) → 貞栄(さだひで・吉井よし、商家/国学者) P 2 0 7 9
- 貞映(ていえい・小沼) → 幸彦(ゆきひこ・小沼おぬま、商家/国学者) F 4 6 3 4
- 貞営(ていえい・入) → 庸昌(ようしょう・入り、藩士/和算家) B 4 7 2 5
- 棟栄(ていえい・片桐) → 源一(げんいち・片桐かたぎり、歌人) H 1 8 7 0
- 定栄堂(ていえいどう・堂号) → 市兵衛(いちべえ・吉文字屋、書肆)初世; D 1 1 6 0  
→ 市兵衛(いちべえ・吉文字屋、書肆)二代; D 1 1 6 1  
→ 市兵衛(いちべえ・吉文字屋、書肆)三代; D 1 1 6 2
- 定易(ていえい・斎藤) → 定易(さだやす・斎藤/大坪、馬術家) K 2 0 0 4
- 貞益(ていえい・伊勢) → 貞益(さだます・伊勢いせ/平、故実家) J 2 0 7 4
- 貞悦(ていえい・栗崎) → 道有(どうゆう・栗崎くりさき、外科医) H 3 1 6 4
- 弟越(ていえい・高丘) → 弟越(おとし・高丘たかおか、廷臣/詩人) D 1 4 2 5
- 貞右衛門(ていえもん・小林) → 祐良(すけよし・小林、幕臣/台所方) D 2 3 7 0
- 貞右衛門(ていえもん・伊藤) → 澹斎(たんさい・伊藤/伊東、医/儒者) I 2 6 1 4
- 貞右衛門(ていえもん・大島) → 直章(なおあき・磯野/大島、国学者) 3 2 6 1
- 貞右衛門(ていえもん・滝) → 方山(かたやま・芳山ほうざん・滝たき、俳人) B 3 9 0 0
- 定右衛門(ていえもん・吉見) → 定右衛門(さだえもん・吉見よしみ、幕臣) H 2 0 7 7
- 定右衛門(ていえもん・朝日) → 重章(しげあき・朝日あさひ、藩士/儒者) B 2 1 7 8
- 定右衛門(ていえもん・平賀屋) → 路友(ろゆう・平賀屋、書肆/俳人) C 5 2 4 7
- 弟右衛門(ていえもん・大脇) → 未徹(みてつ・大脇おおわき、藩代官家臣) F 4 1 3 2
- 3034 貞円(貞圓ていえん;法諱、称;遍照金剛)?-? 戦国期京の天台僧:覚祐門/毘沙門双身法を受、  
1537「日率都婆口伝」48「五大尊合行私記」51「毗沙門法」著
- D3099 貞円(ていえん) ? - ? 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、  
[柴船に屋根ふく夏のいとま哉](丁卯集/三湖;近江)
- 3035 棟園(ていえん・松田まつだ、名;昭裕)1770-182960 名古屋藩儒:藩校明倫堂の細井平洲門、  
藩校学生・典籍/文化1804-18頃士林に列す、「掲竿史話」著、  
[棟園(;号)の字/通称/別号]字;君純/純しやく、通称;三蔵、別号;常春斎
- 3036 棟園(ていえん・福井ふくい、名;晋/字;貞吉、榕亭男)1773-184977 京黒門元誓寺南の医者;朝廷御医、  
医;父門/従四上近江守、詩文/書を嗜む、「棟園福井先生手柬」著、
- 3037 棟園(ていえん・広瀬ひろせ) ? - ? 詩人;1854「宜園ざん百家詩」第三編共編
- 廷遠(ていえん・柳) → 召波(しょうは・黒柳くろやなぎ/柳、詩/俳人) B 2 2 1 8
- 萇園(ていえん・安部井) → 武氏(たけうじ・安部井、和学、歌人) O 2 6 2 6
- 貞延(ていえん;法諱) → 貞延(じょうえん;法諱、僧/歌人) V 2 2 9 5
- 貞遠(ていえん・伊勢) → 貞遠(さだとお・伊勢/平、幕臣/故実家) I 2 0 7 3
- 貞演(ていえん・青柳) → 貞庸(さだのぶ・美濃部みのべ/青柳、幕臣) P 2 0 5 1
- 定円(ていえん;法諱) → 定円(じょうえん;法諱、真観男/天台僧/歌) Q 2 2 5 5
- 定円(ていえん;初法諱) → 定修(じょうしゅう;法諱、定家男/天台僧) S 2 2 9 8
- 定円(ていえん;法諱) → 定円(じょうえん;法諱、僧/歌人) F 2 2 5 7
- 定遠(ていえん/さだとお・百野/青木) → 興勝(おきかつ・青木、藩士/儒/蘭学者) C 1 4 8 7
- 定縁(ていえん・野宮) → 定輔(さだすけ・野宮のみや/藤原/中院、廷臣) I 2 0 3 0
- 定縁(ていえん;法諱) → 定縁(じょうえん;法諱、僧/歌人) Q 2 2 5 3
- 定延(ていえん・久松) → 定延(さだのぶ・久松ひさまつ、幕臣/歌人) Q 2 0 1 6
- 定延(ていえん・高島) → 定延(さだのぶ・高島たかばたけ、藩士/記録) J 2 0 1 7
- 定延(ていえん) → 月尋(げつじん・藤岡ふじおか、俳/歌/浮世草子) B 1 8 0 8

- 諦円(ていえん;字) → 信恕(しんじよ;法諱・諦円;字、真言僧) O 2 2 8 4  
 櫻園(ていえん・小石) → 元瑞(げんずい・小石こいし、医者/詩文) E 1 8 2 2  
 櫻園(ていえん・大江) → 広海(ひろみ・大江/早川、国学者/歌) H 3 7 2 0  
 萸園(ていえん・安部井) → 武氏(たけうじ・安部井あべい、藩士/歌人) O 2 6 2 6  
 泥洹院(でいえんいん) → 常如(じょうにょ;号・光晴;法諱/東本願寺15世、俳人) B 2 2 0 8
- 3038 **定延子**(ていえんし;号・姓名不詳)?-? 江中期博物学者:  
 天明1781-89頃流行のハツカネズミの交配による遺伝および突然変異の系統を説く、  
 1787「珍玩鼠育草」著  
 汀鷗(ていおう・成田) → 行明(ゆきあき・成田なりた、藩士/国学者) H 4 6 1 0  
 禎翁(ていおう・大森) → 杖信(じょうしん・大森おおもり、茶道家) K 2 2 0 6  
 汀鷗斎(ていおうさい) → 通央(みちなか・竹村/成田、藩士/故実) C 4 1 0 8
- 3040 **貞屋**(ていおく・熊谷or能谷/金原)?-? 京の俳人;江戸の貞山門、1750「貞山一周忌追善集」、  
 1752「誹諧後紅梅千句」編(:貞徳百回忌追善)、54竹翁「誹諧童の的」評点句入、  
 [貞屋(;号)の別号] 旭洲洞/蘆丸舎2世  
 貞憶(ていおく;初法諱) → 厭求(えんぐ;法諱・源、浄土宗行脚僧) U 1 3 0 5  
 貞温(ていおん・筒見) → 貞温(さだあつ・筒見つみ/藤原、藩士/歌) N 2 0 2 3  
 貞温(ていおん・森) → 貞温(さだはる・森もり、神職/国学) N 2 0 2 6  
 貞温(ていおん・秋良) → 貞温(さだあつ・秋良あきら、藩士/国事) H 2 0 7 2  
 禎音(ていおん;字) → 日声(にっしょう;法諱・禎音、日蓮僧/歌) H 3 3 2 7  
 定家(ていか・平) → 定家(さだいえ・平たいら、廷臣/記録) H 2 0 7 4  
 定家(ていか・藤原) → 定家(さだいえ・藤原、歌人) 2 0 1 6
- 3041 **定雅**(ていが・西村にむら、通称;みすや甚三郎) 1744-182683 俳人美角の弟、京の針卸商みすや、  
 俳人;樗良門、京の知恩院町で俳諧活動;蕪村系天明調/狂歌・戯作を嗜む、家産を尽蕩?  
 1776几董「続明鳥」15句/74美角「ゑぼし桶」14句入/1783「椿亭記」「徒然酔か川」(洒落本)、  
 1787「椿花文集」栖鳳編、1791洒落本「さくら婿」/94「秋懐紙」95「隠君子」96「養漢裸百貫」、  
 1806「遊女文章大成」07「遊女大学」10「よし野紀行」21「俳諧雪とすみ」(;梅里維石編)、  
 1822「文集反古瓢初篇」24「反古瓢二篇」外著多数、  
 [定雅(;名)の号]戯作名;粹川子/翠川子/艶好法師えんこうほうし/酔川舎猿猴せいせんしゃえんこう、  
 俳名;椿花亭/柳下舎/俳仙堂  
 「楽屋方言」著者の鉄炮堂主人も戯号か?→ 鉄炮堂主人(ぼんぼんどうしゅじん) F 3 9 5 8
- 3042 **鼎峨**(ていが・米山よねやま・文溪堂)?-? 江中期江戸高砂町の筆耕業/黄表紙作者、  
 1775「日光道中案内記」76「奥州古戦物語」77「三宝利生初竹みつたからりしゅうのわかたけ」、  
 1778「二人義経堀川合戦」/79「怪談豆人形」「毬唄雉御山」「弾的東風俗」「敵討蹴くらま天狗」、  
 1780「十二支鼠桃太郎」「鎌倉山紅葉浮名」/84「野暮大臣南郭遊」外多数、1785以降消息不明
- 3043 **汀画**(ていが・北市屋) ? - ? 江中期天明1781-89頃加賀小松の俳人、  
 1786鳥跡と山城大和撰津丹後に行脚、「かさのはな」著、  
 [汀画(;号)の通称/別号]通称;北市屋、別号;椽庵しょうあん
- 3044 **庭雅**(ていが・八木やぎ、名;長材ながき、庭甫男) 1793-187381 尾張藩士;1809家督;小普請組、  
 俳人;父門・井上士朗門、1817「文享忌」「由女能与古津智」編、1824「臼うた」編、  
 1826「暁台きょうたい七部集初編」編(:帯梅と収集)、  
 [庭雅(;号)の通称/別号]通称;慶次郎/嘉六郎、別号;米園/如山じよざん/如儼じよせん  
 定雅(ていが・花山院) → 定雅(さだまさ・花山院/藤原、右大臣/歌) C 2 0 4 3  
 定雅(ていが) → 定雅(さだまさ、俳人) M 2 0 9 8  
 定雅(ていが・中田) → 定雅(さだまさ・中田なかつ/源、国学者) O 2 0 9 5  
 定賀(ていが・上原) → 定賀(さだよし・上原うへはら、代官/書詩歌) N 2 0 9 3  
 貞賀(ていが・檜垣) → 貞賀(さだよし・檜垣ひがき、神職) P 2 0 1 8  
 貞雅(ていが・伊勢) → 貞雅(さだまさ・伊勢/平、幕臣/故実家) J 2 0 6 4  
 貞峨(ていが、貞柳弟) → 海音(かいおん・紀きの、浄瑠璃作者/狂歌) 1 5 0 1  
 貞峨庵契因(ていがんけいん) → 海音(かいおん・紀、浄作者) 1 5 0 1  
 貞懐(ていかい・大江) → 貞懐(さだもと・さだやす・さだかね・大江、歌人) C 2 0 5 4

- 汀海(ていかい・菱川) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7  
 定海(ていかい;法諱) → 定海(じょうかい;法諱、真言醍醐寺座主) H 2 2 6 3  
 定海(ていかい;法諱) → 定海(じょうかい;法諱、天台叡山僧) F 2 2 8 1  
 貞海(ていかい;法諱) → 貞海(じょうかい;法諱、三論僧) H 2 2 6 4  
 貞海(ていかい;法諱) → 貞海(じょうかい;法諱、天台僧) H 2 2 6 5  
 定愷(ていがい・久松) → 定愷(さだたか・久松/菅原、幕臣/日記) I 2 0 3 4  
 丁亥生(ていがいせい) → 豊信(とよしげ・山内、容堂、藩主/詩歌) R 3 1 1 8  
 丁亥郎(ていがいろう・和田) → 蚊足(ぶんそく・和田わだ、俳人) G 3 8 0 7  
 堤下狂人(ていかきやうじん) → 尚豊(ひさとよ・後藤ごとう、庄屋/地誌) I 3 7 0 9  
 E3080 汀角(ていかく) ? - ? 江前期俳人;1691不角「若みどり」入  
 貞覚(ていかく・高) → 貞覚(さだあき・高こう、和算家) H 2 0 6 8  
 定格(ていかく・田中) → 定格(さだただ・田中たなか、幕臣/国学者) O 2 0 7 9  
 定岳(ていがく・じょうがく) → 村和(むらより・伊達だて、領主/歌人) D 4 2 2 5  
 定学堂(ていがくどう) → 勘兵衛(かんべえ・多田、書肆) E 1 5 1 6  
 定家母(ていかのは) → 加賀(かが・美福門院) E 1 5 5 5  
 3045 底閑(ていかん) ? - ? 連歌;1551義隆「宮島千句」参加  
 3046 貞幹(ていかん・宮村みやむら、名;経弼) 1672-1738<sup>67</sup> 讃岐の儒者;京の中村惕斎てきさい門、  
 帰郷後子弟教育;門弟2千余、1697「中黒菅神廟記」、中村君山・良野華陰の師、  
 [貞幹(;字)の通称/号]通称;忠蔵、号;荊山  
 3047 貞幹(ていかん・曾根そね) ? - ? 江中期文筆家、朝鮮の金思恭の著書を翻訳;  
 1763「朝鮮年代記」編、[貞幹(;名)の号]君山/君山道人  
 3048 貞煥(ていかん;名・晁ちよう、字;俊章)?-? 江中期下野日光の医者;諸葛琴台門、  
 河口信任の「解屍編」を対照にして師や同志と解剖実施;1793「解屍新編」編  
 3049 貞幹(ていかん・古松こまつ、通称;周政ちかまさ、別号;海風堂)?-1830 江後期信州上田藩士/書家、  
 歌;飯塚久敏・橘守部門、書を究め門弟千数百人、「海風堂書談」著  
 3050 貞幹(ていかん・浅井あさい) ? - ? 1861存 江後期三河刈谷藩医、「経学備考」編、恭甫の父  
 貞幹(ていかん・前田) → 貞幹(さだもと・前田、藩家老/記録) J 2 0 8 9  
 貞幹(ていかん・藤とう) → 貞幹(さだもと・藤原、故実) 2 0 2 7  
 貞幹(ていかん・有沢) → 貞幹(さだもと・有沢、軍学者、歌人) J 2 0 9 1  
 貞幹(ていかん・藤田) → 貞幹(さだもと・藤田ふじた、藩士/歌人) P 2 0 8 6  
 貞幹(ていかん・木下) → 順庵(じゅんあん・木下/平、幕府儒官/教育) 2 1 5 4  
 貞幹(ていかん・牧野) → 貞幹(さだもと・牧野、藩主/写生) J 2 0 9 2  
 貞幹(ていかん・村部) → 貞幹(さだもと・村部、日記) J 2 0 9 3  
 貞幹(ていかん・都丸) → 董庵(とうあん・都丸とまる、儒者) 3 1 8 8  
 貞幹(ていかん・上田) → 竜郊(りゅうこう・上田うえだ、儒者/教育) D 4 9 8 5  
 貞幹(ていかん→さだもと・布施) → 御牆(みかき・布施ふせ、藩士/典故) 4 1 5 4  
 貞幹(ていかん・神沢) → 杜口(とこう・神沢かざわ/入江、与力/俳人) 3 1 4 2  
 貞幹(ていかん・杉浦) → 蒙々斎牛貫(もうもうさいうしつら、狂歌作者) 4 4 6 0  
 貞幹(ていかん・糸山) → 貞幹(さだもと・糸山いとやま、神職) J 2 0 9 5  
 貞幹(ていかん→さだみき・尾崎) → 梁甫(りゅうほ;字・尾崎おさき、藩儒者) F 4 9 6 1  
 貞幹(ていかん・飯淵) → 櫟堂(れきどう・飯淵いづち、藩士/詩歌) 5 1 8 2  
 貞幹(ていかん・赤崎) → 海門(かいもん・赤崎あかさき、藩士/儒/歌) E 1 5 4 5  
 貞幹(ていかん・清家) → 貞幹(さだもと・清家せいけ/清原、神職/歌) O 2 0 7 5  
 貞幹(ていかん・石川) → 貞幹(さだみき/さだもと・石川いしかわ/源、尊攘) N 2 0 8 5  
 貞貫(ていかん・野村) → 貞貫(さだつら;名・野村のむら、藩士/歌人) I 2 0 7 0  
 貞貫(ていかん・木村) → 蓬萊(ほうらい・木村きむら、儒者/詩人) C 3 9 6 6  
 貞簡(ていかん/じょうかん;諡号) → 菊潭(きくたん・木下きのした、藩士/儒者) F 1 6 2 1  
 貞閑(ていかん) → 捨女(すてじよ・田でん、妙融) 2 3 1 6  
 貞寛(ていかん・黒坂/三浦) → 竜山(りゅうざん・三浦/黒坂、儒者/藩士) E 4 9 1 6  
 貞寛(ていかん・服部) → 貞寛(さだひろ・服部はっとり/平、歌人) N 2 0 5 6

- 貞寛(ていかん・鯉江) → 貞寛(さだひろ・鯉江なまざえ/平、藩士/歌) P 2 0 0 2  
貞寛(ていかん・西村) → 貞寛(さだひろ・西村にしむら/藤原、藩士/歌) P 2 0 0 7  
楨翰(ていかん・赤崎) → 貞幹(さだもと/ていかん・赤崎あかさき、藩士/歌) N 2 0 7 0  
楨幹(楨幹ていかん・赤崎) → 海門(かいもん・赤崎あかさき、儒者/歌) E 1 5 4 5  
諦観(ていかん) → 諦観(たいかん、真言僧) J 2 6 5 0  
諦観(ていかん→たいかん;字) → 僧亮(そうりょう;法諱、真宗本願寺派僧) J 2 5 1 9  
定環(ていかん・正木/三浦) → 為春(ためはる・三浦/正木、藩士/俳人) 2 6 7 1  
定環(ていかん・草加) → 崑山(こんざん・草加くさか/そうか、儒者) G 1 9 5 8  
定寛(ていかん・鈴木) → 定寛(さだひろ・鈴木、医者) J 2 0 5 6  
廷幹(ていかん・股野) → 竜溪(りゅうけい・股野またの、藩儒者/教育) D 4 9 4 7  
鄭貫(ていかん) → 倫良(ともよし・三善、国学/神道/詩歌) Q 3 1 9 1  
柢完[堂](ていかん[どう]) → 羊素(ようそ・鈴木、俳人) B 4 7 4 1
- 3051 汀鴈(ていがん・藤田ふじた) ? - ? 近江八幡山会所/版元、俳人;和及門、  
1692静栄「誹諧水荃の岡」編集参加/出版  
貞岩(ていがん・菅原) → 源八(げんぱち・菅原、村役/救民/俳人) M 1 8 1 5  
貞丸(ていがん・社) → 貞丸(さだまる・社やしろ、神職/国学) P 2 0 6 4  
定巖(ていがん;号) → 連山(れんざん;道号・交易;法諱、曹洞僧) B 5 1 0 9  
貞簡先生(ていかんせんせい) → 式如(のぶき・田中/松浦、神道家) D 3 5 6 3  
貞閑尼(ていかに) → 捨女(すてじよ・田でん、名;ステ、俳人) 2 3 1 6
- 3052 貞暉(ていき;法諱) ? - 1709 江前期浄土宗西山派僧、  
1671「西山上人せいざんしょうにん十徳鈔」「西山上人略年譜」(西山上人は西山派祖の証空しょうくう)
- 3053 貞喜(ていき・鹿島、別号;宗林そうりん) 1652-1714<sup>63</sup> 伊丹の俳人;維舟[重頼]門;1672「武蔵野」入集、  
1690北枝「卯辰集」2句入集(;65/205)、  
[朧月羽はねこく鴈も旅寐哉](卯辰集;65/羽こくは羽をしきりに動かす)
- 3054 貞紀(ていき;法諱・忍綱にんこう;字) 1671-1750<sup>80</sup> 紀伊和歌浦の真言僧;洪善普撰門/撰津法楽寺2世、  
河内高井田長楽寺を再興、悉曇学に精通、「悉曇章相承口説」著、飲光おんこう(慈雲)の師  
貞季(ていき・上部) → 貞季(さだすえ・上部うわべ/度会、神職) B 2 0 5 4  
貞貴(ていき/さだたか・曾禰/柳沢) → 淇園(きえん・柳沢、藩士/儒詩/画) 1 6 0 3  
貞基(ていき/さだもと・脇田) → 琢所(たくしよ・脇田わきた、儒者/藩士) O 2 6 0 3  
貞基(ていき・竹内) → 貞基(さだもと・竹内たけのうち/山本、航海術) J 2 0 9 4  
貞喜(ていき・牧野) → 貞喜(さだはる/さだよし・牧野/源、藩主/諸芸) J 2 0 3 7  
貞喜(ていき・伊勢) → 貞喜(さだよし・伊勢いせ、藩士/故実) N 2 0 8 2  
貞暉(ていき・星野) → 貞暉(さだてる・星野ほしの/橋、機業/国学/歌) P 2 0 0 1  
貞輝(ていき/さだてる・伊勢) → 貞衡(さだひら・伊勢いせ/平、幕臣/故実家) C 2 0 3 6  
貞輝(ていき・酒井) → 貞輝(さだてる・酒井さかい、藩士/地誌家) I 2 0 7 2  
貞起(ていき・萩原) → 貞起(さだおき・萩原はぎはら、商家/歌人) F 2 0 2 4  
貞規(ていき・内海) → 貞規(さだのり・内海うつみ、名主/国学/歌) N 2 0 9 9  
貞規(ていき・和気) → 貞規(さだのり・和気わけ、庄屋/歌人) O 2 0 3 8  
貞寄(ていき・桑山) → 貞寄(さだより・桑山、幕臣/記録) K 2 0 3 8  
貞奇(ていき・山之内) → 貞奇(さだよし・山之内やまのうち、藩士/歌) K 2 0 3 2  
貞奇(ていき・佐藤) → 貞寄(さだより・佐藤/宇多、藩士/詩歌) C 2 0 6 9  
貞倚(ていき・杉山) → 貞倚(さだより・杉山すぎやま、歌人) N 2 0 5 1  
貞倚(ていき・内海) → 貞倚(さだより・内海うつみ/高橋、名主) O 2 0 0 0  
貞機(ていき・丹羽) → 正伯(昌伯しょうはく・丹羽にわ、医者/本草) B 2 2 2 1  
貞熙(ていき・北条) → 貞熙(さだひろ・北条/平、武将/歌) C 2 0 3 8  
楨記(ていき・市岡) → 和七(初世わしち・市岡/松本/待本/市外、歌舞伎作者) 5 3 2 4  
定季(ていき・源) → 定季(さだすえ・源みなもと、廷臣/歌人) B 2 0 8 6  
定規(ていき・山崎) → 忠央(ただなか・山崎やまさき、藩士/儒者) Q 2 6 2 6  
定記(ていき・和田) → 白鯉館卯雲(2世はくりかんぼううん、幕臣/狂歌) E 3 6 0 6  
定基(ていき・中院/野宮) → 定基(さだもと・野宮/藤原/中院、廷臣/故実) 2 0 2 6

- 定機(ていき;法諱) → 鉄牛(てつぎゅう;道号・道機、黄檗僧) C 3 0 2 5  
 定輝(ていき;斎藤) → 定輝(さだてる・斎藤さいとう、藩士/農政家) I 2 0 7 1  
 定熙(ていき;花山院) → 定熙(さだひろ・花山院/李/藤原/西園寺、左大臣/連歌) J 2 0 5 4  
 定熙(ていき;法諱) → 定熙(じょうき;法諱、僧;法印/歌人) F 2 2 9 8  
 3055 貞義(ていき) ? - ? 俳人;貞徳門、1638西武さいむ「鷹筑波集」入  
 3056 貞義(ていき;乏志堂) ? - ? 江前期美作の俳人、1705芸備築紫を行脚;06「心ひとつ」編  
 貞義(ていき;さだよし・寺田) → 愚仏(ぐぶつ・淤足齋おそくさい、書肆/狂詩) B 1 7 0 2  
 貞義(ていき;源) → 貞義(さだよし・源みなもと、歌人) P 2 0 8 9  
 貞義(ていき;田住) → 貞義(さだよし・田住/別所、大庄屋/地誌) K 2 0 2 6  
 貞義(ていき;岡田/鵜飼) → 貞義(さだよし・鵜飼/岡田/石部、神職) K 2 0 2 9  
 貞義(ていき;松岡) → 貞義(さだよし・松岡まつおか/深見、医者) P 2 0 4 0  
 貞儀(ていき;伊勢) → 貞儀(さだのり・伊勢/平、故実家) J 2 0 2 2  
 貞儀(ていき;杉山) → 鳳洲(ほうしゅう・福山/福/杉山、儒者) B 3 9 4 0  
 貞儀(ていき;堀) → 貞儀(さだのり・堀ほり/菅原、藩士/記録) J 2 0 2 4  
 貞宜(ていき;柏) → 夢江(むこう・柏かしわ、儒者/詩人) 4 2 5 0  
 貞宜(ていき;斎藤) → 貞宜(さだよし・斎藤、藩士/故実) K 2 0 3 1  
 定義(ていき;菅原) → 定義(さだよし・菅原すがわら、孝標男/漢学) C 2 0 3 1  
 泥亀庵(でいきあん) → 逸翁(いつおう・亀藤さとう、藩士/歌人) K 1 1 1 8  
**帝紀及上古諸事の記定者**(ていきおよびじょうこしよのきていしゃ/すめらみことのふみおよびいにしへのもろもろのことをしるしきだめしめしもの)  
 天武10年(681)3月に天皇の詔で歴史編纂した12名(記紀編纂の母体となった)  
 → 川島皇子(かわしまのみこ) 1 5 4 4  
 → 忍壁皇子(おしかべのみこ) 1 4 3 5  
 → 広瀬王(ひろせのおおきみ) G 3 7 1 2  
 → 竹田王(たけだのおおきみ) J 2 6 7 8  
 → 桑田王(くわたのおおきみ) D 1 7 1 9  
 → 三野王(みののおおきみ) H 4 1 2 3  
 → 三千(みちち・上毛野) H 4 1 2 4  
 → 首(こおびと/こびと・忌部) F 1 9 4 7  
 → 稻敷(いなしき・阿曇) D 1 1 0 1  
 → 大形(おおかた・難波) C 1 4 1 9  
 → 大島(おおしま・中臣/藤原) B 1 4 0 2  
 → 子首(こおびと/こびと・平群) L 1 9 7 8  
 鼎吉(ていきち・宮本) → 篁村(こうそん・宮本みやもと、儒/折衷学) K 1 9 4 2  
 鼎吉(ていきち・塚田/小山) → 春山(しゅんざん・小山おやま/塚田、漢学者) J 2 1 7 8  
 鼎吉(ていきち・大和) → 正樹(まさき・大和おほり、藩士/勤王/歌) O 4 0 4 7  
 定吉(ていきち・岩瀬) → 定吉(さだきち・岩瀬いわせ、宗教研究) I 2 0 0 8  
 定吉(ていきち・貞方) → 定吉(さだよし・貞方さだかた、藩士) K 2 0 3 3  
 貞吉(ていきち・今井) → 貞吉(さだきち・今井、医/博物学者) I 2 0 0 9  
 貞吉(ていきち・小関) → 三英(さんえい・小関こせき、蘭学/蘭医) E 2 0 1 3  
 釘吉(ていきち・河合) → 良臣(よしおみ・河合かわい、家老) M 4 7 3 3  
 定吉郎(ていきちろう・岡田) → 麿孫(みかしば・岡田おかだ/夏目、国学/歌) I 4 1 5 6  
 3057 貞橘(ていきつ・仏牛庵、初号;百猿)?-1760 大阪の俳人:貞山門、「誹諧笛わらへ」  
 貞橘(ていきつ・小関) → 三英(さんえい・小関こせき、蘭学/蘭医) E 2 0 1 3  
 貞久(ていきゅう) → 貞久(じょうきゅう、連歌) I 2 2 0 2  
 貞久(ていきゅう・伊勢) → 貞久(さだひさ・伊勢いせ/平、故実家) F 2 0 4 9  
 貞久(ていきゅう・賀茂) → 貞久(さだひさ・賀茂かも、神職/歌) J 2 0 4 1  
 貞休(ていきゅう・豊島) → 露月(ろげつ・豊島とよしま、謡曲/俳人) B 5 2 3 3  
 貞休(ていきゅう・歌月庵) → 貞幸(さだゆき・松本まつもと、商家/和学) P 2 0 4 6  
 貞休(ていきゅう・美濃部) → 貞休(さだやす・美濃部みのべ/柳沢、幕臣) P 2 0 5 2  
 貞躬(ていきゅう・味羽) → 貞躬(さだみ・味羽あじは/源、国学・歌人) N 2 0 7 2

- 貞歙(ていきゅう・堀口) → 藍園(らんえん・堀口ほりぐち、商家/漢学者) B 4 8 6 1  
 定久(ていきゅう・賀茂) → 定久(さだひさ・賀茂かも、神職/歌) C 2 0 3 3  
 定久(ていきゅう・大森) → 定久(さだひさ・大森おおもり、神職) J 2 0 4 2  
 定休(ていきゅう・隅田) → 定估(定休さだやす・隅田、国学者/歌) K 2 0 0 8  
 弟久(ていきゅう・為貞) → 弟久(おとひさ・為貞ためさだ、神職/歌人) D 1 4 8 1  
 定居(ていきよ・児玉) → 尚高(ひさたか・児玉/秦、神職/国学者) B 3 7 2 6  
 定許(ていきよ・藤) → 定房(さだふさ・藤とう、神職/藩士) J 2 0 5 9  
 底虚(ていきよ・亀井) → 其考(きこう・亀井かめい、俳人) F 1 6 3 3  
 廷挙(ていきよ・河野) → 杏庵(きょうあん・河野/越智/越、医者) N 1 6 1 6  
 貞許(ていきよ・さだもと?・渡辺) → 玄察(げんさつ・渡辺わたなべ、記録蒐集) J 1 8 1 7  
 貞居(ていきよ・猪狩) → 振鷺亭(しんろてい・猪狩いかり、戯作者) 2 2 3 2  
 貞居(ていきよ・久松) → 貞居(さだおき・久松ひさまつ、藩重臣/歌人) P 2 0 1 9  
 貞居(ていきよ・本庄) → 貞居(さだすえ・本庄ほんじょう、神道家) P 2 0 3 4  
 貞漁(ていぎよ・郁々堂) → 白応(はくおう、俳人) C 3 6 7 3  
 3058 定教(ていきょう・姓不詳) ? - ? 平安鎌倉期歌人、私撰「古風集」撰(散佚)  
 3059 定共(ていきょう) ? - ? 江前期俳人;  
 1675「誹諧絵合」/77「後集絵合千百韻」独吟百韻入  
 定興(ていきょう・松山) → 定申(ていしん・松山、兵法家) B 3 0 2 6  
 定興(ていきょう・宇野) → 定興(さだおき・宇野うの、国学者) N 2 0 9 2  
 貞興(ていきょう・片岡) → 成斎(せいさい・片岡かたおか、家老/儒者/国学) I 2 4 3 0  
 貞郷(定郷ていきょう・鈴鹿) → 貞郷(さださと・鈴鹿すずか/中臣、神職/歌) O 2 0 7 1  
 貞喬(ていきょう・貴志) → 長蔭(ながかげ・伊藤いとう/貴志かし、薬商) L 3 2 0 9  
 廷喬(ていきょう・荒木) → 李谿(りけい・荒木あらき、字;儒者/詩) 4 9 8 8  
 定業(ていぎょう・野宮) → 定業(さだなり・野宮のみや/藤原、廷臣/歌) C 2 0 2 4  
 常暁(ていぎょう;法諱) → 常暁(じょうぎょう;法諱、真言・三論僧) I 2 2 0 5  
 定暁(ていぎょう;法諱) → 定暁(じょうぎょう、真言僧;妙法院流祖) I 2 2 0 6  
 貞堯(ていぎょう・伊勢) → 貞助(さだすけ・伊勢/平、幕臣/故実家) I 2 0 2 9  
 貞堯(ていぎょう・西村) → 貞堯(さだたか・西村にしむら、歌人) I 2 0 3 6  
 貞暁(ていぎょう・井上) → 頼定(よりさだ・井上いのうえ、神職/歌人) L 4 7 3 6  
 貞暁(ていぎょう・柴田) → 貞暁(さだあき・柴田しばた、歌人) O 2 0 6 6  
 貞恭院(ていきょういん) → 邦子(くにこ・久松ひさまつ、藩主夫人/歌) D 1 7 8 3  
 E3089 貞恭尼(ていきょうに;法名、久世くぜ)?-? 歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [百草の花をば宿に移し植ゑつ鹿の音さそふ秋風もがな](大江戸倭歌;秋756、  
 秋の花ども植ゑたるを)  
 3060 貞鏡尼(ていきょうに;法名、多賀谷たがや於庫、秋田藩角館領主佐竹義術女)1816-7358 羽後角館歌人、  
 1832檜山城代多賀谷たがや厚孝の妻/42夫没;貞鏡尼と称し子の養育、「歌集」;8百余首、  
 佐竹義許・多賀谷長門家知の母、法号;貞鏡院、  
 [山里の垣根も今は埋れて野辺もひとつに積る白雪](歌集)  
 3061 貞旭(ていきよく・岡おか) ? - ? 江中期名古屋の俳人、1743芭蕉五十回忌追善集「北時雨」編、  
 1733「釜月亭若菜八詠」編、「としの橋」編、[貞旭(;号)の別号]花鳥庵/何慮庵  
 鼎吟(ていぎん・竹内) → 孝貞(こうてい・竹内たけうち、教育家;道学) K 1 9 7 2  
 貞極(ていきよく;法諱) → 貞極(ていごく;法諱、浄土僧/歌人) 3 0 6 1  
 3062 泥芹(でいきん) ? - ? 江戸の蕉門俳人:1688嵐雪「若水」/98「続猿蓑」入、  
 [明月にかくれし星の哀れなり](続猿蓑:巻下)  
 庭訓舎綾人(ていきんしゃあやんど) → 綾人(あやんど・庭訓舎、書家/狂歌) C 1 0 7 8  
 庭訓舎春泉(ていきんしゃしゅんせん) → 春泉(しゅんせん・為永、人情本作者) K 2 1 1 5  
 定矩(ていく/さだり?・柴村) → 盛方(もりみち・柴村しばむら、幕臣/随筆) G 4 4 5 8  
 貞矩(ていく/さだり・玉井) → 勘解由(かげゆ;通称・玉井たまのい、藩士) L 1 5 4 2  
 貞矩(ていく・日戸) → 貞矩(さだり・日戸ひと、藩士/歌人) Q 2 0 1 7  
 貞俱(ていぐ・谷) → 貞俱(さだとも・谷、伊勢御師おし/俳人) I 2 0 9 1

- 真空(ていくう;法諱) → 真空(じょうくう;法諱、浄土西山派僧) G 2 2 2 6  
諦空(ていくう;法名) → 実香(さねか・三条/転法輪三条/藤原、太政大臣) K 2 0 7 9  
諦空遠心(ていくうえんしん;法号) → 心阿(しんあ・松月堂、僧/歌人) N 2 2 2 5  
貞薫(ていくん;法諱) → 貞薫(じょうくん;法諱、尼僧/歌人) V 2 2 6 1  
廷君(ていくん・植村) → 家長(いなが・植村うえむら、藩主/詩人) E 1 1 9 1  
定群(ていぐん・永富) → 定群(さだむら・永富ながとみ、庄屋/歌人) O 2 0 9 9
- 3063 貞継(ていけい・駒井こまい) ? - ? 堺の俳人;重頼門or堺の玉手貞直門、  
1633重頼「犬子えのこ集」18句入;[老いて今朝二ふたび児ちごのむつきかな](犬子集;一13)、  
(老いると子供に還る/一生は襦袢むつきに始まり襦袢に還る/一年も睦月から睦月に還る)
- 3064 禎卿(ていけい・三宅みやげ、字;伯亀/通称;平角)?-? 江後期江戸の儒者;紀伊徳川家の侍講、  
「川角太閤記」校訂
- 定敬(ていけい・菅沼) → 定敬(さだゆき・菅沼、幕臣/歌人) K 2 0 1 7  
定敬(ていけい・菅沼) → 定敬(さだたか・菅沼すがぬま、国学者) O 2 0 6 8  
定敬(ていけい・都筑/坂原) → 定敬(さだよし・坂原/都筑、幕臣) K 2 0 3 0  
定敬(ていけい・伊藤) → 定敬(さだたか・伊藤いとう、藩士/和算家) I 2 0 3 7  
定経(ていけい・鷲) → 定経(さだつね・鷲さぎ、能楽師;狂言方) I 2 0 6 6  
定卿(ていけい・菊池/河原) → 容斎(ようさい・菊池、武保、幕臣/絵師) 4 7 9 5  
貞景(ていけい・伊勢) → 貞為(さだため・伊勢/平、故実家) I 2 0 4 8  
貞景(ていけい・奥野) → 貞景(さだかげ・奥野おくの、歌人) P 2 0 9 0  
貞継(ていけい・神) → 貞嗣(貞継さだつぐ・神じん・諏訪、幕臣/連歌) 2 0 5 4  
貞継(ていけい・菅原) → 貞継(さだつぐ・菅原すがむら、神職/国学) O 2 0 6 9  
貞継(ていけい・島田) → 貞継(さだつぐ・島田しまだ、藩士/和算家) I 2 0 5 8  
貞兄(ていけい・檜垣) → 貞兄(さだえ・檜垣ひがき/度会、神職) H 2 0 7 6  
貞桂(ていけい・原) → 元慶(もとよし・原はら、藩士/儒/詩人) L 4 4 0 8  
貞敬(ていけい・浜崎) → 貞敬(さだたか・浜崎はまさき、神職) I 2 0 3 8  
貞卿(ていけい・松平) → 定信(さだのぶ・松平、藩主/寛政改革) 2 0 2 2  
貞卿(ていけい・安藤) → 陽洲(ようしゅう・安藤/高畑、藩儒) B 4 7 1 0  
貞卿(ていけい・瀬川) → 恒成(つねなり・瀬川、戯作者) C 2 9 9 5  
貞卿(ていけい・北) → 仲利(なかつし・北きた、詩人) E 3 2 7 5  
貞卿(ていけい・木村) → 履軒(りけん・木村きむら、儒者/書家) 4 9 9 5  
貞卿(ていけい・宇野) → 公幹(きみもと・宇野うの、藩士、国学) T 1 6 5 8  
貞慶(ていけい;法諱) → 貞慶(じょうけい;法諱、真言僧) I 2 2 2 5  
貞慶(ていけい;法諱) → 貞慶(じょうけい、法相僧/弥勒信仰/歌) S 2 2 0 5  
貞慶(ていけい・伊勢) → 貞国(さだくに・伊勢/平、幕臣/歌人) B 2 0 8 4  
貞慶(ていけい・小笠原) → 貞慶(さだよし・小笠原、武将/故実家) K 2 0 2 0  
貞馨(ていけい・伊地知) → 貞馨(貞香さだか・伊地知いちぢ、藩士/国事) H 2 0 8 7  
貞景(ていけい)すべて → 貞景(さだかげ)
- 禎卿(ていけい・松浦) → 霞沼(かしょう・松浦まつうら/修姓松、儒者) F 1 5 1 2  
禎卿(ていけい・長谷川) → 元貞(もとさだ・長谷川はせがわ、国学者/書) C 4 4 5 2  
禎卿(ていけい・桂川) → 国興(くにおき・桂川かつらがわ/7世、幕府医官) B 1 7 4 7  
禎卿(ていけい・佐藤) → 維周(これちか・佐藤、儒者) O 1 9 5 0  
棣卿(ていけい→とみあき・和智わち) → 東郊(とうこう・和智わち、儒者/詩) D 3 1 7 5  
蹄溪(ていけい・石野) → 広通(ひろみち・石野/中原、幕臣/歌人) H 3 7 2 7  
庭慶(ていけい・横浜) → 庭能(にわよし・横浜よこはま、国学者/歌人) H 3 3 3 5  
定恵院(ていけいいん→じょうけいいん?) → 重博(しげひろ・安藤あんど、藩主/連歌) S 2 1 4 4  
帝慶斎(ていけいさい・松田) → 平四郎(へいしろう・松田、筆墨商/陶工) 2 7 5 2  
貞敬親王(ていけいしんのう) → 貞敬親王(さだよししんのう・伏見宮、歌人) K 2 0 3 4  
泥華院(でいげいん) → 円門(えんもん;法諱、真宗大谷派僧/詩) F 1 3 3 9  
定月(ていげつ;法諱) → 定月(じょうげつ;法諱、浄土僧;大僧正) I 2 2 3 3  
庭月庵(ていげつあん) → 斗興(とこう・高平たかひら、俳人) L 3 1 7 0

- 貞月齋一叟(ていげつさいいつそう)→ 一叟(いつそう・貞月齋初世、華道) H 1 1 5 5  
貞月齋一堤(ていげつさいいつてい)→ 一堤(いつてい・貞月齋2世、華道) H 1 1 6 8
- 3065 廷賢(ていけん・津野つゆ、滄洲そうしゅう[1718-90]男)?-? 江中期詩人:父の意を継承「赤田臥牛集」出版、1781「臥牛集付言」編
- 3066 貞兼(ていけん・藤谷ふじたに、名;貞好)1615-1701<sup>87</sup> 江前期京の俳人;1691江水「元禄百人一句」入、1702轍士「花見車」入:[富士の年始とはでも雪にしられけり](花見車;二10)、  
[貞兼(;号)の通称/別号]通称;甚吉、別号;仰雲軒/桂翁
- 貞軒(ていけん・菊池) → 澹如(たんじょ・菊池、儒者/難民救済) I 2 6 8 4  
貞憲(ていけん・藤原) → 貞憲(さだのり・藤原、廷臣/出家/歌人) C 2 0 3 2  
貞兼(ていけん;法諱) → 貞兼(じょうけん;法諱、法相僧) I 2 2 6 3  
貞兼(ていけん・歌川) → 貞兼(さだかね・歌川うたがわ、絵師) I 2 0 0 7  
貞兼(ていけん/さだかね・吉村) → 遍宜(遍耆へんぎ・吉村よしむら、医者) B 2 7 1 6  
貞堅(ていけん/さだかた・鎌田) → 杜陵(とりょう・鎌田かまた、医者/俳人) R 3 1 9 5  
貞顕(ていけん・北条) → 貞顕(さだあき・北条/金沢、執権/金沢文庫) B 2 0 6 8  
貞顕(ていけん・内藤) → 貞顕(さだあき・内藤ないとう、藩士/国学) G 2 0 2 0  
貞賢(ていけん・青島) → 貞賢(さだかた・青島あおしま、神職/国学) I 2 0 0 0  
貞健(ていけん・三本) → 貞健(さだたけ・三本みもと、国学者・歌) P 2 0 4 9  
定顕(ていけん・葉室) → 定顕(さだあき・葉室/藤原、廷臣/連歌) H 2 0 6 0  
定顕(ていけん;法諱) → 定顕(じょうけん;法諱、鎌倉期天台僧/歌人) R 2 2 4 3  
定顕(ていけん;法諱) → 定顕(じょうけん;法諱、南北朝天台僧/歌人) R 2 2 4 4  
定顕(ていけん/さだあき・小瀬/田中) → 朋如(ともゆき・田中/田、藩士/国学者) Q 3 1 8 0  
定顕(ていけん・荒木田) → 定顕(さだあき・荒木田あらかだ、神職/歌) H 2 0 5 9  
定顕(ていけん・吉田) → 定顕(さだあき・吉田よしだ、神職) H 2 0 6 7  
定賢(ていけん・佐々木/六角) → 定賢(さだかた・佐々木/六角、藩士/系図) H 2 0 9 6  
定賢(ていけん・松平) → 定賢(さだよし・松平、藩主/国学/詩) K 2 0 2 4  
定賢(ていけん・実川) → 定賢(さだかた・実川さねかわ、和算家) H 2 0 9 9  
定賢(ていけん・田中) → 定賢(さだよし・田中たなか、幕臣/国学) O 2 0 8 0  
定賢(ていけん・岡本) → 定賢(さだかた・岡本おかもと/松下、神職) O 2 0 1 9  
定賢(定軒ていけん・藤田) → 定資(貞資さだすけ・藤田/藤/本田、和算家) B 2 0 9 1  
定兼(ていけん;法諱) → 定兼(じょうけん;法諱、僧/歌人) V 2 2 7 6  
定兼(ていけん・世尊寺) → 定兼(さだかね・世尊寺/藤原、廷臣/歌) B 2 0 7 9  
定兼(ていけん・源) → 定兼(さだかね・源みなもと、廷臣/詩人) I 2 0 0 6  
定謙(ていけん・矢部) → 定謙(さだかた・矢部やべ、幕臣/奉行/歌) P 2 0 6 2  
定軒(ていけん・藪) → 慎庵(しんあん・藪やぶ、藩士/儒者) D 2 2 4 5  
定憲(ていけん;法諱) → 定憲(じょうけん;法諱、真言僧) I 2 2 6 5  
定憲(ていけん・宮崎) → 青谷(せいこく・宮崎/宮、藩士/儒者/画) I 2 4 1 4  
定堅(ていけん・荒木) → 蘭阜(らんこう・荒木あらか/富永、儒者/詩) B 4 8 9 9  
定堅(ていけん・横田) → 定堅(さだかた・横田よこた/原、国学/歌人) P 2 0 7 7  
檉軒(ていけん・大久保) → 忠恕(たださと・大久保おおくぼ、旗本幕臣) U 2 6 8 6
- 3067 底元(ていげん・神) ? - ? 京の俳人;1690言水「新撰都曲みやこぶり」/1702轍士「花見車」入、  
[物見より公家の柴呼ぶ桜かな](新撰都曲;上41/物見は牛車の物見窓、柴は柴刈人)
- 貞玄(ていげん・竜) → 貞玄(貞治さだはる・龍りゅう、神職/国学) J 2 0 3 4  
貞彦(ていげん・妻木) → 貞彦(さだひこ・妻木つまき、国学・神道家) J 2 0 3 9  
貞彦(定彦ていげん・長谷川) → 貞彦(定彦さだひこ・長谷川、国学者) J 2 0 4 0  
定言(ていげん・山科) → 定言(さだとき・山科やまの、廷臣/故実家) I 2 0 7 4  
定源(ていげん・石河いしかわ) → 道竹(どうちく・石河/細川、儒;陽明学) G 3 1 3 9  
定嚴(ていげん) → 定嚴(じょうごん;法諱、天台僧) I 2 2 9 0  
定嚴(ていげん→じょうごん) → 頼誉(らいよ;法諱・定嚴;字、真言僧) 4 8 9 8  
弟彦(ていげん・春山) → 弟彦(おとひこ・春山はるやま/安曇、国学) E 1 4 0 6  
底玄(ていげん;字) → 日允(にちいん;法諱、日蓮僧) 3 3 4 5

- 鼎元(ていげん・平岡) → 之正(ゆきまさ・平岡ひらおか、鍼医/国学) H 4 6 1 5  
 定賢室(ていけんしのつ・松平) → 定賢室(さだよししのつ・松平、藩主妻/歌) K 2 0 3 5  
 貞建親王(ていけんしんのう) → 貞建親王(さだたけしんのう、伏見宮、詩人) B 2 0 9 6  
 E3097 てい子(ていこ) ? - ? 江後期;歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [難波江の蘆まの水に影やどす月さへ氷る冬の夜の空](大江戸倭歌;冬1186)  
 貞固(ていこ・清水) → 貞固(さだかた・清水、藩士/歌人) B 2 0 7 8  
 貞固(ていこ/さだかた・上田) → 子幹(しかん・上田うえだ、儒者/藩士) P 2 1 8 7  
 貞固(ていこ・中原) → 蕉斎(しょうさい・中原/藤井、儒者) S 2 2 3 4  
 貞固(ていこ・藤田) → 貞固(さだかた・藤田ふじた、藩士/武術/茶) P 2 0 8 7  
 貞固(ていこ/さだかた・下条) → 秋水(しゅうすい・下条しもじょう、医者/国学) X 2 1 7 4  
 貞固(ていこ・蒲生) → 貞固(さだかた・蒲生がもう、藩士/教育者) N 2 0 4 2  
 貞固(ていこ・福住) → 貞固(さだかた・福住ふくずみ/川上、商家/歌) P 2 0 2 2  
 貞固(ていこ・湯浅) → 貞固(さだかた・湯浅ゆあさ、歌人) N 2 0 6 3  
 貞古(ていこ・南部) → 宗寿(そうじゅ・南部なんぶ、医者/儒者) H 2 5 7 2  
 貞虎(ていこ・牧岡) → 天来(てんらい・牧岡、俳人) E 3 0 5 3  
 貞虎(ていこ・歌川) → 貞虎(さだたら・歌川うたがわ、絵師) F 2 0 3 9  
 定故(ていこ・中川) → 壺山(こざん・中川ながわ、医者) M 1 9 6 1  
 定虎(ていこ・菅沼) → 定虎(さだたら・菅沼すがぬま、幕臣/詩歌) I 2 0 9 4  
 定虎(ていこ・三田村) → 定虎(さだたら・三田村、藩士/弓術) I 2 0 9 5  
 鼎虎(ていこ;法諱) → 嘯嶽(しょうがく;道号・鼎虎、臨濟僧) H 2 2 7 6  
 鼎湖(ていこ・高島) → 千春(ちはる・高島/高嶋、絵師) F 2 8 1 9  
 鼎湖(ていこ・荒木田) → 南陵(なんりょう・荒木田あらかた、神職/詩) J 3 2 6 6  
 鼎湖(ていこ・鐮木) → 幸雄(ゆきお・鐮木かぶらき、神職/国学) G 4 6 2 3  
 鼎古(ていこ・山本) → 道斎(どうさい・山本、医者/勤王派) E 3 1 4 5  
 貞吾(ていご・小川) → 雅藻(まさも・小川おがわ、国学/歌人) O 4 0 0 7  
 貞悟(ていご・青木) → 春澄(はるずみ・青木、俳人) G 3 6 4 7  
 鼎五(ていご・中村) → 確堂(かくどう・中村なかむら、藩士/儒者) H 1 5 3 6  
 3068 貞光(ていこう) ? - ? 伊勢山田の俳人;1633重頼「犬子えの集」2句入  
 [庭中にはなかに咲くや手がひの犬ざくら](犬子集;二473/手飼いの犬のように愛する犬桜)  
 3069 貞行(ていこう) ? - ? 伊勢山田の俳人;1633重頼「犬子集」2句入  
 [延びあがりのびあがる春の日足かな](犬子集;二584/日足を擬人化;春の日の長さ)  
 3070 廷高(ていこう・宮崎みやざき) 1726-1807 82 阿波鳴門の医者;産科医、1780徳島藩侍医、  
 詩文/画に長ず、1794「花土産」著、  
 [廷高(;名)の字/通称/号]字;子賢、通称;才助、号;楽山堂  
 3071 定興(ていこう) ? - ? 江戸俳人;1667可徳「やこはいかい」評/跋  
 3072 定興(ていこう・栗山くりやま) ? - ? 考証;1821-42屋代弘賢「古今要覧稿」編纂参加  
 定興(ていこう・ていきょう・松山) → 定申(ていしん・松山、兵法家) B 3 0 2 6  
 定興(ていこう)訓読すべて → 定興(さだおき)  
 定綱(ていこう・松平) → 定綱(さだつな・松平、藩主/儒/詩文) F 2 0 3 4  
 定恒(ていこう・平野) → 定恒(さだつね・平野ひらの/平、歌人) N 2 0 5 7  
 定衡(ていこう) → 定衡(さだひら・三善みよし、官人/記録) J 2 0 5 1  
 定衡(ていこう、官人/法師) → 定衡(さだひら/じょうこう・藤原、官人/歌人) J 2 0 5 3  
 定衡(ていこう) → 定衡(じょうこう、室町期法師) I 2 2 8 1  
 定衡(ていこう・矢部) → 定衡(さだひら・矢部やべ/藤原、幕臣/歌) M 2 0 0 1  
 定高(ていこう・藤原) → 定高(さだたか・藤原、廷臣/連歌/日記) B 2 0 9 4  
 定厚(ていこう・山口) → 定厚(さだあつ・山口/紀、廷臣/記録) H 2 0 7 3  
 定香(ていこう・大鶴) → 定香(さだか・大鶴おおつる、医者/詩人) H 2 0 8 6  
 定行(ていこう・村垣) → 定行(さだゆき・村垣、幕臣/蝦夷踏査) K 2 0 1 3  
 定好(ていこう・菅沼) → 定芳(さだよし・菅沼すがぬま、幕臣/城主) K 2 0 2 2

定好(ていこう・羽太) → 定好(さだよし・羽太[はぶと?], 歌人) P 2 0 9 3  
 定好(ていこう・松本) → 定好(さだよし・松本まつもと、槍術家) K 2 0 2 1  
 定好(ていこう・村松) → 露融(ろゆう・村松むらまつ、製紙業/俳人) C 5 2 4 6  
 定功(ていこう・野宮) → 定功(さだいさ・野宮のみや/藤原、廷臣/記録) B 2 0 7 0  
 定功(ていこう・富山) → 定功(さだこと・富山とみやま/辻/島田、商家/歌) O 2 0 9 2  
 定孝(ていこう/さだたか・平野) → 平角(へいかく・平野ひらの、商家/俳人) 2 7 1 6  
 定考(ていこう・島田/篠田) → 明浦(めいほ・篠田しのだ/島田、書家) 4 3 3 3  
 定幸(ていこう・諏訪部/黒沢) → 定幸(さだゆき・黒沢/諏訪部、幕臣) K 2 0 1 0  
 定広(ていこう・眞宮) → 定広(さだひろ・眞宮まみや、藩士/歌人) J 2 0 5 7  
 定綱(ていこう・藤原) → 定綱(さだつな・藤原、廷臣/歌合催) C 2 0 0 4  
 定綱(ていこう・佐八) → 定綱(さだつな・佐八さち/荒木田、神職) I 2 0 6 1  
 定康(ていこう) → 胤康(いんこう:号、曹洞僧/勤王討幕) I 1 1 5 4  
 定岡(ていこう/さだおか・菅原/平田/八島) → 丘山(きゅうざん・岳亭がくてい、絵師/戯作/狂歌) C 1 6 0 3  
 貞行(ていこう・源) → 貞行(さだゆき・源みなもと、鎌倉期歌人) C 2 0 6 1  
 貞行(ていこう・三善) → 貞行(さだゆき・三善みよし、南北期歌人) Q 2 0 1 0  
 貞行(ていこう・伊勢) → 貞行(さだゆき・伊勢/平、幕臣/故実/歌) C 2 0 6 2  
 貞行(ていこう・山鹿) → 貞行(さだゆき・山鹿やまが、藩士/兵学者) K 2 0 1 2  
 貞行(ていこう・富田) → 貞行(さだゆき・富田とみた、藩士/記録) K 2 0 1 4  
 貞広(ていこう・大江) → 貞広(さだひろ・大江/長井、鎌倉幕臣/歌人) C 2 0 3 7  
 貞広(ていこう・伊勢) → 貞広(さだひろ・伊勢/平、藩士;故実家) J 2 0 4 7  
 貞広(ていこう・歌川/浮世) → 貞広(初世さだひろ・歌川うたがわ、絵師) F 2 0 5 0  
 貞光(ていこう・広橋) → 貞光(さだみつ・広橋/藤原、廷臣/記録) J 2 0 8 0  
 貞光(ていこう・渋谷) → 棕逸(そういつ・渋谷しぶや、医者/詩文) F 2 5 9 9  
 貞功(ていこう・古市) → 木芽(もくが・古市ふるいち、俳人) 4 4 7 3  
 貞弘(ていこう・明石) → 貞弘(さだひろ・明石、藩士/兵法家) J 2 0 5 5  
 貞孝(ていこう・伊勢) → 貞孝(さだたか・伊勢/平、幕臣/故実家) I 2 0 3 3  
 貞孝(ていこう・武野) → 貞孝(さだたか・武野たけの、藩士/和算家) I 2 0 3 5  
 貞孝(ていこう/さだたか・黒崎) → 洗心(せんしん・黒崎くろさき、儒者/詩人) M 2 4 6 6  
 貞侯(ていこう・山中) → 時風(ときかぜ・山中やまなか、俳人) J 3 1 0 1  
 貞高(ていこう・伊勢) → 貞雅(さだまさ・伊勢/平、幕臣/故実家) J 2 0 6 4  
 貞高(ていこう/さだたか・広瀬) → 月化(げつか・広瀬ひろせ、商家/俳人) B 1 8 0 1  
 貞恒(ていこう/さだつね・広瀬) → 桃秋(とうしゅう・広瀬、月化弟/俳人、淡窓父) E 3 1 9 4  
 貞恒(ていこう・堀) → 貞恒(さだつね・堀ほり/菅原、医者) I 2 0 6 4  
 貞香(ていこう・度会) → 貞香(さだか・度会わたらい、神職/歌) H 2 0 8 5  
 貞香(ていこう・伊地知) → 貞馨(貞香さだか・伊地知いちち、藩士/国事) H 2 0 8 7  
 貞幸(ていこう・歌川) → 貞幸(さだゆき・歌川うたがわ、絵師) K 2 0 1 5  
 貞幸(ていこう・松本) → 貞幸(さだゆき・松本まつもと、商家/和学) P 2 0 4 6  
 貞康(ていこう・町野) → 貞康(さだやす・町野まちの/三善、武将/歌) C 2 0 5 7  
 貞康(ていこう・笠原) → 貞康(さだやす・笠原かさほら、藩士/国学) O 2 0 2 7  
 貞興(ていこう・伊勢) → 貞興(さだおき・伊勢いせ/平、武将) H 2 0 8 3  
 貞興(ていこう・石井) → 貞興(さだおき・石井いし/櫛山、藩士/歌) N 2 0 8 4  
 貞綱(ていこう・宇都宮) → 貞綱(さだつな・宇都宮/藤原、武将/歌) C 2 0 0 5  
 貞綱(ていこう・塩屋) → 貞綱(さだつな・塩屋えんや/佐々木/源、武将/連歌) I 2 0 5 9  
 貞衡(ていこう・伊勢) → 貞衡(さだひら・伊勢いせ/平、幕臣/故実家) C 2 0 3 6  
 廷香(ていこう・大庭) → 松風(しょうふう大庭おおば、商人/紀行文) L 2 2 5 0  
 佛侯(佛侯/弟侯ていこう・沢/平沢) → 元愷(げんがい・平沢、旭山、儒者) B 1 8 3 9  
 逞公(ていこう;諡号) → 宗春(むねはる・徳川/松平/源、藩主) C 4 2 2 7  
 定豪(ていこう;法諱) → 定豪(じょうごう;法諱、大僧正/歌人) V 2 2 7 7  
 定豪(ていこう・富山) → 定豪(さだかつ・富山とみやま、商家/歌人) O 2 0 8 9  
 泥江隠士(でいこういんし) → 東甫(とうほ・内藤、藩士/絵師/俳人) H 3 1 1 1

- 泥江亀寿(でいこうきじゅ) → 延齡(えんれい・平出、医者) C 1 3 2 4  
 定行三治(でいこうさんじ) → 三治(みはる・中原、神道家/教育) F 4 1 7 5  
 貞康親王(でいこうしんのう) → 貞康親王(さだやすしんのう・伏見8世、歌人) C 2 0 5 8
- 3074 **定毅**(でいこく・稲垣いながき) 1764-1835 72 伊勢安濃郡新町の商家、蘭学;橘石見介・小島典膳門、江戸で蘭学;本田三郎左衛門門/暦算に通ず、帰郷後山海探検とその記録、地球儀制作、1834「伊勢志略」編、「地図凸頭彙稿」「物産誌」著、  
 [定毅(;)名)の字/通称/号]字;佐平、通称;佐兵衛、号;見山  
 貞毅(でいこく・柴野) → 貞毅(さだよし・柴野しばの、医者) K 2 0 2 7  
 貞刻(でいこく・前田) → 貞刻(さだとき・前田まえだ、国学者/歌人) P 2 0 3 7  
 貞国(でいこく・伊勢) → 貞国(さだくに・伊勢/平、幕臣/歌人) B 2 0 8 4  
 貞国(でいこく・前田) → 貞国(さだくに・前田まえだ、藩士/歌人) P 2 0 3 6  
 定国(でいこく・藤原) → 定国(さだくに・藤原ふじわら、大納言) H 2 0 0 6
- 3075 **貞極**(でいこく・じょうごく;法諱、白粉屋大西五兵衛男) 1677-1756 80 京浄土僧/1703三河岡崎の貞憶門、江戸小石川伝通院で修学/根岸に念仏道場[四休庵]を開設;厳格な戒律で念仏修行、歌;中院家・武者小路家門、1715「本願頭宗記」23「本願念仏感光章」25「円戒二掌記」著、「四休菴法語集」「四休菴雜集」「如来十力得勝論」「百万遍勸誡鈔」「深草問答」著、「灌仏法集録」「浄土勸勝記」外著多数、石野広通「霞関集」入、  
 [墨染の袖師の浦のうつせ貝身をのがれてもこゆる年浪](霞関;冬679、袖師の浦;駿河の清見潟の海岸)、  
 [貞極(;)法諱)の幼名/号/法名]幼名;菊松、号;四休庵、法名;一蓮社立誉  
 貞五堂(でいごどう) → 乾峰(初世けんぼう、雑俳点者) D 1 8 0 6  
 貞根(でいこん・檜垣) → 貞根(さだもと・檜垣/度会、神職) J 2 0 9 0
- 3076 **貞巖**(でいごん;法諱) ? - 1827 江戸芝浄土宗増上寺の学頭/深川靈巖寺・小石川伝通院住職、1820知恩院65世/21大僧正、「五重口決」「後座五重相伝」著、  
 [貞巖(;)法諱)の法名] 等蓮社迎誉無礙行阿
- B3054 **汀沙**(でいさ) ? - ? 江前期俳人、1687一昌「丁卯(ていぼう)集」入、  
 [幾い時雨佛の膝のやどり草](丁卯草;奈良)
- 3003 **貞佐**(でいさ・桑岡くわが、名;永房) 1672-1734 63 江戸の俳人:其角門、30歳頃出家;(法名;)了我、1701頃上京;言水・好春らと交流、江戸帰還後に還俗;(号;)貞佐、江戸座の重鎮、狂歌:貞柳門、沾徳と親交、超波・有佐・平沙らの師、1701「一番鶏」06「誹諧箱伝授」編、「二番鶏」、1720「他村」23「其柱」25「江戸歌仙合」編、26「代々蚕」「丙午歳旦」編/31「梨園」編、家集「桑岡集」、「七泉」「続句兄弟」「桑々畔発句集」外著多数、流行に走らない句風を保った、  
 [中碗の白粥みてり十三夜](辞世)、 追善集;「一碗光」「隙の駒」「三盃酢」、  
 [貞佐(;)号)の通称/別号/法名] 通称;平三郎、  
 別号;塩車(えんしゃ)/平砂[初世]/苳藟(ひつうり)/桑々畔、 出家法名;了我[のち還俗]
- 3077 **貞佐**(でいさ・水原みずはら/初姓;中川) 1680-1747 68 京の俳人:高田幸佐・貞恕門、垂加神道にも通ず、1741「四銚辻」、「御傘集解」著、  
 [貞佐(;)号)の別号] 短頭翁/一十軒
- 3078 **貞佐**(でいさ・芥河[川]あくたがわ、名;濤賀、豪商丸山久右衛門男) 1699-1779 81 備中笠岡の商家の生、上京/漢学;伊藤東涯門、蹴鞠・茶・ト筮・三絃・香を習得、1728広島 of 芥河孫右衛門の養子、広島町大年寄、俳・狂歌:油煙斎貞柳門、門人;千余人、1759「狂歌千代の梯(かたはし)」著、1777「狂歌寝ざめの花」、「狂歌二翁集」著、晩年に貞柳三世を称したか?、  
 [貞佐(;)号)の幼名/通称/別号]幼名;河吉、通称;久右衛門/九五兵衛、  
 別号;桃縁斎/又生庵(ゆうせいあん)/風肝坊/艾人軒(いじんけん)/一十軒、屋号;芥河屋、法号;桃縁斎、
- 3079 **鼎左**(でいさ・藤井ふじい) 1802 - 1869 68 備後俳人:奇淵門;高弟、大阪島内豊屋町住、書画も嗜む、1834「荻廼声」「閑花春帳」「三めぐり集」編/35「ひとめぐり」49「俳諧佐々浪集」編、1850「みやましふ」51「浪華五百題集」53「俳諧海内人名録」編、「明題此花集」外著多数、  
 [鼎左(;)号)の別号]大黒庵/花屋庵(以上師から継承)/鳳棲舎/桃の本/閑花林/桑々畔  
 貞佐(3世(でいさ)) → 四山(しざん・松平まつだいら、藩主/俳人) D 2 1 7 9
- 3080 **貞齋**(でいさい・毛利もうり、名;琥珀)?-? 大阪の儒者、京で講説業、宇都宮遯菴と並称される著述家、

「古文真宝後集詳解大全」「古文真宝後集備考」「国花集改正」「三重韻訂補」「三重韻大成」、  
 「四書俚諺鈔」、1617「蒙求標題大綱鈔」77「蒙求標題」85「韻鏡名乗字大成」、  
 1687「訓蒙読書字義」91「増続大広益会玉篇大全」1703「莊子口義大成俚諺鈔」、  
 1704「通俗戦国策」/15「論語集註俚諺鈔」「四書集註俚諺鈔」「孟子集註俚諺鈔」、  
 「新編類字箋解」、「通俗五代史軍談」、1725「広類願体俚諺鈔」、外著多数;総数40余点3百冊、  
 [貞斎(;)号)の字/通称/別号]字;虚白、通称;香之進、別号;(舌耕号)花雉隱儒からくいんじゅ  
 「蜺縮涼鼓集」の鴨東蕨父は貞斎の戯名か? → 蕨父(そほ・鴨東おうとう) J 2 5 5 2

- 3081 **貞斎**(ていさい・福田ふくだ/初姓;井上、名;尚存) 1661-1717 57 播磨三木の生;1669(9歳)父と死別、  
 福田姓を名告り上京/儒者;三宅観瀾門/半年ごとに郷里の子弟教育、書/吟詠を嗜む、  
 「梅遅庵詩集」著、  
 [貞斎(;)号)の通称/別号]通称;代蔵、別号;梅遅庵
- 3082 **貞斎**(ていさい・鈴木ずき、名;重充) 1680-1740 61 土佐の佐川深尾家家臣、儒者;浅見綱斎門、  
 のち山本復斎・室鳩巢門、伊勢住/のち大阪住、1737「学庸徳性説」、「神学古今辨」著、  
 「知行書口義」「辨蔡氏情説」「辨伊東維楨号仁斎」著、「鳩巢先生書批雑録」編、「貞斎遺書」、  
 [貞斎(;)号)の通称/法号]通称;鳥羽金次郎/金七、法号;一貫鈴櫛貞斎居士
- E3030 **貞斎**(ていさい・姓不詳、) ? - ? 江前中期;江戸の儒者?/詩人、  
 1728(享保13)宝山企画「諏訪浄光寺八景詩歌」入(暮荘烟雨ぼそうんう/歌は芥川寸艸)、  
 [林鳩りんきう婦ふを逐おうて一朝啼き 陰雨冥冥として天低たれんとす、  
 薄暮の水烟村落を罩こめ 行人かうじん何いつれの処ところか東西を弁ぜん]、  
 (八景詩/暮荘;夕暮の里;江戸諏訪台近景/罩り;包み込む/行人;往来するよそ者)
- 3083 **訂斎**(ていさい・久米くめ、名;順利) 1699-1784 86 京の儒者:三宅尚斎門/女婿、京で講説業;性理説、  
 1636-58「学思録鈔」、「性理要旨」「性理余説」「理学俗談」「訂斎筆記」「訂斎夜話」外著多数、  
 [訂斎(;)号)の字/通称/別号]字;断治、通称;断二郎/新二郎、別号;簡兮かんけい
- 3084 **貞斎**(ていさい・尾形おた、別号;茅州ぼうじゅう) ?-? 漢学者、1799「通俗西遊記」四編訳:塩屋平助ら刊
- 3085 **櫻斎**(ていさい・平井ひらい/本姓;源、名;敬義) 1772-1829 58 京の下立売堀川西の儒者;古義堂門、  
 本草家;小野蘭山門、「古今類聚薬名考」「品物図纂」著、  
 [櫻斎(;)号)の字/通称/別号]字;子方、通称;宗七郎、別号;紫泉
- 3086 **鼎哉**(ていさい・日野ひの) 1797 - 1850 54 豊後速見郡由布村の儒/医;帆足万里門、  
 蘭医学;長崎のシ-ポルト門・京の小石元瑞門/蘭語に長じ外科を得意、京で開業医、  
 弘化1844-48年間痘瘡流行;種痘を実施(門人笠原白翁と)、1849二条新町に除痘館設立、  
 痘苗を緒方洪庵に分け大坂にも除痘館設立、「痘瘡秘蘊」「白神除痘法辨」著、  
 [鼎哉(;)通称)の号] 蔭香/暁碧/暁翠、法号;釈智栄釈浄念居士
- 3087 **艇斎**(ていさい・石川いしかわ、名;年覧) ?-? 江後期安政1854-60頃尾張藩士/儒者、  
 「艇斎随鈔」著、  
 [艇斎(;)号)の字/通称/別号]字;公通、通称;鋌太郎、別号;梧所/観劇道人
- 3088 **櫻斎**(ていさい・小川おがわ、名;通雄/字;子明、別号;斗山) ?-? 天保1830-44頃上総の医者:多紀桂山門、  
 江戸で医業、1840「換杏新話」
- 3089 **鼎斎**(ていさい・大沢おおさわ、名;敬遇) 1813-73 61 京の儒者;鈴木遺言門・江戸の山口菅山門、  
 帰京し朝廷学習書で講説、若狭小浜藩校順造館教授、「近思録詳説」「近思録筆記」著、  
 [鼎斎(;)号)の字/通称]字;季徳、通称;雅五郎
- 3090 **貞斎**(ていさい・大野おおの) ? - ? 江後期儒者;伊庭一貫堂(曾祖父鈴木養斎の門人)門、  
 国学/医者、医業で生計、「学習軒雑録」「排仏論」「道学談」著
- |              |                         |           |
|--------------|-------------------------|-----------|
| 鼎斎(ていさい・山田)  | → 有裕(ありひろ・山田、書家/詩文)     | F 1 0 7 2 |
| 鼎斎(ていさい・青柳)  | → 高鞞(たかとも・青柳あおやぎ、国学者)   | D 2 6 2 8 |
| 鼎斎(ていさい・坂本)  | → 俊貞(としさだ・坂本/阪本、砲術家/漢学) | M 3 1 4 8 |
| 鼎斎(ていさい・生方)  | → 寛(ひろし・生方うぶかた/源、書家)    | F 3 7 9 0 |
| 鼎斎(ていさい・木村)  | → 明堂(めいどう・木村きむら、儒者)     | 4 3 3 0   |
| 貞斎(ていさい・梶井宮) | → 応胤親王(おういんしんのう、天台僧/歌人) | C 1 4 3 1 |
| 貞斎(ていさい・泉晁)  | → 泉晁(せんちやう・貞斎、絵師)       | G 2 4 3 9 |
| 貞斎(ていさい・長尾)  | → 正孝(まさたか・長尾ながお、藩士/詩・書) | D 4 0 2 6 |

- 貞齋(ていさい・菊池) → 嘉典(よしのり・菊池まぐち、神職/教育) F 4 7 8 4  
貞齋(ていさい・南) → 亮方(すげかた・南みなみ、和算家) G 2 3 1 9  
貞齋(ていさい・馬場) → 為人郎(ためはちろう・馬場ばば、通事) S 2 6 7 0  
貞齋(ていさい・長谷川) → 宣祥(のりよし・長谷川はせがわ、医者) J 3 5 5 7  
貞齋(ていさい・上田) → 重威(しげたけ・上田うえだ、歌人) N 2 1 4 7  
貞西(ていさい;法号) → 磯足(いそたり・加藤、国学者/歌) B 1 1 0 9  
貞哉(ていさい・天老坊) → 一叟(いっそう・飛鳥園5世、俳人) C 1 1 9 0  
禎齋(ていさい・高橋) → 景張(かげはる・高橋たかはし、歌人) U 1 5 9 4  
酌齋(ていさい・松波) → 光興(みつおき・松波/藤原、官人/詩人) D 4 1 1 4  
蹄齋(ていさい、蹄齋北馬) → 北馬(ほくば・葛飾、有坂、御家人/絵師) D 3 9 8 6  
蹄齋(ていさい) → 秋鯉(しゅうり・蜂房ほうぼう、北馬門絵師) I 2 1 3 9  
定齋(ていさい・鷺見) → 定齋(じょうさい・鷺見すみ、将棋士) J 2 2 0 9  
定齋(ていさい・渡辺) → 定齋(じょうさい・渡辺/赤坂、藩士/儒者) J 2 2 1 0  
定齋(ていさい・加藤) → 德基(のりもと・加藤かとう/清水、藩儒) H 3 5 8 6  
定済(ていさい・五条) → 友信(とものお・賀茂/幸徳井、陰陽/暦学) Q 3 1 1 8  
定済(ていさい・賀茂) → 定済(さだなり・賀茂かも、神職/暦学) J 2 0 0 9  
定済(ていさい;法諱) → 定済(じょうぜい;法諱、真言僧) K 2 2 2 8  
底齋(ていさい・吉井) → 元庸(もとつね・吉井よし、国学/神道家) D 4 4 1 8  
萇齋(ていさい・薜) → 関月(かんげつ・薜しとみ/柳原、絵師) D 1 5 5 8  
櫻齋(ていさい・渡辺) → 一(かず・渡辺、藩士/和算家) C 1 5 1 4  
昇齋(ていさい・) → 俊益(しゅんえき・昇齋ていさい、歌人) a 2 1 7 3  
禎作(ていさい・賀茂) → 規清(のりきよ・賀茂/梅辻、烏伝神道家) E 3 5 4 4  
定三郎(ていざぶろう・取田) → 青実(はるざね・取田とりた/大久保、国学) K 3 6 4 8
- F3028 貞算(ていざん・じょうざん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;法師/歌人;1237刊[檜葉集]8首入、元久(1204-6)頃興福寺権別当信宗の房(判者俊成)の歌合に参加、[わがやどの花をもよそのにほひかと霞にたどる春のあけぼの](檜葉;春43)
- 3091 貞山(ていざん・桐淵きりぶち、通称;利兵衛) 1672-1749 78 上州藤岡の医者/俳人;松永尺山門、初期上毛俳壇の指導者、のち江戸住/1726剃髪、貞屋らの師、1726「ひらづつみ」編、1733「俳諧江戸名所」編/36「俳諧其傘」41「闇礫抄」45「誹諧手挑燈」、「独吟四歌仙」著、[貞山(;号)の別号] 蘆丸舎[初世]/湖月亭/湖月堂/湖月庵/桐淵閣とうえんかく/蘆翁
- 3092 禎山(ていざん;法諱) ? - ? 江中期伊勢桑名の臨済宗天祥寺の住持、1728「有宗七十五法記」著
- 3093 鼎山(ていざん・中村なかむら、名;元播、前川治英男) 1800-74 75 肥前伊万里の生;和漢学・篆刻家、1825佐賀藩士中村勘兵衛重定の養嗣子、書肆太古堂を開く、俳人;伊万里の呉雪庵文路から俳歌文机を伝受;半升庵社を設立、「西の雲」「五合鍋」著、[鼎山(;号)の字/通称/別号]字;魯宝、通称;堪二、別号;半升庵
- 3094 鼎三(ていざん;道号・即一;法諱、菊田元吉男) 1805-92 88 尾張猪子石村の曹洞僧;尾張白鳥の法持寺洞外門;出家/回天・黄泉・風外の諸師に参禅/名古屋福寿院住、1859白鳥の法持寺28世、1869永平寺西堂/73大教院権中教正に任命、「破関撃節録聴書」著、[鼎三即一の通称/号]通称;白鳥鼎三しらとりていざん、号;天籟てんらい
- 3095 貞山(初世ていざん・一竜齋) ? - 1855 講釈師;初世典山門、「義士銘々伝」が得意
- 3096 貞山(2世ていざん・一竜齋、初世貞水) 1838-74 37 幕臣/講釈;貞山門、「岩見十太郎実記」著
- 貞山(ていざん) → 政宗(まさむね・伊達、武将/藩主/詩歌) H 4 0 7 7  
貞山(ていざん・池永) → 公祉(きんよし・池永いけなが、神職/儒/歌) T 1 6 4 4  
定山(ていざん;道号) → 定山(じょうざん;道号・祖禅、臨済僧) J 2 2 3 2  
定山(ていざん;道号) → 定山(じょうざん;道号・良光、曹洞僧) J 2 2 3 3  
定三(ていざん・小保内) → 定身(さだみ・小保内おぼない、神職/教育) O 2 0 0 7  
定算(ていざん;法諱) → 定算(じょうざん;法諱、法師/歌人) V 2 2 7 8  
鼎三(ていざん・伊吹) → 正邦(まさくに・伊吹いぶき/源、藩士/歌人) N 4 0 4 3  
鼎山(ていざん) → 斉脩(なりのお・徳川、藩主/雅楽/詩) H 3 2 9 6

- 鼎山(ていざん) → 宇七兵衛(うしちべゑ・永井、庄屋/文筆) C 1 2 4 5  
鼎山(ていざん・小泉) → 則之(のりゆき・小泉、和算家) G 3 5 1 4  
鼎山(ていざん・中村) → 守手(もりて・中村/永井、神職/国学/歌) F 4 4 8 7  
棣山(ていざん・松平) → 惇典(あつり・松平、家老/佐幕/詩歌) E 1 0 7 8  
鋌山(ていざん・奈良) → 孝斎(こうさい・奈良なら、儒者/詩人) I 1 9 9 7  
泥山(ていざん) → 素丸(初世そまる・長谷川馬光、俳人) 2 5 2 9  
亭山翁(ていざんおう) → 東臯(とうこう・高橋、商家/書家/俳人) D 3 1 8 3
- 3004 定子(ていし・さだこ・藤原ふじわら、通称;一条院皇后宮いちじょういんのこうごうのみや、道隆女)976-1000早世25歳、  
母:高階成忠女貴子[高内侍]、990一条天皇の女御/中宮/995父道隆が没;関白家没落、  
996兄弟の伊周これか・隆家の配流により落飾/のち還俗、  
999敦康親王出産/1000道長女彰子の中宮のため皇后となる、嬖子ひ内親王出産;翌日没、  
女房に清少納言、歌;勅撰9首;後拾(536/537/1221)金葉(Ⅲ351)詞(178)千載(966)以下、  
[夜もすがら契りしことを忘れずは恋ひむ涙の色ぞゆかしき](後拾;哀傷536)、  
[知る人もなき別れ路に今はとて心細くもいそぎ立つかな](後拾;哀傷537)、  
[煙とも雲ともならぬ身なれども草葉の露をそれと眺めよ](後拾;1221、  
定子没後に帳の帷からびらの紐に結んであった歌3首;栄花物語鳥部野に入)
- 3097 貞之(ていし・谷崎たにさき、別号;谷遊[軒])?-? 江前期京の俳人:朝江種寛しゅかん門、  
1674「蜚[海士]釣舟あまのつりぶね」著
- 3098 定之(ていし) ? - ? 俳;貞徳門、1638西武さいむ「鷹筑波集」入
- 3099 定之(ていし・神戸かんべ、別号;東林軒)1651-170050 京東洞院通六条下ル町住の俳人:令徳・西武門、  
晩年は前句付の点業を専らとす、1679高政「俳諧中庸姿つねのすがた」独吟歌仙入、  
1681高政「ほのぼの立」三吟参加、83三千風と一座、1691「一丁鼓」編、1691賀子「蓮実」入、  
1696良弘「俳諧高天鶯たかまのうぐいす」/円水「俳諧住吉をどり」入、  
[朝顔は久しきものよ五十年](辞世)
- B3000 貞至(ていし・中島なかじま、別号;朔児庵?)-? 江中期京の俳人:羅人門、1736「机勝手」編、  
1748「ひろはとり」五始らと共編
- B3001 庭枝(ていし・松寿亭、通称;天王寺屋重三郎?)-? 江後期大阪の商家/狂歌作者:発果亭庭栗社中、  
1815「夷曲厄払譚星田妙男山紀行」、「岩屋村紅葉紀行」著
- B3002 貞之(ていし・伊藤いとう、名;光年みつとし?)-? 江後期江戸の俳人:不老ふろう門、  
1858「俳諧浅草名所一覽」編、  
[貞之(;号)の通称/別号]通称;嘉吉、別号;桂心居/桂心屋
- 定子(ていし・大野) → 定子(さだむるこ・大野/井上/榎本、歌人) J 2 0 8 7  
定志(ていし・青木) → 彊斎(きょうさい・青木あおき、藩士/国学者) S 1 6 1 4  
定志(ていし・渡部/森山) → 富涯(ふがい・森山/渡部、藩士/兵学者) B 3 8 3 0  
定之(ていし・野宮) → 定之(さだゆき・野宮/藤原、廷臣/故実) C 2 0 6 3  
定之(ていし・安田) → 玉海(ぎよくかい・安田やすだ、医者) O 1 6 8 4  
定之(ていし/さだゆき・眞幡) → 鉄船(てつせん・眞幡まはた、医者/俳人) C 3 0 5 2  
定志(ていし・匹田) → 柳塘(りゅうとう・匹田/疋田ひきだ/藤原、家老) F 4 9 3 0  
定資(ていし・坊城) → 定資(さだすけ・坊城/藤原、廷臣/歌人) B 2 0 8 8  
定資(貞資ていし・本田/藤田) → 定資(貞資さだすけ・藤田/藤、和算家) B 2 0 9 1  
定嗣(ていし・葉室) → 定嗣(さだつぐ・葉室/藤原、廷臣/歌人) C 2 0 0 3  
媢子(ていし・内親王) → 郁芳門院(いくほうもんいん、歌人) 1 1 0 7  
呈子(ていし・藤原) → 九条院(くじょういん、伊通女、皇后/歌人) 1 7 4 9  
低子(ていし・よしこ・藤原) → 弘徽殿女御(こうきでんのによご、為光女) M 1 9 0 4  
貞子(ていし・源、昇女) → 小八条御息所(こはちじょうのみやすんどころ) D 1 9 5 7  
貞子(ていし) → 貞子(さだこ)  
貞之(ていし・五味) → 貞之(さだゆき・五味ごみ、藩士/故実家) K 2 0 1 1  
貞之(ていし・笠井) → 貞之(さだゆき・笠井かさい/安田、塩田経営/儒者) O 2 0 2 7  
貞之(ていし・坪井) → 貞之(さだゆき・坪井つばい、国学者) Q 2 0 9 9  
貞之(ていし・村上むらかみ) → 貞之(さだゆき・村上むらかみ、神道家/国学) P 2 0 5 6

- 貞至(ていし・是枝) → 貞至(さだり・是枝これだ、商人/勤王) J 2 0 3 0  
貞資(ていし) すべて → 貞資(さだすけ)  
貞嗣(ていし・神) → 貞嗣(貞継さだつぐ・神じん・諏訪、幕臣/連歌) 2 0 5 4  
貞嗣(ていし・塩田) → 貞嗣(さだつぐ・塩田しおだ、医者/国学) O 2 0 6 2  
貞枝(ていし/さだえた?・宮地) → 畏山(いざん、宮地みやじ、藩士/武術/詩) F 1 1 5 7  
庭之(ていし・太田) → 紫水(しすい・太田おた/源、医者) T 2 1 9 3  
弟子(ていし・真野) → 弟子(ていし・真野首まのおびと、伎楽) C 3 0 1 0  
挺之(ていし・岡田) → 新川(しんせん・岡田、儒者/詩人) 2 2 4 4  
廷錫(ていし・松岡/小田) → 南畷(なんがい・小田おだ、藩士/儒者) I 3 2 7 1
- B3003 貞治(ていじ) ? - ? 戦国期連歌作者;  
1537. 5. 22能親張行「伊予千句」連衆: 第五百韻発句  
進藤貞治と同一? → 貞治(さだはる・進藤、近江武将/連歌) J 2 0 3 3
- B3004 定治(ていじ) ? - ? 京の俳人; 常矩つねのり門、  
1678「ねざめ」興行参加(; 四十四よよし6吟6巻)
- B3005 貞治(ていじ・安倍/安部あべ、別名; 頼明/保定、号; 磐川) 1799-1857<sup>59</sup> 陸前磐井郡赤荻村の和算家:  
千葉胤秀門、句読; 大槻丈作門、社会奉仕に尽力、「磐川蔵算書目録并雑記」著、  
1824「盛岡神壁解義」著/「羽州久保田算額改訂」校訂、「二一天作五にいちてんさくのご解義艸稿」編
- 貞治(ていじ・進藤) → 貞治(さだはる・進藤、武将/連歌) J 2 0 3 3  
貞治(ていじ・穂積) → 貞治(さだはる・穂積、菅原道真研究) J 2 0 3 8  
貞治(貞次ていじ・弭間) → 淡遊(たんゆう・弭間はづま、俳人) T 2 6 6 0  
貞治(ていじ・保田) → 光則(みつなり・保田、藩士/国学者) 4 1 2 8  
貞治(ていじ・平元) → 謹齋(きんさい・平元ひらもと、藩士/儒/軍事) J 1 6 0 0  
貞治(定治ていじ/さだはる・中村) → 国香(くにか・中村、儒者/郷土史家) B 1 7 4 8  
貞次(ていじ・檜垣) → 貞次(さだつぐ・檜垣ひがき/度会、神職) I 2 0 5 7  
貞事(ていじ・前田) → 貞事(さだわざ・前田、藩家老/記録) K 2 0 4 0  
貞時(ていじ・北条) → 貞時(さだとき・北条/平、執権/歌人) C 2 0 0 8  
貞時(ていじ・伊勢) → 貞時(さだとき・伊勢/平、故実家) I 2 0 7 6  
貞持(ていじ・賀陽) → 貞持(さだもち・賀陽かや、神職/国学者) O 2 0 2 5  
禎治(ていじ・村山) → 保信(やすのぶ・村山/村、商業/和算家) C 4 5 6 1  
定時(ていじ・太田) → 定時(さだとき・太田おた、俳人) I 2 0 7 7  
定時(ていじ・玉井) → 定時(さだとき・玉井、藩士/詩人/狂歌) I 2 0 7 5  
定時(ていじ・太田) → 定時(さだとき・太田、俳人) I 2 0 7 7  
定峯(ていじ・森戸) → 定峯(さだとき・森戸もりと、国学者) P 2 0 5 9  
定次(ていじ・阿部) → 定次(さだつぐ・阿部/阿倍あべ、武将) I 2 0 5 5  
定次(定治ていじ・樋口) → 定次(さだつぐ・樋口ひぐち、剣術家) I 2 0 5 6  
定次(ていじ・岡) → 定次(さだつぐ・岡おか、歌人) P 2 0 9 5  
定治(ていじ/さだはる・神谷) → 藍水(らんすい・神谷かみや、幕臣/和算家) C 4 8 7 5  
定治(ていじ・岡村/林) → 子平(しへい・林/岡村、兵学者/海防) 2 1 3 3  
鼎耳(ていじ・戸田) → 葆堂(ほうどう・戸田とだ、藩士/詩人) F 3 9 9 1  
亭子院(ていじいん、宇多后温子邸宅) → 宇多天皇(うだてんのう) 1 2 6 8  
亭子院今あこ(ていじいんのいまあこ) → 今あこ(いまあこ・亭子院、歌人) B 1 1 8 8  
定識(ていしき; 字) → 頼玄(らいげん; 法諱・定識、真言僧) 4 8 4 1  
貞七堂(ていしちどう) → 乾峰(3世けんぼう、雑俳点者) D 1 8 0 8
- 3005 貞室(ていしつ・安原やすはら、名; 正章まさあきら、一囊軒/腐詵子) 1610-73<sup>64</sup> 京の紙商/俳; 貞徳門;  
七俳仙の1、花の本二世、貞徳の正統後継者を自任、  
重頼・一雪と論争; 1646反駁「氷室守」著(重頼に反駁)、1647「正章千句」50「かた言」著、  
「貞徳終焉記」著/56「玉海集」63「五条百句」67「玉海集追加」編、  
1638重頼(維舟)「毛吹草」・西武「鷹筑波」/69未琢「一本草」などに入、  
晩年は狂歌や平家琵琶に熱中した数奇者、貞恕の師、  
[これはこれとはばかり花の吉野山](一本草ひととぐさ)

[涼しさのかたまりなれや夜半の月](鷹筑波)

「今までは目見へせねども主人公 八八といひし年もあきけり」(辞世)

鼎室(ていしつ) → 曲川(きよくせん・山内、商家/俳人) P 1 6 1 6  
貞実(ていじつ・設楽しだら/中野) → 杏順(きょうじゅん・中野なかの、医者) N 1 6 9 8  
貞実(ていじつ・武野) → 貞実(さださね・武野たけの、藩士/和算家) I 2 0 1 9  
定実(ていじつ・菅沼) → 定実(さださね・菅沼すがぬま、幕臣) I 2 0 1 8  
庭実(ていじつ・菊池) → 黄山(こうざん・菊池きくち/増田、儒者) J 1 9 2 1

E3084 泥室(でいしつ・桑山くわやま、通称;三之助)?-? 大和新庄の藩主の一族/俳人、  
1676西鶴「古今誹諧師手鑑」入、  
[しほらしや塩やすずしき和歌の道](手鑑/塩屋光方の望みければ当座に/和歌の浦)

B3006 禎子内親王(ていしんないしんのう、白河天皇皇女)1081-115676 平安後期の皇女、  
[禎子しん内親王]とあるは新勅撰集の誤、二条太皇太后宮令子内親王の妹、  
女房に二条太皇太后宮摂津など

B3007 貞子内親王(ていしんないしんのう、後村上天皇皇女)?-1423 南朝の歌人:新葉4首72/169/315/344、  
竺源慧梵(師成親王1361-1431存)の妹か?、  
[待ちわぶる心は花になりぬれど木ずゑにおそき山桜かな](新葉;春72)

禎子内親王(ていしんないしんのう、三条皇女1013-94) → 陽明門院(ようめいもんいん) B 4 7 5 8

媯子内親王(ていしんないしんのう) → 郁芳門院(いくほうもんいん、歌人) 1 1 0 7

禎子内親王摂津(ていしんないしんのうのうけのせつ) → 摂津(せつ・二条太皇太后宮、藤原実宗女) E 2 4 5 8

亭子院(ていじのいん) → 宇多天皇(うだてんのう、歌人) 1 2 6 8

貞舎(ていしゃ・檜垣) → 貞舎(さだいえ・檜垣/度会、神職) H 2 0 7 5

停車園(ていしゃえん) → 慎斎(しんさい・小出こいで、儒者) E 2 2 1 7

停車園(ていしゃえん) → 常足(つねたり・上野、洋学者) C 2 9 4 6

定珠(ていじゆ/じょうじゆ・髻輝けいき) → 道宗(どうしゅう・悦山、黄檗僧) F 3 1 0 3

定種(ていじゆ・今城) → 定種(さだたね・今城いまき/藤原、権中納言) I 2 0 4 6

貞種(ていじゆ・伊勢) → 貞直(さだなお・伊勢いせ/平、故実家) I 2 0 9 7

貞守(ていじゆ・県犬養) → 貞守(さだもり・県犬養あがたのいぬかい、国史編纂) J 2 0 9 6

貞主(ていじゆ・滋野) → 貞主(さだぬし・滋野しげの、廷臣/詩人) 2 0 2 1

貞主(ていじゆ・菅沼) → 貞主(さだぬし・菅沼/源、藩士/文筆家) J 2 0 1 2

廷種(ていじゆ・神河) → 眉山(びざん・神河かみかわ、医者/詩) C 3 7 2 7

貞寿(ていじゆ・桐淵) → 鹿太(ろくた・桐淵きりぶち、医者/俳人) 5 2 9 7

貞寿(ていじゆ・清家) → 貞一(さだかず・清家せいけ、神職/歌人) O 2 0 7 6

貞樹(ていじゆ・小野) → 貞樹(さだき・小野、廷臣/歌人) B 2 0 8 0

定壽(ていじゆ・坂本) → 定壽(さだひさ・坂本さかもと、神職/国学) O 2 0 5 7

諦濡(ていじゆ・明堂) → 諦濡(たいじゆ・明堂、真言僧) K 2 6 1 5

貞壽庵(ていじゆあん) → 妙香尼(みょうこうに;法諱、歌人) K 4 1 6 6

泥寿庵(でいじゆあん) → 逸翁(いつおう・亀藤さとう、藩士/歌人) K 1 1 1 8

貞寿院(ていじゆいん) → 定通室(さだみちのしつ・松平まつだいら、田安斉匡女/歌) N 2 0 3 1

B3008 提洲(ていしゅう;道号・禅恕ぜんじょ;法諱)?-? 江中期伯耆の臨濟僧:白隠慧鶴門:印可を受、  
豊前の自性寺住持、1756師語録「荊叢毒藥」編纂;58刊行、「荊叢毒藥拾遺」「闡提毒語」編

B3009 鵜洲(ていしゅう・内田うちだ、名;叔/升、玄諱[意房]男)1736-9661 江戸の儒者;伊藤竹里・赤松猗甫門、  
麻布で開塾、終生仕官せず、「鵜洲吟草」「群書校正録」「酔客漫興集」「林麓草堂雜記」著、  
[鵜洲(;号)の字/通称/別号]字;叔明、通称;文蔵、別号;頑石/冠嶽/酔郷大守/酣樂都督

貞州(ていしゅう・白井) → 隼太(しゆんた・白井うすい、武芸者/歌人) L 2 1 4 1

貞秋(ていしゅう・広田) → 貞秋(さだあき・広田ひろた、問屋/歌人) P 2 0 2 1

貞秀(ていしゅう・和田/蒲生) → 貞秀(さだひで・蒲生/藤原/和田、豪族/歌・連歌) G 2 0 1 1

貞秀(ていしゅう・松田/平) → 貞秀(さだひで・松田/平、室町幕臣/歌) C 2 0 3 5

貞秀(ていしゅう・赤松) → 了益(りょうえき・赤松あかまつ、医者/古典) G 4 9 5 1

貞秀(ていしゅう・恵美) → 三圭(さんけい・恵美えみ、藩医者) M 2 0 0 7

定周(ていしゅう・武田) → 定周(さだちか・武田たけだ、和算家) I 2 0 5 2

定修(ていしゅう;法諱) → 定修(じょうしゅう;法諱、定家男/天台僧) S 2 2 9 8  
 定秀(ていしゅう・蒲生) → 定秀(さだひで・蒲生、豪族/城主/連歌) J 2 0 4 6  
 定秀(ていしゅう・河野) → 定秀(さだひで・河野こうの、商家/国学/歌) O 2 0 4 5  
 定秀(貞秀ていしゅう・菅谷/菅沼) → 定秀(貞秀さだひで・菅沼/菅谷、幕臣) J 2 0 4 8

B3010 提宗(ていじゅう;道号・慧全えぜん;法諱、俗姓;臼井) 1592-1668 77 父は姫路藩士、姫路の臨濟僧;  
 幼時に姫路竜峯寺菊潭祖采門;出家/1632竜峯寺4世/妙心寺天球院2世、  
 黄檗宗隠元隆琦に参禅/教団から黄檗法式を禁じられても改めず妙心寺派僧籍を剥奪、  
 「提宗和尚語録」「提宗全大禅師下炬集」「仏孝略論」著

B3011 程十(ていじゅう・朝月舎) ? - ? 江前期豊前小倉の俳人:野坡門、「俳諧門司硯」

定重(ていじゅう・松平) → 定重(さだしげ・松平まつだいら、藩主) I 2 0 2 3  
 定重(ていじゅう) → 定重(さだしげ・端、俳人) F 2 0 2 8  
 貞重(ていじゅう・伊勢) → 貞重(さだなお・伊勢いせ/平、故実家) I 2 0 9 7  
 貞重(ていじゅう・伊勢) → 貞重(さだしげ・伊勢/平、故実家/鞍制作) I 2 0 2 2  
 貞重(ていじゅう・大江) → 貞重(さだしげ・大江/長井、幕臣/歌人) B 2 0 8 5  
 貞重(ていじゅう・柳瀬) → 貞重(さだしげ・柳瀬やなせ/橋、郷土史家) I 2 0 2 6  
 貞充(ていじゅう/さだみつ・三浦) → 葛山(かつざん・三浦みくら、藩士/儒者) N 1 5 3 5

B3012 泥舟(でいしゅう・高橋たかはし、名;政晃まさあきら、山岡やまおか正業男) 1835-1903 69 高橋包承の養嗣子/幕臣、  
 槍術家;1855兄山岡静山の門弟を引継ぎ槍術指南/56講武所教授/60講武所指南役、従五下、  
 伊勢守、1863浪士取扱/66遊撃隊所属/68遊撃隊頭;徳川慶喜の警護、山岡鉄舟の義兄、  
 「銃術問答」「砲術見聞録」「砲術秘伝書」「泥舟詩歌」「楽水楼文章」、1866「遊撃隊記録」著、  
 幕末三舟(勝海舟・高橋泥舟・山岡哲舟)の1、  
 [泥舟(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;謙三郎、字;寛猛、通称;精一、  
 別号;忍斎/執中庵、法号;執中庵精一貫道居士

櫻州庵(ていしゅうあん) → 半湖(はんこ・羽鳥はとり、俳人) H 3 6 5 5  
 貞淑(ていしゅう・青地) → 浚新(しゅんしん・青地あおち、藩士/儒者) K 2 1 0 0  
 貞肅院(ていしゅういん) → 美賀子(みかこ・徳川/一条/今出川、将軍室/歌人) J 4 1 8 6  
 剃手法眼(ていしゅうほうげん) → 勝覚(しょうかく;法諱、真言醍醐寺僧) H 2 2 7 2  
 貞春(ていしゅう・伊勢) → 貞春(さだはる・伊勢/平、幕臣/故実家) F 2 0 4 7  
 貞春(ていしゅう・武宮) → 貞春(さだはる・武宮たけみや、藩士/砲術家) J 2 0 3 5  
 貞俊(ていしゅう・菅沼) → 貞俊(さだとし・菅沼すがぬま、武将) I 2 0 8 0  
 貞俊(ていしゅう・北条) → 貞俊(さだとし・北条/平/左介、武将/歌) C 2 0 1 0  
 貞俊(ていしゅう・檜垣) → 貞俊(さだとし・檜垣/度会/松木、神職) I 2 0 8 6  
 貞俊(ていしゅう・添田) → 貞俊(さだとし・添田そえだ、藩家老/武術) I 2 0 8 3  
 貞舜(ていしゅう;法諱) → 貞舜(じょうしゅうん;法諱、天台僧) J 2 2 7 0  
 定俊(ていしゅう・吉田) → 定俊(さだとし・吉田/卜部、神道家) I 2 0 8 1  
 定俊(ていしゅう・正親町/野宮) → 定俊(さだとし・野宮/藤原/正親町、廷臣/国学) F 2 0 3 6  
 定俊(ていしゅう・松宮) → 定俊(さだとし・松宮/菅原/菅、兵学者) I 2 0 8 5  
 定俊(ていしゅう・河野) → 定俊(さだとし・河野/川野、俳人) I 2 0 8 2  
 定俊(ていしゅう→じょうしゅうん) → 快深(かいしん;法諱・定俊、真言僧) I 1 5 8 0  
 定俊(ていしゅう→じょうしゅうん・中路) → 定俊(さだとし・中路なかじ、地誌家) F 2 0 3 7  
 定春(ていしゅう→じょうしゅうん) → 定春(じょうしゅうん;法諱、三論僧/俱舍論) J 2 2 6 9

B3013 亭順(ていじゅうん/亭順こうじゅうん;法諱・号;秋野房) 1523-1600 78 天台宗四天王寺僧/法印、  
 1576信長の石山本願寺攻撃時に放火烧失した四天王寺再興勸進;85秀吉の援助を取付け、  
 1583「天王寺再興勸進帳」著

B3014 貞準(ていじゅうん;法諱・一中;字、号;寰空かんくう、俗姓;山村) 1627-85 59 京の浄土宗西山派僧、  
 但馬生野の来迎寺貞岸門;出家/積峰慶善門、伊勢浄土寺・尾張曼荼羅寺を歴任、  
 1677本山禅林寺45世、1655「往生拾因新鈔」63「阿弥陀経直解」、「観経玄義分新記」著、  
 「観経散善義新記」「観経定善義新記」/1683「安楽集新鈔」著、84「浄土宗派承継譜」編、

B3015 貞順(ていじゅうん・山田やまだ、名;寛、藩医元珉男)?-1905 代々備中足守藩医;大坂の緒方洪庵適塾門、  
 病気で帰郷、1850洪庵の足守除痘館の種痘活動に父と共に参加、

医学;石阪堅壯(空洞)門、歌を嗜む、1857「内服同功初編」編(空洞の校閱)、

☆岡山藩士 山田貞順さだまさ(1834-98/市郎左衛門/閑谷神社祠官)とは別人

- 貞順(ていじゆん・伊勢) → 貞順(さだのり/さだのぶ・伊勢/平、幕臣/故実家) F 2 0 4 5  
貞順(ていじゆん;字) → 日空(にっくう・観樹院、日蓮僧) D 3 3 8 4  
貞順(ていじゆん・角倉) → 素庵(そあん角倉すみのくら/吉田、商家/嵯峨本版) 2 5 3 6  
貞順(ていじゆん・口羽) → 杷山(はざん・口羽くちば/大江、藩士/儒) E 3 6 3 4  
貞順(ていじゆん・山田) → 貞順(さだまさ・山田やまだ、藩士/国学/神職) P 2 0 7 1  
定淳(ていじゆん・今城) → 定淳(さだあつ・今城いまき/藤原、権中納言) H 2 0 7 0  
定準(ていじゆん・立石) → 定準(さだのり・立石たていし、工芸家) J 2 0 2 5  
諦純(ていじゆん→たいじゆん) → 榮性(えいしょう・諦純、真言僧) D 1 3 0 0  
貞純親王(ていじゆんしんのう) → 貞純親王(さだずみしんのう、記録) I 2 0 3 2

B3016 貞処(ていじょ・野村のむら) 1811- 1894 丹後熊野郡丸山村の和算家;江戸で内田五観門・

剣持章行門、帰郷せず上総で教授、晩年は家相を専らとす、

「矩合枢要」著、1839「探蹟たんさく算法」校/40「諸約翦管楷梯」校訂、

[貞処(;名)の字/通称/号]字;子誠、通称;渡/貞蔵/貞知、号;逸斎/円布軒

定所(ていじょ・渋江) → 道陸(どうりく・渋江、医者) I 3 1 1 9

3006 貞怒(ていじょ・犬井/乾いぬい、名;重次) 1620-1702 越前敦賀鳥居辻子町の俳人・貞徳門、

近江大津に移住/上京;四条東洞院角に住/安原貞室門;師の猶子、花の本三世を継承、  
1673貞室没後薙髮(;貞怒号)、

「あだち千句」編、1664「蠅打はえうち」著(;一雪「茶杓竹」に反駁)、1684「新玉海集」編、

「謡曲拾葉抄」(門弟忍鏗補刊)、1676西鶴「誹諧師手鑑」82如扶「三ヶ津さんかのつ」入、

[穉あき好む中宮ならし立田姫](手鑑/源氏;冷泉院中宮は秋好み/立田姫は秋の女神)

[貞怒(;剃髮号)の通称/別号]通称;二郎兵衛/次郎兵衛、別号;一囊軒(貞室の号継承)、

法号;一囊軒貞怒居士(京の実相寺)/本智院貞怒日仲(敦賀本勝寺)

弟女(ていじょ・椋椅部) → 弟女(おとめ・椋椅部くらはいべ、防人物部眞根妻、歌人) 1 4 9 6

貞助(ていじょ・伊勢) → 貞助(さだすけ・伊勢/平、幕臣/故実家) I 2 0 2 9

貞助(ていじょ・村上) → 貞助(ていすけ・村上、幕臣/蝦夷地誌) B 3 0 1 7

定助(ていじょ;法諱) → 定助(じょうじょ;法諱、真言僧/大僧正) T 2 2 1 5

禎女(ていじょ・川名) → 禎女(さだじょ・川名かわな、歌人) N 2 0 6 2

B3018 定昌(ていしょう) ? - ? 丹波佐治俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入

B3019 亭笑(ていしょう) ? - ? 河内俳人;1691賀子「蓮実」4句入、

[からかさも後のちは荷になる時雨かな](蓮実:379)

B3020 庭鐘(ていしょう・都賀つが) 1718- 1794? 77? 大阪の医者・儒・唐話・読本作者;1736頃上京遊学、

医;香川修庵門/書・篆刻;新興蒙所門、唐話を研究;翻案、1747(30歳)頃までは天満で医者、

1749「英はなぶさ草子」/63「通俗医王耆婆伝」訳・「漢国狂詩選」編/66「繁野話」/71「四鳴蟬」、

1786「莠句冊ひつじぐさ」、80「康熙字典」翻刻/81「時代三国志」1806「義経盤石伝」、「漢季章譜」、

「近詩選」「康熙字典考彙」「笑明詩選」「辛夷随筆」「辛夷館漫筆」外著多数、大陸たいりくの父、

[庭鐘(;名)の字/通称/号]字;公声、通称;六蔵、号;十千閣/近路行者/千里浪子/大江漁人/

巢庵/辛夷館/巢居/鹿鳴/白沙/亭亭亭/堂堂堂/毛野村丹三郎/渡頭一舟子/春の海の一釣子、

菅翁も別号? → 菅翁(かんおう・草官散人1770読本「垣根草」作者) G 1 5 1 2

B3021 貞松(ていしょう・遠藤えんどう) 1759-98 40 陸奥弘前俳人;1791江戸の關更門、上京後羽前上山で客死、

1780「金糸蓮」/93「なもほとけ」編、94「三朝喰さんちようざん」、98刊「芭蕉翁略伝」著、「二夜庵遺稿」、

[貞松(;号)の別号] 二夜庵2世、半化房2世はんげぼう

B3022 貞勝(ていしょう;通称・新井あらい、名;繁松/喜三郎) 1759-1835 77 上州桐生の商家井筒屋、

和漢学;西野常竜門/国史・故事に精通、詩文を嗜む、「和漢略図」「天正遺事」著、

詩;「桐郷風雅集」入

貞松(ていしょう;号) → 衍真尼(えんしんに:法諱、隠巖、黄檗尼僧) F 1 3 0 8

貞松(ていしょう;法諱) → 貞松尼(ていしょうに、三村むら、歌人) E 3 0 9 1

貞松(ていしょう・弭間) → 淡遊(たんゆう・弭間はづま、藩士/俳人) T 2 6 6 0

貞昌(ていしょう・有川/伊勢) → 貞昌(さだまさ・伊勢/平/有川、藩士/故実) J 2 0 6 5

- 貞昌(ていしょう・片桐) → 貞昌(さだまさ・片桐かたぎり、藩主/茶人) J 2 0 6 6  
貞賞(ていしょう・檜垣) → 貞兄(さだえ・檜垣ひがき/度会、神職) H 2 0 7 6  
貞詳(貞祥ていしょう・富田) → 貞詳(貞祥さだみつ・富田、藩士/記録) J 2 0 8 2  
貞昭(ていしょう・田中) → 適斎(てきさい・田中、儒者) B 3 0 8 9  
貞尚(ていしょう・渡辺/常盤) → 潭北(たんぼく、常盤ときわ/渡辺、医/俳) I 2 6 5 9  
貞章(ていしょう/さだあき・奥) → 文鳴(ぶんめい・奥おく、絵師) G 3 8 5 1  
貞章(ていしょう・富田) → 貞章(さだあき・富田とみた、藩士/書家) H 2 0 6 6  
貞章(ていしょう・中小路) → 貞章(さだあき・中小路なかこうじ/平、国学) O 2 0 9 3  
貞璋(ていしょう) → さだあき・長尾/恵美えみ → 大笑(たいしょう・恵美えみ/長尾、医者) K 2 6 3 4  
貞涉(ていしょう・有沢) → 貞庸(さだつね・有沢ありさわ、藩士/記録) I 2 0 6 5  
貞勝(ていしょう・伊勢) → 貞勝(さだかつ・伊勢いせ/平、故実家) I 2 0 0 2  
貞勝(ていしょう・村井) → 貞勝(さだかつ・村井/源、武将/連歌) I 2 0 0 4  
貞勝(ていしょう・片桐) → 貞勝(さだかつ・片桐かたぎり/源/丹下、藩士/国学) O 2 0 3 0  
貞勝(ていしょう・野上) → 貞勝(さだかつ・野上のがみ、神職) P 2 0 0 9  
貞升(定升ていしょう・藤田) → 貞升(定升さだます・藤田、藩士/和算家) J 2 0 7 5  
貞升(ていしょう・歌川) → 貞升(初世さだます・歌川うたがわ、絵師) F 2 0 5 3  
定章(ていしょう・蜂屋) → 定章(さだあき・蜂屋はちや、幕臣/和算家) H 2 0 6 3  
定章(ていしょう・清家) → 貞幹(さだもと・清家せいけ/清原、神職/歌) O 2 0 7 5  
定尚(ていしょう・安藤) → 定尚(さだなお・安藤あんどう、幕臣/国学) N 2 0 7 5  
定祥(ていしょう・野宮) → 定祥(さだなが・野宮のみや/藤原、廷臣/記録) C 2 0 1 9  
定勝(ていしょう・山角) → 定勝(さだかつ・山角やまかど、武将/日記) I 2 0 0 3  
定勝(ていしょう・石井) → 定勝(さだかつ・石井いしい、幕臣/歌甚) I 2 0 0 5  
定昭(定照ていしょう) → 定昭(定照じょうしょう; 法諱、法相/真言僧) J 2 2 8 1  
定昭(ていしょう・菅沼) → 定昭(さだあき・菅沼すがぬま、染物業/儒・歌) O 2 0 6 7  
定紹(定昭ていしょう) → 定紹(定昭じょうしょう; 法諱、真言僧) J 2 2 8 6  
定照(ていしょう; 法諱) → 定照(じょうしょう; 法諱、天台僧/専修念仏に反論) J 2 2 8 2  
廷頌(ていしょう・恩田) → 鶴城(かくじょう・恩田おんだ、藩士/儒者) H 1 5 3 2
- B3023 丁常(ていじょう) ? - ? 京俳人; 1691江水「元禄百人一句」目録入  
諦乗(ていじょう; 字・寂巖) → 寂巖(じやくごん; 法諱・諦乗、真言僧) G 2 1 1 4  
貞仍(ていじょう・伊勢) → 貞仍(貞頼さだより・伊勢/平、幕臣/故実) C 2 0 6 7  
貞丈(ていじょう・伊勢) → 貞丈(さだたけ・伊勢/平、牧神/故実家) B 2 0 9 5  
貞丈(ていじょう・西守) → 貞丈(さだたけ・西守にしもり、文筆家) I 2 0 4 3  
貞丈(ていじょう・設楽) → 貞丈(さだとも・設楽したら/菅原、幕臣/本草) I 2 0 9 3  
貞常(ていじょう・伊勢) → 貞常(さだつね・伊勢/平、故実家) I 2 0 6 3  
貞常(ていじょう・斎藤) → 貞常(さだつね・斎藤いづみ、藩士/文筆家) I 2 0 6 7  
定常(ていじょう・神田) → 了意(りょうい古筆こひつ/9世、平沢/神田、鑑定家) G 4 9 2 1  
定常(ていじょう/さだつね・池田) → 冠山(かんざん・松平、藩主/和漢学/文筆) D 1 5 8 0  
定常(ていじょう・菅沼) → 曲翠(きよくすい・菅沼すがぬま、藩士/俳人) 1 6 4 3  
定静(ていじょう・西尾) → 定静(/さだやす・西尾/源、藩士/歌人) 2 0 8 4  
淳城(ていじょう・喜早) → 清主(きよぬし・喜早きそ、神職) Q 1 6 0 8  
貞照院(ていしょういん) → 美恵子(みえこ・佐竹さたけ、佐竹義許の婚約者/歌人) J 4 1 1 3  
貞松院(ていしょういん) → 義直側室(よしなおのそくしつ・徳川、歌人) O 4 7 0 2  
貞松館(ていしょうかん) → 正宜(まさよし・宮下みやした、国学者/歌) T 4 0 0 1  
貞松斎一馬(ていしょうさいいちば) → 一馬(いちば・貞松斎、華道) G 1 1 3 7  
貞常親王(ていじょうしんのう) → 貞常親王(さだつねしんのう、伏見宮4世、歌) F 2 0 3 5  
櫻生禅師(ていしょうぜんじ) → 修円(しゅえん; 法諱、法相/天台僧) Y 2 1 5 6

E3091 貞松尼(ていしょうに)・三村みむら、真竜寺の尼僧) ?-? 江後期尼僧; 歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入/1860鋤柄助之「現存百人一首」入、  
[深山路の秋の錦にさきだちて初しほ染のはじのもみち葉](大江戸倭歌; 秋973/樞紅葉)、  
[人知れず越えむと思ひし逢坂の関の隔てをいかにかはせん](現存百人一首; 67)

- E3096 **貞昌尼**(ていしょうに) ? - ? 江後期尼僧;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[朝夕につま木こりつむ山がつも落葉に道をまどふこのごろ]、  
(大江戸倭歌;冬1095/路落葉)  
貞松尼(ていしょうに) → 衍真尼(えんしんに:法諱、隠巖いんがん:道号、黄檗僧) F 1 3 0 8  
貞松尼(ていしょうに) → 可南女(かなじよ、去来の妻、俳人) C 1 5 6 4  
貞松房先徳(ていしょうぼうせんたく) → 仲算(忠算・中算ちゅうさん:法諱、法相僧) G 2 8 1 0  
貞四郎(ていしろう/さだしろう・馬場) → 逸斎(いっさい・馬場はば、儒者/武術) H 1 1 2 0  
貞四郎(ていしろう・小松原) → 翠溪(すいけい・小松原こまつばら、絵師) 2 3 4 5  
貞四郎(ていしろう/さだしろう・松田) → 得芝(とくし・松田まつだ、農業/俳人) K 3 1 8 3  
弟四郎(ていしろう・鳥居) → 清信(2世きよのぶ・鳥居、初世男/絵師) Q 1 6 1 1  
弟四郎(ていしろう・鳥居) → 清倍(2世きよます・鳥居とりい、絵師) D 1 6 6 0
- B3024 **定次郎**(ていじろう・布屋ぬのや)?- ? 江後期大阪天満の文筆家、  
1796「世話千字文仮名付」書
- B3025 **定次郎**(ていじろう・有馬ありま、名;周祐ちかすけ)?-? 江後期和算家:池田貞一門、1825「奉額算法」著  
禎次郎(ていじろう・平栗) → 徳馨(とくけい・平栗ひらぐり、庄屋/歌・俳) K 3 1 6 0  
禎次郎(ていじろう・山口) → 養生(よしなり・山口、国学者) P 4 7 8 2  
禎二郎(ていじろう・高田) → 小洲(しょうしゅう・高田たかだ、商人/経済家) J 2 2 5 5  
悌次郎(ていじろう・丸山/秋月) → 韋軒(いけん・秋月、藩士/儒者) E 1 1 2 2  
貞次郎(ていじろう/さだしろう・樋口) → 碩果翁(せつかおう・樋口、藩士/詩) E 2 4 0 9  
貞次郎(ていじろう・松川/宝田) → 寿助(寿輔じゅすけ・宝田、歌舞伎作者) I 2 1 7 6  
貞次郎(ていじろう・清水) → 松隣(しょうりん・清水しみず、俳人) L 2 2 9 8  
堤次郎(ていじろう;変名・村上) → 忠明(ただあき・村上、歌人/勤王家) P 2 6 1 3  
挺二郎(ていじろう・浅野) → 忠敬(ただひろ・浅野あさの/藤堂、藩家老) V 2 6 1 9  
庭次郎(ていじろう・高楊) → 浦里(ほり・高楊たかなぎ/江口、儒者/詩) E 3 9 8 0  
鄭次郎(ていじろう・本田) → 治兵衛(じへい・浜武はまたけ、宿老/洋砲) V 2 1 6 2
- B3026 **定申**(ていしん・松山まつやま、別名;直良/定興、通称;八郎兵衛)?-? 江前期山城淀藩士;永井尚政臣、  
甲州流兵法;小幡景憲門/1646印可、淀藩家老、「甲陽軍鑑雄略抄」著
- 3007 **貞晨**(貞辰ていしん・さだとき・中島なかじま)?-? 江前期山城の俳人;上京;貞徳門、梅盛と親交、  
のち江戸鍛冶橋住、1656梅盛「口真似草」107句入・58梅盛「鸚鵡集」117句入、  
1660椋梨一雪「歌林鋸屑かりんきよせつ集」164句入、1676西鶴「古今誹諧師手鑑」入、  
[君があたり見つゝおはせよ駒迎こまむかへ](手鑑/八月献上馬を馬寮役人が逢坂関に迎える、  
伊勢物語;君があたり見つつを居らん生駒山雲な隠しそ雨は降るとも)、  
[貞晨(;号)の名/通称]名;義貞/貞宣、通称;内蔵之丞くらのすけ
- B3027 **貞眞**(ていしん) ? - ? 京俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
- F3018 **貞信**(ていしん・苗村なえむら、号;妙雷、旧姓;駒井)?-?宝暦(1751-64)頃没86歳 近江蒲生郡の医者?、  
国学者
- B3028 **貞信**(ていしん・照山てるやま)1777-184973 筑前寺山の農業、和算家:原田君熙門;高弟、  
関流和算の皆伝、測量・暦学に精通、福岡藩主とも交流、藩士に門弟多、「算法日記集」、  
「太宰府額題術辨」「太宰府額解義」「万乗綴行秘解」「開式省品秘解」、「貞信遺稿綴」外著多、  
[貞信(;号)の通称/別号]通称;平八/甚右衛門、別号;三思亭  
貞信(ていしん)上記以外すべて → 貞信(さだのぶ)  
貞晋(ていしん・檜垣) → 貞晋(さだしげ・檜垣/度会、神職) B 2 0 2 9  
貞晨(ていしん・檜垣) → 貞晨(さだあき・檜垣ひがき/度会、神職) H 2 0 6 2  
貞晨(ていしん・片桐) → 源一(げんいち・片桐かたぎり、歌人) H 1 8 7 0  
貞晨(ていしん・山本) → 貞晨(さだとき・山本/大江、商家/地誌) I 2 0 7 9  
貞辰(ていしん・松永) → 貞辰(さだとき・松永/源、藩士/和算家) I 2 0 7 8  
貞辰(ていしん → さだとき・鈴木/萩原) → 宗固(そうこ・萩原/源、幕臣/歌人) 2 5 0 8  
貞親(ていしん・中原) → 貞親(さだちか・中原、廷臣/記録) C 2 0 0 0  
貞親(ていしん・伊勢) → 貞親(さだちか・伊勢/平、幕臣/故実家) C 2 0 0 1

- 貞親(ていしん・檜垣) → 貞親(さだちか・檜垣/度会、神職) I 2 0 5 0  
貞親(ていしん・前田) → 貞親(さだちか・前田、藩城代/記録) I 2 0 5 1  
貞親(ていしん/さだちか・植木/武宮) → 加兵衛(かへえ・武宮たけみや、砲術家) P 1 5 2 8  
貞進(ていしん・津田) → 信成(のぶなり・津田つた、藩士/文筆) C 3 5 6 3  
貞臣(ていしん・奥平) → 貞臣(さだおみ・奥平おくだいら、家老/俳人) O 2 0 2 1  
貞臣(ていしん・横瀬) → 貞臣(さだおみ・横瀬/源、幕臣/歌人) B 2 0 7 4  
貞深(ていしん;法諱) → 貞深(じょうじん;法諱、僧/歌人) W 2 2 3 4  
貞慎(ていしん・千野) → 貞慎(さだちか・千野ちの、家老/歌人) Q 2 0 9 6  
廷臣(ていしん・福田/平内) → 廷臣(まさおみ・平内へのうち/福田、幕臣;工匠) B 4 0 6 1  
鼎臣(ていしん・井手) → 夢沢(ぼうたく・千村/井出/井、藩士/詩) E 3 9 5 7  
鼎信(ていしん・岡) → 鼎(かなえ・岡おか、藩士/儒者) O 1 5 2 4  
定身(ていしん・小保内) → 定身(さだみ・小保内おぼない、神職/教育) O 2 0 0 7  
定真(ていしん;法諱) → 定真(じょうしん;法諱、真言僧/明恵門) K 2 2 0 0  
定親(ていしん;法諱) → 定親(じょうしん;法諱、東寺大僧正/歌) V 2 2 7 3  
定親(ていしん・平) → 定親(さだちか・平たいら、廷臣/漢学/詩) F 2 0 3 3  
定親(ていしん・中山) → 定親(さだちか・中山/藤原、廷臣/故実/歌) 2 0 1 9  
定親(ていしん・林) → 定親(さだちか・林はやし、器水、貞門俳人) C 2 0 0 2  
定親(ていしん・佐々木) → 定親(さだちか・佐々木ささき、俳人) C 2 0 2 9  
定振(ていしん・奥寺) → 山厚(さんこう・奥寺おくでら、藩士/俳人) M 2 0 1 7  
定信(ていしん) すべて → 定信(さだのぶ)  
定深(ていしん;法諱) → 定深(じょうじん;法諱、真言僧) T 2 2 5 9  
定津(ていしん・二見) → 定津(さだやす・二見ふたみ/宇治土公、神職/国学) P 2 0 2 7  
貞尋(ていじん;法諱) → 貞尋(じょうじん;法諱、僧/歌人) W 2 2 1 1
- F3011 貞心院(ていしんいん、宗そう元姫、別名;虎/喜知、高松藩主松平頼恭2女) 1797-1859 63 江戸の生/歌人、  
対馬藩10代藩主宗義暢よしなが・よしのぶ(1741-78/38歳)の正室  
夫 → 義暢(よしなが・よしのぶ・宗そう、藩主) N 4 7 6 2  
貞慎院(ていしんいん) → 斉荘室(なりたかのしつ・徳川とくがわ猶、日記) H 3 2 5 0  
定信院(ていしんいん) → 基広(もとひろ・並河/並川/平、歌人) E 4 4 1 4  
貞信公(ていしんこう;諡号) → 忠平(ただひら・藤原、撰関/格式/歌人) F 2 6 7 1  
鼎新斎(ていしんさい・渡辺) → 成以(しげもち・渡辺/渡部、藩士/書家) S 2 1 9 2
- B3029 貞心尼(ていしんに;法諱、俗名;奥村ます、藩士奥村五兵衛女) 1798-1872 75歳 越後長岡の生、歌人、  
1814医者関せき長温の妻/夫病没後実家に帰る、柏崎曹洞宗洞雲寺の定広泰禅につき出家、  
長岡在福島に住/1827より良寛(1758-1831)門/師に随従、1841柏崎釈迦堂庵主、  
1851同所の不求庵に移住、1835良寛家集「蓮はちすの露」編、  
1851「焼野の一くさ」、「もしほくさ」著、「貞心尼遺稿集」  
[これぞこの仏の道に遊びつつつくやつきせぬみのりなるらむ](はちすの露;98  
師常に手鞠をもて遊び給ふと聞きて奉る歌、  
良寛の返歌;つきて見よひふみよいつむなやここのとをとをさめてまた始まるを)
- B3030 貞信尼(ていしんに・三輪みわ、名;来、陶工青木木米女) 1809-1902 長寿 94歳 京祇園の歌妓、  
歌:香川景樹・蓮月門、太田垣蓮月からも教えられる、光風社を創設し子弟教育、  
のち剃髪/尼となり聖護院村に隠棲、「蓬よもぎがつゆ」著、  
[貞信尼(;法名)の号] 来葉女らいようじよ/蓬生よもぎふ園、  
鵜水(ていすい・星野、詠帰堂) → 癩軒(くげん・星野、儒者) B 1 7 3 4  
貞綏(ていすい・桂) → 周水(しゅうすい・桂かつら、藩士/儒者) H 2 1 7 6  
蛭水(ていすい・鳥山) → 啓(ひらく・鳥山とりやま/田所、藩士/教育) K 3 7 0 4  
定水湛然禅師(ていすいたんねんぜんじ) → 大鼎(たいてい;道号・禅主;法諱、臨濟僧) K 2 6 6 9  
貞数(ていすう・伊勢) → 貞牧(さだまき・伊勢/平、幕臣/故実家) J 2 0 6 3  
貞崇(ていすう;法諱) → 貞崇(じょうすう;法諱、真言醍醐寺座主) K 2 2 1 8  
貞数親王(ていすうしんのう) → 貞数親王(さだかずしんのう、清和天皇皇子/歌) B 2 0 7 5
- B3017 貞助(ていすけ・村上むらかみ/秦はた、別名;貞/貞廉、村上島之丞[秦憶丸あむぎまる]の養子)?-? 備中の人、

幕臣;松前奉行所調役、1807「北蝦夷図説」編、1811-3ゴロウニンからロシア語学習、  
1811林蔵「東韃とうだつ地方紀行」の編纂支援、11「陸奥州駅路記」、12「モウル獄中上書」訳、  
1813「魯西亜人書簡反訳書」訳、23「蝦夷常用集」補填、「赤賊寇辺実記」「赤賊異聞」著、  
「北蝦夷図説考」「北蝦夷島新説」編、「魯艦ジヤナ号船将書簡」訳、外編著訳書多数、

養父 → 櫛丸(あわざまる・秦はた/本姓;村上、蝦夷探検家) F 1 0 9 4

B3031 鼎輔(ていすけ・小林こぼやし、別名;鼎かなえ) 1827-? 1867存 伊勢桑名藩士/のち幕臣、洋学:村上英俊門、  
フランス語精通、1861幕府開成所教授手伝出役/66教授職並、  
1867「仏蘭西会話篇」「法朗西文典」著

亭助(ていすけ・白杵) → 秋房(あきふさ・白杵うすき、藩士/国学者) H 1 0 1 2

鼎助(ていすけ・古屋) → 愛日斎(あいじつさい・古屋ふるや、儒/漢学) C 1 0 1 8

鼎助(ていすけ・木舗) → 百年(ひやくねん・木ばく・三枝/木舗、庄屋/詩人) I 3 7 1 2

鼎助(ていすけ・塩谷) → 老田(ろうでん・塩谷しおのや、儒;藩校教授) 5 2 4 2

鼎介(ていすけ・四方) → 龍文(2代りゅうぶん・四方よも、鋳物工) M 4 9 1 9

禎助(ていすけ・萩原) → 信芳(のぶよし・萩原はざむら、和算家) E 3 5 0 1

禎助(ていすけ・武居) → 敬斎(けいさい・武居たけい、儒者) F 1 8 6 3

呈輔(ていすけ・小川) → 松蘿(しょうら・小川おがわ/森、俳人) L 2 2 8 6

程輔(ていすけ・外村) → 半雲(はんうん・外村とのむら、藩士/儒者) H 3 6 2 3

貞助(貞輔ていすけ・佐野) → 鼎(かなえ・佐野さの、砲術家/渡欧米) O 1 5 2 7

貞輔(禎輔ていすけ・堀) → 蘭沢(らんたく・堀ほり/屈、儒者) C 4 8 9 6

貞介(ていすけ・奥田) → 楽山(らくざん・奥田おくだ、藩士/儒者) B 4 8 1 6

B3032 貞成(ていせい) ? - ? 伊勢山田の俳人;1633重頼「犬子集」入、  
[あまり見ば果てや目星の花盛り](犬子集:二363/疲れ目でかすみ、星がちらつく)

E3085 貞盛(ていせい/さだもり・森下もりした)?-? 江前期京の俳人、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
[見れば目の玉にもぬける柳哉](手鑑、  
古今;春27遍昭;浅緑糸よりかけて白露を珠たまにも貫ける春の柳か)

B3033 貞静(ていせい) ? - ? 美濃竹華の俳人;1690言水「新撰都曲みやこぶり」入、  
[蓑みのかぶる心聞きたきしぐれ哉](新撰都曲;下388)

貞成(ていせい→さだふさ、伏見宮3代) → 後崇光院(ごすこういん、歌人) 1 9 3 4

貞成(ていせい・天野) → 貞成(さだしげ・天野/安田、武将/記録) I 2 0 2 1

貞成(ていせい・小池) → 貞成(さだなり・小池こいけ、故実礼法) J 2 0 1 0

貞成(ていせい・檜垣) → 貞成(さだなり・檜垣ひがき/度会、神職) J 2 0 0 8

貞成(ていせい・三木) → 貞成(さだなり・三木、儒者/浄瑠璃注釈) F 2 0 4 1

貞正(ていせい/さだまさ・内藤) → 左兵衛(さへえ・内藤、藩士/奉行) L 2 0 5 5

貞正(ていせい・堀家) → 貞正(さだまさ・堀家ほりけ、神職/国学) P 2 0 3 3

貞政(ていせい・住友) → 貞政(さだまさ・住友すみとも、商家/馬治療) J 2 0 6 8

貞世(ていせい・藤川) → 貞世(さだよ・藤川ふじかわ、藩士/国学/歌) P 2 0 2 6

貞世(ていせい・松村) → 貞世(さだよ・松村まつむら、国学者) P 2 0 4 5

貞征(ていせい・横瀬) → 貞征(さだゆき・横瀬よこせ/松平、旗本高家) N 2 0 3 9

貞清(ていせい) すべて → 貞清(さだきよ)

貞晴(ていせい・歌川) → 貞晴(さだはる・歌川うたがわ、絵師) F 2 0 4 8

貞靖(ていせい・村岡) → 箏子(ことこ・村岡むらおか/小橋、商家/和漢学) R 1 9 4 0

定成(ていせい・世尊寺) → 定成(さだなり/さだふさ・世尊寺/藤原、廷臣/歌人) C 2 0 2 3

定成(ていせい・和気) → 定成(やすしげ・和気わけ、医者/廷臣) B 4 5 6 4

定成(ていせい・今城) → 定成(さだしげ・今城いまき/藤原、権中納言) I 2 0 2 4

定性(ていせい;法諱) → 定性(じょうしゅう;法諱、法師/歌人) V 2 2 7 9

定清(ていせい) → 定清(さだきよ・賀茂、陰陽家;暦博士) B 2 0 8 1

定清(定誓ていせい;法諱) → 定清(定誓じょうせい;法諱、真言僧) K 2 2 2 7

定清(ていせい) → 定清(じょうしゅう;法諱、社僧;法印/連歌) J 2 2 8 3

定清(ていせい・藤) → 定房(さだふさ・藤とう、神職/藩士) J 2 0 5 9

定清(ていせい) → 定清(さだきよ・服部、俳人) B 2 0 8 2

定晴(ていせい・野宮) → 定晴(さだはる・野宮/藤原、廷臣/記録) J 2 0 3 6  
 定晴(ていせい・松田) → 定晴(さだはる・松田まつだ、官吏/和学) P 2 0 4 1  
 定静(ていせい) → 定静(さだやす・西尾/源、藩士/歌人) 2 0 8 4  
 定静(ていせい・松平) → 定静(さだきよ・松平、万葉堂/藩主/歌) I 2 0 1 2  
 定静(ていせい・野宮) → 定静(さだきよ・野宮/藤原、廷臣/記録) B 2 0 8 3  
 定静(ていせい・石丸) → 定静(さだやす・石丸いしまる、幕臣) K 2 0 0 6  
 定静(ていせい・久方) → 定静(さだきよ・久方、藩士/剣術家) I 2 0 1 3  
 定静(ていせい/さだやす・渡辺) → 華山(かざん・渡辺、藩士/絵師/蘭学) 1 5 8 3  
 定静(ていせい・富山) → 定静(さだきよ・富山とみやま/辻、商家/国学) O 2 0 9 1  
 定静(ていせい・佐藤) → 定静(さだしず・佐藤さとう、藩士/儒/国学) O 2 0 5 1  
 定正(定政ていせい・上杉) → 定正(さだまさ・上杉/扇谷/藤原、武将) F 2 0 5 2  
 定政(ていせい・松平) → 定政(さだまさ・松平まつだいら、城主) J 2 0 6 7  
 定政(ていせい・山尾) → 定政(さだまさ・山尾やまお、絵図師/詩歌) J 2 0 7 1  
 定政(ていせい・北浦) → 定政(さだまさ・北浦、藩士/陵墓測量) J 2 0 7 3  
 定政(ていせい) → 定政(さだまさ、俳人) J 2 0 6 9  
 定誠(ていせい・花山院) → 定誠(さだのぶ・花山院かざんいん、廷臣/記録) J 2 0 1 4  
 定誠(ていせい・日野) → 定誠(さだあき・日野ひの、詩人) F 2 0 2 3  
 定盛(ていせい・大内) → 定盛(さだもり・大内おおうち、藩士/儒者) J 2 0 9 9  
 定盛(ていせい・竹田) → 定盛(じょうせい・竹田、医者/歌/能楽) O 2 1 2 4  
 諦盛(ていせい) → 諦盛(たいじょう; 法諱、真宗大谷派僧) X 2 6 9 5  
 貞清親王(ていせいしんのう) → 貞清親王(さだきよしんのう・伏見宮、歌人) F 2 0 2 6  
 櫻生禪師(ていせいぜんじ) → 修円(しゅえん、法相/天台僧) Y 2 1 5 6  
 貞靖先生(ていせいせんせい; 諡号) → 素堂(そどう・中野なかの、儒者) E 2 5 1 1

B3034 **鼎石**(貞石ていせき・山田やまだ/修姓; 山、名; 瑛、正伸[常省]男) 1720-1800<sup>81</sup> 美濃岐阜釜石の出身、  
 詩人: 上京し江村北海門/鳳鳴詩社を結成、「鼎石先生詩集」(宮田嘯台編; 1779刊)、  
 芥川丹邱・大江玄圃・敬雄金竜道人らと交流、  
 [鼎石(;号)の字/通称]字; 子成、通称; 大蔵

B3035 **貞石**(ていせき・星流舎せいりゅうしゃ)?-? 江後期狂歌作者: 芥河貞佐門、安藝の人?、  
 1793「狂歌桃の流」著

貞石(ていせき・児島) → 鳳林(ほうりん・児島、琴製作/琴曲家) C 3 9 7 4  
 定石(ていせき・牧) → 義比(よしとも・牧まき/藤原、官人/記録) F 4 7 0 2  
 貞説(ていせつ・諏訪/神) → 貞説(さだあき・諏訪すわ/神、幕臣/歌人) H 2 0 6 1  
 貞説(ていせつ・沢) → 太郎左衛門(たろうざえもん・沢さわ、幕臣/海軍) T 2 6 1 0  
 貞節先生(ていせつせんせい) → 石斎(せきさい・鵜飼/鵜、儒者/史学) D 2 4 4 7  
 貞節先生(ていせつせんせい) → 玄亨(げんこう・中山、医者/日記) I 1 8 8 1  
 定泉(ていせん; 法諱) → 定泉(じょうせん; 法諱、堯戒、真言律僧) K 2 2 4 7  
 定宣(ていせん・賀茂) → 定宣(さだのぶ・賀茂、歌人) C 2 0 2 8  
 定宣(ていせん・上原) → 定宣(さだのり・上原、武家故実家) J 2 0 2 7  
 定詮(ていせん・藤原) → 宗詮(むねあきら・藤原、廷臣/連歌) B 4 2 0 1  
 貞宣(ていせん・大仏) → 貞宣(さだのぶ・大佛/平/北条、武将/歌) C 2 0 2 7  
 貞宣(ていせん・中島) → 貞晨(ていしん・さだとき・中島、俳人) 3 0 0 7  
 貞宣(ていせん) → 蝶々子(ちょうちょうし・神田、俳人) J 2 8 4 7  
 貞宣(ていせん・河内/小笠原) → 貞宣(さだのぶ・小笠原/河内、幕臣) J 2 0 1 6  
 貞宣(ていせん・小笠原) → 貞宣(さだのぶ・小笠原おがさわら、国学/歌/神職) O 2 0 0 3  
 廷瞻(ていせん・御菌) → 中渠(ちゅうきよ・御菌みその、鍼医) F 2 8 9 1  
 貞禪(ていぜん; 法諱) → 貞禪(じょうぜん; 法諱、天台僧) K 2 2 5 1  
 諦然(ていぜん → たいねん) → 諦然(たいねん、真宗僧) K 2 6 9 1

B3036 **提宗**(ていそう) ?-? 連歌/聯句; 1684-88頃「石鼎集」に「花謝知遅日」入

B3037 **定宗**(ていそう) ?-? 京の俳人; 「新行事板」編、  
 1691江水「元禄百人一句」入、1702轍士「花見車」入

[ちろつくやけふも桜の二日酔ひ] (新行事板/花見車;158/ちろつく;花も目もちらつく)

定宗(定窓じょうそう;法諱)→ 定円(じょうえん;法諱、鎌倉期僧/歌人) F 2 2 5 7

定宗(ていそう) → 定宗(じょうそう;法諱、鎌倉期僧/歌人) V 2 2 6 6

定宗(ていそう) → 定宗(じょうそう;法諱、南北期僧/歌人) U 2 2 0 1

定宗(ていそう)訓読みはすべて→ 定宗(さだむね)

定叟(ていそう・岡井) → 碧庵(へきあん・岡井、儒者) 2 7 8 5

貞叟(ていそう;法号) → 円忠(えんちゅう;法諱、神職/幕臣/歌) B 1 3 2 2

貞宗(ていそう;法諱) → 歛順(観順かんじゆん;道号・貞宗、真宗僧) R 1 5 0 1

貞宗(ていそう)上記以外すべて→ 貞宗(さだむね)

禎壯(ていそう・片桐) → 源栄(げんえい・片桐かたざり、歌人) B 1 8 2 9

禎窓(ていそう・松田) → 竹里(ちくり・松田まつだ、藩医/詩文) D 2 8 9 2

禎窓(ていそう・勝部) → 眞楯(またて・勝部かつべ/佐々木、国学者/神職) O 4 0 9 1

提窓(ていそう・鶴見) → 園女(そのめ/そのじよ・鶴見つるみ、俳人) K 2 5 3 0

B3038 禎造(禎蔵ていぞう・河野こうの、名;剛、原田種彦男) 1817-7155 筑前波田江村の漢方医者、藩士河野春竜の養嗣子;福岡藩士/1849藩命で長崎留学;シーボルト門、蘭医学/農芸/科学、帰藩;1859白蠟石炭御用兼請持に任用、藩主黒田長溥の殖産政策に呼応し西洋農法啓蒙普及、波田江村で眼科医を開業、維新後京都府兼参事、1856「舎密便覧」訳、[禎造(;通称)の別通称/号]別通称;禎/養立、号;一通

B3039 悌蔵(ていぞう;通称・橋本はしもと、祐一郎男) 1819-? 江後期幕臣;1843病気の父代行で普請役格、1844信州戸隠山・飯綱山論所見分吟味、47美濃横越村・甲斐平野村の論所検地見分吟味、松前蝦夷地見分に功績;箱館奉行支配調役を経て1866箱館奉行支配組頭/68箱館奉行、「宿村柄糺一件留」著

B3040 鼎蔵(ていぞう・宮部みやべ、名;増実、素直男) 1820-64自刃45 肥後益城郡西上野村の兵学者;叔父門、叔父宮部増美の養嗣子/山鹿流兵学を修得、1850熊本藩兵学師範、山家素水に入門、吉田松陰と交友・遊歴/諸国の勤王の志士と交流、国学・神道;林桜園門、攘夷思想を主唱、1855師範を辞任/62上京し討幕運動の重鎮/64池田屋事件;新撰組に襲撃され自刃、「宮部鼎蔵手記」「宮部鼎蔵踏雲日録」「宮部鼎蔵東北遊日記」「宮部鼎蔵房相漫遊日記」著、[鼎蔵(;通称)の号]田城/劣庵、春蔵の兄

F3022 貞三(ていぞう・福永ふくなが,) 1832-190877 近江蒲生郡の神職;八幡神社家の後裔、歌人;[鴉のうみ]入

貞蔵(ていぞう・川村) → 竹坡(ちくは・川村、儒者/詩) D 2 8 7 0

貞蔵(ていぞう・酒井) → 晦堂(かいどう・酒井さかい、藩士/儒者) H 1 5 1 9

貞蔵(ていぞう・藤江) → 梅軒(ばいけん・藤江ふじえ、藩儒者/詩文) B 3 6 0 9

貞蔵(ていぞう・津下/島村) → 鼎甫(ていほ・島村しまむら、医者/翻訳) B 3 0 6 7

貞蔵(ていぞう・五味) → 釜川(ふせん・五味ごみ、医者/儒詩) D 3 8 0 2

貞蔵(ていぞう・三村) → 崑山(こんざん・三村むら、儒者) G 1 9 1 5

貞蔵(ていぞう・奥田) → 楽山(らくざん・奥田おくた、藩士/儒者) B 4 8 1 6

貞蔵(ていぞう・宇田) → 耕(こう・宇田うた、歌人) Q 1 9 2 1

貞蔵(ていぞう・栗田) → 樗堂(ちようどう・栗田くりた、酒造業/俳人) K 2 8 4 3

貞蔵(ていぞう・伊藤) → 竹坡(ちくは・伊藤いとう、藩士/儒者) D 2 8 6 8

貞蔵(ていぞう・吉田) → 安年(やすとし・吉田、商・農業/国学) C 4 5 2 2

貞蔵(ていぞう・野村) → 貞処(ていじよ・野村のむら、和算家) B 3 0 1 6

貞蔵(ていぞう・羽生) → 信英(のぶひで・羽生はにゅう、藩士/歌人) J 3 5 6 4

貞蔵(ていぞう・堀池) → 旧(ひさし・堀池ほりいけ、藩士/歌人) K 3 7 9 5

貞蔵(禎蔵ていぞう・片桐) → 春一(はるいち・片桐かたざり、国学者/軍学) F 3 6 9 8

貞蔵(ていぞう・河合) → 良臣(よしおみ・河合かわい、家老) M 4 7 3 3

貞造(ていぞう・宇田) → 利起(としおき・宇田、儒者) 3 1 1 1

貞三(ていぞう・沢田) → 訥斎(とっさい・沢田さわだ、儒者) O 3 1 5 0

貞三(ていぞう・近藤) → 清臣(きよおみ・近藤こんどう/小林、国学/歌) U 1 6 3 7

定蔵(ていぞう・中野) → 大朝(たいちよう・中野、僧/俳人) K 2 6 6 4

- 定蔵(ていぞう・柳田) → 正斎(しょうさい・柳田やなぎだ、書家) J 2 2 0 6  
 定蔵(ていぞう・佐藤) → 海印(かいいん; 佐藤、僧/歌人) U 1 5 1 8  
 禎蔵(ていぞう・吉田) → 竹窓(ちくそう・吉田、藩士/儒者) D 2 8 3 6  
 禎蔵(ていぞう・鎌田) → 環斎(かんさい・鎌田/修姓; 鎌、儒者) H 1 5 6 2  
 禎蔵(ていぞう・池田) → 草庵(そうあん・池田いけだ、儒者/詩文) 2 5 4 9  
 禎蔵(ていぞう・穀之屋よしのや) → 正根(まさね・賀島/藤原、藩士/国学) F 4 0 4 7  
 亭蔵(ていぞう・臼杵) → 秋房(あきふさ・臼杵うすき、藩士/国学者) H 1 0 1 2  
 悌蔵(悌造ていぞう・河村) → 敏貫(としつら・河村かわむら、歌人) U 3 1 8 9  
 鼎蔵(ていぞう・高橋) → 正直(まさなお・高橋、医者/歌) F 4 0 7 8  
 貞操院(ていそういん・毛利) → 幸子(ゆきこ・毛利/有栖川、歌人) G 4 6 3 8
- E3094 貞操尼(ていそうに・成島なるしま)?- ? 江戸後期; 尼僧、歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [榊葉のときはのかげも神まつる夏を時とや色まさるらん](大江戸倭歌; 夏680)
- 定則(ていそく・平石) → 定則(さだのり・平石ひらいし、藩士/歌人) P 2 0 2 0  
 定則(ていそく・安永) → 定則(さだのり・安永やすなが/安藤、神職/和学) P 2 0 6 6  
 定則(貞則ていそく・勝田) → 竹翁(ちくおう・勝田かつた、幕府御用絵師) C 2 8 6 7  
 貞則(ていそく・戸倉) → 貞則(さだのり・戸倉とくら、宿老/俳人) J 2 0 2 3  
 貞則(ていそく・米田) → 貞則(さだのり・米田よねだ、剣術/国学) P 2 0 8 0  
 貞則(定則ていそく・平野) → 貞則(定則さだのり・平野ひらの、藩士) J 2 0 2 9  
 貞則(ていそく・野村) → 貞則(さだのり・野村のむら、藩士/国学/歌) P 2 0 1 0  
 貞足(ていそく・山内) → 貞足(さだたり・山内やまうち、国学者/歌人) P 2 0 6 9
- B3041 泥足(でいそく・和田わだ、別号: 酔翁軒) 1655?-? 江戸の俳人; 蕉門、江戸会所商人; 1690長崎下向、  
 1694江戸に帰郷し長崎の旅句集「其便」編、のち京住、1702轍士「花見車」入
- 定尊(ていそん; 法諱) → 定尊(じょうそん; 法諱、真言仁和寺僧) K 2 2 6 8  
 定尊(ていそん; 法諱) → 定尊(じょうそん; 法諱、法華経阿弥陀経読誦) K 2 2 6 9  
 定村(ていそん・永富) → 定群(さだむら・永富ながとみ、庄屋/歌人) O 2 0 9 9  
 貞多(ていた・上部) → 貞多(さだかず・上部うわべ/度会、神職) H 2 0 9 1  
 亭太(ていた・蓮沼) → 景正(かげまさ・蓮沼はすぬま、藩士/国学) V 1 5 4 0  
 定太(ていたい/さだまさ?・伊藤) → 清澄(きよすみ・伊藤いとう、和算家) 1 6 8 9  
 定体(ていたい・能勢/溝口) → 是心軒(初世ぜしんけん、華道家) K 2 4 6 2  
 貞泰(ていたい・加藤) → 貞泰(さだやす・加藤/藤原、藩主/連歌) K 2 0 0 2  
 貞泰(ていたい・佐久間) → 貞泰(さだやす・佐久間さくま/菅原、藩士/国学) O 2 0 4 8
- B3042 庭台(ていだい) ?- ? 江戸俳諧; 其角座点者/宗匠、  
 1752刊「江戸十余歌仙」独吟歌仙入/54竹翁「誹諧童の的」点句入
- 貞達(ていたつ・大村) → 蘭林(らんりん・大村おおむら、藩儒) D 4 8 3 0  
 程太郎(ていたろう・高坂) → 正信(まさのぶ・高坂こうさか、国学者) P 4 0 7 1  
 定潭(ていたん; 唐名) → 保胤(やすたね・慶滋/慶/賀茂、廷臣/漢学/詩歌) 4 5 0 6
- B3043 定智(ていち; 号・平本ひらもと)?- ? 江前期京の儒者; 林家門、1669「日本歴代遷都考」
- B3044 丁知(ていち・村林むらばやし/高柳)?-1855? 下総押砂村の俳人; 寥松門、江戸浅草で札差業、  
 1830「利根太郎日記」「きくあはせ」編/56「かろむ袖」編、48言山「蕉風不易体新五歌仙」歌仙入  
 [丁知(; 号)の通称/別号]通称; 伊勢屋三郎右衛門、  
 別号; 事仙子、百月庵/事仙庵/松玄斎/鯉沼堂/柳旬井りゅうでんせい  
 養子; 汎翠(俳人松什男)
- 貞置(ていち・織田) → 貞置(さだおき・織田/平、幕臣/茶人) H 2 0 8 4  
 貞知(ていち・伊勢) → 貞知(さだとも・伊勢いせ/平、故実家) I 2 0 9 0  
 貞知(ていち・野村) → 貞処(ていしょ・野村のむら、和算家) B 3 0 1 6  
 定知(ていち・小保内) → 定知(さだとも・小保内おぼない、神職/国学) O 2 0 0 6  
 定智(ていち; 法諱) → 定智(じょうち; 法諱、真言僧) U 2 2 1 4  
 定智(ていち; 法諱) → 定智(じょうち; 法諱、天台僧) K 2 2 8 3
- B3045 貞竹(ていちく・庄田) ?- ? 俳; 1674「小川千句集」編(; 四季類題発句集)

貞竹(ていちく・永田、貞柳の養子)→柳因(りゅういん・長生亭ちようせい、医者/狂歌) C 4 9 7 5  
貞竹(ていちく・桑原) → 元淑(げんしゆく・桑原くわばら、藩士/医者) J 1 8 6 5  
貞竹堂(ていちくどう) → 如貞(じよてい・井口いぐち、俳人) C 2 2 8 1  
貞致親王(ていしんのう) → 貞致親王(さだゆきしんのう・伏見宮、歌人) K 2 0 1 8  
廷沖(ていちゅう・中山) → 高陽(こうよう・中山なかやま、詩人/絵師) C 1 9 0 0  
定中(ていちゅう・喜早) → 定中(さだなか・喜早きそ/度会、神職/記録) J 2 0 0 4  
定忠(ていちゅう・大中臣) → 定忠(さだただ・大中臣、神職/歌人) B 2 0 9 7  
定忠(ていちゅう・菅沼) → 定忠(さだただ・菅沼すがぬま、幕臣/歌人) P 2 0 8 5  
掟忠(ていちゅう・上人) → 掟忠(じょうちゅう;法諱、僧/歌人) V 2 2 5 4  
貞中(ていちゅう・黒木) → 貞中(さだなか・黒木くろき、藩士/軍法) J 2 0 0 2  
貞中(ていちゅう・佐伯) → 貞中(さだなか・佐伯、酒造業/俳・歌人) J 2 0 0 3  
貞忠(ていちゅう・二階堂) → 貞忠(さだただ・二階堂/藤原、武将/歌人) B 2 0 9 9  
貞忠(ていちゅう・伊勢) → 貞忠(さだただ・伊勢/平、幕臣/故実家) I 2 0 4 4  
貞忠(ていちゅう・北風) → 貞忠(さだただ・北風きたかぜ/長谷川、商家/勤王) O 2 0 3 9  
泥中(でいちゅう・入江) → 樵風(しょうふう・入江、製塩業/俳人) B 2 2 3 7  
貞著(ていちょ・永戸) → 貞著(さだあき・永戸ながと、藩士/地誌編纂) H 2 0 6 5  
貞長(ていちょう) すべて → 貞長(さだなが)  
貞朝(ていちょう・小笠原) → 貞朝(さだとも・小笠原、武将) I 2 0 8 9  
定帖(ていちょう・隅田) → 定帖(定休さだやす・隅田、国学者/歌) K 2 0 0 8  
定朝(ていちょう・松平) → 定朝(さだとも・松平、幕臣/園芸家) I 2 0 9 2  
定重(ていちょう・端) → 定重(さだしげ・端はた、俳人) F 2 0 2 8  
定澄(ていちょう・小川) → 定澄(さだすみ・小川おがわ、和算家) I 2 0 3 1  
定澄(ていちょう・清家) → 定澄(さだすみ・清家せいけ/清原、神職/歌) O 2 0 7 4  
定超(ていちょう;法諱) → 定超(じょうちょう;法諱、真言僧) K 2 2 9 2  
定徴(ていちょう・富田) → 定徴(さだあきら・富田とみた/小寺、役人/国学) O 2 0 8 8  
定長(ていちょう) すべて → 定長(さだなが)  
廷調(ていちょう・梅辻) → 春樵(しゅんしょう・梅辻/琴/祝部、神職/詩人) J 2 1 9 6  
定直(ていちよく・竹田) → 春庵(しゅんあん・竹田たけだ、藩儒) J 2 1 1 8  
定直(ていちよく・木畑) → 定直(さだなお・木幡/木畑、医/俳人) C 2 0 1 3  
定直(ていちよく・相場) → 定直(さだなお・相場あいは、鶴水堂/随筆) F 2 0 4 0  
貞直(ていちよく) すべて → 貞直(さだなお)  
貞陳(ていちん→さだのぶ・西沢) → 太兵衛(たへえ・西沢、書肆/文筆家) 2 6 4 9  
貞陳(ていちん→さだのぶ・坪田) → 貞陳(さだのぶ・坪田つばた、詩人) F 2 0 4 2  
貞陳(ていちん・福住) → 貞陳(さだのぶ・福住ふくずみ、商家/歌人) P 2 0 2 4  
貞鎮(ていちん・依田) → 貞鎮(さだしず・依田/五十嵐、神道家) I 2 0 2 7  
定琛(ていちん;法諱) → 慈岳(じがく;道号・道琛;法諱、渡来黄檗僧) P 2 1 8 1  
定珍(ていちん;法諱) → 定珍(じょうちん;法諱、天台僧) K 2 2 9 5  
定珍(ていちん・阿部) → 定珍(さだかね・さだよし・阿部あべ、庄屋/詩歌) N 2 0 6 8  
定通(ていつう) すべて → 定通(さだみち)  
貞通(ていつう) すべて → 貞通(さだみち)  
B3047 亭々(ていてい、通称;金屋かねや五郎兵衛)?-1766 広島 俳人;風律門、  
「俳諧春草集」(死後1794刊;息文由ら撰)、1776青栴「花入塚」入、文由の父  
B3048 提亭(ていてい・松窓しょうそう)? - ? 江戸 雑俳;其角門、1775「種おろし」編、81「俳諧百合の花」編  
B3049 丁々(ていてい) ? - ? 俳人;1776樗良「俳諧月の夜」入、  
[子どもらが経よみ居るや雪仏](月の夜;88/雪だるまを仏に見立て経を真似る)  
B3050 停々(ていてい) ? - ? 江中期江戸芝雑俳点者、1777吐屑「芝さかな」入  
弟貞(ていてい・藤原) → 山背王(やましろのおおきみ、藤原ふじわら弟貞、廷臣/歌) E 4 5 1 1  
貞亭(ていてい・松浦) → 貞保(さだやす・松浦まつうら、歌人) P 2 0 3 8  
蹄亭(ていてい) → 秋鯉(しゅうり・蜂房ほうぼう、北馬門絵師) I 2 1 3 9

- 櫻亭(ていてい) → 淑蔭(よしかげ・井上、国学/歌/戯作) 4 7 0 5  
 程々庵(ていていあん・山岸) → 梅塵(ばいじん・山岸、醸造業/俳人) B 3 6 6 4  
 丁々庵(ていていあん) → 嵐枝(らんし・上坂うえさか、藩士/俳人) C 4 8 3 8  
 丁々窩(ていていか) → 忠永(ただなが・本多、藩主/歌学・俳) Q 2 6 3 3  
 丁々軒(ていていけん → とうとうけん) → 宗左(宗佐・4世そうさ・千せん、茶人) H 2 5 3 6  
 丁々軒(ていていけん) → 幽山(ゆうざん・高野たかの、俳人) B 4 6 8 9  
 丁々斎(ていていさい) → 不白(ふはく・川上、俳/茶人) D 3 8 6 3  
 堤亭斎(ていていさい・金龍洞閑人) → 苔翁(初世たいおう、俳人:提亭門) B 2 6 0 5  
 亭亭亭(ていていてい) → 庭鐘(ていしょう・都賀、読本作者) B 3 0 2 0  
 B3051 亭亭亭逸人(ていていていつじん)?- ? 1771「四鳴蟬」訳:堂堂堂主人訓、都賀庭鐘か?  
 → 庭鐘(ていしょう・都賀、読本) B 3 0 2 0  
 亭々堂(ていていどう) → 聴松(ちようしよう・松田まつだ、俳人) N 2 8 5 4  
 亭々坊(ていていぼう) → 車蓋(しゃがい・木蔭庵、俳人) G 2 1 0 3  
 定伝(ていでん・大塚) → 定伝(さだただ・大塚おおつか、藩士/詩歌) O 2 0 1 4  
 貞都(ていと・檜垣) → 貞兄(さだえ・檜垣ひがき/度会、神職) H 2 0 7 6  
 貞度(ていど・石黒) → 南門(なんもん・石黒いしぐろ、儒者) 3 2 4 0  
 貞度(ていど・檜垣) → 貞度(さだのり・檜垣/度会、神職/国学) J 2 0 2 8  
 B3052 泥土(ていど) ?- ? 近江膳所俳人:1690「ひさご」6句/91「猿蓑」入  
 [きつつきにわたして明るく水鶏くひな哉](猿蓑;卷六)  
 「枯尾花」の辻遅望と同一? → 遅望(ちぼう・辻/笹屋、膳所俳) F 2 8 3 6  
 B3053 丁東(ていとう・松中館) ?- ? 近江八幡の俳人;1774美角「ゑぼし桶」1句入、  
 1777江涯こうがい「仮日記」14句入、  
 [雲早し湖うみ冴えかへる日枝ひえおろし](仮日記;122)  
 玳瑁(ていとう・宇田川) → 榕庵(ようあん・宇田川、医者・蘭学者) 4 7 5 7  
 貞棟(ていとう・度会) → 貞棟(さだむね・度会わたらい、神職/歌人) Q 2 0 0 9  
 貞陳(ていとう/さだよし・片桐) → 貞芳(さだよし・片桐かたぎり、藩主) K 2 0 2 8  
 貞統(ていとう・黒川) → 文助(ぶんすけ・黒川、藩士/地誌家) F 3 8 8 8  
 貞董(ていとう・檜垣) → 貞董(さだのぶ・檜垣/度会/松本、神職) J 2 0 2 0  
 貞藤(ていとう・伊勢) → 貞藤(さだふじ・伊勢/平、藩士/故実家) J 2 0 6 2  
 定藤(ていとう・葉室) → 定藤(さだふじ・葉室はむろ/藤原、廷臣) J 2 0 6 1  
 定統(ていとう・佐八) → 定統(さだむね・佐八さばち/荒木田、国学者) J 2 0 8 6  
 定統(ていとう/さだむね・上田) → 及淵(しきぶち・上田/平井、藩医/国学) Q 2 1 1 0  
 B3055 貞堂(ていどう) ?- ? 江戸の俳人;貞山座点者/狂歌;大坂住江に住、  
 1742潘山(百子)「狂歌時雨の橋」海音[貞峨]追善入、  
 1754潘山「しぐれの碑」(;貞因[貞柳貞峨の父]25回忌・貞峨13回忌追善集)入、  
 [手向ばやせめて時雨の十七字](しぐれの碑)  
 貞道(ていどう) → 貞道(さだみち、京住の俳人) C 2 0 4 8  
 貞道(ていどう・前田) → 貞道(さだみち・前田まえだ、藩家老/記録) J 2 0 7 6  
 貞道(ていどう・小笠原) → 貞道(さだみち・小笠原、藩士/文筆家) J 2 0 7 8  
 棗堂(ていどう・岸本) → 由豆流(ゆずる・岸本/平/朝田、国学者) 4 6 1 3  
 棗棠園(ていどうえん/やまぶきその) → 由豆流(ゆずる・岸本/平/朝田、国学者) 4 6 1 3  
 棗棠舎(ていどうしゃ/やまぶきのや) → 省斎(せいさい・入交いりまじり/小川、藩士/国学) I 2 4 2 9  
 3008 貞徳(ていとく・松永、名;勝熊かつぐま、永種えいしゅ男) 1571-1653 京歌人;父門/九条植通・細川幽斎門、  
 20歳頃秀吉の右筆、連歌;紹巴門/俳諧:貞門流の祖;式目等を制定、地下歌壇第一人者、  
 1615(45歳)自宅で私塾を開く;歌学・俳諧など指導、狂歌を嗜む、  
 [霞さへまだらに立つや寅の年](犬子集;春)/[花よりも団子やありて帰る雁]  
 [露の命きゆる衣の玉くしげふたたびうけぬ御法みりならなむ](辞世)  
 【貞徳(;号)の幼名/号】幼名;小熊、号;逍遊・逍遊軒・頌友・松友・長頭丸・明心・延陀丸・  
 延陀王丸・保童坊・宝幢坊・五条の翁・花咲の翁・柿園、法号;逍遊軒貞徳居士  
 【貞徳主要作品】注釈;「徒然草慰草」「徒然草長頭丸抄」「源氏物語聞書」「伊勢物語抄」、

歌学;「和歌宝樹」「歌林樸楸ほくそく」「和句解」「堀川百首肝要抄」「和歌宝樹」、  
 歌集;「逍遊軒和歌」「五十番自歌合」「十五番歌合」/家集;「逍遊集」「貞徳家集」、  
 連歌;「源氏物語竟宴連歌百韻」「ふけあらし何木百韻」「貞徳百人一首連歌」、  
 俳諧;「新增犬筑波(淀川/油糟)」「御傘ごさん」「百韻自註」「貞徳独吟」「天水抄」「前車」  
 その他;「貞徳翁乃記」「貞徳文集」「戴恩記(歌林雑話集)」「貞徳狂歌百首」

【貞徳の主な門弟】加藤磐斎/北村季吟/貞室/西武など、松永尺五せきごの父

- 貞徳(3世ていとく) → 其彦(きげん・四時堂・肖菊翁、時宗僧/俳人) B 1 6 0 8  
 貞徳(ていとく・檜垣) → 貞徳(さだり・檜垣/度会、神職) J 2 0 2 1  
 貞徳(ていとく・清水) → 貞徳(さだり・清水しみず、測量家) C 2 0 2 0  
 貞恵(貞徳ていとく・宇野) → 貞恵(貞徳さだり・宇野うの、藩士/儒者) J 2 0 2 6  
 丁徳(ていとく・新田/佐久間) → 洞巖(とうがん・佐久間、儒/画/書家) C 3 1 3 1  
 定得(ていとく・中路) → 定得(じょうとく・中路なかじ、寺用人/地誌) L 2 2 2 5  
 定得(ていとく・塩谷) → 定得(さだり・塩谷しおたに、医者/国学) O 2 0 6 4  
 貞敦(ていとん・竹中/伊勢) → 貞敦(さだあつ・伊勢/平/竹中、故実家) H 2 0 7 1  
 定沌(ていとん・平井/上田) → 及淵(しきぶち・上田/平井、藩医/国学) Q 2 1 1 0  
 定任(ていにん;法諱) → 定任(じょうにん;法諱、真言醍醐寺僧) L 2 2 3 0  
 諦忍(ていにん→たいにん) → 諦忍(たいにん;字・妙童;法諱、浄土僧/真言律) C 2 6 0 4  
 諦忍(ていにん→たいにん) → 諦忍(たいにん;法諱・道隠、真宗本願寺派僧) K 2 6 8 7  
 諦忍(ていにん→たいにん) → 蓮光(れんこう;法諱、真言律僧) B 5 1 4 6  
 貞任(ていにん・安倍) → 貞任(さだとう・安倍あべ、豪族/武将) C 2 0 0 7  
 貞寧(ていねい・鈴木) → 貞寧(さだやす・鈴木すずき、国学/歌人) O 2 0 7 2  
 定然(ていねん・葉室) → 定嗣(さだつぐ・葉室/藤原、廷臣/歌人) C 2 0 0 3  
 定能(ていのう・藤原) → 定能(さだよし・藤原、廷臣/神楽) C 2 0 6 4  
 定能(ていのう・松平) → 定能(さだまさ・松平/小笠原、幕臣/地誌) J 2 0 7 0  
 貞能(ていのう/さだよし・宇多/佐藤) → 貞寄(さだより・佐藤/宇多、藩士/詩歌) C 2 0 6 9  
 庭能(ていのう・横浜) → 庭能(にわよし・横浜よこはま、国学者/歌人) H 3 3 3 5  
 棟之丞(ていのじょう・田村) → 邦行(くにみち・田村たむら、藩主/藩政改革/歌) D 1 7 8 1  
 貞之進(ていしん・三野) → 藻海(そうかい・三野みの、漢学者/詩文) 2 5 8 3  
 貞之進(ていしん・竹田) → 蘿亭(らてい・竹田たけだ、藩儒) B 4 8 4 8  
 定之進(ていしん・菊池) → 嘉典(よしりのり・菊池さくち、神職/教育) F 4 7 8 4  
 禎之進(ていしん・森) → 広主(ひろぬし・森もり、医/国学者) G 3 7 7 7  
 定之助(ていのすけ・徳久) → 知弘(ともひろ・徳久とくしき、藩士/和算家) Q 3 1 4 7  
 程之助(ていのすけ・永阪/菅野) → 或斎(わくさい・永阪/永坂/菅野、儒者) 5 3 1 7  
 鼎之助(ていのすけ・松平) → 頼起(よりおき・松平らつだいら、藩主/和学) P 4 7 1 8

B3056 貞把(ていは;法諱、法名;馨蓮社道誉、俗姓;大谷) 1515-157460 和泉日根の浄土僧;宝円寺貞也門、  
 江戸芝増上寺・関東檀林で修学、下総大巖寺開、1555増上寺9世、

1563下総臼井長源寺創建;隠棲、浄土宗の箇条伝法道誉流の流祖、「総五重行儀式目」著

蹄馬(ていば) → 藤長(ふじなが・田口、藩士/絵師/狂歌) C 3 8 5 5

B3057 貞柏(ていはく・光縁斎こうえんさい、通称;柏屋喜左衛門)?-? 江後期江戸山城向日町の狂歌作者、  
 1796「興歌かひあはせ」共編(得閑斎繁雅・巴水亭貞三らと)

庭柏子(ていはくし) → 抱一(ほういつ・酒井忠因、俳人/絵師) 3 9 1 3

庭柏子(ていはくし) → 其一(きいつ・鈴木すずき、抱一門絵師) E 1 6 9 5

貞発(ていはつ・前田) → 貞発(さだなり・前田、藩士/系図) J 2 0 1 1

貞繁(ていはん・歌川) → 貞繁(さだしば・歌川うたがわ、絵師) I 2 0 2 5

貞範(ていはん/さだり・源) → 馴窓(じゅんそう;法名、武将/歌人) K 2 1 1 9

定範(ていはん) → 定範(じょうはん、藤原成範男、天台僧/歌) B 2 2 2 9

定盤(ていはん・神田) → 道伴(どうはん・神田、古筆鑑定) G 3 1 9 9

B3058 鼎丕(ていひ・古城) ? - 1850 佐渡小木の俳人;菁莪門、諸国遍歴/相模江ノ島住、  
 「地獄回」「日記」「句集」著、金井良談と小木の両宗匠と称された、  
 [鼎丕(;号)の別号] 昨非庵/丹後屋

- 定美(ていび・守住/庄野)→ 貫魚(つらな・守住もりずみ/庄野、藩絵師) E 2 9 4 2  
 廷美(ていび・平野) → 藹臣(あいしん・平野、儒者/詩) D 1 0 1 9  
 廷美(ていび・陶山) → 南濤(なんとう・陶山すやま、医/漢学) J 3 2 3 4  
 廷美(ていび・千村) → 伯斎(伯濟はくさい・千村ちむら、藩士/儒) D 3 6 0 7  
 廷美(ていび・七五三) → 長斎(ちようさい・七五三しめ、国学/俳人) I 2 8 3 8  
 斑美(ていび・久須美) → 祐篤(すけとし・久須美/藤原、幕臣/文筆) G 2 3 6 5  
 斑美(ていび・小沢) → 精庵(せいあん・小沢おざわ、漢学/洋学) H 2 4 2 8  
 貞美(ていび・吉雄/王) → 紫溟(しめい・吉雄よしお、蘭医) F 2 1 8 5  
 貞美(ていび・鈴木) → 清右衛門(せいえもん・鈴木/穂積、藩士/兵学者) H 2 4 4 4
- B3059 泥尾(でいび・棚橋たなはし、号; 杏花園)?-? 江中期名古屋?の天文家、  
 1793「日用晴雨管窺」1803「画本夢の世」、「天文候鑑」著  
 庭瓢斎(ていひょうさい) → 麻中(まちゅう・高橋たかはし、俳人) J 4 0 6 5  
 貞彬(ていひん・片桐) → 貞彬(さだあき・片桐かたぎり、藩士/国学者) O 2 0 2 9  
 貞敏(ていびん・藤原) → 貞敏(さだとし・藤原、廷臣/入唐/琵琶) 2 0 2 0  
 貞敏(ていびん・惟宗) → 貞敏(さだとし・惟宗これむね、廷臣/歌人) C 2 0 1 1  
 貞敏(ていびん・安東) → 貞敏(さだとし・安東あんどう、藩士/国学/詩) N 2 0 7 4
- B3060 貞富(ていふ・榎並えなみ、通称清左衛門、別号; 花実庵/調葉軒、貞因弟) 1641-1712 72歳 大阪菓子商、  
 歌人/狂歌作者/俳人、「花実庵甘露百首」著、1679行風「銀葉夷歌集」7首入、  
 1672「後撰夷曲集」107首入、俳諧; 1673西鶴「生玉万句」第一神の春脇句入、  
 息子; 長丸、油煙斎貞柳は甥、  
 [されば天下に名乗るのり弓](神の春脇句/のり弓; 賭弓; 宮中の近衛兵衛の舎人の競射、  
 発句一飛; 一万句貴賤群衆くせんくんじゆや神の春)
- B3061 貞普(ていふ) ? - ? 江中期大津?の俳人; 1704撰集「奉納集」(木節・陸之と共編)  
 貞孚(ていふ・島田) → 嘉津次(かつじ・島田しまだ、藩士/儒者) N 1 5 3 6  
 貞夫(貞父ていふ・波多) → 北固(ほっこ・波多/波田/秦、儒者) E 3 9 6 2  
 貞父(ていふ・城村/山県) → 墨僊(墨僊ぼくせん・山県やまがた、儒/書家) D 3 9 6 3  
 貞扶(ていふ・伊勢) → 貞牧(さだまき・伊勢/平、幕臣/故実家) J 2 0 6 3  
 貞怱(ていふ) → 十口(じっこう・青木/柳/広瀬、俳人) E 2 1 8 5  
 貞富(ていふ・檜垣) → 貞晋(さだしげ・檜垣/度会、神職) B 2 0 2 9  
 貞富(ていふ・藤川) → 貞富(さだとみ・藤川ふじかわ、国学/歌) P 2 0 2 5  
 定富(ていふ・竹中) → 定富(さだとみ・竹中たけなか、和算家) I 2 0 8 8  
 定夫(ていふ・小橋) → 静学(せいがく・小橋こばし、儒者/医者) H 2 4 7 9  
 禎夫(ていふ/さだお・江田) → 世恭(せいきよう/ながやす・江田、商家/国学) H 2 4 9 0  
 禎夫(ていふ・熊井) → 文海(ぶんかい・熊井くまい、俳人) E 3 8 9 0
- B3063 定武(ていぶ・服部) ? - ? 江前期京の俳人; 1691江水「元禄百人一句」入  
 [夏冬と元日やよき有所ありどころ](元禄百人一句; 56/元日が初春に置かれているのが良い)  
 定武(ていぶ・平井) → 定武(さだたけ・平井/源、武将/連歌) I 2 0 4 0  
 貞武(ていぶ・富田) → 貞武(さだたけ・富田とみた、藩士/記録) I 2 0 4 2  
 貞武(ていぶ・高木) → 貞武(さだたけ・高木たかぎ、絵師) F 2 0 3 1  
 貞武(ていぶ・永山) → 二水(じすい/にすい・永山ながやま、藩儒) T 2 1 9 6
- B3064 貞風(ていふう・永田) ? - ? 江戸の俳人; 貞山座点者、  
 狂歌; 1737貞竹[柳因]「狂歌戒の鯛」入、1754竹翁「俳諧童の的」点句入  
 貞風(ていふう) → 牛呑(ぎゅうどん、俳人) G 1 6 4 6  
 貞風(ていふう・羽室) → 貞風(さだかぜ・羽室/藤原、藩士/歌人) H 2 0 9 5  
 貞風(ていふう・谷田) → 貞風(さだかぜ・谷田たにだ、藩士/国学/歌) Q 2 0 9 3  
 定福(ていふく・清閑寺) → 定福(さだとみ・梅小路/藤原/清閑寺、権大納言/儒) I 2 0 8 7  
 貞福(ていふく・千野) → 貞亮(さだすけ・千野ちの、藩家老/歌人) Q 2 0 9 5  
 泥仏庵(でいぶつあん) → 物外(もつがい: 道号・不遷ふせん: 法諱、曹洞僧/武術) F 4 4 5 3  
 定武楼(ていぶろう) → 七僧(しちそう・北山きたやま、儒者/医者) E 2 1 5 5
- B3065 貞文(ていぶん・山岸やまぎし、服部退休男) 1828/30?-86 59-57? 山岸嘉右衛門の養子/庄内藩士、

1863藩校致道館助教/新徴組取締役、1864家督継承/普請奉行/郡代、戊辰戦争で軍事副使、維新後は大泉藩大属、「諸役前録」編

[貞文(；名)の通称] 寅太/嘉右衛門(；養父の称を継承)

貞文(定文ていぶん・平) → 貞文(定文さだぶん・平たいら、廷臣/歌人) 2024

定平(ていへい・賀茂) → 定平(さだひら・賀茂かも、廷臣/陰陽家) J2050

定平(ていへい・中院) → 定平(さだひら・中院なかのいん/源、南朝大納言/歌) J2052

定辟(ていへき・高島) → 定辟(さだのり・高島たかばたけ、藩士/記録) J2031

貞遍(ていへん；法諱) → 貞遍(じょうへん；法諱、僧/歌人) W2200

E3001 定甫(ていぼ・古川ふるかわ/稲熊、名；親太/通称；七右衛門)?-? 江前期大阪の俳人；立圃門、1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、

[曾我菊も切りて出づるや小柴垣](難波色紙；38/黄菊が垣から外へ伸びて咲く、謡曲「禅師曾我」；心得給へ祐宗と 城戸を開いて切って出づれば)

B3066 貞甫(ていぼ・庄村しょうむら) 1813-5341 京葎屋町中立売北の商家；肥前小城鍋島家の京御用達、俳諧を嗜む/名家の墳墓集録が趣味：「紀年大成」編(；墳墓集録)、

[貞甫(；字)の名/通称/号]名；一利、通称；新次郎、号；葎中/易得子

B3067 鼎甫(ていぼ・島村しまむら、津下古庵男/島村家の養子) 1830-8152 備前上道郡沼の医者；父門、姫路仁寿山校修学/大阪；後藤松陰/緒方洪庵門・京；赤沢寛甫門/江戸；伊東玄朴門、阿波侯の侍医/1862幕府医学所教官、詩文/翻訳、「撤兵演式」「創痕新説」「生理発蒙」訳、

[鼎甫(；名)の別名/字/通称/号]別名；鼎かねえ、字；鉉仲、通称；貞蔵、号；紫軒

丁甫(ていぼ・湯川) → 東軒(とうけん・湯川/湯河、儒者/詩) D3133

呈輔(ていぼ・小川) → 松蘿(しょうら・小川おがわ/森、俳人) L2286

程甫(ていぼ・山高) → 信壽(のぶひさ・山高やまたか、藩士/国学者) K3530

程輔(ていぼ・外村) → 半雲(はんうん・外村とのむら/並江、藩儒) H3623

定保(ていぼ；字) → 慧胤(えいん；法諱、天台僧/詩人) U1311

定輔(ていぼ・中院/野宮) → 定輔(さだすけ・野宮のみや/藤原、廷臣) I2030

定模(ていぼ・菅) → 橘洲(きつしゅう・菅かん、藩士/儒者) L1645

定保(ていぼ・阿武/太宰) → 定保(さだやす・太宰だざい/阿武、儒者) K2005

定保(ていぼ・黒沢) → 定保(さだやす・黒沢くろさわ、国学者/歌人) O2042

定保(ていぼ・立木) → 定保(さだやす・立木たちき/源、藩士/国学) Q2092

貞保(ていぼ・松浦) → 貞保(さだやす・松浦まつうら、歌人) P2038

貞甫(ていぼ・矢野) → 容斎(ようさい・矢野やの、儒者/測量術) 4790

鼎輔(ていぼ・垣内) → 熊岳(ゆうがく・垣内かきうち、藩儒) B4603

鄭圃(ていぼ・谷口) → 元淡(げんたん・谷口、大雅、儒者/古典) C1863

B3068 定方(ていほう；号) ? - ? 京の俳人；1702轍士「花見車」入、

[足洗ふ水もまれなり雲の峰](花見車；149/夏の渇水)

歌舞伎の定方と同一? → 治右衛門(じえもん・田中、歌舞伎役者、俳人) B2121

定方(ていほう) → 治右衛門(じえもん・田中、歌舞伎役者、俳人) B2121

貞芳(ていほう・片桐) → 貞芳(さだよし・片桐かたぎり、藩主) K2028

貞芳(ていほう・歌川) → 貞芳(さだよし・歌川うたがわ、絵師) F2057

貞方(ていほう・伊勢) → 貞方(さだかた・伊勢いせ/平、故実家) H2097

貞方(ていほう・安田) → 貞方(さだかた・安田やすだ、国学者/歌人) O2009

定芳(ていほう・菅沼) → 定芳(さだよし・菅沼すがぬま、幕臣/城主) K2022

定芳(ていほう・矢野) → 定芳(さだよし・矢野やの、藩士/国学者) P2061

棟芳(ていほう・草場) → 佩川(珮川はいせん・草場、儒者/詩歌) B3670

亭坊(ていぼう) → 兎国(とくに・斗谷とこく・新倉、農業/俳人) L3173

定房(ていぼう・吉田) → 定房(さだふさ・吉田/藤原、内大臣/南朝/歌人) 2023

定房(ていぼう・藤) → 定房(さだふさ・藤とう、神職/藩士) J2059

定房(ていぼう・夏目) → 定房(さだふさ・夏目、藩士/軍記作者) J2058

貞房(ていぼう・大仏) → 貞房(さだふさ・大佛/平/北条、武将/歌) C2040

貞房(ていぼう・高階) → 貞房(さだふさ・高階たかしな、藩士/国学者) J2060

- 貞房(ていぼう・歌川) → 貞房(さだふさ・歌川/大沢、絵師) F 2 0 5 1  
程方珍(ていほうちん) → 香坡(こうは・橋本はしもと、儒者/詩/勤王) F 1 9 3 4
- B3069 貞木(ていぼく・出口、別号;花香堂) 1626-9671 江前期京の俳人;西武さいむ門、  
1690刊「誹道手松明はいどうていまつ」著、1691江水「元禄百人一句」入  
丁牧(ていぼく・俳名) → 茂矩(しげのり・近松/松、藩士/兵法/俳人) C 2 1 8 2  
貞牧(ていぼく・伊勢) → 貞牧(さだまき・伊勢/平、幕臣/故実家) J 2 0 6 3  
貞保親王(ていほしんのう) → 貞保親王(さだやすしんのう・南宮、管弦) C 2 0 5 9  
鋌丸(ていまる・南部) → 利義(としとも・南部なんぶ、藩主) N 3 1 0 6  
定満(ていまん・宇佐美) → 定満(さだみつ・宇佐美うさみ、戦国武将) B 2 0 3 4  
定満(ていまん・宮村) → 定満(さだみつ・宮村みやむら、商家/国学者) P 2 0 5 4  
貞満(ていまん・伊勢) → 貞満(さだみつ・伊勢/平、幕臣・故実家) J 2 0 7 9  
鼎万鈞(ていまんきん) → 鼎(かなえ・津川万鈞)津川、詩人) I 1 5 7 9  
庭民(ていみん・久世) → 安庭(やすむら・久世くぜ/深田/水原、歌) C 4 5 5 2
- B3071 定明(ていめい・林はやし) ? - ? 江前期大阪の俳人;才麿と交流、  
1688「蕤賓録すいひんろく」編、1691賀子「蓮実」2句入、1692遠舟「八重一重」困水「くやみ草」入、  
[呼び立てて日もちりちりや友千鳥](蓮実:360)、  
(ちりちりは千鳥の声・夕日照・別れの散り散りを掛ける)  
貞明(ていめい;名) → 陽成天皇(ようせいてんのう、歌人) B 4 7 2 9  
貞明(ていめい) → 貞明(じょうみょう、連歌) L 2 2 6 8  
貞明(ていめい・伊勢) → 貞明(さだあきら・伊勢/平、故実家) H 2 0 6 9  
貞命(ていめい・檜垣) → 貞命(さだのぶ・檜垣ひがき/度会、神職) J 2 0 1 5  
貞明(ていめい・望月) → 貞明(さだあき・望月もちつき、藩士/歌人) P 2 0 5 7  
定明(ていめい・小堀) → 定明(さだあき・小堀こぼり、藩士/詩歌) H 2 0 6 4  
貞緜(ていめん・松村) → 貞緜(さだつぐ・松村まつむら、藩士/国学) P 2 0 4 4  
庭茂(ていも・永田) → 繁樹亭庭茂(はんじゅていとも、狂歌/紀行) H 3 6 9 4
- 貞門江戸五俳哲**(ていもんえごはいてつ);貞徳門傍系の江戸の5人の優れた俳人  
→ 徳元(とくげん・斎藤) 1559-1647 K 3 1 6 5  
→ 未得(みとく・石田) 1578-1669 4 1 3 3  
→ 玄札(げんさつ・高島) 1594-1676 B 1 8 8 8  
→ ト養(ぼくよう・宗松そうしょう) 1607-78 3 9 6 7  
→ 加友(かゆう・荒木) ? - 1673 D 1 5 3 0
- 貞門七俳仙**(ていもんしちはいせん);貞徳門直系初期の7人の優れた俳人  
→ 令徳(りょうとく・鶏冠井かでい) 1589-1679 4 9 2 2  
→ 維舟(いしゅう・松江重頼しげより) 1602-80 1 1 9 2  
→ 西武(さいむ・山本) 1610-1682 2 0 0 7  
→ 貞室(ていしつ・安原) 1610-1673 3 0 0 5  
→ 梅盛(ばいせい・高瀬) 1619-1702 3 6 0 6  
→ 季吟(きぎん・北村) 1624-1705 1 6 0 6  
→ 安静(あんせい・荻田/荻野)?-1669 C 1 0 1 5
- 傍系 → 立圃(りゅうほ・野々口親重) 1595-1669 4 9 1 3
- B3072 貞也(ていや・麦里坊、永田)?- ? 京の狂歌作者:鈍水門、西宮住、  
1777「除元集」、1809「ふくるま」編  
程野(ていや・瀬谷せや) → 桐斎(とうさい・瀬谷、儒者) E 3 1 2 3
- B3073 定祐(ていゆう・光吉みつよし) ? - ? 江前期上方の談林俳人;  
1677「宗因七百韻」(萩何百韻;11吟参)/1678西鶴「物種集」入、  
[蒲鉾の板さへ相すぎに成りにけり](物種集/前句;針を立てたる住吉の松)
- 3002 貞右(ていゆう・玉雲齋、雄崎おさき、名;勝房、尼屋市兵衛[尼市]男) 1734-9057 大阪塩問屋尼屋の分家、  
尼弥/尼定の初代、狂歌:芥河貞佐門;師より貞右の号・烏丸光祖から玉雲齋の号を受、  
狂号から丸派と称される;門人1300人;6群に分けて組織化、1777「狂歌寝さめの花」編、  
1779「夷曲左右合」83「大狂歌小集」90「玉雲集」著、

「狂歌三部集」「狂歌泰平楽」「狂歌万歳楽」著、

〔玉雲斎貞右の通称・別号〕 尼屋あまのや弥兵衛/尼屋定右衛門、別号;混沌軒国丸

貞由(ていゆう・三栖谷/馬場)→ 佐十郎(さじゅうろう・馬場、通詞/洋学者) B 2 0 6 5

貞友(ていゆう・伊勢) → 貞友(さだとも・伊勢/平、故実家) F 2 0 3 8

貞裕(ていゆう/さだひろ・岡谷/大橋)→ 綽堂(しゃくどう、大橋/平、医者) W 2 1 1 0

貞祐(ていゆう/さだすけ・藁科)→ 松伯(しょうはく・藁科わらしな、藩医/詩人) L 2 2 3 6

貞雄(ていゆう・上部) → 貞雄(さだたけ・上部うわべ/度会、神職) I 2 0 4 1

貞雄(ていゆう) 上記以外 → 貞雄(さだお)

貞融(ていゆう・岩下) → 貞融(さだみち/さだあき・岩下/滋野、国学者/歌) C 2 0 4 9

定祐(ていゆう;法諱) → 定祐(じょうゆう;法諱、天台僧) L 2 2 7 6

定祐(ていゆう・大関) → 定祐(さだすけ・大関/宇佐美、軍学者) F 2 0 2 9

定祐(ていゆう/さだすけ・宇佐美)→ 良永(よしなが・宇佐美うさみ/大関、兵学者) F 4 7 2 8

定雄(ていゆう・宮負みやおい)→ 定雄(やすお・宮負、名主/農政/国学) B 4 5 0 2

定雄(ていゆう) 上記以外は → 定雄(さだお)

B3074 貞璵(ていよ・松永まつなが、別号;芦の丸家あしのまるや)?-? 江後期大阪の俳人;貞居門、  
1802「新崑山集」16「恋の句集」編、「芦の丸月次俳句」著

定誉(ていよ) → 定誉(じょうよ;法諱、真言僧/高野復興) B 2 2 9 7

貞誉(ていよ→じょうよ・念蓮社)→ 了也(りょうや;法諱、浄土僧) J 4 9 5 3

B3075 定用(ていよう・松岡まつおか) ? - ? 江前期江戸の俳人;立圃りゅうほ[1595-1669]門、  
妻の於好(好女)も俳人、「東海道俳諧吟行」著、

妻 → 好女(こうじよ・松岡於好およし、俳人) J 1 9 7 0

B3076 提要(ていよう・菊池きくち、別号;涼風軒)?-? 1704存 能登七尾の俳人、

1699上方に行脚;言水らと連句、1699「能登釜」編

貞用(ていよう・近藤) → 貞用(さだもち・近藤、幕臣/黄檗参禅) J 2 0 8 8

貞庸(ていよう・美濃部) → 貞庸(さだのぶ・美濃部みのべ/青柳、幕臣) P 2 0 5 1

貞庸(ていよう・有沢) → 貞庸(さだつね・有沢ありさわ、藩士/記録) I 2 0 6 5

貞庸(ていよう・福住) → 貞庸(さだつね・福住ふくずみ/桜井、商家/歌) P 2 0 2 3

定耀(ていよう;法諱) → 定耀(じょうよう;法諱、興福寺僧/歌) W 2 2 0 7

定耀(ていよう;法諱) → 定耀(じょうよう;法諱、真言醍醐寺僧) L 2 2 8 2

廷耀(ていよう・梅辻) → 希烈(まれつら・梅辻/生源寺/祝部、神職) K 4 0 2 5

菟楊斎(初世ていようさい) → 関月(かんげつ・薮しとみ/柳原、絵師) D 1 5 5 8

菟楊斎(2世ていようさい) → 関牛(かんぎゅう・薮しとみ、関月男/絵師) G 1 5 2 0

定頼(ていらい・藤原) → 定頼(さだより・藤原ふじわら、廷臣/歌人) 2 0 2 9

貞頼(ていらい・渋川) → 貞頼(さだより・渋川しぶかわ/源、武家/歌人) C 2 0 6 6

貞頼(ていらい・中原) → 貞頼(さだより・中原なかはら、連歌作者) K 2 0 3 6

貞頼(ていらい・伊勢) → 貞仍(貞頼さだより・伊勢/平、幕臣/故実) C 2 0 6 7

貞頼(ていらい・河原/清水/源)→ 貞頼(さだより・河原かわはら、藩士/測量術) C 2 0 6 8

廷蘭(ていらん・土佐) → 光芳(みつよし・土佐とさ/藤原、絵師) F 4 1 1 8

B3077 庭李(ていり・蟋蟀亭しつしつてい、通称;あんどう 鮎屋すしや)?-? 江後期大阪道頓堀の狂歌作者;  
発果亭庭栗社中、「岩屋村紅葉紀行」著

定理(ていり・青地) → 兼山(けんざん・青地あおち/あおち、藩士/儒者) B 1 8 9 4

定理(ていり・菅原) → 定理(さだまさ・菅原すがわら、国学者) J 2 0 7 2

定利(ていり・小津) → 定利(さだとし・小津おつ、商家/宣長父) I 2 0 8 4

貞利(ていり・鳥山) → 貞利(さだとし・鳥山とりやま、歌人) N 2 0 5 8

貞利(ていり・五十嵐) → 貞利(さだとし・五十嵐いがらし/田巻、国学) N 2 0 7 6

貞利(ていり・横瀬) → 貞利(さだとし・横瀬よこせ、神職/国学) P 2 0 7 6

貞里(ていり・前田) → 貞里(さださと・前田、藩城代/文筆家) I 2 0 1 7

B3078 貞陸(ていりく・佐保さほ、介我かいがの従弟) 1649-?長寿 1748百歳存 江戸生/武蔵川越の俳人;貞室門、  
1746「鶴のあそび」編

貞陸(ていりく・伊勢) → 貞陸(さだみち・伊勢/平、幕臣/故実家) 2 0 2 5

- 貞陸(ていりく・大村) → 蘭林(らんりん・大村おむら、藩儒) D 4 8 3 0  
 庭葎庵(ていりつあん) → 玉世(たまよ・新井あらい、絹商/狂歌師) V 2 6 3 0
- B3079 貞隆(ていりゅう) ? - ? 京の俳人:似船門、1677似船「かくれみの」入、  
 1691只丸「小松原」入
- 3009 貞柳(ていりゅう・油煙斎ゆえんさい、永田/榎並/藤原、鯛屋貞因男) 1654-1734<sup>81</sup> 大阪の菓子商;  
 代々大坂御堂前雛屋町で営業(屋号;鯛屋たいや);禁裡御用、母;質商柳屋の女、歌;貞徳門、  
 俳諧;父貞因門/狂歌;豊蔵坊信海/黒田月洞軒門、家業を捨て狂歌に専念、連歌も嗜む、  
 1724火災に遭う;高津に閑居、「家南木の広葉」「狂歌かゝみ山」「狂歌なにはかゝみ」、  
 「机の塵」、1721「狂歌五十人一首」編/29-58「家津登いえつと」「続家づと」/29「狂歌鳩杖集」編、  
 1734「狂歌糸の錦」、追善;34「油煙斎置土産」貞竹編、「貞柳翁五十回追善集」  
 [油煙斎貞柳(;号)の名/通称/号]名;良因/言因、通称;清兵衛/善八、  
 号;貞良/信乗/信乗軒/雲洞/信海二世、由縁斎/霜露軒/清雲洞、珍菓亭/長生亭/助栄亭、  
 遊魚子/放曠子/鳩杖子、屋号;鯛屋たいや  
 貞峨(紀海音)の兄、婿養子;長生亭柳因(医者)
- B3080 丁柳(ていりゅう) ? - ? 江前期俳人;1693?幸佐「一番船」滑稽和漢入
- B3081 汀柳(ていりゅう・赤名あかな、名;彦七)?-?1868頃没 江末期出雲の俳人:美濃派、  
 「いのちのい恵都えつと」編、  
 [汀柳(;号)の別号] 睡雨軒/夢中庵
- 貞隆(ていりゅう・横瀬) → 貞隆(さだたか・横瀬よこせ/源、幕臣/歌人) N 2 0 2 1  
 貞竜(ていりゅう・斎藤) → 幸雄(ゆきお・斎藤さいとう、名主/地誌) E 4 6 3 4  
 泥竜(でいりゅう・磯村) → 吉徳(よしのり・磯村いそむら、和算家/藩士) F 4 7 7 9
- F3012 貞柳尼(ていりゅうに・高村たかむら、名;佐津) 1764-1830<sup>67</sup> 近江彦根の国学・歌人;伴高蹊門、  
 歌;[彦根歌人伝・亀]入
- B3082 貞亮(ていりょう) ? - ? 江中期連歌、1743吉宗還暦「御賀千句」入
- 貞亮(ていりょう) → 貞亮(さだすけ、連歌師) B 2 0 9 2  
 貞亮(ていりょう・源) → 貞亮((貞輔さだすけ・源みなもと、廷臣/歌) B 2 0 8 7  
 貞亮(ていりょう・小林) → 肅翁(しゅくおう・小林こばやし、医者) Y 2 1 6 5  
 貞亮(ていりょう・三重) → 松庵(しょうあん・三重みえ/平、儒;陽明学) Q 2 2 8 1  
 貞亮(ていりょう・松山/新宮) → 涼介(りょうかい・新宮しんぐう/松山、医者) G 4 9 8 1  
 貞亮(ていりょう・林/村上) → 義内(ぎない・林/村上、医者/滑稽本) B 1 6 9 2  
 貞亮(ていりょう・柳田) → 正斎(しょうさい・柳田やなぎだ、書家) J 2 2 0 6  
 貞亮(ていりょう・千野) → 貞亮(さだすけ・千野ちの、藩家老/歌人) Q 2 0 9 5  
 貞亮(ていりょう・西村) → 貞亮(さだすけ・西村にしむら、製茶/歌人) P 2 0 0 6  
 貞良(ていりょう・伊勢) → 貞良(さだよし・伊勢/平、故実家) K 2 0 1 9  
 貞良(ていりょう/さだよし・糟谷) → 磯丸(いそまる・糟谷かすや、歌人) 1 1 1 5  
 貞良(ていりょう・伊勢) → 貞良(さだよし・伊勢いせ/原田、藩陪臣/故実) N 2 0 8 1  
 貞良(ていりょう・岩井) → 貞良(さだよし・岩井いわい、具足師/歌人) N 2 0 8 9  
 貞諒(ていりょう・岩下) → 草司(そうじ・岩下いわした、商家/俳人) H 2 5 6 3  
 貞諒(ていりょう・劉) → 貞諒(さだあき・劉りゅう、僧/国学者) P 2 0 7 5  
 定亮(ていりょう・西山) → 隆従(たかより・西山、藩士/歌人) N 2 6 8 2  
 定良(ていりょう) すべて → 定良(さだよし)
- B3083 貞林(ていりん) ? - ? 伊丹の狂歌作者;1679生白堂行風「銀葉夷ざんよう歌集」33首入
- 定林(ていりん;字) → 聖憲(しょうけん;法諱、真言根来寺僧) I 2 2 4 0  
 廷倫(ていりん・渡辺) → 頑石(がんせき・渡辺わたなべ、詩文) R 1 5 1 9  
 堤隣翁(ていりんおう) → 雀庵(じゃくあん・加藤/田中/加田、俳/随筆) G 2 1 0 5  
 貞林禅尼(ていりんぜんに) → 兵(ひょう・戸田/宮部、茂睡妻/歌人) K 3 7 2 6  
 定礼(ていれい・富田) → 筋斎(せつさい・富田、国学者) L 2 4 0 3  
 定礼(ていれい・池田) → 謙堂(けんどう・池田いけだ、藩士/儒者) L 1 8 7 4  
 定令(ていれい・神谷) → 藍水(らんすい・神谷かみや、幕臣/和算家) C 4 8 7 5  
 定令(ていれい・矢部) → 定令(さだのり・矢部やべ/原田、幕臣/奉行/歌) P 2 0 6 3

- 廷礼(ていれい・石井) → 隆庵(りゅうあん・石井/山田、藩医/詩) C 4 9 6 7  
 諦霊(ていれい→たいれい:法諱) → 諦霊(たいれい:法諱、偃松院、真宗僧) L 2 6 3 0  
 B3084 貞曆(ていれき) ? - ? 江戸俳人;貞山座点者、  
 1754竹翁「誹諧童の的」評点句入  
 貞歴(ていれき・三栖谷/馬場) → 為八郎(ためはちろう・馬場ばば、通事) S 2 6 7 0  
 貞烈(ていれつ・伊勢) → 貞烈(さだつら・伊勢/平、故実家) I 2 0 6 9  
 貞連(ていれん・飯尾) → 貞連(さだつら・飯尾いのお、室町幕臣/連歌) I 2 0 6 8  
 貞連(ていれん・斎藤) → 貞連(さだつら・斎藤さいとう、神職/国学) O 2 0 5 5  
 貞廉(ていれん・秦) → 貞助(ていすけ・村上、幕臣/蝦夷地誌) B 3 0 1 7  
 貞廉(ていれん・阿閉) → 言足(のぶたり・阿閉あべ、藩士/国学/尊攘) H 3 5 0 4  
 定蓮社(ていれんしゃ) → 尊観(そんかん;法諱、浄土宗名越派僧) F 2 5 2 7  
 貞廬(ていろう・宍戸) → 謙堂(けんどう・宍戸ししど、易学家) L 1 8 7 6  
 貞老(ていろう・衣笠/新) → 貞老(さだおい・新あたらし/衣笠、藩士/国学) B 2 0 7 3  
 泥郎子(でいろうし;酒本「跣せき婦人伝」) → 浚明(まつあけ・山岡、国学) J 4 0 6 6  
 貞六(ていろうく・川谷) → 致真(むねざね・川谷かわたに、藩士/暦算家) B 4 2 3 7  
 貞六堂(ていろうどう) → 乾峰(2世けんぼう、雑俳点者) D 1 8 0 7  
 廷和(ていわ・馬詰) → 親音(もとね・馬詰うまづめ、藩士;民政/歌) D 4 4 6 6  
 貞和(ていわ・伊庭) → 貞和(さだかず・伊庭/種村/源、武士/連歌) F 2 0 2 5  
 貞和(ていわ・檜垣) → 貞和(さだかず・檜垣ひがき/度会、神職) H 2 0 9 2  
 貞和(ていわ・大石) → 鳳蕉(ほうしょう・大石、儒者/和算家) B 3 9 7 3  
 てう子(ちようこ・寒川) → てう子(ちようこ・寒川さわかわ/吉田、歌人/狂歌) M 2 8 6 5  
 てうふ(ちようふ・松島) → 治助(2世じすけ・桜田、歌舞伎作者) 2 1 2 4  
 てうふ(ちようふ・五街遊) → 半二(2世はんじ・松島、歌伎作/合巻) 3 6 4 4  
 手柄岡持(てがらのおかもち) → 岡持(おかもち・手柄、朋誠堂喜三二、戯作/狂歌) 1 4 0 9  
 的(てき・宇都宮) → 遯菴(とんあん・宇都宮うつのみや、儒者) 3 1 6 8  
 迪(てき・桜田) → 簡斎(かんさい・桜田さくらだ、儒者/勤王派) Q 1 5 6 1  
 迪(てき・曾田) → 菊潭(きくたん・曾田そだ、藩士/儒者) K 1 6 1 9  
 迪(てき・堤) → 新甫(しんぼ・堤つつみ、儒者/教育) P 2 2 8 6  
 迪(てき・菅沼) → 吉恵(よしえ・菅沼すがぬま、文筆家) C 4 7 2 5  
 迪(てき・岡本) → 黄石(こうせき・岡本、藩家老/詩人) F 1 9 2 3  
 適(てき・源) → 適(かなう・源、安法の父、廷臣) F 1 5 5 8  
 適(てき・中山) → 高陽(こうよう・中山なかやま、詩人/絵師) C 1 9 0 0  
 適(てき・藤田) → 適(かなう・藤田ふじた、絵師/国学) V 1 5 5 6  
 B3085 出来秋万作(できあきまんさく)? - ? 狂歌;橘州門、1782橘州「若葉集」、  
 1782黒人「初笑不琢玉」/83赤良「万載狂歌集」入  
 B3086 迪庵(てきあん・森本もりもと)? - ? 江前期摂津三田の人/京住;医業、  
 浄土集関係の書「浄家寺鑑」編纂(没後に息徳之助が完成;1668刊行)  
 迪庵(てきあん・黒部) → 重徳(しげのり・黒部くろべ、国学/歌人) O 2 1 3 6  
 B3087 適園(てきえん・香山かやま、名;彰) 1749-9547 京儒者/詩人:江村北海・村瀬栲亭門、「日本詩選」3首入、  
 「適園筆録」「六代咏物詩纂」、「東隴菴集」「東隴菴集二編」「東隴菴聞見抄録」著、書を嗜む、  
 [適園(;号)の字/通称/別号]字;吉甫、通称;大学、別号;三楽/東隴菴とうろうあん  
 適園(てきえん) → 香坡(こうは・橋本はしもと、儒者/詩/勤王) F 1 9 3 4  
 萩園(てきえん・おぎその) → 千浪(ちなみ・加藤、国学/歌人) F 2 8 1 0  
 萩園(てきえん→あしその・磯田) → 玉秋(たまき・磯田/山守、医/国学者) K 2 6 3 7  
 萩園(てきえん・おぎその) → 秋名(あきな・長坂ながさか、商家/歌人) I 1 0 1 7  
 萩垣内(てきえんない・狩野) → 宗朴(3代そうぼく・狩野かのう、茶人/歌/俳) K 2 5 8 9  
 迪翁(てきおう;剃髮号) → 親審(ちかしげ・堀、藩主/天保改革) 2 8 9 8  
 的翁(てきおう;法諱) → 道鏡(どうきょう;道号・慧端、正受老人、臨濟僧) C 3 1 8 7  
 的翁(てきおう・今田) → 佳保(よしやす・今田いまだ、藩士/歌人) L 4 7 6 3  
 適翁(てきおう・松田) → 元兆(もとよし・松田、国学者) E 4 4 7 7

適翁(てきおう・黒沢)	→	定保(さだやす・黒沢くろさわ、国学者/歌人)	O 2 0 4 2
適翁斎(てきおうさい)	→	定保(さだやす・黒沢くろさわ、国学者/歌人)	O 2 0 4 2
敵愾堂(てきがいどう)	→	直繩(なおつな・海妻かいづま、儒/国/故実)	B 3 2 6 9
荻花人(てきかじん)	→	白推(はくすい・米屋、俳人)	D 3 6 3 9
迪吉(てききち・鈴木)	→	迪吉(みちよし・鈴木すずき、国学者/歌人)	J 4 1 3 8
適宜亭(てきぎてい)	→	群松(ぐんしょう・小島こじま、国学者)	E 1 7 1 5
荻軒(てきけん・坂)	→	徴(ちよう・坂、国学者/教育)	H 2 8 0 7
滌源居(てきげんきょ)	→	宗達(そうたつ・速水はやみ、医者/茶人)	I 2 5 3 9
笛古斎(てきこさい)	→	潮鼠(ちようそ、俳人)	J 2 8 3 2

- B3088 **揚斎**(てきさい・中村/仲邨なかもら、名;之欽、定次男) 1629-1702 74 京の呉服商/儒;貝原益軒門、朱子学を独習、天文地理度量衡・音律にも精通、性理学を主唱、徳島藩の儒臣となる、1666「訓蒙図彙」、「揚斎文集」、「揚斎筆録」、「四書示蒙句解」、「比壳鑑ひめかがみ」など著書多数  
[揚斎(;)号)の字/通称]字;敬甫、通称;阿七/七次/七左衛門/仲二郎
- B3089 **適斎**(てきさい・田中たなか、名;貞昭) 1768-1821 54 代々近江草津の駅の豪商;新屋/儒;岩垣竜溪門、家督を弟貞義に譲渡、淡水社創設;市河桂介・駒井正策・木内重孝・青山忠房らと例会催、詩/書/天文/故実に通ず、「栗太郡志」、「曾束紀行」著、  
[適斎(;)号)の字/通称/屋号]字;元卿、通称;平右衛門、屋号;新屋
- B3090 **適斎**(てきさい・塩野しお/初姓;河西かわにし、名;轍/知哲) 1775-1847 73 塩野周蔵[光迪]の養子、幕臣、1792(18歳)家督;武蔵八王子千人同心組頭、武芸:90若菜豊重門/大平真鏡斎流剣術修得、1801剣術師代の称号許可、1814幕命で「新編武蔵風土記稿」編纂事業に参加;諸所探訪、「弦池謾集」著、1827-33「桑都日記」編、「製阪肥後公遺稿」編/「日光客中漫筆」、「適斎文敵」著、  
[適斎(;)号)の字/通称/別号]字;子明、通称;所左衛門、別号;笛水、法号;勇荘院
- B3091 **適斎**(てきさい・平沢ひらさわ/本姓;源、名;元古) 1776-1834 59 羽後秋田郡扇田の儒者;二階堂竹陰門、1791秋田藩校明德館入学/94帰郷;小野竹溪門/医;武田三益門、1806陸中花輪住;医業、「藻交伝」、「孝経正義」、「仁論」、「論語開蘊」/1832「姓論」著、  
[適斎(;)号)の通称]通称;四郎左衛門/甚吉/淳治
- B3092 **適斎**(てきさい・安藤あんど、名;原淵/通称;郷右衛門) 1779-1849 71 代々延岡藩儒医;禄高2百石、儒者;徂徠に私淑、藩校広業館助教、のちに周易神道を主唱、滝口向陽の師、「周易定論」、「聖道大義」、「読書大義」、「論語公註」著
- B3093 **迪斎**(てきさい・河田/川田かわた、名;興、忠之男) 1806-58 53 讃岐那珂郡金倉の儒者;1820伊予の近藤篤山門、江戸昌平覺門、佐藤一斎に評価され1381その八女緝と結婚、林家の塾頭/1854ペリー来航時に林復斎に従い日米条約文草稿、55幕府の儒臣、1836「書経挿解」37「穆如集」/41「穀音こうおん私議」、「朝鮮継世略」/50「水雲問答」、「恵迪斎集」、「恵迪斎全集」、「外国形勢臆度仕候書」、「南征日記」、「恵迪先生文稿」外著多数、  
[迪斎(;)号)の字/通称/別号]字;猶興、通称;八之助、  
別号;屏淑/藻海/恵迪斎/穀音子こうおんし、法号;恵迪院、熙ひろむの父
- B3095 **適斎**(てきさい・堀内ほりのうち、名;淳/忠迪、素堂男) ?-? 夭逝 江後期羽前米沢の医者;父門、1857刊「医家必携」著
- |             |   |                       |           |
|-------------|---|-----------------------|-----------|
| 適斎(てきさい・勢多) | → | 章純(のりずみ・勢多せた/中原、明法家)  | E 3 5 7 7 |
| 適斎(てきさい・松田) | → | 元兆(もとよし・松田/上部、国学者)    | E 4 4 7 7 |
| 適斎(てきさい・富田) | → | 紹実(つぎさね・富田とみた、藩老/国学者) | G 2 9 0 3 |
| 適斎(てきさい・山口) | → | 養生(よしなり・山口、国学者)       | P 4 7 8 2 |
| 適斎(てきさい・荒木) | → | 素履(もとぶむ・荒木あらかき、国学者/歌) | J 4 4 1 1 |
| 滴斎(てきさい・黒田) | → | 一誠(かずのぶ・黒田くろだ、藩士/歌人)  | M 1 5 3 6 |
| 笛斎(てきさい・堀内) | → | 仙鶴(せんかく・堀内、茶道/俳人)     | F 2 4 0 3 |
| 荻斎(てきさい・黒川) | → | 眞頼(まより・黒川/金子、国学者)     | K 4 0 1 8 |
- B3094 **適山**(てきざん・熊坂くまさか、名;元/晃郷/助広/長俊、伝右衛門男) 1796-1864 69 岩代伊達郡保原絵師、画;蠣崎波響門/上方の浦上春琴門、1844松前藩士、1860-65江戸詰、詩文/篆刻を嗜む、1853「適山画譜」、蘭斎(蘭学/絵師)の兄、  
[適山(;)号)の字/通称/別号]字;子蹟、通称;登/友八/昌三/昌三郎、別号;波玉/千水/通神堂

- 商山(てきざん;入道号) → 久国(ひさくに・川上かわかみ、藩家老/儒者) B 3 7 0 0
- B3096 荻子(てきし・辻つじ、名;景方/景賢かげかた、通称;五平次) 1673-1729<sup>57</sup> 伊賀上野藤堂玄蕃良次の家臣、俳人;芭蕉門、竹人(「芭蕉翁全伝」の作者)の兄、1691「猿蓑」/95浪化「有磯海」入集、1695支考「笈日記」/98「続猿蓑」入集、  
[身ぶるひに露のこぼるゝ鞞うつば哉](続猿蓑;下/狩)  
荻子(てきし・河内) → 荻子(おぎこ・河内かわうち、歌人) D 1 4 9 0  
迪之(てきし・桜田) → 簡斎(かんさい・桜田さくらだ、儒者/勤王派) Q 1 5 6 1  
笛十(てきじゅう・二条庵、俳人) → 三蔵(さんぞう・難波、浄瑠璃/歌舞伎作者) G 2 0 0 0
- B3097 適所(てきしよ・田中たなか、名;允孚、希尹男) 1725-1801<sup>77</sup> 越前府中の医者;奥村南山門/1755開業、1775上京し診療;医・経書を講ず、阿波徳島藩儒医/越前鯖江藩儒、1789福井で医業、篆書を嗜む、1779「医事譚」、「本草薬品録」、「論語講義」、「論語注辨正」著、  
[適所(;号)の字/別号]字;信蔵、別号;必大、法号;嶺山月峯居士
- B3098 適処(てきしよ・正墻しょうがき、名;薫、藩医正墻泰庵男) 1818-75<sup>58</sup> 鳥取の儒;儒官佐善家の養子;復姓、家業の医者;弟玄台継嗣、儒学;建部樸斎・藤沢東暎とうがい・佐藤一斎門、1845昌兵覺入学、大阪の篠崎小竹門、1853鳥取藩儒;藩校吟味役/勤王派、詩文を嗜む;多くの文人と交流、1858「船上山名和港旧跡記」61「研志堂詩鈔」著、  
「大学就正」「杞憂録」「涙余夢巻」「有萍漫筆」著、  
[適処(;号)の幼名/字/別号]幼名;新蔵/造酒之助みきのすけ、字;醇夫/朝華、別号;研志堂
- B3099 適所(てきしよ・本庄/本荘ほんじょう、名;損/一損/仲太、星川せいせん男) 1819-69<sup>切腹</sup> 51 筑後久留米藩儒;初め父門/江戸昌平覺入学、藩校教授/江戸藩邸講学所教官/1861藩主に建白書;殖産興業人材育成を建言、上京し他藩との交渉;公事奉行添役;刑法草案作成、1868罪を得て入獄/翌年切腹、「適所日記」「適所先生幽囚詩」著、掬水(漢詩人)の父、  
[適所(;号)の字/法号]字;仲亀、法号;明了院  
惕四郎(てきしろう・武田) → 済美(せいび・武田、和算家;青谿) J 2 4 4 7
- C3000 荻人(てきじん、初号;春潮/藤下斎)?-? 越中井波の俳人;浪化集団に属す、  
「浪化日記」(1699一門の百韻)入
- C3001 彳人(てきじん・鳥一居) ? - ? 俳人;1715乃露だいろ「八ゆうぐれ」入/序
- C3002 滴水(てきすい・村山、風流子)?-? 京の雑俳点者;方山門/  
1696良弘「俳諧高天鷲たかまのうぐいす」点入
- C3003 滴水(てきすい) ? - ? 能登七尾の俳人;1690北枝「卯辰集」入、  
[五月雨やけふもまた聞く松の鷲](卯辰集;卷二203)
- C3004 滴水(てきすい・設楽しだら、名;棟持) 1724-1808<sup>85</sup> 武州秩父堀切村の医者、大野均長・武島頼三の師、  
「採葉筆録」「習医筆記」「滴水医話」著、  
[滴水(;号)の字/通称]字;玄達、通称;求馬  
滴水(てきすい;法諱) → 曹源(そうげん;道号・滴水、曹洞僧) H 2 5 1 6  
笛水(てきすい) → 適斎(てきさい・塩野、幕臣/武芸) B 3 0 9 0  
摘翠(てきすい・中西) → 耕石(こうせき・中西なかにし、絵師) K 1 9 1 0  
摘翠(てきすい・佐沢) → 広胖(こうはん・佐沢さざわ、藩士/儒者) L 1 9 0 0  
摘翠(てきすい・入江) → 済民(さいみん・入江いりえ、藩士/詩文) H 2 0 0 5  
迪粹(てきすい;法諱・荊林) → 荊林(けいりん;道号・迪粹、臨濟僧) G 1 8 8 3  
摘菘翁(てきすうおう、摘菘人) → 海屋(かいおく・貫名ぬきな、書家/画人) 1 5 9 1  
滴水堂(滴水堂てきすいどう) → 貞頼(さだより・河原かわはら、藩士/測量術) C 2 0 6 8  
笛成(てきせい) → 笛成(ふえなり・麦原/樵歌亭、狂歌) B 3 8 2 0  
適成(てきせい・辻葩) → 百済(ひやくせい・辻葩つじはな、藩士/儒者) E 3 7 6 0  
適清先生(てきせいせんせい) → 穀山(こくざん・小田/田、漢学) F 1 9 5 5  
摘星楼(てきせいろう) → 百年(ひやくねん・鈴木すずき、絵師) E 3 7 7 3
- 3073 荻雪(てきせつ) ? - ? 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、  
[身は雲や霜に虹見む丸木橋](丁卯集;三橋/秩父丸木橋)  
笛仙(てきせん・原) → 昌言(まさこと・原はら、庄屋/歌人) R 4 0 9 7  
鐺川堂(てきせんどう) → 東壑(とうえい・小田おだ、医者) B 3 1 3 3

- 惕窓(てきそう・木崎) → 正敏(まさとし・木崎、商家/歌/地誌) E 4 0 4 6  
 笛叟(てきそう) → 仙鶴(せんかく・堀内、茶人/俳人) F 2 4 0 3  
 翟巢(てきそう・斎藤) → 月岑(げつしん・斎藤さいとう、名主/随筆家) B 1 8 0 7  
 出来蔵(できぞう・田中) → 月歩(げつぽ・田中たなか、俳人/文人) H 1 8 3 6  
 滌桑翁(てきそうおう) → 宗達(そうたつ・速水はやみ、医者/茶人) I 2 5 3 9  
 了了道人(てきちよくどうじん) → 杼山(ちよざん・瑞芳、曹洞僧) K 2 8 3 9  
 的々庵(てきてきあん) → 長主(ながぬし・中田なかつ、商家/国学) O 3 2 0 7  
 適々園(てきてきえん) → 香坡(こうは・橋本はしもと、儒者/詩/勤王) F 1 9 3 4  
 適々斎(てきてきさい) → 洪庵(こうあん・緒方、蘭医/教育) 1 9 6 9  
 惕々子(てきてきし) → 篁洲(こうしゅう・榊原さかきばら、漢学者/詩) 1 9 1 1  
 了了道人(てきちよくどうじん) → 杼山(ちよざん; 道号・瑞芳いほう、曹洞僧) K 2 8 3 9  
 C3006 荻堂(てきどう・藤掛ふしかけ) ? - ? 江中期1716-36頃摂津堺の雑俳点者、  
 「猷納左海三村宮五千句集」評  
 的堂(てきどう・河瀬) → 蒼雄(すお・河瀬かわせ、医者/歌学者) B 2 3 6 0  
 笛南子(てきなんし・井上) → 童平(どうへい・井上、酒造業/俳人) H 3 1 0 6  
 擲筆庵(てきひつあん) → 華雀(かじゃく、俳人) C 1 5 0 9  
 C3007 荻風(てきふう・園田そのだ、別号; 三田舎/白髮庵/莫争庵) ?-? 江後期1781-1830頃大阪の雑俳点者、  
 天明1781-89年間から文政1818-30にかけて活躍; 大坂点者の第一人者、1781「秀詠評林」編、  
 1784「青賊とくさ」87「折句新統選」90「若とくさ」92「類題折句集」93「場付ぼつけ五色種」編、  
 1793「かざしぐさ」「折句花山椒」編/96「折句杖」「折句後宴菊」編/1800「新とくさ」編、  
 1801「折句誹諧小筵」編/09「五色墨」編(長水ら五子の踏襲)、1819「冠附花目鏡」編  
 笛風(てきふう・並木; 歌伎作) → 丈輔(じょうすけ・並木、浄瑠璃/歌舞伎作者) T 2 2 7 4  
 笛風楼(てきふうろう) → 文彦(ぶんりゅう・石井いせい、俳人) G 3 8 6 9  
 笛阜道人(てきふどうじん) → 月筵(げつせん; 字・崇信、真宗僧/宗典) H 1 8 1 4  
 3010 笛浦(てきほ・野田のだ、名; 逸、通可男) 1799-1859 61 丹後田辺藩士、儒; 古賀精里・洞庵門、  
 江戸昌平覺助教、1826清国商船得泰船の船員と筆談: 「得泰船筆語」著、  
 江戸で学塾を開く、大阪で講説、1850帰藩: 側用人/執政/57家老、詩文を嗜む、  
 「北越遊草」「海紅園文稿」「笛浦詩文集」著、1847「藤樹先生画像記」49「今世名家文鈔」著、  
 「笛浦小稿」「海紅園小稿」「周急詩録引」著、  
 [笛浦(;号)の字/通称/別号]字; 子明/子前、通称; 希一/希一郎、別号; 海紅園、法号; 栢林院  
 迪甫(てきほ・草野/佐藤) → 固庵(こあん・佐藤さとう/草野、儒者) G 1 9 2 0  
 適圃(てきほ) → 香国(こうこく・村田むらた、絵師/詩/書) I 1 9 7 9  
 笛峰(てきほう; 号) → 月筵(げつせん; 字・崇信、真宗僧/宗典) H 1 8 1 4  
 摘芳(てきほう・森) → 正門(まさかど・森、藩士/和算/三角関数) C 4 0 1 5  
 C3008 的門(てきもん; 法諱・法嚴ほうごん; 字、俗姓; 高橋、教住男) 1808-89 82 越中富山浄土僧; 極楽寺的山門、  
 芝増上寺で修学/1830上京; 順阿・十阿門/長門大日比の法洲門/34京の大雲院住職、  
 維新頃廃仏毀釈に対抗し著述、「大原問答資講」「一枚起請竹園説」「西要鈔辨釈」外著多数、  
 [的門(;法諱)の通称/号/法名]通称; 北条的門、号; 水月庵、法名; 即蓮社/得誉/忍阿  
 C3009 出久廼坊画安(でくのぼうかきやす) ?-1871 江末期狂歌師/絵師、  
 土師搔安はじのかきやすとの関連は不明 → 搔安(かきやす・土師、狂歌) B 1 5 2 7  
 木偶坊伯鱗(でくのぼうはくりん) → 伯鱗(はくりん、講釈師) E 3 6 1 3  
 C3010 弟子(でし・真野首まのおびと) ?- ? 612百濟渡来の味摩之(みまし)から伎楽を習得[日本書紀入];  
 新漢齊文(いまきのあやもさも)らと桜井で学ぶ  
 豊島采女(てしまのうねめ) → 豊島采女(としまのうねめ、万葉歌人) N 3 1 7 7  
 手酌酒盛(てじゃくのさかもり・成三樓) → 酒盛(さかもり・成三樓、戯作者) H 2 0 1 3  
 C3011 出諏訪耳彦(ですわみみひこ、本名; 西井彦吉) ?-? 江中期江戸牛込狂歌; 朱楽連、1785「後万載集」2首入、  
 [手を出して立たり居たりいそがしくするは給仕の盆踊かも](後万載集; 三230)  
 C3012 哲(てつ・和田わだ/初姓; 中村) 1766-1815 50 肥後の医者; 初め儒を修得中中国の医学を知る、  
 天明1781-89頃京の和田東郭門/古医学が認められ養嗣子となる、  
 1814典薬寮医師に抜擢/従六上能登介; 翌年没、「医学説」「膜原説」/1805「導水瑣言」著、

[哲(；名)の字/通称/号]字；哲郎、通称；泰中/泰仲/泰沖、号；黙所/握虎

徹(てつ・都沢)	→	徹(とおる・都沢みやこざわ、藩士/儒者)	I 3 1 8 0
徹(てつ・肥田野)	→	築村(ちくそん・肥田野ひたの、儒者)	D 2 8 4 2
徹(てつ/とおる・江邨)	→	磊堂(らいどう・江邨えむら/田中、藩医)	4 8 8 7
徹(てつ・貫名)	→	徹(とおる・貫名ぬきな/井伊、家老/歌)	W 3 1 0 3
哲(てつ・馬場)	→	竹坡(ちくは・馬場、儒者)	D 2 8 7 1
哲(てつ・大鳥居)	→	信賢(しんけん・大鳥居/菅原/高辻、社僧/連歌)	O 2 2 1 4
哲(てつ・東条)	→	方庵(ほうあん・東条とうじょう、儒者)	3 9 1 0
哲(てつ・沢田)	→	東洋(とうよう・沢田、書家)	H 3 1 8 6
哲(てつ・中川)	→	淡斎(たんさい・中川ながわ、蘭方眼科医)	I 2 6 7 2
哲(てつ・戸崎/崎/源)	→	淡園(たんえん・戸崎/崎/源、家老/漢学)	H 2 6 9 4
鉄(てつ・富永/荒木)	→	蘭阜(らんこう・荒木あらか/富永、儒者/詩)	B 4 8 9 9
轍(てつ・河西/塩野)	→	適斎(てきさい・塩野/河西、幕臣/剣術)	B 3 0 9 0
轍(てつ・堀)	→	轍(わたち・堀ほり、歌人)	5 3 8 8
鍊(てつ・森もり)	→	東郭(とうかく・森、儒者；宋学)	C 3 1 1 2
臺(てつ・木村)	→	宗臺(そうてつ・木村きむら、庄屋/国学)	I 2 5 5 6
哲阿彌(てつあみ)	→	晩得(ばんとく・佐藤、藩士/俳人)	I 3 6 4 4
哲庵(てつあん→哲庵ていあんの誤)	→	鼎菴(ていあん・石原、医/儒)	3 0 2 3
哲庵(てつあん・田中)	→	尚房(なおふさ・田中たなか、藩医/国学)	N 3 2 6 3
鉄庵(てつあん→てつたん)	→	鉄庵(てつたん・道生どうしゅう、臨濟僧)	C 3 0 1 3
鉄胤(てついん・平田)	→	鉄胤(かねたね・平田、国学)	C 1 5 7 6
鉄迂人(てつうじん)	→	葦原(いげん・児島強介、儒/詩歌)	1 1 4 7
鉄右衛門(てつえもん・大立目)	→	克明(よしかき・大立目おのだつめ、儒者)	B 4 7 9 9
鉄右衛門(てつえもん・木戸)	→	良貞(よしかだ・木戸きど、郷土/歌人)	M 4 7 3 8

C3015 **哲夫**(てつお・赤松あかまつ、字；明、号；空洞山人) ?-? 幕末期美作の医者/蘭学者、  
1848「機体一覽」、「内服同功」「銀海探珠」著

哲夫(てつお・東条)	→	方庵(ほうあん・東条とうじょう、儒者)	3 9 1 0
哲夫(てつお・丹羽)	→	正伯(しょうはく・丹羽にわ、医者/本草)	B 2 2 2 1
哲夫(てつお・松井)	→	蠅翁(ようおう・松井/平、医者/国学者)	4 7 6 7
哲夫(てつお・正木)	→	幽谷(ゆうこく・正木まさき、儒者/詩人)	B 4 6 6 5
鉄雄(てつお・小笠原)	→	長裕(ながたか・小笠原おがさわら、歌/神職)	L 3 2 3 6
徹翁(てつおう；道号)	→	徹翁(てつとう；道号・義亨、臨濟僧)	E 3 0 7 6
徹翁(てつおう・藤村)	→	庸軒(ようけん・藤村/久田、商家/茶人)	4 7 7 3
徹翁(てつおう・水野)	→	忠格(ただり・水野みずの/松平、藩家老/歌)	Z 2 6 7 6
鉄翁(てつおう；道号)	→	鉄翁(てつとう；道号・祖門そもん；法諱、臨濟画僧)	F 3 0 1 6
鉄翁院(てつおういん；法号)	→	直為(なおゆき・堀ほり、藩主/武芸)	C 3 2 8 6
徹応先生(てつおうせんせい)	→	豊洲(ほうしゅう・竹内たけうち、儒者)	B 3 9 4 9

C3016 **鉄柎**(てつかい・宮田みやた、通称；周斎、医者丹順[圭山]男) ?-1784 摂津兵庫の医者；父門、  
俳人；京の嘯山門、1782「天明二壬寅年歳旦」編

C3017 **鉄外**(てつがい；道号・呑鷲どんさく[俗称；どんぞく]；法諱、号；蘆雪) 1592-1679<sup>88</sup> 長門曹洞僧；門解蘆関門、  
1636磐城三春藩主松下長綱の招聘で三春の州伝寺住持、常陸杉室の大雄院住寺、  
1651江戸泉岳寺5世/57下野都賀郡の大中寺17世、1662退院；相模玉縄の天嶽院隠棲、  
「鉄外和尚再吟」「鉄外和尚代鈔」著

C3018 **鉄崖**(てつかい；道号・道空どうくう；法諱、徳島藩士浅井為政男) 1626-1703<sup>78</sup> 浅井長政孫、阿波の禅僧、  
初め臨濟宗妙心寺派瑞巖寺慶岳門；出家/1641(15歳)鳥取竜峯寺提宗慧全門、  
黄檗宗隠元隆琦門/木庵性瑠の侍者、1656阿波大安寺住持/阿波名東郡津浦に竹林院開、  
のち永明寺と改名開山、1679「鉄牛禅師語録」編/91「臨濟録撮要鈔」、「鉄崖和尚語録」著  
[鉄崖道空の初道号] 守貞しゅてい

C3019 **鉄崖**(てつかい；道号・普願/普頑ふがん；法諱) ?-1747 因幡曹洞宗興宗寺住僧；無得良悟門；法嗣、  
1737「紫芝林稿」42「紅炉百鍊録」著

- C3020 **徹外**(てつがい;法諱・松江堂;号)?-? 江後期僧/神道:ト部流、1818出雲掛合専正寺で講義、1817「大日本道枝折」/18「唯一神道六十六箇伝聴記」「大祓温古録」著
- C3021 **鉄峯**(てつがい・阿万あまん、名;忠厚、忠誠[玄洞]男)1810-7667 日向飢肥藩士/儒:安井滄洲・息軒門、1832昌平覺入、帰郷;郷里の明教堂教授;郷土振興尽力、1867藩用人上席/藩校振徳堂教授、1832-67「東行日記」43-68「尚友堂日記」1862「歐行日記」63「旅中日記」、「鉄山万覚日記」著、[鉄峯(;)号]の字/通称/別号]字;篤夫、通称;豊蔵、別号;尚友堂  
鉄崖(てつがい・富岡) → 鉄斎(てつさい・富岡とみおか、絵師/詩文) C 3 0 3 3  
鉄崖山人(てつがいさんじん) → 太逸(ひろはや・伊東いとう/藤原、医者) L 3 7 1 1  
鉄華居士(てつかこじ) → 秋台(しゅうだい・浅野屋、晝業/書家) X 2 1 9 8
- C3022 **鉄関**(てつかん;道号・元参げんさん;法諱、初号;徹関)?-1735 豊後日田郡津江郷の黄檗僧:  
1685鉄牛道機門;嗣法、90肥後益城郡吉野の靈山寺復興;住寺/のち威徳山臨濟寺と改称、1709飽田郡松尾村に移転/1725江戸白金瑞聖寺12世、「鉄関和尚語録」「鉄関禅師語録」著  
鉄幹(てつかん・岩瀬/小野) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7  
鉄幹(てつかん・桑田) → 省庵(せいあん・桑田/小久保、医者) H 2 4 3 2  
鉄幹(てつかん・宮崎) → 鉄幹(かねもと・宮崎みやざき、藩士/歌人) V 1 5 8 6
- C3023 **鉄丸**(てつがん) ? - ? 讃岐丸亀俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入  
鉄眼(てつがん→てつげん) → 鉄眼(徹玄てつげん・道光、黄檗僧) C 3 0 2 8  
鉄寒士(てつかんし) → 鉄石(てつせき・藤本、勤王/天誅組) C 3 0 5 1  
鉄冠道人(てつかんどうじん) → 南海(なんかい・祇園/祇/阮、儒/詩/画) 3 2 3 0  
鉄吉(てつきち・森田) → 良見(良美よしみ・森田、藩士/国学者) H 4 7 2 9  
鉄吉(てつきち・室谷) → 賀親(よしちか・室谷むろたに、商家/国学者) E 4 7 5 8  
鉄吉(てつきち・富田) → 良穂(よしほ・富田とみた、藩士/神職) O 4 7 0 4  
鉄吉郎(てつきちろう・松平) → 康正(やすまさ・松平、藩家老/尊攘派) C 4 5 9 8  
鉄橋(てつきつ・室谷) → 賀親(よしちか・室谷むろたに、商家/国学者) E 4 7 5 8  
鉄脚道人(てつきゃくどうじん) → 政二(まさじ・佐々木ささき、藩士/俳人) C 4 0 6 4
- C3024 **鉄牛**(てつぎゅう;道号・円心/圓心えんしん;法諱、俗姓;菅)1254-132673 筑前靈岩臨濟僧;円爾門;法嗣、承天寺2世/太宰府の光明寺を開く、「聖一国師年譜」編(;)円爾の遺命で編纂)
- C3025 **鉄牛**(てつぎゅう;道号・道機どうき;法諱、俗姓;益田)1628-170073 長門須佐の生/1634因幡鳥取に移住、1638(11歳)竜峰寺提宗慧全門;42出家/48京の妙心寺入室;諸寺歴参/55黄檗宗;隠元・木庵門、1667木庵性瑠もくあんしょうとう最初の嗣法者、小田原紹太寺・武蔵弘福寺・仙台大年寺の開山、京葉室の浄住寺中興/山城宇治万福寺に長松院創建、鉄眼道光の大蔵経板行事業に協力、下総椿沼干拓事業に参画功績;同地椿新田に開山した福聚寺で没;1712国師号勅賜、1679・1700「鉄牛禅師語録」、1685「名徳集」編、1695「黄檗木庵禅師語録」、「木庵和尚全録」編、1700「鉄牛禅師自牧摘集」、「鉄牛禅師内外集」「鉄牛禅師百四十八吟集」「扣響集」著、「東苑壽英」著  
[鉄牛道機の初法諱/号]初法諱;慧覚/定機、号;自牧子、諡号;大慈普応国師  
鉄牛(てつぎゅう;初道号) → 東溪(とうけい:道号・宗牧そぼく、臨濟僧) D 3 1 0 1  
鉄牛(てつぎゅう・由利) → 公正(きみまさ・由利ゆり/三岡、藩士/財政/政治) I 1 0 7 5  
鉄橋(てつきょう・室谷) → 賀親(よしちか・室谷むろたに、商家/国学者) E 4 7 5 8  
鉄空(てつこう) → 純固(じゆんこ;法諱・幻飲、浄土西山派僧) J 2 1 5 3
- C3026 **鉄鶏**(鉄雞てつけい・畑はた、銀鶏男/本姓;平)1814-6249上州七日市の医者;江戸で伊東玄朴門、儒(経義);東条琴台門、画;沈南蘋門、1843江戸田所町で医業/帰郷し七日市藩前田家藩医、シーボルト事件連座の稲部種昌(1786-1840)が七日市藩主前田家預となり鉄鶏のみ面会、蘭学・西洋医学の伝授を受ける;藩内医学に貢献、種昌は牢死;藩主は手厚く埋葬;赦免、1854「款識百例」「款識百例続編」、「西洋画談」「翰音斎治験方」著、娘;鶏卵(狂歌作者)、[鉄鶏(;)号]の名/字/通称/別号]名;時習、字;習之、通称;道意、別号;翰斎/翰音斎主人、法号;勝仙院  
参照 祖父 → 金鶏(きんけい・畑、医者/狂歌作者) 1 6 6 0  
父 → 銀鶏(ぎんけい・畑、医者/狂歌/戯作者) D 1 6 9 5  
鉄卿(てつけい・関) → 雪江(せつこう・関せき、儒者/書家) E 2 4 2 3

- C3027 **鉄硯**(てっけん) ? - ? 京俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入  
 哲頭(てっけん・大隅/藤木) → 哲頭(さちあき・藤木/大隅、神職) K 2 0 4 2  
 鉄研(てっけん・齋藤) → 拙堂(せつどう・齋藤、儒者/藩学/詩歌) 2 4 2 1
- C3028 **鉄眼**(てつげん;道号・道光どうこう;法諱、社僧佐伯浄信男) 1630-8253 父は肥後益城守山八幡社の社僧、  
 1642(13歳)真宗僧;海雲門;出家/小倉西照寺西吟門、1655黄檗僧;隠元・木庵・即非門/禅僧、  
 1662清からの大蔵経購入発願/70隠元より明版大蔵経を贈与;宝蔵院を設け板行事業開始、  
 1681鉄眼版大蔵経完成、81畿内の大飢饉救済に奔走;疫病感染し82没、「般若心経大意」著、  
 「鉄眼禅師仮字法語」「大明三蔵聖教目録」「楞嚴講談破釈評判」著、「鉄眼禅師遺録」、  
 [鉄眼道光(てつげんどうこう)の初道号/諡号]初道号;徹玄、諡号;宝蔵国師  
 鉄硯斎(てっけんさい・富岡) → 鉄斎(てっさい・富岡とみおか、絵師/詩文) C 3 0 3 3  
 鉄硯舎(てっけんしゃ) → 平之丞(へいのじょう・岩井、鍛冶業/狂歌) 2 7 7 8  
 鉄硯道人(てっけんどうじん) → 魯堂(ろどう・那波なば、儒者/藩儒) C 5 2 2 3
- C3029 **鉄虎**(てつこ) ? - ? 江前期俳人;1693俳諧作法書「呉竹くれたけ」編  
 鉄公(てつこう;法名) → 政行(まさゆき・松田/源、武士/連歌) I 4 0 1 8  
 鉄格子波丸(てつごうしはまる) → 波丸(はまる・鉄格子、狂歌/滑稽本) F 3 6 6 8  
 鉄五郎(てつごろう・山口) → 高品(たかただ・山口、幕臣/蝦夷調査) M 2 6 2 1  
 鉄五郎(てつごろう・早川) → 信道(のぶみち・早川はやかわ、和算家) D 3 5 4 2  
 鉄五郎(てつごろう・梅津) → 忠至(ただり・梅津うめづ、藩士/国学者) F 2 6 6 1  
 鉄五郎(てつごろう・山田) → 千疇(ちうしゆ・山田、国学者) 2 8 3 9  
 鉄五郎(てつごろう・落合) → 雙石(そうせき・落合おちあい、藩儒/詩人) C 2 5 3 3  
 鉄五郎(てつごろう・朽木) → 綱条(つなえだ・朽木くつき/源、藩主/儒者) B 2 9 0 3  
 鉄五郎(てつごろう・那須) → 資礼(すけひろ・那須・藤原/佐竹、幕臣) C 2 3 6 4  
 鉄五郎(てつごろう・南部) → 利剛(としひさ・南部なんぶ、藩主/国学/歌) T 3 1 7 7  
 鉄五郎(てつごろう・牧) → 義制(よしまさ・牧まき/堀、幕臣/歌人) H 4 7 1 6  
 鉄五郎(てつごろう・落合) → 木之(きの・落合おちあい、藩士/俳人) D 3 9 3 4  
 鉄五郎(てつごろう・熊谷) → 範忠(のりただ・熊谷くまがい/波多野、国学) I 3 5 2 9  
 鉄崑崙(てつこんろん) → 海嶠(かいきょう・玉井たまゐ、医者/儒詩) I 1 5 5 4
- F3014 **徹斎**(てっさい・堤つみ、旧姓;荒居) 1680-175374 近江坂田郡の医者、歌人;[彦根歌人伝・亀]入、  
 良懐よしかねの父、諡;秋蛙翁、1753(宝暦3)1月に息子良懐没;3ヶ月後の4月に没す、  
 徹斎 -良懐よしかね -大防だいぼう -義府よしもと・宣信のりふと医家が続く、
- C3030 **徹斎**(てっさい・平瀬ひらせ、名;輔世すけよ) ?-? 江中期大阪船町の書肆;1748「売買出世車」、  
 1754「日本山海名物図会」編/57「八木宝の市」64「絵本放下笠」編、68「書林葉」、「天狗通」著、  
 [徹斎(;号)の通称/別号]通称;千種屋新右衛門、別号;草野/赤松閣鬼望せきしょうかくきぼう
- C3031 **鉄斎**(てっさい) 1775 - 183157 遠江(信州諏訪の生?)の俳人;4世雪中庵完来門、  
 1818「雪の花」19「染雲帖」編、「若葉帖」「三節」著、  
 [鉄斎(;号)の別号] 蚊牛(;初号)/三井園/池守/三井老人
- C3032 **徹斎**(哲斎てっさい・畠中はたなか、通称;庄作、観斎[銅脈先生]男) ?-? 江後期京の儒者/詩/狂詩;父門、  
 江戸で幕臣小笠原三九郎に出仕/囲碁;林門悦門・本因坊に入門、  
 1817「当世碁譜」(;林元美の原稿)の序文;3日間の入牢、1823「対勢碁鏡」著
- C3033 **鉄斎**(てっさい・富岡とみおか、名;鉄輔/百鍊、十一屋伝兵衛[富岡維叙]男) 1836-192489 京の商家の生、  
 絵師;大角南耕・窪田雪鷹門/浮田一蕙いっけい・小田海僊門;大和絵と南画を修得、  
 長崎遊学;明清画を研究し文人画を大成、国学:大国隆正門/儒;岩垣月洲・春日潜庵門、  
 詩文;慈本門、勤王思想;志士と交流、維新後は神社復興に尽力、1864「称呼私弁」著、  
 1867「宣興盞壺に譜」「鉄荘茶譜」訳、「書相州民戸海蔵家立法後」「孫呉約説」著、  
 [鉄斎(;号)の字/通称/別号]字;無倦/通称;道節/鉄四郎、別号;裕軒/賸々翁かいてう/寒翁/  
 鉄崖/鉄硯斎/鉄山人/鉄史/鉄人/鉄鎗斎/鉄道人/鉄如意斎  
 哲斎(てっさい・亀田) → 高綱(たかつな・亀田/溝口、武将/戦記) M 2 6 2 7  
 哲斎(てっさい・藤本) → 箕山(きざん・藤本ふじもと/畠山・笠原、古筆鑑定/色道) 1 6 1 3  
 哲斎(てっさい・谷) → 了閑(りょうかん・谷たに、藩医) G 4 9 9 5  
 哲斎(てっさい・中山) → 千鶴(ちづる・中山なかやま、商家/歌人/書) N 2 8 1 8

- 徹齋(てっさい;号) → 伊織(いおり・一尾いちお、幕臣/茶の湯) F 1 1 1 2  
徹齋(てっさい・土肥) → 徳経(のりつね・土肥どひ、国学/歌人) J 3 5 2 8  
轍齋(てっさい) → 種彦(2世たねひこ・柳亭、高橋、初世笠亭仙果、戯作者) 2 6 4 4  
鉄齋(てっさい) → 親具(ちかとも・水無瀬/堀川/高倉、廷臣) B 2 8 3 2  
鉄齋(てっさい・津田) → 眞道(まみち・津田つだ、洋学者/法学) K 4 0 1 2  
鉄齋(てっさい・小田) → 又蔵(またぞう・小田/後閑、幕臣/奉行) J 4 0 4 8  
鉄齋(てっさい・中村) → 愈積(まさかず・中村なかむら、歌人) R 4 0 1 9  
鉄齋(てっさい・荒木) → 蘭阜(らんこう・荒木あらか、富永、儒者/詩) B 4 8 9 9  
鉄齋員徳(てっさいいんとく) → 高綱(たかつな・亀田/溝口、武将/戦記) M 2 6 2 7  
鍊三郎(てつさぶろう・林) → 信方(のぶかた・林やはし、幕府儒官) B 3 5 1 9  
鉄三郎(てつさぶろう・中条) → 信敬(のぶゆき・中条ちゅうじょう、幕臣/高家) D 3 5 6 8  
鉄三郎(てつさぶろう・堀) → 親審(ちかしげ・堀、藩主/天保改革) 2 8 9 8  
鉄三郎(てつさぶろう・堀) → 親義(ちかおり・堀、親審男/藩主/日記) B 2 8 6 4  
鉄三郎(てつさぶろう・堀) → 孝善(たかよし・堀ほり、藩士/算用者) N 2 6 7 5  
鉄三郎(てつさぶろう・佐々木) → 柳庵(りゅうあん・佐々木ささき/青山、儒者) C 4 9 6 8
- C3034 **鉄山**(てつざん;道号・宗鈍そうどん;法諱、俗姓;窪田) 1532-161786 甲斐上条の臨濟僧;恵林寺で出家、駿河臨濟寺の太原崇孚・東谷宗泉門/東谷の嗣法;駿河臨濟寺住持、1575妙心寺住持、1592家康の招きで武蔵平林寺住持/1598妙心寺再任/1606同寺大竜院を開創;退隱、1565「鉄山百篇集」1607「懶齋集」/「金鉄集」「鉄山集」「山林風月集」「山林護法集」著、「鉄山法語集」「古聯句集叢」「左花右竹」、「鉄山和尚語録」「仏眼禪師語録」著、  
[鉄山宗鈍の号] 懶齋らんさい、諡号;靈光仏眼禪師
- E3082 **鉄山**(てつざん) ? - ? 江前期甲斐の俳人;1693不角「二息」入、  
[そつと膝突かれて角を成る王手](二息/見物から突かれて気付き角成り大手)
- C3035 **徹山**(てつざん・森) 1775 - 184167 江後期絵師;円山応挙門/円山四条派絵師  
徹山(てつざん・伊達) → 重村(しげむら・伊達だて、藩主/歌人) D 2 1 1 2  
徹山(てつざん・平沢) → 香山(こうざん・平沢ひらさわ、藩儒者) G 1 9 3 6  
徹山(てつざん・武者小路) → 実純(さねいと・武者小路/藤原/三条、廷臣/歌) K 2 0 7 4  
徹山(てつざん・小出) → 英輝(ふさてる・小出こいで、旗本/国学) I 3 8 2 1  
鉄山(ていざん;号) → 智定(ちじょう;法諱、鉄山、黄檗僧) E 2 8 4 3  
鉄山師(てつざんし・木下) → 久隆(ひさたか・木下きのした、大庄屋/製鉄) J 3 7 1 6  
鉄山人(てつざんじん・富岡) → 鉄齋(てっさい・富岡とみおか、絵師/詩文) C 3 0 3 3
- C3036 **轍士**(てつし・室賀むろが) ? - 1707 大阪の俳人:宗因門/1693京高倉四条下ルに住、江戸・奥州・北陸を行脚、西鶴・団水と親交、1690「黒うるり」91「我が庵」92「誹諧白眼」編、1692「世のため」「わだち」著/93「誹諧糸屑」94「此日」「七車集」/96「元禄拾遺」編、1701「俳諧菩薩」編/1702俳人を遊女に見立てた評判記「花見車」編(匿名)、1706「誹諧諸国咄」「よさくら」編、「尾山集」「似我蜂」「墨流し」「葵車」「後瀬山」「自在講」著、其角追悼集「曙鶯編」編纂途中没、[屋根葺やねふきや小歌もならずほとゝぎす](花見車)、  
[麦の穂に尾を隠さばや老狐](辞世)、  
[轍士(;号)の別号] 風翁/束鮒巷そくぶこう/仏狸齋ぶつりさい
- C3037 **鉄士**(てつし) ? - ? 江中期俳人:巴人門?、1732巴人「卯花千句」参加  
鉄子(てつし;号) → 龍派(りゅうは;道号・禅珠、臨濟僧/詩) F 4 9 3 8  
鉄史(てつし・富岡) → 鉄齋(てっさい・富岡とみおか、絵師/詩文) C 3 0 3 3  
哲治(てつじ・有松) → 正信(まさのぶ・有松ありまつ、和算家) F 4 0 7 6
- E3087 **鉄師禪尼**(てつしぜんに/鉄獅尼) ? - ? 江中期;黄檗宗尼僧;江戸築地辺住、高田与閑庵主、歌;1798刊石野広通「霞関集」入、  
[世離れて春のいそぎを知らぬ身は暮れ行く年も長閑なりけり]、  
(霞関;冬681/閑中歳暮)
- 鉄者(てつしや・土岐) → 周輔(しゅうすけ・土岐/源、僧/国学者) X 2 1 7 5
- C3038 **鉄舟**(てつしゅう;道号・徳濟とくさい;法諱、号;百拙/円通大師) ?-1366 下野の臨濟僧;夢窓疎石の法嗣、入元;諸師に参禅/帰国後1347阿波補陀寺住持/62京の満寿寺29世、天竜寺竜光院創;退隱、

- 詩/書/水墨画に秀でる、元の順宗帝より円通大師の号、「閻浮えんぶ集」、「鉄舟和尚語録」著
- C3039 **鉄舟**(てつしゅう;道号・元英げんえい;法諱、俗姓;山崎) 1646-1719 74 越後村上のの僧;初め曹洞・のち黄檗、1657(12歳)曹洞宗長楽寺で出家/66江戸で修学/のち黄檗僧;宇治万福寺の木庵性瑠門、木庵の嗣法、美濃清水寺住持/尾張竜雲寺住持、「禅余適稿」著
- C3040 **鉄舟**(てつしゅう;道号・宗珠そうしゅう;法諱)?-1698 臨濟僧;沢雲門、円光寺住持、享保1684-88頃洛東一乗寺の金福寺(天台宗)を中興;臨濟宗寺院とす、俳人、芭蕉と親交;金福寺境内に芭蕉庵がある、道立「写経社草」入、
- C3041 **徹周**(てつしゅう;法諱・石叟せきそう;道号)?-1768 曹洞僧;芳巖祖聯門/法嗣、因幡鳥取天徳寺13世、金沢天徳院11世、「金竜語録」著
- C3042 **徹周**(てつしゅう;法諱・字;是海/号;専信院、俗姓;佐々木) 1818-94 77 越前花堂村の農家、真宗大谷派高倉学寮で修学/越前の専久寺住職、実語教会を組織し布教活動:東本願寺から排斥される/1875時宗に転宗、1866「信領異義教論」、「宗要愚案記」著、「改悔文偶語録」「嘉永御調理顛末」「機法二種信心問答記」「信願教論評」著、「九条家結縁事情」著
- C3043 **鉄舟**(てつしゅう・山岡やまおか;名;高歩たかゆき、幕臣小野高福男) 1836-88 53 母;磯、江戸本所の生、実父の飛騨郡代赴任に従う/1852江戸で剣術:千葉周作門/槍;山岡静山門:師の妹婿/山岡家を継嗣、幕臣;1856講武所剣術世話心得/62浪士組取締役、1868江戸開城・浪人鎮圧に尽力、維新後;徳川慶喜に随従し駿府で民政安定に尽力、1874宮内省で天皇側近、参禅/80剣禅一致の一刀正伝無刀流を創始/禅寺全生庵を開、書を嗜む、「徳川家承祀」「鉄舟言行録」著  
[鉄舟(;)の字/通称/別号]字;曠野/猛虎、通称;鉄太郎、別号;一楽斎、法号;全生庵  
鉄舟(てつしゅう・八田/宍戸)→ 都の錦(みやこのにしき、浮世草子作者) 4 1 3 9  
鉄舟(てつしゅう・松田) → 雪柯(せつか・松田、神職/儒/書家) K 2 4 7 7  
鉄十字(てつじゅうじ・渡辺)→ 重石丸(いかりまる・渡辺、国学・神道家) B 1 1 4 0  
鉄所(てつしよ・真川) → 本雄(もとお・真川まがわ/藤原、国学/神道) L 4 4 2 5  
鉄如(てつじよ・竹内) → 又玄(またくろ・竹内たけうち、医者/本草) J 4 0 3 7  
鉄松(てつしよ・山田/津田)→ 通明(みちあき・津田/山田、藩士/馬術家) B 4 1 0 7  
哲松(てつしよ・松平) → 頼續(よりつぐ・松平まつだいら、儒/歌/神職) P 4 7 2 3  
徹紹(てつしよ;法名) → 頼言(よりのき・山科/藤原、廷臣/故実/歌) J 4 7 1 7
- C3044 **徹定**(てつじょう;法諱・法名;瑞蓮社順誉/金剛/宝阿、鶉飼政善男) 1814-91 78 筑後浄土僧;1819出家、江戸芝増上寺で修業、京・奈良で古写経調査に従事、1861武州岩槻浄国寺住職、増上寺学寮司、1872浄土宗初代管長/73京知恩院75世住持、維新後復姓;養鷗うかい、仏教の正統性主唱、1842「縁山詩叢」/61「關邪管見録」著/62「羅漢図讚集」63「古経題跋」編、1866「続興学編」、「金城筆語」「松翁閱蔵雑攷」「關邪集」、「古経堂詩文草稿」外著多数、  
[徹定の号] 古経堂/仏眼南谿/松翁/古溪/琴浦/松影道人/杞憂道人、  
喆性院(てつしやういん;法号)→ 月斎(げつさい・沼田ぬまた、藩士/絵師) H 1 8 0 5  
徹書記(てつしよき) → 正徹(しょうてつ;法諱・清巖;道号、臨濟僧/歌人) 2 2 4 1  
鉄四郎(てつしろう・富岡) → 鉄斎(てつさい・富岡とみおか、絵師/詩文) C 3 0 3 3  
鉄四郎(てつしろう・小笠原)→ 東陽(とうよう・小笠原、儒者/教育) H 3 1 9 1
- C3045 **鉄次郎**(てつじろう・間宮/初姓;青柳、名;孝順) 1831-91 61 江戸浅草蔵前の札差の青柳家の生、1845間宮林蔵の跡目を継嗣、幕臣;普請役/1854樺太島巡察、60箱館奉行支配調役、広敷番頭/賄頭;禄2百俵、「蝦夷地見込書秘書」「唐太島廻浦中附込日記」著  
鉄次郎(てつじろう・山田) → 千疇(ちぢゅう/知宇禰/千有年ちうね・山田、国学者) 2 8 3 9  
鉄次郎(てつじろう・渡辺) → 重石丸(いかりまる・渡辺、国学・神道家) B 1 1 4 0  
鉄二郎(鉄次郎てつじろう・浦田)→ 長民(ながたみ・浦田、神職/勤王派) E 3 2 2 2  
鍊二郎(てつじろう・山崎) → 宗円(そうえん・山崎/源、幕府鍼医) G 2 5 3 2  
鍊次郎(てつじろう・阿部) → 遂庸(すいゆう・阿部あべ、幕臣/歌人) E 4 5 7 9  
鍊次郎(てつじろう野村) → 秋足(あきたり・野村のむら、藩士/国学) D 1 0 5 0  
鍊次郎(てつじろう・曾我) → 助弼(すけまさ・曾我そが/平、幕臣) G 2 3 8 3  
鍊次郎(てつじろう・北村) → 季春(きしゆん・北村きたむら、幕臣/歌人) U 1 6 1 5

- 哲次郎(てつじろう・不破) → 左内(さない・橋本、藩士/蘭医/勤王家) K 2 0 6 1
- C3046 **鉄心**(てつしん;道号・道胖どうはん;法諱、陳朴純男)1641-171070 父は福建省漳州府竜溪県出身、長崎の生、早く父を失う/1654(14歳)黄檗僧:木庵性瑠門/1677長崎に聖福寺開山し住寺、木庵の嗣法/1705江戸瑞聖寺住持、1678「鉄心禅師略集」96「鉄心禅師語録」著、「鉄心禅師瑞聖新録」「鉄心禅師武陵語録」著
- C3047 **哲辰**(てつしん) ? - ? 江中期遠江の曹洞宗法華寺住持、1740「寒巖尹禅師承決疑編」43「寒巖正宗記」著
- C3048 **鉄心**(てつしん・小原おはら、名;忠寛、忠行男/本姓;源)1817-7256 大垣藩士;1842家督;城代、1850藩政改革、ペリール来航時は浦賀警備、藩を勤王に主導、儒詩;齋藤拙堂門/咬菜社主宰、兵学;高島秋帆門、「大船撫要せきよう」「酔不記」/1867「飲夢記」「亦奇録」「記飲九篇」著、「鍊卒訓話」「矯弊私記」、「鉄心文稿」「鉄心先生詩文抄」「鉄心居小稿」著、  
[鉄心(;号)の字/通称/別号]字;栗卿、通称;本太郎/二兵衛/仁兵衛、別号;是水/酔逸、  
法号;強対院
- 鉄心(てつしん・谷) → 大湖(たいこ・谷、儒者) B 2 6 3 5  
鉄心(てつしん;号) → 僧梁(そうりょう;法諱、真宗本願寺派僧) C 2 5 2 9  
鉄心(てつしん・渡辺) → 尚(ひさし・渡辺わたなべ、藩校総裁/国学) M 3 7 3 8  
徹心(てつしん・内堀) → 幸政(ゆきまさ・内堀うちぼり、藩士/歌人) G 4 6 6 5  
哲真(てつしん;字) → 三等(;法諱、真言僧) M 2 0 6 5  
鉄人(てつじん・富岡) → 鉄斎(てつさい・富岡とみおか、絵師/詩文) C 3 0 3 3  
鉄心心史(てつしんしんし) → 筋堂(せつどう・十河そごう、篆刻家) L 2 4 3 2  
鉄心忠肝居士(てつしんちゅうかんこじ) → 辰清(とききよ・寒川さむかわ/かながわ、藩儒) J 3 1 1 0
- C3049 **徹輔**(てつすけ・岩橋いわはし、柳窓男)1835-8248 和歌山藩士、1872大蔵省出仕/75致仕、「上書」著  
徹助(てつすけ・井田) → 澹泊(たんぱく・井田いだ、藩士/儒者) I 2 6 5 7  
哲甫(哲輔(てつすけ・島岡) → 山鳥(さんちょう・岡おか、島岡、戯作者) E 2 0 5 7
- C3050 **鉄声**(てつせい) ? - ? 備後鞆俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
- C3051 **鉄石**(てつせき・藤本ふじもと、名;真金、片山左吉男)1816-63戦死48 母;佐幾、1830藩吏藤本重賢の養子、備前鴨方藩士/農事掛手代役;1841脱藩、上方で長沼流兵学;花房巖雄門/43江戸;諸国歴遊、詩文/歌/書/画の修業、尊王論主唱;1854伏見奉行内藤正綱の配下に学問武芸を教授、1863吉村寅太郎・松本奎堂らと天誅組を結成/総裁となる、大和挙兵;幕府軍と戦闘;没、「松風杉露満庭隅」1854「霜夜の寝覚」63「皇国第一義」著、詩;「殉難遺草」「勤王和歌集」入  
[鉄石(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;学治、字;鑄公、通称;津之助、  
別号;鉄寒士/都門売菜翁/吉備中山人/柳間契民/天津漁老/海月浪士/蓑山懶樵/君山人、  
反古山人/蔚処人/処雪樵人/紅泥子/黍団子/百一居士/寿楽隠居/風杜月柏陳人、  
金菊酔漢/鎮山人/陶後陳人/画隠士/繞指道人/閔音居士
- C3052 **鉄船**(鉄仙てつせん・眞幡まはた、名;定之)1755-9844 仙台の医者;田村頭文父子門/俳諧・書を嗜む、1792「蓑塚集」編、95丈左「八僊歌」入、  
[鉄船(;号)の別号] 浮月房/東安  
鉄船(てつせん;初法諱) → 寂室(じやくしつ;道号・元光;法諱、臨濟僧) G 2 1 1 9
- C3053 **鉄禅**(てつぜん;道号・道広どうこう;法諱)1632-170675 黄檗僧;木庵性瑠門;1679嗣法、1691宇和島藩主伊達宗利に招聘され宇和郡大通寺の開山、撰津兔原郡篠原の祥竜寺開山、撰津西成郡北野の善通寺開山、「鉄禅和尚語録」/1684「参禅要語」著  
鉄善(てつぜん・村越) → 鉄善(かねよし・村越むらこし/井上、神道家) V 1 5 9 4  
鉄船道人(てつせんだうじん) → 尚濂(しょうれん・祇園ぎおん、藩儒/詩) M 2 2 0 3  
鉄鼠(てつそ;字) → 日恩(にちおん;法諱、日蓮僧) 3 3 9 4
- E3071 **鉄帚**(てつそう;道号・宗州そうしゅう;法諱、初法諱;玄周/号;野雲)1631-171686 豊後臼杵の臨濟僧、1642(12歳)臼杵香林寺の南叟祖栄門;46出家/諸師参禅;黄檗の木庵・即非などにも参禅、1655香林寺住寺、62臼杵月桂寺の古峰宗順門;嗣法、71月桂寺住寺/妙心寺270世、「鉄帚宗州禅師語録」著
- E3072 **鉄宗**(てつそう;道号・元脈げんみやく;法諱)?-? 江前中期の黄檗僧;梅嶺道雪門[1641-1717];1674嗣法、1707「梅嶺禅師語録」編

- C3054 **鉄僧**(てつそう・雨森あめのもり、名; 章迪、大来堂) 1732-8655 医者; 山脇東洋門/俳人; 蕪村句会で活動、「蕪村追悼文」、1772几董「其雪影」/76几董「続明烏」2句入/77蕪村「夜半楽」2句、1783維駒「五車反古」15句入、[婿入の宵月細し初時雨](続明烏; 乙616)
- E3070 **哲僧**(徹僧てつそう; 法諱、号; 護法院、俗姓; 倉谷) ?-1883 加賀河北二日市の真宗大谷派誓入寺住職、高倉学寮で修学; 寮司/1842講義/69擬講; 72罷免/73員外擬講、1845「俱舎論聴記」著、1846「愚禿鈔演解」55「哲僧安心書」59「選撰集哲僧録」62「一流安心御文記」外著多数、
- C3055 **鉄叟**(てつそう・横井よこい、名; 時敏、西郷さいごう元熙男) 1827-190781 紀州和歌山藩士/1843横井家継嗣、大番に列す/1852組頭、1862脱藩し京江戸間の国事奔走; 公武間を周旋、64帰藩; 京藩邸奉行/1868軍事奉行/69致仕、詩文/画を嗜み閑居、「脱走始末」著、  
[鉄叟(;号)の字/通称/別号]字; 修卿、通称; 泉三郎/次太夫、別号; 石羊、  
徹宗(てつそう・泰勝院) → 幽斎(ゆうさい・細川、和学/歌/連歌) 4 6 0 2  
徹宗(てつそう; 字) → 宗源(しゅうげん; 法諱・徹宗; 字、臨濟僧) X 2 1 1 2  
鉄叟(てつそう・千代倉・下郷) → 亀世(きせい、知足男、酒造業/俳人) B 1 6 3 4  
鉄叟(てつそう・高尾たかお) → 騰九郎(とうくろう・高尾、武術家) C 3 1 9 9  
鉄叟(てつそう・国友) → 古照軒(こしょうけん・国友、藩儒/教育) M 1 9 8 0  
鉄叟(てつそう・橋爪) → 文徳(ふみのり・橋爪はしづめ、和漢学) I 3 8 6 1  
鉄三(鉄蔵てつぞう・山田/岩波) → 其残(きざん・山田/岩波、俳人/画) K 1 6 6 8  
鉄蔵(てつぞう・井上) → 峨山(がざん・井上いづえ、藩士/儒者) H 1 5 4 7  
鉄蔵(てつぞう・林) → 鶴梁(かりょう・林、幕臣/儒者) E 1 5 8 0  
鉄蔵(てつぞう・田中/安藤) → 広重(ひろしげ・歌川/安藤、幕臣/絵師) G 3 7 0 2  
鉄蔵(てつぞう・大野) → 道別(みちわき・大野おの、国学者) C 4 1 9 3  
鉄蔵(てつぞう・正木/越智) → 通堯(みちたか・正木まさき、藩士/鷹匠/歌) B 4 1 7 2  
鉄蔵(てつぞう・塩間; 変名) → 素彦(もとひこ・楫取/松島/小田村、藩士) D 4 4 9 5  
鉄蔵(てつぞう・吉田) → 狻山(しゅんざん・吉田、絵師/鑑定) K 2 1 8 4  
鉄蔵(てつぞう・関) → 雪江(せつこう・関せき、儒者/書家) E 2 4 2 3  
鉄蔵(てつぞう・大岡) → 喜貞(よしさだ・大岡おおか、藩士/歌人) L 4 7 9 4  
鉄蔵(てつぞう・山中) → 幸忠(ゆきただ・山中やまなか、歌人) E 4 6 7 7  
鉄蔵(てつぞう・小野崎) → 通亮(みちすけ・小野崎おのざき、藩士/神道) I 4 1 2 7  
鉄蔵(てつぞう・香西) → 亀文(かめあや・香西こうさい、藩士/歌人) U 1 5 6 6  
鉄蔵(てつぞう・吉田/橘) → 元周(もとちか・橘たちばな/吉田、幕府医者) D 4 4 0 4  
鉄蔵(てつぞう・三輪) → 月底(げつてい・三輪みわ、大工/俳人) H 1 8 2 6  
鉄蔵(てつぞう・根岸) → 鎮衛(やすもり・根岸ねざし、幕臣/随筆) D 4 5 3 2  
鉄蔵(てつぞう・小林) → 函山(かんざん・小林こばやし、漢学者) Q 1 5 8 1  
哲三(てつぞう・栗本) → 匏庵(ほうあん・栗本、医者/幕臣) 3 9 1 1  
哲蔵(てつぞう・古市) → 献(けん・古市ふるいち/千葉、絵師) N 1 8 9 4  
鉄槍斎(てつそうさい・青山) → 延寿(のぶひさ・青山、儒/槍術) C 3 5 9 6  
鉄鎗斎(てつそうさい・富岡) → 鉄斎(てつさい・富岡とみおか、絵師/詩文) C 3 0 3 3  
鉄箒道人(てつそうどうじん) → 一具(いちぐ・高梨、浄土僧/俳人) B 1 1 1 8  
鉄太(てつたい・木村) → 蟠山(ばんざん・木村きむら、蘭学/渡米) H 3 6 8 8  
鉄鐸(てつたく) → 了派(りょうは、俳人) J 4 9 2 4  
鉄胤(てつえん・平田) → 鉄胤(てつえん・平田、国学) C 1 5 7 6  
鉄太郎(てつたろう・小川) → ゆき町(ゆきまち・恋川、春町2世/黄表紙) F 4 6 6 0  
鉄太郎(てつたろう・林) → 鶴梁(かりょう・林、幕臣/儒者) E 1 5 8 0  
鉄太郎(てつたろう・奥田) → 常雄(つねお・奥田/橘、藩士/国学者) B 2 9 9 7  
鉄太郎(てつたろう・月田) → 蒙斎(もうさい・月田つきだ、藩儒; 崎門学) 4 4 5 4  
鉄太郎(てつたろう・山岡) → 鉄舟(てつしゅう・山岡、幕臣/武道家) C 3 0 4 3  
鉄太郎(てつたろう・国沢) → 好材(よしき・国沢くにさわ、藩士/国学者) M 4 7 5 7  
鉄太郎(てつたろう・青木) → 北海(ほっかい・青木あおき、儒/国学者) E 3 9 5 3  
鉄太郎(てつたろう・孫福) → 公好(きみよし・孫福ごぶく/足代、神職/国学) V 1 6 2 1  
鉄太郎(てつたろう・花輪) → 昌富(まさとみ・花輪はなわ/塙/源/中島、国学) R 4 0 8 4

- 哲太郎(てつたろう・大蔵屋/千葉)→ 葛野(かどの・千葉、国学/歌) 1 5 7 1  
 哲太郎(てつたろう・野口)→ 東溟(とうめい・野口、儒者/開塾/尊攘) H 3 1 3 7  
 哲太郎(てつたろう・関戸)→ 内兄(うちえ・関戸せきど、国学者) E 1 2 7 3  
 徹太郎(てつたろう・肥田野)→ 築村(ちくそん・肥田野ひたの、儒者) D 2 8 4 2
- C3013 鉄庵(てつあん;道号・道生どうしょう;法諱、勅諡号;本源禪師)1262-1331<sup>70</sup> 出羽の臨濟僧;大休正念門、  
 大休の嗣法/出羽資福寺・筑前聖福寺住持、鎌倉建仁寺20世、晩年;建仁寺内瑞応庵に退隱、  
 詩文集「鈍鉄集」(;禪僧最古)、「鉄庵道生禪師語録」著  
 鉄団(てつだん;法号)→ 直寄(直奇なおより・堀ほり、藩主/兵学) D 3 2 0 4  
 鉄仲(てつちゆう・独歩齋)→ 次郎(じろう・赤松、武芸者) N 2 2 0 5  
 鉄猪(てつちよ・橋本)→ 慎三(しんぞう・大橋おおはし/橋本、土佐勤王党) P 2 2 2 8
- E3093 哲長(てつちやう・内海うつみ、名;あきなが?・さとなが?・としなが?・ひろなが?)?-? 江後期;歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [折しもあれ寝覚めの床のほととぎすなほ夢に聞く心地こそすれ](大江戸倭歌;夏450)  
 鉄槌堂(てつちどう)→ 好礼(よしのり・阪部さかべ、書家/絵師) G 4 7 0 0
- E3073 徹通(てつとう;道号・義介/義价ぎかい;法諱、俗姓;藤原)1219-1309長寿<sup>91</sup>歳 越前足羽郡の禪僧;  
 1231(13歳)越前の日本達磨宗波著寺懷鑑門;出家/のち曹洞宗道元門/師没後;孤雲懷弊門、  
 1259入宋/62帰国、67永平寺3世/1283加賀の真言宗大乘寺を禪院に改め開山、瑩山紹瑾の師、  
 「永平開山御遺言記録」編/「永平室中聞書」/1253「義介和尚記録-建長五年四月二十七日」著、  
 [徹通義介の別法諱] 義鑑ぎかん  
 徹定(てつてい→てつじやう)→ 徹定(てつじやう;法諱・瑞蓮社、浄土僧) C 3 0 4 4  
 鉄鼎(てつてい・高橋)→ 杏村(きやうそん・高橋たかはし、絵師/詩) O 1 6 2 7
- E3074 徹伝(てつでん;道号・玄興げんこう;法諱)?-1677 伊予川舞三本木の臨濟僧;万松寺の玉法祖温門、  
 備前国清寺の達源門、1649伊予八幡浜浦の大法寺開山、衰退寺院の復興に尽力、  
 1669海蔵寺に退隱;寺名を竜潭寺と改名、「徹伝和尚語録」著
- E3076 徹翁(てつとう;道号・義亨ぎこう;法諱、俗姓;源)1295-1369<sup>75</sup> 出雲の臨濟僧;  
 1300(6歳)建仁寺鏡堂覚円門;1313出家、大徳寺開山宗峰妙超門;嗣法/1338大徳寺初世、  
 京の徳禅寺・但馬安養寺開山、徳禅寺に隱居;門人多数、門流徹翁派は大徳寺の嫡流となる  
 [徹翁義亨の諡号]諡号;大祖正眼禪師(1528)/天応大現国師(1638勅賜)
- C3057 鉄兜(てつとう・河野かわのこうの、名;罷ひぐま/維罷、通仁男/本姓;越智)1820-67<sup>48</sup> 播磨網干の医者;父門、  
 儒者;吉田鶴仙門/梁川星巖門、1851林田藩校敬業館教授、55林田に家塾秀野草堂開設、  
 諸国歴遊、本草/詩文/歌/狂歌/書を嗜む、頼三樹三郎・草場船山・藤井丈外らと交流、  
 1860「雲鶴日程」/「覆醬詩談」/「近文奇賞」/「詩徹」著、「鉄兜遺稿」;芳野(三絶の1)などを所収、  
 [鉄兜(;号)の字/通称/別号]字:夢吉、通称;俊蔵/絢夫、  
 別号;秀野/秀農/秀生/秀叟/秀史、美竹西荘/文選復興楼/月廓/錦壇/白鷗楼、  
 越智夢吉/祝田霽南/楡村石南/楡村右南、諡号;文崇
- F3016 鉄翁(てつとう;道号・祖門そもん;法諱、桶職人日高勘右衛門男)1791-1872<sup>81</sup> 長崎銀屋町の生;  
 11歳で父と死別;臨濟宗華嶽山春徳寺13世玄翁和尚に養育、漢画;唐絵目利石崎融思門、  
 1804(文化元)渡来清人の江稼圃門;南画を修学、1820(文政3)師玄翁没;春徳寺14世、  
 1827田能村竹田が来訪;交流、清人陳逸舟門;山水・蘭竹図の画法を伝受、京坂江戸行脚、  
 1850(嘉永3)退隱;雲龍寺住;居室[太素軒]で書画禅三昧;墨蘭竹図・山水図多数、  
 木下逸雲・三浦梧門と共に長崎南画三筆の1、維新後;春徳寺の再住;没、  
 「米法山水図」/「蘭図」/「秋景山水図」/「水墨山水図」/「雪山山水図」/「蘭竹牡丹図」など画、  
 門人倉野煌園の[鉄翁画談]あり、門人多数;滝和亭・安西雲煙・村田香谷・大倉雨邨など、  
 [鉄翁祖門の号] 明言・魚光・鍊道人・蓮舟人、室号;太素軒
- E3075 徹堂(てつどう;道号・寛洪かんこう;法諱)?-? 1734存 曹洞僧;大融光円門;嗣法、陸中花巻昌歆寺17世、  
 1734能登総持寺の洞川庵の輪住、1763刊「法音山亀記」著  
 埜堂(てつどう・千村ちむら)→ 峯陽(とうよう・千村、儒者) H 3 1 8 7  
 輟棹翁(てつどうおう)→ 信景(さだかげ・天野あまの、藩士/国学者) 2 0 1 8  
 鍊道人(てつどうじん;号)→ 鉄翁(てつとう;道号・祖門そもん;法諱、臨濟画僧) F 3 0 1 6  
 鉄道人(てつどうじん・富岡)→ 鉄斎(てつさい・富岡とみおか、絵師/詩文) C 3 0 3 3

哲得庵(てつとくあん) → 晩得(ばんとく・佐藤、哲阿彌、藩士/俳) I 3 6 4 4  
 鉄直(てつなお・井上) → 頼因(よりくに・井上、国学者/歌人) I 4 7 6 0  
 哲長(てつなが・内海) → 哲長(てつちやう・内海うつみ、歌人) E 3 0 9 3  
 鉄如(てつによ・竹内) → 又玄(またくろ・竹内たけうち、医者/本草) J 4 0 3 7  
 鉄如意齋(てつにょいさい) → 鉄斎(てつさい・富岡とみおか、絵師/詩文) C 3 0 3 3  
 鉄忍(てつにん;法諱) → 智外(ちがい;道号・鉄忍;法諱、曹洞僧) 2 8 6 2  
 鎚廼音成(てつのおとなり;狂歌号) → 平之丞(へいのじやう・岩井、鍛冶業/狂歌) 2 7 7 8

C3058 鍊之丞(初世てつじやう・観世かんぜ、名;織之助/清尚、14世観世清親男)1731-8252 シテ方能楽師、  
 15世観世元章の弟、才を認められ1756(26歳)分流鍊之丞家を立てる、将軍家治の能の指南、  
 1774兄没により宗家17世観世大夫を継承;兄の「明和改正謡本」など行き過ぎを改める  
 兄 → 元章(もとあきら・観世かんぜ清温、15世観世大夫/国学) C 4 4 0 3

鍊之丞(てつじやう・桜井/松平) → 忠宝(ただとみ・松平、藩主/俳人) Q 2 6 1 1  
 鍊之丞(てつじやう・小田切) → 直年(なおとし・小田切、幕臣/記録) B 3 2 8 2  
 鍊之丞(てつじやう・稲垣) → 見年(ちかとし・稲垣いながき/源、幕臣/歌) L 2 8 4 7  
 鉄之丞(てつじやう・和田) → 一江(いっこう・和田わだ、儒者) H 1 1 0 7  
 鉄之丞(徹之丞てつじやう・岩崎) → 些斎(ささい・岩崎いわさき、藩儒) H 2 0 4 1  
 鉄之丞(てつじやう・佐々) → 鶴城(たづき・佐々ささき、神職/国学) P 2 6 0 1  
 鉄之丞(てつじやう・石谷) → 穆清(あつきよ・石谷いしがや、幕臣/奉行) G 1 0 6 2  
 哲之丞(てつじやう・松平) → 康圭(やすかど・松平まつだいら、藩主/歌人) B 4 5 1 8  
 哲之丞(てつじやう・成尾) → 常経(つねのり・成尾なるお、藩士/歌人) G 2 9 1 1  
 鉄之進(てつしん・片山) → 恒斎(こうさい・片山/杉野、藩士/儒者) F 1 9 0 3  
 徹之進(てつしん・太田) → 中彦(なかひこ・太田おた/丸山、藩医/歌) L 3 2 4 5

C3059 鉄之介(てつすけ・関せき、名;遠、昌克男)1824-62刑死39 水戸藩士;1855家督、郡奉行配下の与力、  
 1858奉勅の同盟を求め西国遊説/59帰藩、安政大獄に薩摩藩高崎五六と挙兵;敗北脱藩、  
 1860桜田門外で直弼を襲撃暗殺、越後雲母温泉で逮捕;死罪、1559「丁難蓬日録」、  
 1860「南遊遣問集」「庚申転蓬日録」「関鉄之助西海日録」/61「文久転蓬日録」外著多数、  
 [鉄之介(;通称)の字/号/変名]字;士任/子任、号;錦堆/丹楓/楓巷/蘭室/桜園、  
 変名;吉野屋総介/三好貫之助、法号;英寛

C3060 鉄之介(てつすけ・荒井あらい)?- ? 幕末期下総佐倉藩士、1867「攻守略説」記

鍊之助(てつすけ・池田) → 冠山(かんざん・松平、藩主/和漢学/文筆) D 1 5 8 0  
 鉄之助(てつすけ・船曳) → 磐主(いわぬし・船曳ふなびき、神職/国学) B 1 1 8 4  
 鉄之助(てつすけ・速水) → 春暁斎(初世しゅんぎやうさい・速水はやみ、商家/読本) J 2 1 4 0  
 鉄之助(てつすけ・沢村) → 田之助(2世たのすけ・沢村、歌舞伎役者) S 2 6 1 8  
 鉄之助(てつすけ・櫻井) → 蕉雨(しょうう・櫻井さくらい、商家/俳人) F 2 2 3 0  
 鉄之助(てつすけ・三好) → 義英(よしひで・三好みよし、国学者) G 4 7 4 2  
 鉄之助(てつすけ・日下部) → 順清(じゅんせい・日下部くさかべ/藤原、幕臣/書) P 2 1 5 3  
 鉄之助(てつすけ・赤井) → 直綏(なおやす・赤井あかい、幕臣) K 3 2 7 7  
 鉄之助(てつすけ・高木) → 義標(よししたか・高木たかぎ、手習師匠、歌) K 4 7 5 3  
 鉄之助(てつすけ・河津) → 直入(なおいり・河津がかわう、藩士/歌人) L 3 2 7 6

C3061 鉄の舟(てつふね) ?- ? 書肆か?  
 1703(元禄16)雑俳撰集「いかり綱」序文(前句附・笠附集;題名は諸流を繋ぎ留める意)

E3077 鉄梅(てつばい;道号・道香どうこう;法諱、大島盛昌男)1656-173580 下野安蘇郡の黄檗僧;  
 1672(17歳)館林の広濟寺潮音道梅門;侍者、諸師参禅/1689南源性派門;嗣法、  
 撰津国分寺・妙徳寺・遠州宝泉寺住持、「黄檗高泉禅師語録」編/「鉄梅禅師開堂録」著、  
 1714「鉄梅禅師秉弘録」著

鉄梅(鍊梅てつばい・岩瀬) → 京山(きやうざん・山東さんとう、戯作者) 1 6 3 3  
 徹範(てつはん;字) → 永雅(えいが;法諱・徹範、真言僧) C 1 3 5 3  
 鉄薇(てつび・津田) → 眞道(まみち・津田つだ、洋学者/法学) K 4 0 1 2  
 鉄筆堂(てつびどう) → 京山(きやうざん・山東、合巻作者) 1 6 3 3  
 哲夫(てつふ・戸崎/崎/源) → 淡園(たんえん・戸崎/崎/源、家老/漢学) H 2 6 9 4

- 鉄仏(てつぷつ・笠原) → 白翁(はくおう・笠原かさほり、医者/種痘) C 3 6 7 7  
鉄文(てつぶん・道智) → 鉄文(てつもん・道智、黄檗僧) C 3 0 6 5  
鉄平(てつぺい・邨田/村田) → 眉山(2世びざん・邨田/村田、俳人) C 3 7 2 6  
鉄兵衛(てつべゑ・大野) → 伴雄(ともお・太田黒・大野・飯田、神職/神風連頭首) U 3 1 5 6  
鉄壁次翁(てつべきじおう) → 政徳(まさのり・長川ながかわ/高杉、漢学者) G 4 0 2 9  
E7078 鉄鞭(てつべん;道号・広暹こうせん;法諱)?-? 江前期黄檗僧;雲峰元沖門;1685嗣法、  
「鉄鞭和尚詩偈」著  
鉄炮堂主人(てつぱうどうしゅじん) → 鉄炮堂主人(ほんぱんどうしゅじん、滑稽本) F 3 9 5 8  
哲馬(てつま・間崎) → 滄浪(そうろう・間崎まさき、儒者/尊攘派) D 2 5 2 7  
鉄磨(てつま・恒山;道号) → 恒山(こうざん・鉄磨、曹洞僧) J 1 9 3 4  
鉄馬(てつま・大崎) → 重樹(しげき・大崎おおさき、藩士/国学/歌) N 2 1 7 5  
C3062 てつ磨(てつまろ) ? - ? 江後期山形雑俳点者;五鳳と交流、1803「俳風最上土産」編  
C3063 鉄面(てつめん;道号・寂鍊じゃくれん;法諱、初号:乳竇にゅうとう、俗姓;大野) 1658-173275 美濃柿野洞の人、  
1664加茂郡伊深村に移住/69黄檗僧;西田原村の小松寺碧湖元達門;出家、木庵・潮音門、  
諸国行脚/1680肥前佐賀の栖聖庵寓居/81碧湖の佐賀宝蔵寺入寺に随従;82嗣法、  
1695美濃羽生村大梅寺再興/京の医徳堂の中興開山、「鉄面禅師語録」「残羹餽飯」著、  
1704「碧湖禅師語録」編/09「碧湖和尚行状」、「法華経普門品類解」著  
C3064 鉄面(てつめん) ? - ? 伊丹俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入  
鉄面生(てつめんせい) → 草雲(そううん・田崎たさき、藩士/絵師) 2 5 5 9  
C3065 鉄文(てつもん;道号・道智どうち;法諱、号;大痴、藩士源みなもと種孝男) 1634-8855 筑後柳川僧;俊嶺門、  
1654黄檗僧;隠元門;長崎興福寺で参禅/木庵門、69福厳寺住持、「鉄文禅師紫陽集」著、  
「鉄文禅師福厳寺語録」「鉄文禅師語録」「鉄文禅師又録」著  
E3079 鉄文(てつもん;道号・道樹どうじゅ;法諱、俗姓;湯浅) 1710-8172 三河設楽郡古戸村の曹洞僧;  
1717(8歳)駿河坂本の林叟院九竜門;出家、曹洞・黄檗の諸師に参禅、  
1741備中円通寺黙子素淵門;嗣法、信濃金鳳寺12世/備中円通寺住寺、1770尾張泉松寺再興、  
泉松寺天地庵結庵;退隠、  
1771「道樹録」74「鉄文樹和尚仮名法語」、「十二時歌着語」外著多数  
鉄門(てつもん→かなと・船曳) → 磐主(いわたし・船曳ふなびき、神職/国学) B 1 1 8 4  
鉄也(てつや・藤野) → 僧梁(そうりょう;法諱、真宗本願寺派僧) C 2 5 2 9  
鉄弥(てつや・磯村) → 千春(ちはる・磯村いそむら、藩士/神職/歌) M 2 8 0 6  
鉄幽(てつゆう・上島) → 鉄卵(てつらん・上島、俳人) C 3 0 6 6  
C3066 鉄卵(てつらん・上島/上嶋うえしま) 1662-8928 伊丹俳人;重頼門、青人あおんどの弟;一族悉く俳諧に遊ぶ、  
1676維舟「武蔵野」入/78宗旦「当流籠拔」(最年少作者)、79旨怒「渡し船」87鸞動「野梅集」入、  
鸞動と伊丹誹中の鸞鳳と称されたが早世、没後1690鬼貫が西鶴と「鉄卵をおもふ興行」催行、  
[草の中に芋の葉ほどの露もなし](渡し船)、  
[鉄卵(;号)の通称/別号]通称;勘九郎、別号;三重(;初号)/鉄幽/金鶏子  
鉄鑾(てつらん・岩瀬/小野) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7  
哲了(てつりょう;法諱・明菴) → 明菴(みょうあん;道号・哲了、曹洞僧) G 4 1 0 8  
哲郎(てつろう・中村/和田) → 哲(てつ・和田わた/中村、医者) C 3 0 1 2  
哲郎(てつろう・田中) → 尚房(なおふさ・田中たなか、藩医/国学) N 3 2 6 3  
手鍋庵(てなべあん) → 鐘成(かねなり・暁あかつき、商家/戯作/絵師) C 1 5 9 3  
C3067 出放題夢中(でほうだいむちゅう)?-? 地口作者;1773「軽口鸞鷲盃」  
手持女王(てもちのおおきみ) → 手持女王(たもちのおおきみ、万葉歌人) 2 6 8 4  
E3065 出茂吉成(でもしなり) ? - ? 狂歌;堺丁連、1783「知足振しつたりぶり」/85「徳和歌後万載集」入  
[家や移りのかゆい所へ手紙どもかきあつめつゝ壁を春雨](後万載集;一/新宅春雨)  
F3029 輝(てる・池田いけだ/一条いちじょう、初名;通姫、池田光政みつまさ2女) 1636-171782 母:勝姫(円盛院)、  
歌人、奈阿(本多忠平室)の妹/池田綱政・富幾(榊原政房室)・左阿(中川久恒室)の姉、  
1649(慶安2/14歳)将軍家光の養女として権大納言一条教輔と結婚、1652兼輝を出産、  
1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、1717(享保2)没、  
[都へ上りける時 父母のかたへ遣しける、

終つて行く道よりも猶かなしきは命のうちの別れなりけり] (若むらさき;109)

[輝(;名)の法号] 靖巖院せいがんいん

照(てる・佐々木/栗津) → 照元(しょうげん・佐々木ささき/栗津、書家) I 2 2 5 6

C3068 照明(てるあき・豊由とよよし/豊田?)?-? 江末期京風早町の和算家/風早町に寺子屋極籌堂を開く、読み方・算術を教授、「当流算法初伝抜萃精解」編、

豊由周斎と親戚か? → 周斎(しゅうさい・豊由照泰、京和算家) X 2 1 3 6

E3088 輝徳(てるあきら・松平まつだいら、旗本信弥のぶみつ2男) 1820-40 早世 21歳 大身5千石の旗本の生、1839上州高崎藩主松平輝承急逝のため養嗣子として家督嗣;7代高崎藩主/従五下/右京亮、翌年に没、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、

[程遠き垣ほの梅の咲きそめて軒端に近く匂ふ春風] (大江戸倭歌;春123/梅風)

[輝徳(;名)の幼名/初名] 幼名;勇五郎、初名;信民

光彪(てるあや・秋山) → 光彪(てるたけ・秋山、国学) C 3 0 7 9

照氏(てるうじ・観世) → 身愛(ただちか・観世かんぜ、能楽大夫) F 2 6 2 6

C3069 照恵(てるえ・上原うへはら、山本七郎左衛門女) 1646-1731 86 上原新左衛門久貞の妻、薩摩鹿兒島の国学者、「源氏草の露」著、

[照恵(;名)の法号] 智峰恵照大姉

C3070 光枝(てるえ・桜井さくらい、通称;伊兵衛) ?-? 江戸秘本橋釘店の国学者/狂歌を嗜む、

1834「鸚鵡言」「狂歌尋蹤集」編、35「春葉集」編、38「大日本地名便覧」校訂、「玉林扱材」著、

[光枝(;名)の号] 花廼屋/東廬、花廼屋蛙磨かむざる(岩本・達摩屋五一)の師

F3027 光枝(てるえ/みつえ・渡辺わたなべ、通称;良助) 1811-50 40 出羽秋田郡の生、下野に住?、

国学者;江戸の前田夏蔭(1793-1864)門、江戸住;浅草で回漕問屋経営、狂歌作者

C3071 輝雄(てるお・正木まさき) ? - ? 兵学者;諸国歴遊し軍学講釈/1791美作津山藩士、

大番組50石/甲州流兵学師役、国学/俳諧、俳:1772果然「一枝筌いっせん」序、「宗支正誤」著、「兵学系図」「本朝兵法辨妄補」「環甲図歌かこうずか」1801「武器図札」12「英田郡取調書」著、地歴研究;1814「東作誌」編(作陽誌を補填)、

[輝雄(;名)の通称/号] 通称;直三郎/兵馬/勝良、号;酔梅

輝雄(てるお・多々良) → 自辞矛斎蒙陸(じじむさいもうろく、通俗本) T 2 1 6 3

輝雄(てるお・松田) → 一直(かずなお・松田まつだ、神道/歌人) V 1 5 7 5

暉雄(てるお・三浦暉) → 蕭白(しょうはく・曾我そが、蛇足軒/絵師) B 2 2 2 0

E3092 照方(てるかた・柏山かしやま、通称;甚五左衛門) ?-? 江後期;歌人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[霞とも知らでや月を眺むらん煙になれし春の浦人] (大江戸倭歌;春180/浦春月)

照方(てるかた・小出) → 大助(だいすけ・小出こいで、幕臣) K 2 6 4 3

光彪(てるかた・秋山) → 光彪(てるたけ・秋山、国学) C 3 0 7 9

F3021 照阿(てるこ・深川ふかかわ、) 1832-1915 84 武蔵葛飾郡砂村の志演しのぶ神社社司の家、

連歌作者;幕府柳営連歌師、維新後;大教正/教部省教導職、連歌・平家琵琶の復興に尽力

E3099 照子(てるこ・安倍あべ、初名;忠姫、土御門泰邦女) ?-1827 京の生/安倍家の妻、

尾張名古屋住、歌人、法名;映珠院

3039 照子(てるこ・小野おの、小野正徳女) 1784-1857 74 備中浅口郡玉島新町の生、

浅口郡長尾村豪農小野招月(達いたる/泉蔵、1767-1832)の後妻、歌人;木下幸文門、

法名;歓応妙喜信女

F3007 輝子(てるこ・賀島かしま、) ? - 1847 阿波徳島藩士賀島長市の妻、国学・歌;本居大平門

F3025 照子(てるこ・松平まつだいら、上総飯野藩主保科正丕まさもと女) 1832-84 53 会津藩主松平容敬かたがた養女、

豊前中津藩主奥平昌服まさもとと結婚;離別し会津の養家に帰る、歌・書を能くす、戊辰戦争で若松籠城時に婦女子を指揮;傷病兵看護・食糧や弾薬の配給に当る、1884(明治17)没、

[照子(;名)の通称/号] 通称;照姫、法号;照桂院

F3000 輝子(てるこ・原田はらだ/飯田、飯田秀雄女) 1836-94 59 母;汐子/因幡気多郡加知弥神社社祠家の生、国学・歌;父秀雄門、姉;俊子/兄;秀臣・年平(主鈴ともに国学者・歌人、

姪;古田むめ(日本女子美髪学校長)

- F3013 **てる子**(てるこ・知久ちく、旧姓;伊東)1848-1915<sup>68</sup> 日向飢肥郡の生、  
信濃阿島領主(陣屋)の知久頼謙の室、頼温の母、歌人  
輝子(てるこ・池田・一条)→ **輝**(てる・池田いげだ/一条いちじょう、廷臣室/歌人) F 3 0 2 9  
輝子(てるこ・勝田) → **喜世**(きよ・勝田かつた、将軍家宣室、歌) N 1 6 0 0
- C3072 **輝貞**(てるさだ・大河内おおこうち、賜姓;松平、初名;武綱、松平輝綱男)1665-1747<sup>83歳</sup> 父は川越藩主、  
叔父松平信興の養嗣子、妻;柳沢吉保養女、1691遺領常陸土浦藩主/92下野壬生藩主、  
1695高崎藩主に転封/1710越後村上藩主/17再び高崎藩主、右京大夫/侍従、「鎧着用之図」、  
[輝貞(;名)の幼名/法号]幼名;万千代/酒之丞、法号;天休院
- C3073 **輝貞母**(てるさだのは・姓不詳)?- ? 肥前の女流俳人;1684西鶴「俳諧女哥仙によかせん」入、  
[とりどりに品替はりたり関相撲](俳諧女哥仙;22、  
番数取り進みいよいよ結びの大関相撲/謡曲「善知鳥」;とりどりに品変りたる殺生の)
- C3074 **栄実**(てるさね・奥村おくむら、初名;為質、尚寛なおのぶ男/本姓;平)1792-1843<sup>52</sup> 母;大音厚曹女、  
加賀金沢藩士;1804家督;1万7000石/加賀八家奥村宗家第11代当主、1806寄席見習、  
1818藩財政悪化の責任で藩主前田斉広の勘気を蒙り失脚/次の藩主斉泰には重用;  
1821従五位下伊予守、1825丹後守に遷任、1827再び藩政に参与、世子誕生に墓目役、  
加賀藩校明倫堂総奉行;学制改革、政敵の寺島蔵人を能登に流罪、  
御用商人銭屋五兵衛に御用銀調達、家臣に生熊いづま平作がいる、  
儒学者;陽明・朱子学に精通、国学者・歌学;田中躬之門;/富士谷御杖門、  
1816-18「奥村栄実日記」/18「国典異証」/18-30「官私随筆」/27「止斎雑著」/28「徹法考」、  
1829「古言衣延辨」、「止斎漫録」「易然談」「熙康小鑑」「熙康暦」「袖裏見聞録」「花筏」外著多、  
[栄実(;名)の通称/号]通称;義十郎/助右衛門、号;止斎/豊武/豊武彦、法号;慎徳院  
奥村栄親(早世)・前田直良妻の父
- C3075 **輝実**(てるさね・山根やまね、輝昌男/本姓;藤原)1813-1860<sup>or61?48-49?</sup> 京塔之壇の官吏;主税少属、  
国学者;伴信友門、「古事記姓名索引」「内裏儀式疑義辨」著
- C3076 **輝資**(てるすけ・日野ひの/本姓;藤原、初名;兼保、広橋国光男)1555-1623<sup>69</sup> 母;高倉永家女、  
日野晴光の養子;1559日野家相続;改名;輝資、1577参議/87権大納言正二位/1601出仕停止、  
1607出家、有職故実精通/詩歌・茶を嗜む;利休と親交、家康より近江の采地千余石受領、  
連歌;紹巴・昌琢・昌叱らと百韻・聯句多数(1579何船百韻・93何路百韻・96夢想百韻など)、  
[輝資(;名)の一字名/法名/法号]一字名;生、法名;唯心、法号;唯心院
- C3077 **輝澄**(てるすみ・池田いげだ、輝政男)1604-1662<sup>59</sup> 母;徳川家康女の督姫、武将;1615大坂の役従軍、  
播磨穴栗藩主(3万8千石)/1631加増、家中の混乱の咎めを受け領地没収/因幡鹿野に籠居、  
「池田輝澄之日記」著、妻;生駒正俊女、  
[輝澄(;名)の幼名/通称/号]幼名;松千代、通称;左近、号;石入、法号;大雲院
- E3086 **輝高**(てるたか・松平まつだいら/大河内おおこうち、輝規男/本姓;源)1725-81<sup>57歳</sup> 大河内松平家4代、  
1749家督継嗣;上野高崎藩主、奏者番/寺社奉行/大坂城代/京都所司代;  
在任中;1758明和宝暦事件の竹内敬持を逮捕/同年老中に昇進/79老中首座;勝手掛兼任、  
1781輝高主導で幕府が特産絹織物・生糸に課税;西上州中心の農民一揆(絹一揆)発生・  
居城高崎城まで攻撃される;幕府は課税撤回、その後気鬱の病に罹り老中のまま没、  
従四下佐渡守/因幡守/右京亮/侍従/右京大夫、没後;次男輝和が家督継嗣、  
歌人;冷泉家門、広通「霞関集」入、  
[今もなほ忘れぬ影は九重の雲居に見てし秋の夜の月](霞関;秋471)  
[輝高(;名)の通称]長十郎/佐渡守/因幡守/右京亮/右京大夫
- C3078 **暉隆**(てるたか・西郷さいごう、初名;暉如てるゆき、安右衛門男)?-1859 尾張藩士/名古屋撞木丁杉之町住、  
国学/歌人;植松茂岳門、「歌集」著、  
[暉隆(;名)の通称/法号]通称;悦之進/久太郎、法号;不研院
- C3079 **光彪**(てるたけ・秋山あきやま、原は政興男)1775-1832<sup>58</sup> 秋山光一の養子/豊前小倉藩士;藩侯に近侍、  
京の留守居役、兵学修得、国学・歌人;村田春海門、1830「桂園一枝評」;和歌論争の口火、  
「秋山翁家集」著、門人;西田直養・丹羽氏曄・長田美年・佐久間種・林親信など  
[光彪(;名)の呼名]呼名;てるたけ・みつたけ・こうひょう?  
[光彪(;名)の字/通称/号]字;士弥、通称;庄兵衛、号;梨園/福堂

- 昭武(てるたけ・榎島) → 昭武(あきたけ・榎島まさしま、故実/軍記) C 1 0 5 3  
 燾次(てるつぐ・河田/大橋) → 陶庵(とうあん・大橋おおし/河田、儒者) 3 1 8 9
- C3080 **輝綱**(輝綱てるつな・松平まつだいら、信綱男) 1620-71<sup>52</sup> 母;井上正就女、武州川越の生/島原乱に従軍、1662川越藩主;父の遺領襲封、學術/兵学に通精、日本地図製作(藩主中最初)、航路図編纂、軍法十九条制定;隊伍編制・騎馬記録・砲術記録を著述、平曲;検校並河安一門、歌を嗜む、1663「島原天草日記」「有馬一揆征伐日記」/64「三日乗の記」65「遠路乗様之事」、「軍歌」、1666「息交ぜの法」、「松平輝綱日記」「船軍の巻」、「平家語様聞書」「平家語様別書」外著多数、[輝綱(;)名)の幼名/法号]幼名;主殿とのも、法号;智光院
- C3081 **明麗**(てるつら・小槻おづき/壬生みぶ、小槻輔世男) 1852-84<sup>33</sup> 廷臣/左大史、文筆家、「明麗宿禰公用日記」著
- E3069 **照任**(輝任てるとう・阿部あべ) 1650?-1753(104歳・一説88歳) 盛岡の人/延宝1673-81頃航海中遭難;中国福建省に漂着;本草学を修得し18年後帰国/幕府に出仕、1724「慈姑論」「上言本草」著、1744「硫黄盃根元製正誤」48「七種辨」53「阿部友之進書上」、「採葉使記」「三百種録」外著多、[照任(輝任;)名)の字/通称/号]字;伯重、通称;友之進、号;将翁/将翁軒/丹山  
 光彪(てるとら/てるとも/てるあや/てるかど/みつたけ・秋山) → 光彪(てるたけ・秋山、国学) C 3 0 7 9  
 輝虎(てるとら・長尾/上杉) → 謙信(けんしん・上杉、武将/歌人) C 1 8 3 5
- B3046 **輝声**(てるな・大河内おこうち/賜姓;松平、初名;輝照、輝聰男) 1848-82<sup>35</sup> 母;堀田正睦女のお万、上野高崎藩主;1860襲封、藩政改革;兵備の西洋化、維新後高崎藩知事/東京浅草桂林荘で風雅;詩/連歌/歌を嗜む:「桂廼舎倭歌詠草」「衆議詠草」「丹桂閣詩藁」「切齒師談」「游浴詩藁」著、[輝声(;)名)の幼名/通称/号]幼名;恭三郎、通称;右京亮うきょうのすけ、号;桂閣/桂廼舎
- C3082 **輝長**(てるなが・東坊城ひがしぼうじょう、綱忠男/本姓;菅原) 1736-64<sup>早世</sup>29 廷臣;文章得業生/大学頭、1756文章博士/63大内記/64従三位;没、1759「陪遊吏部大王雲台記」著
- F3003 **照長**(てるなが・有馬ありま/旧姓;吉田、) 1781-1851<sup>71</sup> 筑後久留米藩老;藩政に参画、国学;宮崎信教・樺島公礼(石梁)門、文学を好む;歌人/詩・書画を嗜む、高山彦九郎と交流、[照長(;)名)の通称/号]通称;織部、号;息焉、海内三賢大夫の称あり  
 照成(てるなり → あきなり・榊原) → 月堂(げつどう・榊原さかきばら、幕臣/書家) H 1 8 3 0  
 光瑗(てるに・八幡) → 光瓊(みつる・八幡やわた、神職/国学) D 4 1 9 4
- C3083 **英信**(てるのぶ・狩野かろう、主信[永叔]男/本姓;藤原) 1717-63<sup>47</sup> 江戸の絵師;兄憲信門/兄の養嗣;中橋狩野家継嗣、幕府御用絵師;將軍家治の寵遇を得る/1746法眼/62法印、「御添状控」著、[英信(;)名)の通称/号]通称;源七郎/(法印後;)大蔵卿、号;祐清/如適/如滴齋、法号;如心院
- F3005 **輝延**(てるのぶ・大河内おこうち/松平、輝高3男) 1775-1825<sup>51</sup> 江戸生/1788(天明8)兄輝和てるやすの継嗣、1800(寛政12)家督継嗣;上野高崎藩主/大河内松平家6代、奏者番/1802寺社奉行、1815(文化12)大坂城代/従四下、藩財政の悪化/1822病として大坂城代辞任;溜間詰次席、1823(文政6)老中に就任/侍従/右京大夫、正室;琴(松平信讓女)/継室;南部利正女、[輝延(;)名)の通称]右京亮/右京大夫/美濃守
- C3084 **照信**(てるのぶ;法諱・号;日吉廼翁[日枝の屋]ひえのや) ?-? 江後期伊勢津の天台宗勝音院住職、狂歌;五十瀬の屋社中、1855「狂歌良嶽集」編
- C3085 **輝規**(てるのり・大河内おこうち/賜姓;松平、別名;政直/政長/政方、松平信定男) 1682-1756<sup>75</sup> 1715大河内輝貞てるさだの養嗣子/45上州高崎藩主襲封/49致仕、「見聞想染集」「松平休慎入道書簡」著、[輝規(;)名)の幼名/通称/号]幼名;老之助、通称;大学、号;休慎(;)出家号)
- C3086 **栄発**(てるのり・奥村おくむら、別名;一斉、酒業奥村茂兵衛男) 1780-1821<sup>42</sup> 名古屋の医;大河内存眞門、1800医開業、儒;河村乾堂門/詩、医の傍ら儒を教授、筆耕、「筆の底」著、[栄発(;)名)の字/号]字;士長、号;璋圭/硯山/仙台/迎春堂
- C3087 **輝教**(てるのり・葛城かつらぎ、通称;奈良屋長兵衛/号;宣英堂) ?-? 1781-1801頃大坂心齋橋筋の書肆、1786「和漢書画一覽」著
- F3023 **暉児**(てるのり・古橋ふるはし、) 1813-1892<sup>80</sup> 三河設楽郡稲橋村の豪農/名主、篤農家、農業・醸造業(味噌/醤油/酒)経営、国学;平田胤胤門;尊攘を修学、佐藤清臣を招聘;1872(明治5)息子(次男)の義真よしざね(1851-1910)と共に明月清風校を設立、

- 殖産事業に尽力;養蚕・製茶・植林など、俳人、「経済之百年」著、  
[暉児(;名)の通称/俳号]通称;唯四郎/源六郎、俳号;笑山
- C3088 **照矩**(てるり・安田やすだ/初姓;下間/本姓;源) 1814-? 江後期官人;1852兵庫寮史生/正七下/和泉掾、  
1854安田に改姓、1861「十三朝紀聞」65「一和百条」67「丁卯補遺」編、「今日鈔」著
- F3004 **昭応**(てるり・内海うつみ) 1819-1905 87 相模大山の阿夫利神社祠官、  
国学者;1847(弘化4/29歳)平田鉄胤門、  
[昭応(;名)の別号/通称/号]初名;巖、通称;式部太夫、号;潮廼舎しおのや  
昭仁親王(てるひとしんのう) → 桜町天皇(さくらまちてんのう、歌人) B 2 0 5 1
- F3006 **輝尚**(てるひさ・大沢おおさわ、二号亭麦里の長男) 1804-93長寿90 伊予今治藩士/金奉行/目付役、  
普請奉行歴任、歌人;半井忠見(梧庵)門、俳諧も嗜む、忠見「ひなのてぶり」21首入、  
[輝尚(;名)の通称/号]通称;十左衛門、号;如雲
- F3024 **彰壽**(てるひさ・馬淵まぶち) 1848-1916 69 近江野州郡の歌人;十林とばやし含章(がんしょう)門、  
歌;武波勝村門、歌[鳩のうみ]入、  
[彰壽(;名)の通称/号]通称;藤九郎、号;亀楽  
照姫(てるひめ・保科/松平) → 照子(てるこ・松平まつだいら/保科、歌/書) F 3 0 2 5
- C3089 **照洋**(てるひろ・高山たかやま、別号;正洋まさひろ、勝生男) 1768-1827 60 兵法家;要門派高松系/1786皆伝、  
父より江戸日本橋の神略亭(家塾)を継承;子弟教育、「識教家語」編、1794「道統略系」著
- C3090 **照寛**(てるひろ・三輪みわ、通称;友之進/勘兵衛) 1809-71 63 金沢藩執政前田兵部家の家老、  
国学/歌;田中躬之門、1855藩校明倫堂国学代講/61皇学主講加入、照路(てるみち)の父、  
1848-53「照寛詠草」、「前田兵部孝友系図帳」「夏殷周三代田制考」著  
照寛(てるひろ・毛受めんじゅ) → 未仏(みぶつ・西来居さいらいきよ、医者・狂歌) F 4 1 7 6
- F3008 **照房**(てるふさ・木暮こくれ) 1771-1852 82 上野新田郡新井村の名主、国学;平田篤胤門、  
館林藩士生田萬(よろう)の後援者、歌人、照房の長歌の石碑あり(萬の揮毫)、  
[照房(;名)の通称] 文左衛門  
照房(てるふさ・大島) → 万守(まんしゅ・白毛舎はくもうしゃ、狂歌作者) K 4 0 6 3
- C3091 **輝文**(てるふみ・星野ほしの、輝正男) 1828-76 49 母;愛子、伊勢桑名藩領越後柏崎の郷士、早く兄没、  
1860商家の家督相続;桑名藩御用達、勤王派;同志を集め兵器糧食を備蓄、  
戊辰戦争時高田で新政府軍の越後平定に活躍;正五位、1866「湯あみ日記」著、  
[輝文(;名)の通称/号]通称;政平/藤兵衛、号;紅葉園、法号;仁徳院
- C3005 **輝政**(てるまさ・池田いけだ、信輝男) 1564-1613 50 犬山の武将/信長・秀吉家臣/長久手・小田原戦参加、  
1600関ヶ原で家康軍に参加/姫路藩主;播磨備前淡路を得、長吉(ながよし鳥取藩主)の兄
- C3092 **暉昌**(てるまさ・森もり/本姓;藤原) 1685-1752 68 遠江浜松の五社明神社祠官(神主)、  
国学者・荷田春満門、歌人磐子(はにこ(繁子しげきこ)の父/磐子の婿;森(袴田)為寿、賀茂真淵の師、  
[暉昌(;名)の通称/号]通称;民部、号;常夏の大人とこなつうし/光海(みくみ)霊神
- C3093 **暉昌**(てるまさ・三河口みかわぐち、野村輝次男) 1742-? 幕臣;1758家督;徒目付/小普請方、  
1789代官/91三河口に改姓/98伊豆代官/出羽・常陸代官/1811西国郡代、石川雅望と交流、  
狂歌/書に長ず、1796「島日記」「伊豆七島島免具利めぐり」、1822「伊豆日記」38「雁がね日記」著、  
[暉昌(;名)の通称/号]通称;八十之丞/八蔵/太忠/多仲、号;富秋園/海若子、輝清の父
- E3095 **照海**(てるうみ・菅沼すがぬま) ? - ? 江後期;、歌人、幕臣?、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[只一夜ぬるまに空も曇りけりきのふの露も今朝は時雨れて](大江戸倭;冬1036/初冬)  
光海(てるみ・跡部) → 良顕(よしあきら・跡部、幕臣/神道/歌) C 4 7 0 4
- F3001 **光通**(てるみち・みつみち・松平まつだいら、忠昌2男) 1636-1674 自害39 母;広橋兼賢女、  
1645(10歳)父没;家督嗣;越前福井藩主襲封/従四位下侍従/1648元服;左近権少将、  
1653(承応2)やと越前初入国、本多富正など宿老が補佐、  
のち家臣団を率い法整備;藩政改革、儒学中心の文教振興;朱子学の伊藤坦庵を招聘、  
勤王の奨励、大安禅寺を創建;越前松平家菩提所、歌;後西院門、  
領内天災のため藩財政は極度に悪化;1661藩札を発行/69大火;城郭天守焼失、  
正室;越前高田藩主松平光長女国姫(清池院)/側室;御三の方(片桐氏)、  
息子;権蔵(後の直堅/母;側室)/息女;鍋島綱茂正室(母;国姫)

正室国姫の祖母勝姫(高田殿)の国姫の子の継承を強要(起請文を取る);夫婦間悪化、  
1671国姫は自殺、権蔵(直堅)が福井から出奔(のちに越後糸魚川藩祖)、  
親族からの圧力・妻の自殺・息子出奔などで1674(延宝2)自殺、のち藩は減封、  
[光道(;名)の幼名/通称]幼名;万千代丸、通称;越前守、法号;大安院  
正室 → 国(くに)国姫、藩主室/歌人) E 1 7 5 2

C3094 鑿通(てるみち・石上いそのかみ、通称;仁兵衛、鑿尊男)?-? 下総銚子新生町の国学者;1816平田篤胤門、  
1816「天石笛之記」著

C3095 雍通(てるみち・稲葉いなば、弘通男)1776-184772 豊後臼杵藩主;1800襲封/藩政改革、  
1842学古館を創設;教育の振興、1820隠居、歌人;「美豆穂歌集」「保定集」著、  
[雍通(;名)の幼名/法号]幼名;園江/虎次郎/伊予守、法号;本休院一心宗安

C3096 栄通(てるみち・奥村おくむら、別名;従之/美楯、奥村質直男)1812-7766 奥村栄親の養嗣子、  
加賀藩士;1844家督/56従五下河内守/伊予守、1864禁門変に仙洞御所を警固/68藩老執政、  
国学・田中躬之みゆき門、1840躬之「竹取物語抄補注」書写、1844-51「奥村栄通官事拙筆」著、  
1859-65「奥村栄通集記」62-68「奥村栄通手記」、「墓目御用方覚」著、  
「京都御警衛出張等之荒増」著、栄滋てるしげの父、  
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(従之名)、  
[小山田の草の庵のさびしきは降る時雨さへ音せざりけり]、  
(大江戸倭歌:冬1077/田家時雨)、

[栄通(;名)の通称/法号]通称;小与之助/竹麻呂/織人/助右衛門、法号;桂昌院

C3097 照道(てるみち・生花斎せいかさい/橋たちばな)?-? 江後期1830-50頃江戸中橋の医者/狂歌作者、  
「江戸砂子紅塵集」「俳諧歌競玉集」「俳諧歌月波集」編  
[照道(;名)の字/通称/号]字;元徳、通称;天方潤、号;生花斎

C3098 光道(てるみち・山上やまがみ)?-? 山城宇治槇島の和算家;小松鈍斎[恵竜]門、  
1843「異形同術」59「日用要算」著、河田政直・鈴木政辰の師、  
[光道(;名)の字/通称/号]字;子順、通称;清左衛門、号;勾股斎/鉤股斎こうこうさい

照寛(てるひろ・三輪みわ、通称;友之進/勘兵衛)1809-7163 金沢藩執政前田兵部家の家老、

F3026 照路(てるみち・三輪みわ、通称;小源太、照寛(てるひろ)男)1838-8750 金沢藩執政前田兵部家の家臣、  
国学・歌;父門、1872(明治5)宣教講義方出仕/1874白山比咩しらやまひめ神社禰宜兼少講義、  
1876加賀国第22区副長/第5大区小十区戸長、1887(明治20)病没

光通室(てるみちのしつ・松平)→清池院(せいちいん、松平国姫くにひめ、福井藩主の室/歌人)O 2 4 0 0

C3099 輝光(てるみつ・日野ひの/本姓;藤原、初名;有富、弘資ひろすけ男)1670-171748 兄資茂すけしげの養子、  
1703参議/11従二位/15権大納言、「先代御便覧」編、「日野輝光詠草」「輝光卿記」外記録多数  
輝光(てるみつ・滝川) → 遊筋(ゆうせつ・滝田たきた、兵法家) D 4 6 1 0

D3000 輝宗(てるむね・伊達だて、米沢城主晴宗男)1544-85横死42 武将/母;磐城大館城主磐城重隆女の保姫、  
岩代伊達郡西山城に生/羽前米沢城主/1575従四下左京大夫、妻;山形城主最上義守女の義姫、  
1584館山に隠居/85二本松城主畠山義継に欺かれ横死、政宗の父、連歌;1581「若菜百韻」著、  
[輝宗(;名)の幼名/号]幼名;彦太郎/総次郎、号;受心、法号;覚範寺性山受心大居士

D3001 輝元(てるもと・毛利もうり/本姓大江、幼名幸鶴丸、剃髪号;宗瑞/幻庵、隆元男)1553-162573  
母;内藤興守女、1563毛利家家督、祖父元就・叔父元春・隆景の補佐で中国覇者/広島築城、  
1598五大老の1、関ヶ原西軍総帥;防長2国に減封、1606萩築城/大坂陣には徳川方参戦、  
連歌;玄仍・紹巴等と百韻

[ところをもあらはすけぶり萩の花幾秋かけて咲く宿の花](萩入城;/萩の歌人)

輝祖(てるもと・伊藤) → 震台(かだい・伊藤いとう、儒者) M 1 5 8 9

英哲(てるもと・樋口) → 英哲(ひでのり/てるもと・樋口ひぐち、神職/国学) K 3 7 7 4

D3002 照泰(てるやす・金子かねこ)1724-1821長寿98歳 上州利根郡大原の郷土史家、沼田藩の御絵図師、  
和漢学に通ず/数学測量に精通、「沼田旧跡誌」「沼田真田記」「上野名跡誌」「通俗百歳集」著、  
[照泰(;名)の通称/号]通称;重右衛門、号;蘆鶴/長寿軒

D3003 輝和(てるやす・大河内おおこうち/賜姓;松平、大河内輝高男)1750-180051 母;松平信祝女、江戸の生、  
兄輝行早世のため家督継嗣;上野高崎藩主/美濃守/右京亮、1784-98寺社奉行、  
河野辺寛に「高崎志」を編述させた、歌人/連歌;阪昌周門、弟輝延てるのぶが家督嗣、

「歳中寺社記」著、「諸寺社御朱印御条目類」「祠部職掌雑纂総目録」編、

[輝和(；名)の通称] 長三郎/酒之丞/美濃守/右京亮

照泰(てるやす・豊由とよよし)→ 周斎(しゅうさい・豊由とよよし、和算家) X 2 1 3 6

D3004 明之(てるゆき・香取かとり) ? - ? 江後期;下総印旛郡深草の狂歌作者;四方側判者、  
1810「香取詣」/35「多名論」著、

[明之(；名)の号] 約斎/了翁/深草百合丸ふかくさのゆりまる/錦藍亭

F3002 鑑幸(てるゆき・伊藤いとう、号;大乘) 1829-93 65 出羽秋田郡积迦内村の稻荷神社祠官、  
国学;平田家入門;篤胤没後門、維新後;権少教正

暉如(てるゆき・西郷) → 暉隆(てるたか・西郷さいごう、藩士/歌人) C 3 0 7 8

暉之(てるゆき・多田) → 守保(もりやす・多田ただ、藩家老/武芸) G 4 4 7 0

D3005 輝義(てるよし・田中たなか/本姓;源)?-? 南北期;会津塔寺村の八幡神社宮司、兵部少輔、  
1354「神銘役録」著

F3019 輝珍(てるよし・橋野はしの、千右衛門暉里男) 1745-1827 83 備中小田郡笠岡村の商家、国学者、  
祖父与三左衛門暉久(法印政範上人)は笠岡の大仙院を開基(焼失したが父が再建)、  
妻;備後福山の平野久右衛門重仲女の秀、  
家督は養子の尾道亀山有綱男懐珍が嗣(1806/21歳没)、  
次に備後府中檜崎信美男方久まさひさ(1779-1840)が嗣、  
[輝珍(；名)の字/通称/号]字;忠恕、通称;要蔵、号;李山(梨山)/翠陰亭

D3006 輝良(てるよし・一条、道香男/本姓;藤原) 1756-95 40 江中期廷臣;1762(7歳)従三位/75従一位、  
1779(24歳)右大臣/87左大臣/91(寛政3/36歳)関白;氏長者、  
1769-95「輝良公記」85-94「輝良公記別記」、1786「朔旦冬至旬儀次第」87「大嘗会次第」著、  
1791「新造内裏遷幸次第」著、  
[輝良(；名)の法号] 後得成寺

D3007 出羽(でわ;通称・田所たどころ、名;清全)?-? 江中期常陸茨城郡の吉田社祠官、  
1786「吉田社古紀」著

出羽(でわ) → 出羽(いでは、平安祿子内親王女房/歌) H 1 1 9 8

出羽(でわ・佐々木) → 秀安(ひでやす・佐々木ささき、神職/歌人) J 3 7 6 4

出羽(でわ・浅野) → 忠敬(ただひろ・浅野あさの/藤堂、藩家老) V 2 6 1 9

出羽(でわ・池田) → 政孝(まさたか・池田いけだ、藩国老、歌人) N 4 0 5 2

出羽(でわ・樋口) → 英哲(ひでのり・樋口ひぐち、神職/国学) K 3 7 7 4

出羽(でわ・葛城) → 貞之(さだゆき・葛城かつらぎ、歌人) O 2 0 3 2

出羽(でわ・宮川) → 経正(つねまさ・宮川みやがわ、神職/国学) G 2 9 5 6

出羽阿闍梨(でわのあじり) → 日金(にちごん/にちきん;法諱、日蓮僧) B 3 3 9 2

出羽守(でわのかみ・大島) → 忠泰(ただやす・大島/島津/高城、武将/日記) R 2 6 0 5

出羽守(でわのかみ・蜂屋) → 頼隆(よりたか・蜂屋はちや/源/羽柴、武将/歌・連歌) I 4 7 8 8

出羽守(でわのかみ・毛利) → 重能(しげよし・毛利もうり、武家/和算家) T 2 1 0 9

出羽守(でわのかみ・千々和) → 直国(なおくに・千々和ちぢわ、神職/国学) N 3 2 8 6

出羽守(でわのかみ・有馬) → 純珍(すみよし・有馬、幕臣/巡検記録) H 2 3 2 7

出羽守(でわのかみ・柴田) → 興宣(おきのぶ・柴田/高宮、神職) C 1 4 9 3

出羽守(でわのかみ・岩橋) → 広持(ひろもち・岩橋いわはし/大江、神職/国学) I 3 7 3 8

出羽守(でわのかみ・田中) → 定賢(さだよし・田中、定格男/幕臣/国学) O 2 0 8 0

出羽守(でわのかみ・水野) → 忠精(ただきよ・水野、藩主/老中/歌人) F 2 6 0 3

出羽守(でわのかみ・水野) → 忠成(ただあきら・水野みずの、老中/日記) F 2 6 4 4

出羽守(でわのかみ・加藤) → 泰統(やすむね・加藤かとう、藩主/歌人) F 4 5 6 9

出羽守(でわのかみ・朽木) → 綱貞(つなさだ・朽木くつき/源、藩主/歌人) B 2 9 0 6

出羽守(でわのかみ・荷田) → 信資(のぶもと・荷田かだ/羽倉、神職) D 3 5 5 2

出羽守(でわのかみ・荷田) → 信舎(のぶや・荷田かだ/羽倉、神職/国学) H 3 5 8 7

出羽守(でわのかみ・曲淵) → 景山(けいざん・曲淵まがりぶち、幕臣/奉行) N 1 8 4 2

出羽守(でわのかみ・藤木) → 成一(しげかず・藤木/賀茂、医;鍼博士) Q 2 1 7 4

出羽守(でわのかみ・岡本) → 清足(きよたり・賀茂/岡本、神職) P 1 6 8 8

出羽守(でわのかみ・宇井) → 包教(かねり・宇井うい/穂積、神職/国学) T 1 5 7 2  
 出羽守(でわのかみ・宇井) → 包高(かねたか・宇井うい、包教男/神職) T 1 5 7 3  
 出羽守(でわのかみ・西村) → 正邦(まさくに・西村にむら/源、官人/歌人) R 4 0 3 9  
 出羽守(でわのかみ・津軽) → 寧親(やすちか・津軽つがる、藩主/俳人) G 4 5 2 7  
 出羽守(でわのかみ・加藤) → 泰衡(やすみち・加藤かとう、藩主/学制) D 4 5 0 6  
 出羽守(でわのかみ・鈴鹿) → 貞郷(さださと・鈴鹿すずか/中臣、神職/歌) O 2 0 7 1  
 出羽守(でわのかみ・松井) → 永賢(ながよし・松井、官人/歌人) G 3 2 5 1  
 出羽守(でわのかみ・中原) → 安定(やすさだ・松田まつだ、藩士/勤王) G 4 5 6 9  
 出羽守(でわのかみ・三上) → 一彦(かずひこ・三上みかみ、神職/歌人) V 1 5 8 2  
 出羽守氏雲(でわのかみしうん; 刀号) → 自笑(じしょう・岡島、刀鍛冶/俳人) E 2 1 0 8  
 出羽侍従(でわのじじゅう) → 義光(よしあき・最上もがみ/源、藩主/連歌) B 4 7 8 6

D3008 出羽掾(でわのじょう・伊藤いとう) ? - ? 大阪最古の浄瑠璃太夫:1658受領;出羽掾藤原信勝の称、  
 操り座出羽座の座元、初め江戸系の金平物を語る/寛文1661-73以降は説経節系浄瑠璃;  
 からくり技法を駆使、  
 1660「天狗羽討」63「しゆ天どうじ」67「阿弥陀本地」69「中将姫之御本地」著

出羽次郎兵衛尉(でわのじろうひょうえいのじょう) → 行藤(ゆきふじ・二階堂、藤原、幕臣/歌) F 4 6 5 4  
 出羽介(でわのすけ・荷田/羽倉) → 延純(のぶずみ・荷田/羽倉、神職) B 3 5 7 1  
 出羽介(でわのすけ・久野) → 繁山(はんざん・久野くの/源、医者/詩画) H 3 6 7 8  
 出羽辨(でわのべん) → 出羽辨(いではのべん、上東門院女房/歌) B 1 1 6 8

E3098 典(てん・森もり) ? - ? 江戸期;法眼、歌人、  
 歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[睦言のつきせぬ中の小夜まくら逢ひて別れのなきよもがな](大江戸倭歌;恋1435)

E3090 典(てん・津田つだ) 1820-1901 82歳 周防山口の国学者;近藤芳樹・小林歌城・仲田顕忠門、  
 歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[目に見えぬ風の跡さへ知られけり野分に荒れし武蔵野の原](大江戸倭歌;秋913)、

[典(;名)の通称/号]通称;弥助/小莊司/同光/男房、号;磊屋

玷(てん・中野) → 元輿(元輿げんよ・中野、医者) M 1 8 6 9

玷(てん・かける・直木/佐々木) → 向陽(こうよう・佐々木/直木、儒者) L 1 9 5 0

典(てん・松岡) → 定庵(ていあん・松岡まつおか、本草家) 3 0 2 5

典(てん・広瀬) → 蒙斎(もうさい・広瀬、儒者/藩政参与) 4 4 5 3

典(てん・鷺津/大沼) → 竹溪(ちくけい・大沼/鷺津、幕臣/詩人) C 2 8 8 5

典(てん・西脇) → 秀挺(しゅうてい・西脇にしわき、医・本草家) Y 2 1 0 7

転(てん・山名) → 豊樹(とよき・山名やまな、藩士/神職/国学) T 3 1 3 5

転(てん・黒沢) → 眞臣(まおみ・黒沢くろさわ、藩士/国学/歌) P 4 0 5 1

伝(でん・藤田/人見) → 懋斎(ぼうさい・人見/小野/野/藤田、儒者/藩士) 3 9 8 9

伝(でん・安倍/阿部) → 完堂(かんどう・安倍/阿部、儒者/詩人) R 1 5 5 6

伝(でん・牛島/梯) → 箕嶺(きらい・梯かけはし、藩士/漢学者) Q 1 6 5 6

伝(でん・鈴木) → 重厚(しげあつ・鈴木すずき、藩士/国学者) Z 2 1 0 5

D3009 伝阿(でんあ;法諱) ? - ? 大和の僧侶/連歌;

1413「伝阿暈字じょうじ百韻」(独吟百韻)、1470教具「北畠家連歌合」参加(;兼良判)、

[真実の花とは見えず松の雪](暈字百韻の発句/挙句まで各句に暈字[二字の熟字]入)

[招けど人は近づきもせず

我が思ひ野辺の薄すきの穂に出でて](北畠家連歌合;恋百五十九番右、左は堀川具茂)

3011 天愛(てんあい) ? - ? 江中期叡山天台宗吉祥院住僧、

1730「善法堂議」著(;東寺の泉室の「我慢抄」に対する見解)

E3081 点案(てんあん) ? - ? 江前期俳人;1692不角「千代身草」入

[慰みに御法みりを聴けば奉加帳](千代身草/講談位のつもりで気楽に寺にいったら大変)

D3010 恬庵(てんあん・天野あまの、名;定一) 1782-1849 68 尾張藩士/儒者;恩田蕙楼門/1834藩校明倫堂教授、  
 「恬菴天野先生集」著、阿部松園・吉田文淵の師、  
 [恬庵(;号)の字/通称]字:士徳、通称;久右衛門

- D3011 **恬庵**(てんあん・吉益よしまつ、名;政虎/虎、字;文炳、樗斎男)1820-46**早世**27 大阪伏見町の医者;父門、  
儒:春田横塘門、東洞の玄孫、父祖の業を紹述、「方極積跬ほうきよくせきき録」著
- 恬庵(てんあん・牧園) → 茅山(ぼうざん・牧園まさぞの、藩儒) B 3 9 1 9  
 顛庵(てんあん・山口) → 凹巷(おうこう・山口やまぐち、詩人) B 1 4 6 4  
 伝庵(でんあん・畠山) → 光政(みつまさ・畠山はたけやま、藩医) K 4 1 0 7  
 電庵(でんあん・瀬山) → 命助(めいすけ・瀬山せやま、藩士) 4 3 2 2  
 天安院(てんあんにん) → 日言(にちごん;法諱、日蓮僧) B 3 3 9 4  
 顛庵陳人(てんあんにん) → 凹巷(おうこう・山口やまぐち、詩人) B 1 4 6 4  
 天漪(てんい・高/深見) → 玄岱(げんたい・深見/高こう、儒/書家) E 1 8 3 4  
 天一散人(てんいちさんじん) → 風水(ふうすい・日置へき/島、神職/俳人) 3 8 8 4  
 塙一郎(てんいちろう・黒田) → 孝継(たかつぐ・黒田くろだ、藩士/歌人) W 2 6 9 5
- D3012 **伝一郎**(でんいちろう;通称・上川うえかわ)?-? 江末期1856下田奉行支配調役/57小十人組、  
「カラフト西奥地里数書」著
- 伝一郎(でんいちろう・浅香) → 青洲(せいしゅう・浅香、幕臣/本草/歌人) I 2 4 6 7
- D3013 **恬逸**(てんいつ・莊しょう/庄/大河内/本姓;藤原、名;良資、植木忠治男)1660-1723**64** 安藝広島島の儒者、  
広島藩主浅野家の臣;1673君命で江戸の林鳳岡門/88帰郷、89將軍綱吉の招聘で幕臣儒官、  
1695近習番/1706儒官に復し評定所詰め、  
「詩集伝翼」「言志編」「四書章句集註考異」「昌平志」著、  
[恬逸(;号)の幼名/字/通称/法号]幼名;伊勢松、字;斌卿ひんけい/春竜、  
通称;伝吉郎/新助/五郎大夫/藤左衛門、法号;了翁
- 天逸(てんいつ・楠本) → 碩水(せきすい・楠本くすもと、藩儒/教育) D 2 4 6 5  
 天衣道人(てんいどうじん) → 春帆(しゅんぱん・高階たかしな、漢学/詩人) K 2 1 4 1  
 天隱(てんいん;初道号) → 叔京(しゅくきょう;道号・妙禰;法諱、臨濟僧) Y 2 1 6 6  
 天隱(てんいん;道号) → 龍沢(りゅうたく;法諱、天隱、臨濟僧) 4 9 0 9  
 天隱(てんいん・大国/野之口) → 隆正(たかまさ・大国/山本/野之口/今井、国学/歌) 2 6 1 7  
 点雲(てんうん;号) → 顕令(けんれい;道号・通憲;法諱、臨濟僧) N 1 8 1 1
- D3014 **天慧**(てんえ;法諱) ? - ? 江末期;美濃の真宗本願寺派専精寺住職/司教、  
「大乘起信論義記聴記」著
- 天慧(てんえ;字) → 日勇(にちゆう;法諱・法性院、日蓮僧) D 3 3 3 0  
 展衛(てんえい・南部) → 麿男(みかお・南部なんぶ、勤王家) H 4 1 3 9  
 天映(てんえい;号) → 大悟(いご・中野なかの、本願寺派僧) Y 2 6 5 9  
 天英公(てんえいこう) → 義宣(よしのぶ・佐竹さたけ、武将/藩主) F 4 7 5 5
- D3015 **伝右衛門**(でんえもん・鶴飼うかい、名;盈持/盈進、盈次男)1815-84**70** 信州高島藩士;  
1831藩主諏訪忠恕に出仕/父の遺領継承/46病により家督を弟信直[耻軒]に譲渡/剃髪、  
剃髪後に高島藩諸家の家譜を蒐集編集、「藩譜私集」「松平上総介源忠輝一代記」著、  
[伝右衛門(;通称)の幼名/初通称/号]幼名;久米蔵、初通称;源太左衛門、隠居号;一三
- 伝右衛門(でんえもん・福富) → 親政(ちかまさ・福富ふくとみ、武将/藩士) B 2 8 8 1  
 伝右衛門(でんえもん・野中) → 兼山(けんざん・野中のなか、藩家老/儒者) 1 8 1 4  
 伝右衛門(でんえもん・鷺) → 了意(りょうい・鷺伝右衛門政俊、狂言師) G 4 9 1 6  
 伝右衛門(でんえもん・堀内) → 勝重(かつしげ・堀内、藩士/記録) N 1 5 3 9  
 伝右衛門(でんえもん・森) → 尹祥(まさよし・森/源、幕臣/書家) I 4 0 5 8  
 伝右衛門(でんえもん・森) → 敬典(たかのり・森もり/源、尹祥孫/幕臣/歌) U 2 6 2 5  
 伝右衛門(でんえもん・宮永) → 正運(まさゆき・宮永、農政家/俳人) I 4 0 2 6  
 伝右衛門(でんえもん・谷) → 本教(もとのり・谷たに、能吏/記録) D 4 4 8 1  
 伝右衛門(でんえもん・白尾屋) → 従吾(じゅうご、俳人) H 2 1 3 0  
 伝右衛門(でんえもん・木村) → 草也(そうや・木村きむら、商家/俳人) J 2 5 0 0  
 伝右衛門(でんえもん・大津屋) → 調唯(ちやうい・鈴木/壺中軒、甲府俳人) H 2 8 2 2  
 伝右衛門(でんえもん・鈴木) → 二歩只取(にふのただとり、江戸狂歌師) F 3 3 7 1  
 伝右衛門(でんえもん・井内) → 南涯(なんがい・井内いうち、藩士) I 3 2 7 0  
 伝右衛門(でんえもん・満野) → 荷洲(かしゅう・満野みつの、藩士/儒者) L 1 5 8 2

- 伝右衛門(でんえもん・木造)→ 洪宗(ひろむね・木造こづくり、絵師) H 3 7 4 7  
 伝右衛門(でんえもん・土肥)→ 霞洲(かしょう・土肥どひ、儒者) C 1 5 1 0  
 伝右衛門(でんえもん・中山)→ 葦菔(せいが・中山なかやま、医・藩儒者) 2 4 8 5  
 伝右衛門(でんえもん・大森)→ 元堯(もとたか・大森おおもり、詩歌人) C 4 4 8 3  
 伝右衛門(でんえもん・山沢/国島)→ 筈斎(かつさい・国島、藩士/儒者) N 1 5 3 0  
 伝右衛門(でんえもん・内田)→ 金羅(きんら・東とう/内田、俳人) J 1 6 4 0  
 伝右衛門(でんえもん・藤井)→ 維濟(これなり・藤井ふじい/藤原、国学者) O 1 9 6 3  
 伝右衛門(でんえもん・荒井)→ 和水(わすい・荒井あらい、商家/心学者) 5 3 3 3  
 伝右衛門(でんえもん・艾屋よもぎや)→ 旦暮畔道(たんぼのおぜみち、狂歌作者) I 2 6 6 0  
 伝右衛門(でんえもん・石黒)→ 務(つとむ・石黒いしくろ、藩士/知事/歌) F 2 9 2 6  
 伝右衛門(でんえもん・鶴飼)→ 忠郷(たださと・鶴飼うがい、藩士/国学) V 2 5 7 8  
 伝右衛門(でんえもん・永楽屋)→ 元等(もととも・神谷かみや、商家/国学者) J 4 4 7 2  
 伝右衛門(でんえもん・永楽屋)→ 元邦(もとくに・神谷かみや、商家/国学者) J 4 4 7 1  
 伝右衛門(でんえもん・永楽屋)→ 永平(ながひら・神谷、元邦男/製造業/国学) F 3 2 5 2  
 伝右衛門(でんえもん・下里)→ 千穎(ちかひ・下里しもさと/藤原/中臣/鎌田、神道) M 2 8 6 9  
 伝右衛門(でんえもん・鶴田)→ 誠(まこと・鶴田つるた、藩士、国学者) Q 4 0 9 9  
 伝右衛門(でんえもん・布喜川)→ 親英(ちかひで・布喜川ふきがわ/永井、庄屋/歌) D 2 8 5 3  
 伝右衛門(でんえもん・渡辺)→ 貫勉(ぬきかつ・渡辺わたなべ、醸造業/歌人) 3 4 1 9  
 伝右衛門尉(でんえもんのじょう・片岡)→ 豊忠(とよただ・片岡、和算家) R 3 1 2 3  
 天淵(てんえん;号) → 孝明天皇(こうめいてんのう、歌人) B 1 9 9 4
- D3016 天円子(てんえんし、姓名不詳)?- ? 江後期肥後の和算家、「鄒理円線一致術」  
 牛島盛庸[1756-1840]の号か? → 盛庸(もりつね・牛島、熊本藩算学) F 4 4 8 0
- D3017 天翁(てんおう・鹿島かしま、名;金悟郎/桂一郎、弥野右衛門男)1810-9586 信濃篠ノ井の俳人;月国門、  
 画;堤等琳、小出春郷に師事、佐久間象山と親交、1854・61刊「別世界」(;一中と共編)、  
 [天翁(;号)の通称/別号]通称;秀才、別号;桂/明月庵、法号;明月庵小林秀斎桂居士  
 点翁(てんおう・町口) → 是保(これやす・町口まちぐち/坂上/別所、廷臣/明法博士) R 1 9 3 1
- D3018 田翁(でんおう;道号・牛甫ぎゅうほ;法諱)?-1724 江戸の曹洞僧;瑠璃光寺4世源水牛曹門、  
 瑠璃光寺5世継承、曹洞宗の宗統復古運動を促進、1713「感応護国徒薪論」、「法住記」著  
 天恩(てんおん・美玉) → 三平(さんぺい・美玉みたま、高橋、尊攘派) M 2 0 7 4  
 田翁(でんおう・中島) → 広足(ひろたり・中島/越智、藩士/国学者) 3 7 2 1  
 天応大現国師(てんおうだいげんこくし)→ 徹翁(てつとう;道号・義亨、臨濟僧) E 3 0 7 6  
 田禾(でんか) → 篤老(とくろう・飯田、藩士/医/俳人) L 3 1 6 2
- D3019 殿花(でんか) ? - ? 大阪雑俳点者;1716-36書肆「富士の高根」入
- D3020 天海(てんかい;道号・空広くうこう;法諱、号;傑山、俗姓;橘)1348-1416 京の禅僧;1355(8歳)母と死別、  
 嵯峨天竜寺入;出家/曹洞僧;会津示現寺源翁心昭門;嗣法、99示現寺住持、  
 三浦盛次の招聘で長泉寺開山、「法王能照禅師塔銘」著
- D3021 天海(てんかい;道号・希曇きどん/けどん;法諱、俗姓藤原)?-1421 周防の曹洞僧;20歳で明窓妙光門;出家、  
 禅洞寺の実峰良秀門;嗣法、伯耆の円福寺創建;師明窓を開山とし自らは2世、  
 1417能登総持寺住持/円福寺で没、「授衣鉢作法」
- D3022 天海(てんかい;法諱/別法諱;随風、俗姓;蘆名)1536-1643長寿108歳or異説132歳  
 岩代会津の天台僧;1546(11歳)出家、天台学;叡山の実全門、  
 園城寺・興福寺・足利学校などで儒・仏・老子学を修学、  
 信長の叡山焼討後武田信玄の招聘で甲斐へ/常陸江戸崎不動院・武蔵川越の喜多院住、  
 1607叡山の南光坊住、徳川家康の知遇を得て叡山復興に尽力、家康の遺骸を日光山に移す、  
 東照大権現位の勅許を得て日光山輪王寺建立に尽力、幕政にも参画:黒衣宰相と称された、  
 1625江戸東叡山寛永寺創建;徳川家廟所とし初世住寺/大僧正、木活字版大蔵経刊行;  
 天海版と称される、「東照宮縁起」「一実神道秘決」「天海僧正消息」「念誦法安」外著多数、  
 [天海(;法諱)の通称/号]通称;兵太郎、号;南光坊/智楽院、諡号;慈眼大師  
 天海(てんかい・中村) → 雪樹(ゆきき・中村なかむら、藩士/国学) H 4 6 0 5  
 天開(てんかい・岸) → 岸駒(がんとく;通称、絵師) G 1 5 2 3

- D3023 **天崖**(てんがい;道号・玄夷げんい;法諱)?-? 江後期臨濟僧;白隠慧鶴門;嗣法、甲府東光寺住持、1790「釈迦応化略」
- D3024 **天外**(てんがい・沖おき、名;孝禄/高禄/銓、字;秉衡、一峨男)1843-64切腹<sup>22</sup> 鳥取藩助教/儒・昌平鬻出、国事周旋方、勤王派、鳥取藩の監察堀庄次郎を暗殺し切腹、「嚼々齋遺稿」、  
[天外の通称/別号] 通称;剛介、別号;天外狂人/嚼々齋しゃくしゃくさい  
天涯(てんがい・大館) → 氏晴(うじはる・大館おおだち、故実家) C 1 2 6 0  
天外一間人(てんがいいつかんじん) → 独立(どくりゅう・性易、医者/黄檗僧) L 3 1 5 6  
天外如来(てんがいによらい) → 眞道(まみち・津田つだ、洋学者/法学) K 4 0 1 2  
天開翁(てんかいおう、天開窟) → 岸駒(がんどく;通称、絵師) G 1 5 2 3  
天下一江戸肥前掾(てんかいちえどひぜんのだいじょう) → 肥前掾(ひぜんのだいじょう・江戸、浄瑠璃太夫) C 3 7 5 1  
天下一上総(てんかいちがさき) → 喜太夫(きだゆう・虎屋とらや/藤原正信、浄瑠璃) F 1 6 7 6  
天岳(てんがく;号) → 雲堂(うんどう;法諱・乗音、真言僧) E 1 2 0 1  
典学(てんがく・服部) → 大方(たいほう・服部/沢、藩士/儒者) C 2 6 2 0
- D3025 **田楽**(でんがく・椒芽きのめの・このめの、神谷剛甫)?-? 江後期尾張名古屋西郊牧野村の医者、和漢学、初め貸本用読本製作、読本・黄表紙/洒落本作者:馬琴門、石橋庵眞酔と親交、1800大野屋惣八編「軽世界けいせいかい四十八手」序文および「捻った手」著、1801「舞意抄」02「挑燈庫闇夜七扮」19「復讐梨園」、「春秋洒子伝」「戲氣縁起」著、  
[椒芽田楽の別号]木芽亭田楽/西江[郊]田楽/田楽庵/木下山人/並戸安売/笏羹菜/爰于翁菜  
天岳行春(てんがくこうしゅん) → 兼冬(かねふゆ・一条、廷臣/関白/歌) D 1 5 0 4  
田楽舎(でんがくしゃ/たらのや?) → 春門(はるかど・村田/宮崎、国学/歌) 3 6 3 1  
田鶴丸(でんかくまる→たづまる) → 田鶴丸(たづまる・蘆辺あしべ/岩田、狂歌) 2 6 3 9  
天下上人(てんかしょうにん) → 源空(げんくう;法諱・法然、浄土宗開祖) 1 8 1 1  
澱河漕吏(でんがそうり) → 益春(ますはる・壺井つばい/山本、役人/国学) Q 4 0 9 8  
天間(てんかん) → 独立(どくりゅう・性易しょうえき、医/黄檗僧) L 3 1 5 6  
天関(てんかん・小笠原) → 宗元(そうげん・小笠原おがさわら、武将/幕臣/連歌) H 2 5 1 2
- D3026 **天岩**(てんがん;道号・道超どうちょう/元超:法諱)?-1727 幼時に出家/黄檗僧:宇治万福寺暁堂道取門、1666高泉性激しょうとんの侍者/80和泉堺の壽泉庵を万福寺塔頭として移建、1689万福寺5世独湛性瑩の法嗣(以後道超を名乗る)、1673「暁堂禅師夢遊漫録」編
- D3027 **天巖**(てんがん;道号・祖暁そぎょう;法諱、俗姓佐藤)1667-1731<sup>65</sup> 甲斐南都留郡宝村の曹洞僧;1673(7歳)甲斐桂林寺で出家/1689徳翁良高門/1694甲斐法泉寺住持、1701徳翁の法嗣、1723近江清涼寺住持・駿河秀道院開山、「祖暁和尚法語」「天巖祖暁禅師語録」「勘破紀談」著
- D3028 **天岩**(てんがん;道号・円長えんちよう;法諱)?-1748 武州入間郡の曹洞僧:元庵円梁門;嗣法、陸奥洞雲寺3世、「竜門山歴代伝記」著
- D3029 **天巖**(てんがん;道号・祖麟そりん;法諱)?-1828 紀伊牟婁郡の曹洞宗仏光寺の大之貫道門;嗣法、仏光寺12世/紀伊光雲寺18世、1727「仏光禅寺歴住諸師伝讃」補  
天岩(てんがん;初道号) → 龍沢(りゅうたく;法諱、天隠:道号、臨濟僧) 4 9 0 9  
天岸(てんがん;道号、慧広:法諱) → 慧広(えこう・天岸、臨濟僧) 1 3 6 2  
天雁(てんがん・宇夫形/長尾) → 無墨(むぼく・長尾/宇夫形、儒者/詩) C 4 2 9 9  
伝巖(でんがん・船越) → 良弼(よしすけ・船越ふなこし/北条、劍術/歌) O 4 7 9 2  
天間老人(てんかんろうじん) → 独立(どくりゅう;道号・性易;法諱、戴笠、医者/黄檗僧) L 3 1 5 6
- D3030 **天喜**(てんき;号、別号;久呂保庵/久呂保山人)?-? 江後期上州久呂保くろほの俳人/各地行脚、晩年は武州玉川住、1814「はつしくれ」編、18「絵空言」、友人宝永が天喜の追善興行  
天禧(てんき・山本) → 北山(ほくざん・山本やまもと、儒者/詩人) 3 9 6 4  
天弁(てんき;号) → 香旭(ようぎよく;法諱・善慶、本願寺派僧) 4 7 6 9  
田器(でんき) → 暢斎(ちようさい・蒔田/畑井、書家/篆刻) I 2 8 3 7  
典義(てんぎ・中川) → 典義(のりよし・中川、家老/日記・記録) G 3 5 2 8  
田喜庵(でんきあん) → 護物(ごぶつ・谷川、俳人) D 1 9 6 9
- D3031 **伝吉**(でんきち・宮崎みやざき、初名;伝三郎)?-? 江前期上方出身の歌舞伎役者;1669頃江戸で若衆方、1683頃から立役;曾我十郎役雅当たり役/1697頃から作者を兼ねる、やつしの名人、1701「三世さんげ道成寺」「梵天国宝船」/05「十二段関尽」06「照る手姫永代蔵」作、

[伝吉(；名)の号] 巴蝶(；俳号)

- 伝吉(でんきち・生駒) → 万子(まんし・生駒いこま、藩士/俳人) K 4 0 6 0  
伝吉(でんきち・森川) → 馬谷(初世ばこく、講釈師) E 3 6 2 6  
伝吉(でんきち・内海/広瀬) → 宗栄(むねよし・広瀬/内海、藩士/心学) C 4 2 8 9  
伝吉(でんきち・小川) → 清流(すがる・小川おがわ、藩士/国学) I 2 3 1 5  
伝吉郎(でんきちろう・荘/大河内) → 恬逸(てんいつ・荘しょう/大河内、幕臣儒官) D 3 0 1 3
- D3032 天弓(てんきゅう；号) ? - ? 江前期大和の俳人、1691「大和狐」編  
田宮(でんきゅう・青方) → 繁治(しげはる・青方あおかた/白浜、藩家老) S 2 1 3 0  
天休院(てんきゅういん) → 輝貞(てるさだ・大河内/松平、藩主) C 3 0 7 2  
田居(でんきよ) → 敬(けい・藤本、詩/俳人) D 1 8 3 1  
田魚(でんぎよ) → 吉通(よしみち・山田やまだ/高橋、国学/歌) P 4 7 8 6
- D3033 天境(てんきょう；道号・靈致(れいぢ)いぢ/りょうぢ；法諱、諡号；宝鑑(たからあき)天明(ていめい)禪師) 1301-8181 甲斐(かい)の臨濟(りんざい)僧；清拙(せいせつ)門、清拙(せいせつ)正澄(せいせう)の嗣法、1344肥後(ひご)浄土(じやうど)寺住持、豊後(ぶんご)万寿(まんとしゆ)寺住持・京(きやう)万寿(まんとしゆ)寺24世、建仁(けんにん)寺41世、南禪(なんぜん)寺32世/天竜(てんりゆう)寺13世、南禪(なんぜん)寺善住(ぜんぢゆう)庵に退隱(たいいん)、詩人、「洞裏(どうり)春風(しゆんぷう)集」、「無規矩(むきこ)集」著  
典暁(てんぎやう・鈴木) → 典暁(のりあき・鈴木すずき、神職) I 3 5 7 6  
転経院全王(てんきやういんぜんおう) → 全王(ぜんおう・転経院、童/歌人) O 2 4 8 8  
転経院春王(てんきやういんはるおう) → 春王(はるおう・転経院、童/歌人) L 3 6 1 1  
天橋窟主人(てんきやうくつしゆじん) → 退甫(たいほ・新山(にんざん)にいやま/佐藤、相法家) L 2 6 0 1  
点狂生(てんきやうせい) → 清節(せいせつ・村上むらかみ、儒者/勤王) J 2 4 0 2  
伝教大師(でんぎやうだいし) → 最澄(さいせう；法諱、天台開祖/歌) 2 0 0 5  
天橋堂(てんきやうどう) → 退甫(たいほ・新山(にんざん)にいやま/佐藤、相法家) L 2 6 0 1
- D3034 天棘(てんきやく) ? - ? 江中期俳人；1728柳岡(やなぎが)「万国燕(ばんこくえん)」41句入；  
[さくら散る此の下陰(したかげ)の繋ぎ舟(つなぎふね)](万国燕)
- D3035 天旭(てんぎやく) ? - ? 江前期；近江(おうみ)愛知(あいぢ)郡(ぐん)の真宗(しんしゆ)大谷(おほや)派西宗(さいしゆ)寺の僧、1700「摺聚(すりく)鈔」/11「明義(めいぎ)対辨(たいべん)」、「大谷(おほや)教義(きやうぎ)問辨(もんべん)」、「百法(ひやくぽう)問答(もんたう)鈔講録(しやうかうろく)」著/「成唯識(じやういし)論述(ろんじゆ)集積(しゆく)」編  
天均(てんきん・石野) → 雲嶺(うんれい・石野、儒者) E 1 2 1 5  
天均(てんきん・梶原) → 景照(かげひろ・梶原(かじはら)かじら、金石(きんせき)文学者) E 1 5 9 9  
天閻(てんげん；法諱) → 如仲(じよちゆう；道号・天閻、曹洞(そうとう)僧) M 2 2 6 9  
天禽(てんきん) → 玄鶴(げんかく・大野(おほの)おの、医者/地誌) I 1 8 2 7  
天愚(てんぐ・孔平(こうへい)くびら) → 鳩谷(きやうこく・萩野(はぎの)孔平(こうへい)くびら、藩士/儒) I 1 6 7 4  
天愚(てんぐ・三井) → 高敏(たかとし・三井(みづい)みつ、商家/国学) D 2 6 2 1  
天空(てんくう；字) → 助参(すけさん(助三(すけさん)じよさん)；法諱、浄土(じやうど)僧) M 2 2 3 7
- D3037 伝空(でんくう) ? - ? 河内(かわち)円通(えんつう)山の天台(てんたい)僧、「天台(てんたい)伝仏(でんぶつ)心印(しんいん)記玄談(きげん)」  
天愚孔平(てんぐこうへい) → 鳩谷(きやうこく・萩野(はぎの)孔平(こうへい)くびら、藩士/儒) I 1 6 7 4  
天狗小僧(てんぐこぞう) → 寅吉(とらきち・高山、国学) R 3 1 7 2  
天愚斎(てんぐさい) → 鳩谷(きやうこく・萩野(はぎの)孔平(こうへい)くびら、藩士/儒) I 1 6 7 4  
天狗山人(てんぐさんじん) → 晋交(しんかう・芝(しば)、洒落(しやれつ)本作者) E 2 2 0 8  
天狗堂転蓬(てんぐどうてんぼう) → 転蓬(てんぼう・天狗堂、浮世(うきよ)草子) E 3 0 2 8  
天狗堂熱鉄(てんぐどうねつてつ) → 北斎(ほくさい・葛飾(くさく)師、葛飾(くさく)派祖) 3 9 6 2  
天狗坊(てんぐぼう) → 旧室(きゆうしつ・笠家(かさけ)、活井(かっせい)い、俳人) C 1 6 0 6  
伝九郎(でんくろう・中村) → 勘三郎(かんとしやう(4世(よんせい)かんとしやう)・中村、歌伎(かぎ)役者) D 1 5 7 0  
伝九郎(3世(さんせい)でんくろう・中村) → 勘三郎(かんとしやう(11世(じゆんいちせい)かんとしやう)・中村、歌伎(かぎ)役者) D 1 5 7 7  
伝九郎(5世(ごせい)でんくろう・中村) → 勘三郎(かんとしやう(12世(じふにせい)かんとしやう)・中村、歌伎(かぎ)役者) D 1 5 7 8  
天愚老人(てんぐろうじん) → 鳩谷(きやうこく・萩野(はぎの)孔平(こうへい)くびら、藩士/儒) I 1 6 7 4
- D3038 天荆(てんけい；法名) ? - ? 京(きやう)の臨濟(りんざい)宗妙(しゆめう)心寺(しんじ)の僧/1577朝鮮(せうせん)修好(しゆこう)のため渡航(わたくわい)、1592文禄(ぶんろく)の役(やく)で小西(せうせい)行長(ぎやうぢやう)の従軍(じゆんぐん)僧として渡海(わたくわい)；交渉(かうし)文(ぶん)起草(きせう)に参与(さんい)、1577「右武衛(みぎぶゑ)殿(のん)朝鮮(せうせん)渡海(わたくわい)之(の)雜藁(ざがう)」/1587-8「朝鮮(せうせん)往還(わうわん)日記(にぢ)」、92「西征(せいせい)日記(にぢ)」著
- D3039 天桂(てんけい；道号・伝尊(でんそん)；法諱、俗姓；大原(おほはら) 1648-173588 和歌山(わかさ)の曹洞(そうとう)僧；1655(8歳)出家(しゆげ)；窓誉(まなぶ)寺(じ)伝弓(でんきゆう)門、各地(あち)遊歴(ゆうれき)；臨濟(りんざい)・真言(しんげん)律僧(りつしゆ)にも参禪(さんぜん)、1677駿河(しゆんが)静居(じやうき)寺の五峰(ごほう)海音(かいおん)門/嗣法(しふほふ)、静居(じやうき)寺住持、近江(おうみ)大雲(おほいづ)寺・阿波(あわ)丈六(ぢやうろく)寺住持、卍山(まんざん)道白(だうはく)の復古(ふこ)運動(うんどう)を批判(ひはん)し異端(いたん)視(し)された、

「正法眼蔵弁証」「碧巖集随聞記」「天桂和尚詠歌」「螺蛤らごう老人落艸談」「千里一鞭」著、  
「天桂老人辨道法語」「撮玄談」「從容録辨解」「碧巖集国字解」「驢耳彈琴」外著多数、  
[天桂伝尊の号] 瞳眠楼/滅宗/老螺蛤らうらごう/老米虫、象山しょうざん問厚の師、  
参考 → 丑山(まんざん・道白、古規復古運動) K 4 0 5 8

- D3040 天啓(てんけい;道号・禅祚ぜんそ;法諱)?-? 江中期美濃可児郡の臨濟宗見性寺住持、  
1739見性寺で「勅修百丈清規」の講筵、妙心寺派の清規の研究者、「天啓禅師清規会語録」著
- D3041 天鷄(てんけい;道号・祖暁そぎょう;法諱)?-1795 江中期佐渡の曹洞僧;覺岸眼道門/嗣法、  
1757佐渡赤泊の東光寺15世/同国本田寺・玉泉寺住寺、「東光寺由緒記」著  
天経(てんけい・武田) → 熟軒(じゅくけん・武田たけだ、藩士/漢学) Y 2 1 6 7  
天経(天桂てんけい・山本) → 素堂(そどう・山本やまもと、儒者/絵師) K 2 5 2 4  
天谿(てんけい・松本) → 樺柯(さいか・松本まつもと、医/本草/俳人) 2 0 6 6  
天圭(てんけい・脇坂) → 安宅(やすおき・脇坂、藩主/老中/歌) B 4 5 1 0
- D3042 天狹(てんげい;道号・慧謙えけん;法諱)?-? 1779存 臨濟僧;古月禅材門/白隠慧鶴門、周防常栄寺住持、  
長門大聖寺住持、東福寺で開山五百年忌に臨濟録を講ず、常栄寺で70歳以上で没、  
1774「大照国師嗣法証并法語」編
- D3043 天倪(てんげい;法諱・浄和じょうわ;字、号;華泉堂)?-1789 安藝広島の医家の生/真宗本願寺派僧:  
広島仏護寺で出家、上京;法霖門/豊前下毛郡平田の西浄寺9世住職、  
本尊義諍論で法霖説を護持し智暹門徒と論戦、「師弦記」「本典科註」「文類聚鈔講」著、  
1765「本尊義一百八十難」/67「扣鳴こうめい録」/70「方便法身応問録」/73「辨磨方録」著  
天倪(てんげい・江沢) → 養樹(ようじゅ・江沢えざわ/中島、医者) B 4 7 0 8  
典倪(てんげい・橋本) → 織江(おりえ・橋本はしもと、商家/国学) E 1 4 0 5  
天鷄山人(てんけいさんじん) → 理斎(りさい・志賀しが、幕臣/漢学/狂歌) B 4 9 0 8  
添景舎(てんけいしゃ) → 宗範(むねのり/そうはん・辻つじ、茶道家/歌) D 4 2 9 9  
天問上人(てんけいしょうにん) → 明空(みょうくう;法諱、浄土僧/歌人) K 4 1 6 3  
天倪道人(てんげいどうじん) → 養樹(ようじゅ・江沢えざわ/中島、医者) B 4 7 0 8  
伝璟房(でんけいぼう;号) → 理峯(りほう;法諱・春応房、真言僧/梵曲) C 4 9 5 1  
伝経廬(でんけいろ) → 漁村(ぎょそん・海保かいぼ、儒者) D 1 6 2 8  
典見(てんけん・荒井) → 典見(のりみ・荒井、藩士/歌人) F 3 5 8 1  
典見(てんけん/のりみ・吉岡) → 羽人(うじん・吉岡よしおか、俳人) C 1 2 8 7  
典顛(てんけん・田村) → 村顛(むらあき・田村たむら/伊達、藩主) D 4 2 8 8
- D3044 天元(てんげん・佐々木ささき、号;仇鼎きゅうてい散人)?-? 江中期:近江の読本作者、  
1776「日本水滸伝」/79「孝子鑿」著  
天元(てんげん・野呂) → 天元(たかもと・野呂のろ、医者) Y 2 6 9 4
- D3070 田彦(でんげん・植松うえまつ、小尾守彦もりひこ2男)?-? 江戸後期甲斐の俳人;父門、  
兄清水彦貫を継嗣;蕪庵ぶあん5世、弟小尾おび四友しゅうが蕪庵ぶあんに継嗣  
天玄斎(てんげんさい) → 三千風(みちかぜ・三井/大淀、俳人) 4 1 0 3  
伝五(でんご・伊勢) → 貞常(さだかね・伊勢/平、故実家) I 2 0 6 3  
伝吾(でんご・安永) → 惟正(これまさ・安永やすなが、和算家) O 1 9 8 4  
伝吾(でんご・岡村) → 義比(よしちか・岡村おかむら、藩士/詩/書) E 4 7 5 1
- D3045 天口(てんこう・無量庵) ? - ? 和歌山の俳人/折句会催;1788「折句四ツ橋」所収
- D3046 天江(てんこう・江馬えま、名;正人/聖欽、下坂篁斎男) 1825-1901 77 江馬榴園の養嗣子、近江の医者:  
江馬元齡門/洋学;緒方洪庵門/詩文;梁川星巖門、維新後は太政官に出仕、詩名高い、  
1857「青囊珍珠」61「眼科真筌」訳、「古詩声韻」「賞心贅録」「退享園詩鈔」、「摘録方」「脈論」著、  
[天江(;号)の字/通称]字;永弼、通称;俊吉  
天功(てんこう・豊田) → 松岡(しょうこう・豊田、藩儒/史書編纂) S 2 2 1 5  
天香(てんこう・福田) → 渭水(いすい・福田ふくだ/ふた、儒/砲術) E 1 1 3 7  
天香(てんこう) → 桂子(かつらこ・横山/大村、歌人) 1 5 7 0  
天香(てんこう・東) → 吉貞(よしさだ・東ひがし/林、神職/国学) O 4 7 7 0  
天行(てんこう・原) → 健(たけし・原はら/戸田、医者/国学/歌) Z 2 6 1 0  
田功(でんこう・堀) → 菅岳(かんがく・堀ほり、豪農/儒者) Q 1 5 0 9

田向(でんこう・振/布留) → 田向(たむけ・振/布留ふる、万葉歌人) G 2 6 5 9  
 転合庵(てんごうあん) → 遠州(えんしゅう・小堀政一、藩主/茶/造園) 1 3 0 1  
 田香庵(でんこうあん) → 果然(かぜん、俳人) C 1 5 2 7  
 雪光庵(でんこうあん) → 素洲(そしゅう、雑俳点者) J 2 5 8 5  
 天香窟(てんこうくつ) → 荊林(けいりん; 道号・迪粹、臨濟僧) G 1 8 8 3  
 天香齋(てんこうさい) → 桂陰(けいいん・棚谷たなや、医者) F 1 8 2 5  
 伝鎬士(でんごうし) → 正知(まさとも・村山むらやま、剣術家) E 4 0 6 7  
 天香室(てんこうしつ) → 貞良(さだよし・岩井いらい、具足師/歌人) N 2 0 8 9  
 田高忠(でんこうちゅう) → 思明(しめい・寺田/田、書肆/音曲関係) V 2 1 8 0  
 顛鼈道人(てんごうどうじん) → 豹(泰良はだら・池永、国学者) E 3 6 8 0  
 天香楼(てんこうろう) → 白翁(はくおう・笠原かさばら、医者/種痘) C 3 6 7 7  
 天谷(てんこく) → 星巖(せいがん・梁川やながわ、詩人) 2 4 0 5  
 天国(てんこく) → 天国(あまくに、刀工の祖) F 1 0 0 4  
 天谷道人(てんこくどうじん) → 星巖(せいがん・梁川やながわ、詩人) 2 4 0 5  
 伝古知今堂(でんこちこんどう) → 雅嘉(まさよし・尾崎、医/国学/歌人) 4 0 2 4  
 典古堂(てんこどう) → 広文(ひろぶみ・城戸きと、書家) H 3 7 0 9  
 伝五郎(でんごろう・福島くしま) → 国明(くにあきら・福島くしま、幕臣/軍学) C 1 7 6 1  
 伝五郎(でんごろう・栗崎) → 履斎(りさい・栗崎くりさき、儒者) B 4 9 0 6  
 伝五郎(でんごろう・天羽) → 仏牛(ぶつぎゅう・天羽あも、藩士/俳人) D 3 8 2 8  
 伝五郎(でんごろう・潮田) → 藻苅(もがり・潮田うしおだ、藩士/国学) J 4 4 3 6  
 伝五郎(でんごろう・黒河内) → 兼規(かねのり・黒河内くろこうち/羽入、藩士/居合/歌) U 1 5 5 7  
 天根(てんこん・あまね・西) → 周(あまね・西にし、洋学者) F 1 0 0 8  
 田沙(でんさ) → 金羅(きんら・東とう/内田、俳人) J 1 6 4 0

D3047 恬齋(てんさい・片山かたやま) 1788-1864<sup>77</sup> 讃岐高松藩士/漢学:高尾椿溪門、  
 高松藩儒;政庁講道館で講釈、詩文/晩年は歌を嗜む、  
 「養和堂詩文稿」「老子自見藁」著、冲堂ちゅうどうの父、  
 [恬齋(;号)の名/字/通称/別号]名;信/信成のぶなり、字;成之、通称;直五郎/亮助/亮平、  
 別号;養和堂

D3048 恬齋(てんさい・高野たかの、名;常昌) 1803-1857<sup>55</sup> 代々越中富山藩医/詩歌・書を嗜む、  
 「穆如ぼくじよ詩集」著、  
 [恬齋(;号)の字/通称]字;文卿、通称;順庵

天哉(てんさい) → 長嘯子(ちやうしやうし・木下、秀吉甥、歌人) 2 8 2 3  
 伝齋(でんさい・田/田中) → 止邱(しきゅう・田中/田、儒者) B 2 1 5 8

D3049 伝左衛門(でんざえもん;通称・行山ゆきやま) ?-? 江中期加賀金沢藩士;産物方御用主付、  
 1735「能登国産物之内別ニ書出候帳面」1737「加能越産物書上帳」著

D3050 伝左衛門(6世でんざえもん・田中たなか) ?-1853 歌舞伎囃子方の田中流宗家6世;1842-43頃襲名、  
 「中村座囃子日記」著、[伝左衛門六世の別号] 田中左太郎四世

伝左衛門(でんざえもん・伊勢) → 貞重(さだしげ・伊勢/平、故実家/鞍制作) I 2 0 2 2  
 伝左衛門(でんざえもん・人見) → 必大(ひつだい・人見/野/小野、幕臣/医者) C 3 7 6 9  
 伝左衛門(でんざえもん・渡辺) → 直昌(なおまさ・渡辺/渡部、医者/歌人) C 3 2 4 1  
 伝左衛門(でんざえもん・竜) → 熙近(ひろちか・竜りゅう/竜野、神職/神仏道) G 3 7 3 4  
 伝左衛門(でんざえもん・新見) → 正朝(まさとも・新見しんみ/源/小栗、幕臣/随筆) E 4 0 6 9  
 伝左衛門(でんざえもん・広瀬) → 実常(さねつね・広瀬、兵学者/藩中老) L 2 0 0 0  
 伝左衛門(でんざえもん・神西) → 幸伝(こうでん;名・神西じんさい、書家) K 1 9 7 5  
 伝左衛門(でんざえもん・江村) → 北海(ほっかい・江村/伊藤、儒者/詩) 3 9 7 0  
 伝左衛門(でんざえもん・柘植) → 知清(ともしよ・柘植つげ/平、幕臣/歌) P 3 1 4 0  
 伝左衛門(でんざえもん・三田) → 義勝(よしかつ・三田さんだ、藩儒/詩文) C 4 7 8 6  
 伝左衛門(でんざえもん・速水/紅屋) → 几圭(きけい・高井、商家/俳人) 1 6 1 2  
 伝左衛門(でんざえもん・宇治屋) → 桃源(とうげん・渡辺、商家/俳人) D 3 1 4 5  
 伝左衛門(でんざえもん・石井) → 寛道(ひろみち・石井いひ、藩士/国学者) H 3 7 2 8

伝左衛門(でんざえもん・水島)→ ト也(ぼくや・水島みずしま、故実家;礼法) E 3 9 0 1  
伝左衛門(でんざえもん・山本)→ 昌蔭(まさかげ・山本やまもと/源/中島、藩士/国学) O 4 0 8 9  
伝左衛門(でんざえもん・門阪)→ 誠愚(せいぐ・門阪かどさか、商家/国学/歌) F 2 4 7 8  
伝左衛門(でんざえもん・三村)→ 拳賢(きょけん・三村みむら、藩士/文筆) P 1 6 4 8  
伝左衛門(でんざえもん・和田)→ 湖水(こすい・和田わだ、俳人) D 1 9 0 3  
伝左衛門(でんざえもん・清水)→ 羽長(うちょう・清水しみず、名;円) D 1 2 1 5  
伝左衛門(でんざえもん・沢井)→ 通顕(みちあき・沢井さわい、国学者) J 4 1 2 3  
伝左衛門(でんざえもん・外山)→ 利一(としかず・外山とやま、陪臣/国学) V 3 1 8 1  
伝左衛門(でんざえもん・百瀬)→ 道可(みちよし・百瀬ももせ/奈良井、本陣/歌) K 4 1 7 7  
伝左衛門(でんざえもん・来宮)→ 冬広(ふゆひろ・来宮くるみや、藩士/国学) I 3 8 1 9  
伝作(でんさく・南里) → 有隣(ありちか・南里なんり、藩士/国学者) F 1 0 4 2

- D3051 **伝察**(でんさつ;法諱、俗姓;宇田川/蛇窪) 1561-1632<sup>72</sup> 江戸品川の浄土僧;武州岩槻浄国寺清巖門、清巖の法嗣、浄国寺3世、鎌倉光明寺住;寺再興と庶民教化に尽力、1630芝増上寺16世、元和1615-24頃「仏眼舍利縁起」著  
[伝察(;法諱)の法名] 法名;心蓮社深誉/誠阿  
伝三郎(でんざぶろう・山鹿)→ 高通(たかみち・山鹿やまが、藩士/兵学者) N 2 6 2 9  
伝三郎(でんざぶろう・宮崎)→ 伝吉(でんきち・宮崎みやざき、歌舞伎役/作者) D 3 0 3 1  
伝三郎(でんざぶろう・大岡)→ 清重(きよしげ・大岡おおおか、旗本/幕臣) V 1 6 6 7
- D3052 **天散**(てんさん・荒川あらかわ、名;秀、周元男) 1652-1734<sup>83</sup> 京の儒者:幼時に伊藤仁斎の古義堂入門、1669紀州藩に出仕;84和歌山住/藩学長として学政に参画/1713隠居、「敝箒集」「南竜公譜略」「古学先生門人訳雑文」著、  
[天散(;号)の字/通称/別号]字:敬元/景元、通称;善吾、別号;蘭室
- D3053 **天産**(てんさん;道号・霊苗れいみょう;法諱、俗姓;新今/秦) 1676-1743<sup>68</sup> 但馬豊岡の曹洞僧:  
1682(7歳)豊岡養源寺の心空隆玄門;出家/嗣法、1710撰津泉流寺住/16能登総持寺住持、豊岡養源寺9世、1724総持寺再任/29泉流寺に帰り大坂で没、  
「天産文集」「養源天産書簡」、1720「声音対」著、34「信心銘拈提」校訂
- D3054 **天産**(てんさん;道号・慧苗えみょう;法諱) ?-1803 曹洞僧:面山瑞方の侍者、上州清水寺等に住、1757「普勸坐禅儀聞解」61「建仁戒壇録」編/62「宝鏡三昧吹唱」、64「大智禅師偈頌聞解」編
- D3055 **天山**(てんざん;道号・眞竜しんりゅう;法諱、俗姓;重松) 1720-88<sup>69</sup> 肥前佐賀郡今津村の曹洞僧:  
1731(12歳)肥前円蔵院久巖沢昌門;出家/諸師参禅/黙子素淵門・加賀天徳院悦巖素忻門、1762相模寿昌寺住持/越後長岡長興寺12世/遠州少林寺6世/越後地蔵院開山;信濃追分没、1774「悦巖和尚行業記」著
- D3056 **天山**(てんざん・吉田、岡崎兵部/初名;菊地源蔵) ?-? 大阪講釈/軍書講談;天山名/神道講釈;兵部名、1779「北野実在記」;天山名、1780一保の寺子屋で「義士伝」講釈;兵部名
- D3057 **天山**(てんざん・坂本/阪本さかもと、名;俊豈としき、英臣ひでとみ男/本姓;源) 1745-1803<sup>59</sup> 信州高遠藩士;砲術家/荻野流;父門/独創を加え荻野流増補新術と称す(長子俊元が天山流と改称)、鉄砲先述論展開、漢学/詩文;大内熊耳・宇佐美瀧水しんすい門、1783郡代;藩政改革に尽力;反対派に罷免/大阪・彦根・長門・肥前大村で砲術教授、1802肥前平戸藩主に招聘;藩士教育、「天山詩稿」、「火砲説」「国兵論」「銃陣詳節」「会心亭詩集」「臥遊楼詩集」、「天山遺稿」外著多、  
[天山(;号)の字/通称/別号]字:伯寿、通称;孫八、別号;臥遊楼/槃澗道人、俊元俊貞の父
- D3058 **天山**(てんざん・出島でじま、通称;太右衛門) 1776-1842<sup>67</sup> 上州前橋の俳人;篤老門、暦学/音曲に長ず、晩年は信州須坂住(門人赤山の任地)、1841「桂のかげ」、「もとの雫」著、  
[天山(;号)の別号] 許友/雪中庵/桃林舎
- D3059 **天山**(てんざん・和田わだ、修姓;林、名;茂善、小林六郎兵衛男) 1791-1865<sup>75</sup> 越後新潟の生、蒲原郡粟生津村の和田家を嗣、江戸で詩:館柳湾門/兵学;市川一学門、群書に通ず、詩人;「天山詩稿」「荏土草」著、佐藤西山の兄、  
[天山(;号)の通称/別号]通称;次郎左衛門、別号;西湾
- D3060 **天山**(てんざん・加藤かとう、名;勤/字;子成、維藩男) 1812-78<sup>67</sup> 信州上田の儒者;父門/昌平覺出、上田藩校明倫堂学監/講司/総司、郡奉行兼任、1859藩政時事を議したため禁固10年、維新後;長野県師範学校勤務、「与佐久間子迪[象山]書」「政記翼解」著

- D3061 **天山**(てんざん・栗栖くるす、名; 靖) 1839-66 自刃 28 周防岩国藩士/昌平齋出、藩校助教:陽明学に転学、精義隊を組織:隊の不祥事の責任で柱島に流罪/脱島;勤王の画策に失敗、「孟子養気章講義」「自警録」「致虚雑説」「匪職証言」著/1862「証心録」評、[天山(;号)の字/通称]字;子共、通称;平次郎
- D3062 **靛山**(てんざん・原田はらだ、名; 正巽) ?-? 幕末期江戸青山の漢学者、「通俗後西遊記」著、[靛山(;号)の字/通称/別号]字;子止、通称;端太夫、別号; 斲罍(しょうへい)
- 天山(てんざん・小牧) → 徳方(のりかた・小牧、儒者; 経史学) E 3 5 4 0
- 天山(てんざん; 号) → 大溪(だいきい; 道号・浄高; 法諱、黄檗僧) J 2 6 7 8
- 天山(てんざん・三宅) → 尚斎(しょうさい・三宅/平出、儒者) S 2 2 2 9
- 天山(てんざん・藤森) → 弘庵(こうあん・藤森、儒者) 1 9 0 3
- 天山(てんざん・井手) → 伊明(これあき・井手/山内、藩士/歌人) Q 1 9 2 8
- 典山(てんざん・錦城斎) → 錦城斎典山(きんじょうさいてんざん、講釈師) I 1 6 0 1
- 添山(てんざん・大館) → 晴勝(はるかつ・大館おだち、歌/連歌) G 3 6 1 9
- 天山一掬(てんざんいっく) → 句仏(くぶつ・三谷、研師/俳人) D 1 7 3 9
- 天山空(てんざんくう) → 風水(ふうすい・日置へき/島、神職/俳人) 3 8 8 4
- 田山人(てんざんじん) → 鹿鳴(ろくめい・沢田さわだ、儒者) B 5 2 0 8
- 天山堂主人(てんざんどうしゅじん) → 白華(はくか・菅野すげの、儒者) C 3 6 8 1
- 天山遯者(てんざんとんじや) → 昭陽(しょうよう・亀井、南冥男/儒/詩人) B 2 2 8 5
- 天錫(てんし・西坂) → 成庵(せいあん・西坂にしが、藩儒/詩文) 2 4 5 6
- 典侍(てんじ) すべて → 典侍(すけ)
- 天爾(てんじ) → 天爾(てんに; 法諱、天台僧) E 3 0 1 2
- 天次(てんじ・天竺・楠葉) → 西忍(さいにん; 法諱、法相僧/貿易) G 2 0 9 7
- D3063 **伝之**(でんし・広田ひろた) ? - ? 京の俳人; 1658元知「拾玉集」120句入
- 田使(でんし・高村) → 田使(たつかい・高村たかむら、廷臣/漢学/詩) R 2 6 5 7
- 伝司(でんじ・井坂) → 徳辰(あつき・井坂、神職/歌人) E 1 0 7 0
- 伝二(でんじ・長谷川) → 栄居(しげすえ・長谷川はせがわ、和算家) R 2 1 0 8
- 伝次(でんじ・真山/氏家) → 過拡堂(かかくどう・氏家うじえ、藩士/儒者) B 1 5 1 9
- 伝次(でんじ・河合) → 菊泉(きくせん・河合かわい、藩士/儒者) I 1 6 4 6
- 伝次(でんじ・松浦) → 宗案(そうあん・松浦、武家/勸農家) F 2 5 8 9
- 伝次(でんじ・村上) → 玄水(げんすい・村上むらかみ、藩士/蘭方医) K 1 8 2 8
- 伝治(でんじ・峯) → 潔(きよし・峯みね、藩士/天文学) P 1 6 5 9
- 伝治(でんじ・熊谷) → 豊澄(とよすみ・熊谷くまがい、藩士/国学) V 3 1 0 6
- 伝之衛門(でんしえもん・加藤) → 正修(まさのぶ・加藤かとう、藩士) F 4 0 7 1
- 天賜園主人(てんしえんしゅじん) → 直与(なおとも・鍋島、藩主/洋学/歌) B 3 2 8 7
- 天賜観(てんしかん) → 文坡(ぶんば・大江/江、神道/戯作) G 3 8 3 1
- 天竺花老人(てんじくからうじん) → 雲阿(うんあ・円童、神職/僧/狂歌) D 1 2 5 3
- D3064 **天竺徳兵衛**(てんじくとくべえ、号; 宗心) 1612-? 1707 存 播磨加古郡高砂の貿易商・1626-32 シヤムへ2度渡航: 1707 事情・風俗・物産などの記録を長崎奉行に提出; 世に流布、天竺徳兵衛異国譚として歌舞伎・浄瑠璃に劇化、晩年は剃髪(号; 宗心) し大阪に住、「天竺渡海物語」「渡天記」「渡天之説」「渡天物語」「唐天竺江渡江海上物語」著
- 天竺楼主人(てんじくろうしゅじん) → 阮甫(げんぼ・箕作みつくり、蘭学者/幕臣) D 1 8 0 3
- 天竺老人(てんじくろうじん) → 中良(ちゅうりょう・森島/桂川、蘭学/戯作) 2 8 1 9
- 天竺老人(てんじくろうじん) → 詮海(せんかい; 法諱、融通念仏僧) I 2 4 7 0
- 天竺浪人(てんじくろうにん) → 源内(げんない・平賀、洋学、戯作) 1 8 2 8
- 典侍光子(てんじこうし) → 典侍光子(すけのみつこ、歌人) G 2 3 8 7
- 田止子(でんし) → 紫紅(しこう・田代、俳人) P 2 1 3 7
- 典侍親子(てんじしんし) → 親子(しんし/ちかこ・北島/源、歌人) E 2 2 3 6
- 典侍親子朝臣(てんじしんしあそん) → 親子(しんし/ちかこ、中納言典侍、光俊[真観]女) E 2 2 3 5
- D3065 **伝七**(でんしち・中村なかむら) ? - 1725 歌舞伎役者: 初世中村伝九郎門/伝次郎名で立役、正徳三年1713頃より作者を兼る; 1714より伝七名で作者; 大道具の工夫/江戸の芝居に貢献、

- 1713「星合阿国歌舞伎」14「万民大福帳」17「鉢木豊年貢」24「入船隅田川」25「信田要石」外多数、  
 [中村伝七(；通称)の別通称/号]別通称；中村伝次郎/仁左衛門、号；角止、法号；観応院  
 振付師の伝次郎と同一?→ 伝次郎(でんじろう・中村/1673-1729、江戸振付師元祖) D 3 0 8 5  
 伝七(8世でんしち・中村) → 文字大夫(4世もじだゆう・常盤津、歌舞伎役者/音曲/作曲) B 4 4 2 0  
 伝七(でんしち・曲淵/乾) → 淡々(たんたん・松木まつき、俳人) 2 6 9 4  
 伝七(でんしち・小島) → 紫岳(しがく・小島こじま、歌人) O 2 1 3 7  
 田七(でんしち・秋岡) → 籬亭(りてい・秋岡、素菊、本屋/歌人) C 4 9 1 8  
 天七郎(てんしちろう・広田) → 則明(のりあき・広田ひろた/度会/橋村、神職) J 3 5 8 6  
 伝七郎(でんしちろう・向井) → 長昇(ながのり・向井、藩士/俳人) F 3 2 3 1  
 伝七郎(でんしちろう・永井) → 正良(まさよし・永井ながい、藩士/記録) I 4 0 4 6
- D3066 天室(てんしつ) ? - ? 慶長元和1596-1624頃；土佐長浜雪蹊寺住職、  
 儒；南村梅軒門、南学の三叟の1、谷時中(ぢちゅう)の師、  
 南学の系譜 → 梅軒(ばいけん・南村) B 3 6 0 6
- D3067 点瑟(てんしつ) ? - ? 江戸俳人；宗因座沾良側点者、  
 1754竹翁「誹諧童的」評点句入  
 天智天皇(てんじてんのう) → 天智天皇(てんちてんのう) 3 0 1 2
- D3068 恬子内親王(てんしなないしんのう/やすこないしんのう、文徳天皇皇女)?-913 母；三条町(紀静子)、  
 斎宮；業平と密通(伊勢物語入)  
 田子孚(でんしふ) → 信平(しんぺい・田中たなか、骨董商/料理) P 2 2 7 5  
 田思明(でんしめい) → 思明(しめい・寺田/田、書肆/音曲関係) V 2 1 8 0
- D3069 田社(でんしゃ・谷村、米花庵3世/武臯/白柳田社)?-1765 江中期江戸の俳人；紀逸門/其角座点者、  
 1741紀逸「吾妻舞」入、54「平河文庫」継承し編、61紀逸追善「句経題」編、  
 追善集「社の梅」太一庵編、初世笠縫専助(俳号；田社)の父  
 田社(でんしゃ・笠縫) → 専助(初世せんすけ・笠縫かさぬい、谷村田社男/歌舞伎作者) G 2 4 1 2  
 田沙(でんしゃ) → 金羅(きんら・東とう/内田、俳人) J 1 6 4 0  
 天赦園(てんしゃえん) → 宗紀(むねただ・伊達だて、藩主/築庭/歌) D 4 2 5 4
- D3070 天錫(てんしゃく・島津しまづ、知覧領主島津久峰男)1752-1809 58 薩摩藩加治木領主、  
 1772加治木島津家6代目継承/郷校毓英館(いけいかん)設立(伊藤瓊山を招聘)、秋岡冬日を招聘、  
 詩人；皆川淇園・江村北海らと交流、「薩天錫詩集」「名山楼詩集」「名山楼詠物百首」著、  
 [天錫(；号)の名/字/通称/別号]名；久徴(ひさなる/久憑/久容、字；子嘏(しか)、  
 通称；太郎次郎/兵庫、別号；錦水、法号；、錦水院  
 天錫(てんしゃく・細井) → 九臯(きゅうこう・細井ほそい、書家/篆刻) C 1 6 0 0  
 天錫(てんしゃく・西坂) → 成庵(せいあん・西坂にしざか、藩儒/詩文) 2 4 5 6  
 天爵(てんしゃく・氏家) → 竜溪(りゅうけい・氏家うじえ、藩士/語学) D 4 9 5 6  
 天爵(てんしゃく・天沼/伊藤) → 恒庵(こうあん・天沼あまぬま/伊藤、儒/書) E 1 9 8 5  
 天爵(てんしゃく・沢田) → 眉山(びざん・沢田さわだ、藩儒/書/詩人) C 3 7 3 0  
 天爵(てんしゃく・岡) → 鹿門(ろくもん・岡おか、藩儒者/紀行) B 5 2 1 5  
 天爵堂(てんしゃくどう) → 白石(はくせき・新井、儒者) 3 6 1 0  
 天爵楼(てんしゃくろう) → 泰仲(たいちゅう・草鹿くさか、藩士/医/詩) K 2 6 6 2  
 田舎齋(でんしゃさい) → 竜仙(りゅうせん・田舎齋、実録作者) E 4 9 9 7  
 田舎児(でんしゃじ) → 竹田(ちくでん・田能村たのむら、儒/詩/絵師) D 2 8 5 4
- D3072 天壽(てんじゅ/たかかず・韓かん：修姓、姓；青木あおき/中川、本姓；細野)1727-95 69 京の青木氏出身、  
 青木木米の従兄、儒；竹川馬陵門/書家；松下烏石門/篆刻家、魏晉王羲之の書を研究、  
 継松寺に陶窯を造り岡寺焼を創る、  
 「金石集要」「古帖集覧」「六書討原」「酔晋斎法帖」外著多数、  
 [天壽(；名)の字/通称/号]修姓韓は韓国余璋玉末裔、字；大年、通称；精三郎/中川長四郎、  
 号；酔晋斎/三岳道者(；池大雅・高芙蓉と白山立山浅間山に登山し3人とも共通号)、  
 天寿(てんじゅ・朝川/片山) → 述堂(じゅつどう・片山かたやま/朝川、儒者) I 2 1 9 6  
 典寿(てんじゅ・勝部) → 兼寿(かねひさ・勝部かつべ、商家/絵師/歌) U 1 5 3 0
- D3073 田守(でんしゅ・兌聚堂だじゅうどう)?- ? 江後期安藝高田郡吉田の俳人、1820「吉田百人一珠」著、

[垣つくる鉄はさみの下のみそさざみ](1825「はつたより」入)

田守(でんしゅ)上記以外 → 田守(たもり)

田主(でんしゅ・大伴) → 田主(たぬし・大伴おおもとも宿禰、万葉歌人) G 2 6 3 3

天珠院(てんじゅいん;法号) → 重靖(しげのぶ・前田まえた、藩主/詩歌) R 2 1 9 6

天受院(てんじゅいん) → 日精(にっせい;法諱・玉純、日蓮僧) 3 3 6 9

天樹院(てんじゅいん) → 義和(よしまさ・佐竹、藩主/藩政改革) H 4 7 0 9

D3074 天湫(てんしゅう;道号・法豊ほうれい;法諱) 1659-1735 77 曹洞僧;水戸天徳寺の心越興濤門/嗣法、心越開山の上州達磨寺2世、1725天徳寺改称の祇園寺6世/35退院、1727「寿昌清規」編

D3075 天従(てんじゅう;法諱・法名;愛蓮社祐譽/幻阿) 1778-1838 61 能登処之口の浄土僧;法幢寺で出家、江戸芝増上寺で修行、武蔵岩槻の浄国寺37世、京黒谷の金戒光明寺51世、西翁院に隠棲、1835「円頓戒前方便」著

典従(てんじゅう・金子) → 杏庵(きょうあん・金子かねこ、医者) N 1 6 1 7

D3076 伝秀(でんしゅう;法諱・法名;性蓮社覚譽)?-? 浄土僧;江戸芝増上寺学寮で修学、常陸大年寺19世、1722「往生論註精華集」著

伝習庵(でんしゅうあん) → 道閑(初世どうかん・清水しみず、茶人) C 3 1 3 5

伝習庵(でんしゅうあん) → 道閑(2世どうかん・清水、藩士/茶人) C 3 1 3 7

天珠院(てんじゅこう) → 重靖(しげのぶ・前田まえた、藩主/詩歌) R 2 1 9 6

田秋色(でんしゅうしき) → 秋色(2世しゅうしき・田本、野菊女、俳人) H 2 1 5 6

D3077 伝十郎(でんじゅうろう・松田まつだ、名;元敬、浅見長右衛門男) 1769-1843 75 越後頸城郡の生、1782幕臣松田伝十郎の養嗣子;1794幕臣御小人/99蝦夷地御用掛、1808箱館調役下役元締、1808幕命で間宮林蔵と樺太の島であることを確認;在勤、1822蝦夷御用済/支配勘定役、1808「松田間宮兩人カラフト見分申上書」、「唐太見分書」、「北夷談」著、

[伝十郎(;通称)の幼名/別通称/法号]幼名;幸太郎、別通称;仁三郎、法号;玄敬院

伝十郎(でんじゅうろう・津打つづ) → 与三兵衛(初世よそべえ・鈍通どんつう、歌舞伎作者) I 4 7 1 3

伝十郎(でんじゅうろう・羽太) → 政方(まさみち・羽太はた/藤原、旗本/歌) M 4 0 1 1

D3078 天叔(てんしゅく;道号・宗眼そうげん;法諱) 1532-1620 89 丹後の臨濟僧;京大徳寺の怡雲いづん宗悦門、怡雲の法嗣、1585大徳寺129世/86再任、大徳寺内大慈院開創、「天叔和尚筆入室法語」著、[天叔宗眼の号] 土塊子/土槐子/宝叔子、仏国大安禪師(1612後水尾天皇より賜)

天珠公(てんしゅこう) → 重靖(しげのぶ・前田、藩主/詩歌) R 2 1 9 6

天樹公(てんじゅこう) → 義和(よしまさ・佐竹、藩主/藩政改革) H 4 7 0 9

典術(てんじゅつ→つねやす・松平) → 典則(つねのり・松平まつだいら、藩主/歌人) G 2 9 4 0

天寿老人(てんじゅろうじん) → 公明(きみあき・河内かわうち、医者/国学/歌) M 1 6 0 0

天舜(てんしゅん;法名) → 敦明親王(あつあきしんのう、歌人) 1 0 1 9

D3079 天怒(てんじょ;法諱・護信;字、号;環庵、俗姓;為田) 1667-1702 36 伊勢飯高郡の浄土僧;8歳で父没、1678(12歳)飯高郡樹敬寺の祖山門;出家/芝増上寺で研修;律義研究、晩年;下総葛飾隠棲、「断戒体章」「梵網正解」著

天助(てんじょ;道号・周祐) → 周璽(しゅうがく;法諱、臨濟僧) H 2 1 0 0

湛助(てんじょ;法諱) → 湛助(たんじょ・とんじょ;法諱、社僧/歌) I 2 6 3 6

D3080 伝女(でんじょ/でんにょ) ? - ? 尾張熱田明神の巫女?/熱田の俳人;

1684西鶴「俳諧女哥仙によかせん」入、

[友よ友よ今いま呼次よびつぎの浜千鳥](女哥仙;25/呼次の浜は熱田明神南東の海岸;歌枕)

D3081 田女(でんじょ・谷口たにぐち、名;よし) 1713-79 67 江戸の俳人/点者、俳人谷口楼川ろうせんの妻、蕪村「たまも集」跋文、句文集「俳諧海山」(:息子獅子眠鶏口編刊)、「眉斎田女発句集」著、1776「丙申冬23日其山会二百韻」評、几董「続明鳥」句2入、息子;獅子眠鶏口けいこう(俳人)、[田女(;号)の別号] 如髪、眉斎びさい(;薙髪号)、

夫; → 楼川(ろうせん・谷口、俳人) 5 2 3 3

息(猶子); → 鶏口(けいこう・獅子眠、俳人) 1 8 5 3

D3082 天性(てんしょう;道号・融石ゆうせき/融然ゆうねん;法諱) ?-1427 曹洞僧;無雜融純門/法嗣、筑前福岡の明光寺2世/肥前松浦慈光寺3世、豊前国東の泉福寺36世、「仏祖正伝記」著

天祥(てんしょう;道号) → 一麟(いちりん;法諱・一庵/天祥、臨濟僧) B 1 1 3 0

- 天祥(てんしょう・松浦) → 鎮信(しげのぶ・松浦まつら、藩主/茶人) C 2 1 7 1  
 天章(てんしょう;道号) → 澄彥(ちやういく;法諱・天章、臨濟僧) H 2 8 2 3  
 天章(てんしょう;道号) → 慈英(じえい;法諱・天章;道号、臨濟僧) B 2 1 1 9  
 天常(てんじょう;法諱) → 大梅(たいばい;道号・天常、曹洞僧) T 2 6 8 5  
 天城(てんじょう;号) → 大瀛(だいえい;法諱、真宗本願寺派僧) J 2 6 1 8
- D3083 伝笑(でんしょう・関亭かてい、関せき平四郎)?-? 磐城泉藩本多家家臣/江戸築地住、  
 合巻:山東京伝門、読本の祖、1807「怪談梅草紙」11「生姜市草創」著、  
 1815「今昔猿の人真似」外著多数  
 [関亭伝笑の別号] 筑地全交/幽篁庵/月池山人/縁楊
- 殿掌(でんしょう・高丘) → 紀季(おさすえ・高丘たかおか、廷臣/国学) D 1 4 9 9  
 田城(でんじょう・宮部) → 鼎蔵(ていぞう・宮部、兵学/倒幕運動) B 3 0 4 0
- B3070 天璋院(てんしょういん、島津しまづ篤子あつこ、篤姫、忠剛女/斉彬なりあきら養女) 1836-83 48 近衛忠熙養女;  
 初名;敬子すみこ/たかこ、1856;13代将軍徳川家定の正室/1858落飾、公武合体を図る、  
 1867和宮(静寛院)と江戸無血開城を嘆願書状;成功/のち大奥の女性達のため奔走  
 [天璋院(;法号)の別名]幼名;一かつ/市いち、源篤子あつこ(;島津斉彬の養女)、  
 藤原敬子すみこ(;近衛忠熙の養女/君号;篤君)
- 天松院(てんしょういん) → 良尚法親王(りょうしょうほつしんのう、天台曼珠院中興) I 4 9 1 8  
 天祥院(てんしょういん) → 忠明(ただあきら・松平まつだいら、藩主) E 2 6 7 9  
 天祥院(てんしょういん) → 鎮信(しげのぶ・松浦まつら、藩主/茶人) C 2 1 7 1  
 天性院(てんしょういん) → 温子(あつこ・伊達だて/渡辺、側室/歌) H 1 0 9 1  
 天章堂(てんしょうどう) → 墨僊(ぼくせん・沼尻ぬまじり/中村、天文家) D 3 9 6 2  
 田上尼(でんじょうに) → 田上尼(たがみのあま・蓑田勝、俳人) D 2 6 8 5  
 恬処道人(てんしどうじん) → 秋台(しゅうだい・浅野屋、昼業/書家) X 2 1 9 8
- D3084 伝四郎(でんしろう・早川はやかわ、号;竹旦/昇虫) 1698-1749 52 1714江戸歌舞伎立役者;実事・実悪など、  
 1736作者を兼る;中村座合作、初世沢村宗十郎の為執筆が多い/長唄浄瑠璃詞章に通ず/俳人、  
 1736「国富殺生石」40「姫飾錦曾我」44「今川忠臣伝」46「天地太平記」外著多数、  
 早川伝五郎の義弟
- 伝四郎(でんしろう・浅羽) → 昌儀(まさのり・浅羽あさば、藩士/学者) F 4 0 9 9  
 伝四郎(でんしろう・津山) → 九平次(くへいじ・津打つづつ、歌舞伎役/作者) D 1 7 4 0  
 伝四郎(でんしろう・扇屋) → 扇面亭伝四郎(せんめんていでんしろう、商家/人名録編纂) G 2 4 6 6  
 伝四郎(でんしろう・衛藤) → 実厚(さねあつ・衛藤えとう、国学) O 2 0 0 1  
 伝四郎(でんしろう・奥野) → 安興(やすおき・奥野おくの、鍛冶職/国学/歌) F 4 5 5 9
- D3085 伝次郎(でんじろう・中村) 1673-1729 57 歌舞伎舞踊の江戸振付師の元祖  
 中村伝七と同一? → 伝七(でんしち・中村伝次郎、歌舞伎役/作者) D 3 0 6 5
- D3086 伝次郎(2世でんじろう・中村、舞扇)?-1781 歌舞伎舞踊の江戸振付師
- D3087 伝次郎(でんじろう・田草川たぐさかわ)?-? 幕臣;小目付/江戸青山権田原に住、  
 1789-1801頃大河内政寿らの蝦夷行に随従、「西蝦夷地日記」
- 伝次郎(でんじろう・長沼) → 宗敬(むねよし・長沼/津田、兵学者) C 4 2 8 5  
 伝次郎(でんじろう・長森) → 以休(いきゅう;号・長森ながもり、儒者) F 1 1 2 1  
 伝次郎(でんじろう・栗崎/廬) → 驥(き・廬ろ/栗崎くりさき、通事/詩文) J 1 6 4 7  
 伝次郎(でんじろう・尾関) → 眞勝(まさかつ・尾関おせき、国学者) 4 0 5 3  
 伝次郎(でんじろう・松平) → 康済(やすずみ・松平まつだいら、幕臣・和学) G 4 5 7 2  
 伝次郎(でんじろう・松平) → 康共(やすとも・松平まつだいら、幕臣/和学) G 4 5 7 3  
 伝次郎(でんじろう・松平) → 康棟(やすたか・松平まつだいら、幕臣/歌人) 4 5 0 5  
 伝次郎(でんじろう・松平) → 近韶(ちかつぐ・松平まつだいら、幕臣/歌) L 2 8 6 6  
 伝次郎(でんじろう・飯室) → 昌符(まさあき・飯室いむろ、幕臣/儒者) 4 0 9 9  
 伝次郎(でんじろう・清川) → 春好(はるよし・初世しゅんこう・勝川かつかわ、絵師) J 2 1 6 1  
 伝次郎(5世でんじろう・中村) → 重助(4世じゅうすけ・中村、歌舞伎作者) H 2 1 8 3  
 伝次郎(でんじろう・長谷川) → 規一(きいち・長谷川はせがわ、和算家) J 1 6 5 7
- D3088 天心(てんしん;法諱) ? - ? 1754存 浄土僧;敬首門;高弟、天台学の戒体論を研究、

- 色法戒体説を正義とする、1726「天台戒体訣」/55「典籍概見」、「律宗禁糸決講義」著
- D3089 **天津**(てんしん・西岡にしおか、名;淵)?-1817 三河渥美天津新田の農家出身/吉田藩士西岡谷八の養嗣、郷同心を勤める/儒者:飯野柏山・大田錦城門/吉田藩校時習館教授、翠軒の父、1804「論語徴訓約覧」/17「大学解約覧」著、  
[天津(;号)の字/通称]字;於菟おと/無咎むきゅう、通称;善助
- D3090 **天真**(てんしん・林はやし、名;台、福山鳳洲男)1762-1821<sup>60</sup> 父は安藝広島藩家老上田家の儒臣、書家;林太華の養子、上京し烏丸下立売北で書家業、1819「天真道人大学帖」書、  
[天真(;号)の幼名/字/通称]幼名;庄七、字;子量、通称;仙蔵
- 奠辰(てんしん・平沢) → 隨菴(ずいりゅう・平沢ひらさわ、卜占家) F 2 3 1 5  
 天津(てんしん;号) → 永恩(えいおん;法諱・春澤・臨濟僧) 1 3 1 6  
 天津(てんしん・船曳/石坂) → 空洞(くうどう・石坂いしざか、医者/蘭学) C 1 7 2 9  
 天津(てんしん・橋本) → 昌方(まさかた・橋本はしもと、和算家) B 4 0 9 7  
 天信(てんしん;道号) → 宗及(そうきゅう/-ぎゅう・津田、政商/茶人) B 2 5 0 2  
 典信(てんしん・安藤/中井) → 醉亭(すいてい・中井、心学者) E 2 3 8 6  
 典伸(てんしん・狩野) → 典伸(みちのぶ・狩野かのう、絵師) C 4 1 2 1  
 天人(てんじん・大高坂) → 南海(なんかい・大高坂おたかさか/山本、藩士/詩/画) O 3 2 9 4  
 伝心(でんしん;天台僧) → 眞迢(しんちよう;法諱、日蓮・天台・念仏僧) 2 2 6 3  
 田信(でんしん) → 信平(しんぺい・田中たなか、骨董商/料理) P 2 2 7 5  
 天真庵(てんしんあん) → 舎鳳(しゃほう・河合かわい、俳人) G 2 1 5 1  
 転心院(てんしんいん) → 日理(にちり;法諱・理全、日蓮僧) D 3 3 5 5  
 天心院(てんしんいん) → 綱辰(つなあきら・浅野、藩主) B 2 9 0 0  
 天真院(てんしんいん) → 忠知(ただとも・小笠原おがさわら、城主) Q 2 6 1 2  
 天真院(てんしんいん;法号) → 菊貫(きくつら・真田幸弘、藩主/歌/俳) 1 6 9 8  
 天真院(てんしんいん;法号) → 久通(ひさみち・中川ながわ、藩主) B 3 7 9 6  
 天真観迂人(てんしんかんゆうじん) → 抱山(ほうざん・鈴木すずき、蘭方医者/詩) B 3 9 1 7  
 天津漁老(てんしんぎやうろう) → 鉄石(てつせき・藤本、勤王/天誅組) C 3 0 5 1  
 天真居士(てんしんこじ) → 玉鳳(ぎよくほう・永井/奥田、郷土史/俳) P 1 6 3 6  
 天紳子(てんしんし) → 雲滄(うんそう・鷹羽たかのほ、藩士/詩人) B 1 2 8 6
- D3091 **天真親王**(てんしんしんのう、名幸智、後西天皇第5皇子)1664-90<sup>早世</sup>27 母;清閑寺共綱女の新大納言局、1671尊敬親王の法嗣/東福門院の養子/近江滋賀院で守澄親王門;得度、1680江戸東叡山輪王寺門入;日光山輪王寺・東叡山寛永寺2代門跡/90一品、「天真親王御詠歌」[雑画卷]著、歌人;了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、  
[なく涙苗代水にせきいれて民も袖ぬらす五月雨のころ]、  
(若むらさき;118/1680[延宝8]5月8日將軍家綱没/哀傷歌)、  
[天真親王(;法諱)の幼名/号]幼名;益宮、号;体道/日光新宮、初法諱;守全、諡号;解脱院宮
- 天真堂(てんしんどう) → 千族(ちえだ・中里なかざと、神職/歌人) N 2 8 1 5  
 奠辰堂(てんしんどう) → 隨菴(ずいりゅう・平沢ひらさわ、卜占家) F 2 3 1 5  
 天真道人(てんしんどうじん) → 抱山(ほうざん・鈴木すずき、蘭方医者/詩) B 3 9 1 7  
 天真楼(てんしんろう) → 玄白(げんぱく・杉田すぎた子鳳、医/蘭学) 1 8 2 9  
 天真楼(てんしんろう) → 立卿(りゅうけい・杉田、玄白男/医/蘭学) B 4 9 6 8  
 天真楼(てんしんろう) → 成卿(せいけい・杉田、立卿男/医/蘭学) B 2 4 1 6  
 伝四郎(でんしろう・溝口) → 市兵衛(いちべえ・溝口みぞぐち/堀田、重方、幕臣) K 1 1 7 0
- D3092 **天垂**(てんすい・十方窩じっぽうか)?- ? 江前中期1688-1704頃大阪の談林派雑俳点者、1696良弘「俳諧高天鶯たかまのうぐいす」点句入、のち蕉門/之道門、1699「俳諧男風流」編、1703「俳諧百歌仙」編、1701「鳥おどし」/02轍士「花見車」/14月尋「伊丹発句合」入、  
[あはぬ間まは星も大事の一夜哉](花見車59)
- D3093 **天水**(てんすい・山中やまなか、名;宣/久宣)1758-90<sup>33</sup> 伊勢の農家/儒;江戸の山本北山門、詩人、1782(26歳)江戸に開塾;晴霞亭/門人;中井董堂ら、師北山と共に古文辞家の修辭を排撃、「詩草紺珠」編/「天水詩稿」「文章紺珠」「文章紺珠後編」「歴代指掌」外著多数、  
[天水(;号)の字/通称/別号]字;恕之/宣卿のぶのり、通称;猶平、別号;鈴山/晴霞亭、

法号;至誠単心信士

- 天水(てんすい・佐竹) → 永海(えいかい・佐竹さたけ、絵師) B 1 3 9 3  
 天水(てんすい・村井) → 蕉雪(しょうせつ・村井むらい、藩医/絵師) K 2 2 3 4  
 天水(てんすい・桂山) → 彩巖(さいがん・桂山かつらやま、幕府儒官) 2 0 0 2  
 D3094 天瑞(てんずい;道号・守選しゅせん;法諱)1756-1823<sup>68</sup> 臨濟僧;王嶺守瑛門;法嗣、1809東福寺269世、  
 1795-97対馬の以酌庵主(両度);朝鮮との書契を司る、1821「慧日山宗派図」著  
 D3095 天瑞(てんずい;道号・悟英ごえい;法諱)?-? 江後期黄檗僧;1801密因達眠門;嗣法、  
 「天瑞禅師詩偈集」著  
 D3096 天瑞(てんずい;法諱) ? - ? 江後期日光山の天台僧/三河鳳来寺住、  
 1847「貪海集」著  
 F3015 天瑞(てんずい;法諱) 1617 - 1688<sup>62</sup> 肥後鹿本郡の生、  
 信濃飯田の曹洞宗正永寺住寺、歌人  
 天瑞(てんずい・服部) → 蘇門(そもん・服部はつとり、漢学/仏典) E 2 5 4 2  
 天瑞(てんずい・酒巻) → 立兆(りつちよう・酒巻さかまき、絵師) C 4 9 1 2  
 澱水(でんすい・鼎) → 金城(きんじよう・鼎かなえ、絵師) R 1 6 1 9  
 天随庵(てんずいあん) → 陶斎(とうさい・野呂のろ、儒者/教育) E 3 1 2 4  
 澱水隠士(でんすいいんし・狂花村舎主人) → 杏村(きようそん・河野、儒/詩) I 1 6 8 0  
 添水園(てんすいえん → そぼつその) → 本孝(もとたか・田中たなか、商家/歌人) C 4 4 8 6  
 天随貞翁(てんずいいていおう・鈴木) → 一叟(いつそう・飛鳥園3世、俳人) H 1 1 5 4  
 伝亮(でんすけ・並河) → 天民(てんみん・並河、儒/医/雅楽/神道) E 3 0 3 4  
 伝助(でんすけ・山高) → 信賢(のぶかた・山高やまたか、幕臣/歌人) K 3 5 2 9  
 伝助(でんすけ・泉崎) → 眞畔(まろく・泉崎いづみさき、国学者/歌人) 4 0 6 9  
 伝助(伝介でんすけ・松屋/松岡) → 士川(しせん・松岡、酒造業/俳人) E 2 1 3 7  
 伝助(でんすけ・亀井) → 直通(なおみち・亀井かめい、藩士/国学者) L 3 2 6 5  
 田助(でんすけ・たすけ・手島) → 寿(ひさし・手島てじま、農業/里正/詩文) B 3 7 0 8  
 田捨女(でんすてじよ) → 捨女(すてじよ・田ステ、俳人) 2 3 1 6  
 典清(てんせい・木崎) → 典清(のりきよ・木崎ささき、名主/国学) I 3 5 0 8  
 田誠(でんせい) → 誠(まこと・日下くさか、和算家) 4 0 7 8  
 伝声(でんせい・上原) → 朝庸(ちようよう・上原えはら/向、廷臣/歌) M 2 8 1 5  
 天生堂(てんせいどう) → 玄鶴(げんかく・大野おおの、医者/地誌) I 1 8 2 7  
 添石親雲上(てんせきべんくわんじやう) → 正英(せいえい・豊川とよかわ、琉球廷臣、和文) O 2 4 3 3  
 天泉(てんせん・大窪) → 池屋(ちおく・大窪おおくぼ、医者) 2 8 5 1  
 D3097 典膳(てんぜん・堀江ほりえ、名;維徳これのり)1751-1814<sup>64</sup> 広島藩士/1789近習頭用人/90寄合、  
 1810大寄合、太田川の洪水対策のため植林;苗木の無償配布;殖産政策に貢献、1813致仕、  
 「芸備十六郡人民増減考」/1809「御山方内考書」、「忠諫録」著  
 D3098 天然(てんぜん・野呂のろ、名;真空、本鬮男)1764-1834<sup>71</sup> 江戸の医者;刑屍・生獣の解剖、  
 漢蘭折衷学の独自の学風を築く、神仏儒学・字体訓詁に通ず、京で医療・著述に専念、  
 1812「生象約言」13「生象止観」16「回生類方」18「回生埶的しゅんてき」、「生象修要」外著多数、  
 [天然(;号)の通称/別号]通称;雄、別号;無量/如如庵/真如堂/蛛網草堂、法号;天然院  
 E3000 典膳(てんぜん;通称・寺田てらだ、剛正たけまさ男)?-? 江末期高知藩士、「樵漁余業」著  
 典膳(てんぜん・前田) → 孝備(たかよし・前田、藩士・家老) N 2 6 7 6  
 典膳(てんぜん・土肥) → 経平(つねひら・土肥/平、藩士/故実家) D 2 9 5 1  
 典膳(てんぜん・橋村/荒木田) → 久老(ひさおゆ・荒木田/度会、神職/国学) 3 7 0 5  
 典膳(てんぜん・伊藤) → 忠也(ただなり・伊藤いとう、剣術家) U 2 6 8 9  
 典膳(てんぜん・山田) → 良範(りょうはん・山田やまだ、役人/歌人) J 4 9 2 6  
 典膳(てんぜん・中臣[富]屋) → 正蔭(おおかげ・中臣、歌人/狂歌) C 1 4 7 5  
 典膳(てんぜん・中村) → 克正(かつまさ・中村なかむら、藩士/記録) N 1 5 8 7  
 典膳(てんぜん・久田) → 湖山(こざん・久田ひさだ、儒者;経学) M 1 9 6 0  
 典膳(てんぜん・樋口/磯辺) → 鯤斎(こんさい・磯辺いそべ、儒者/易/茶) P 1 9 2 0  
 典膳(てんぜん・毛馬内) → 繁門(しげかど・森集亭しんしゅうてい、藩士/狂歌) Q 2 1 8 5

- 典膳(てんぜん・小島) → 濤山(とうざん・小島/小嶋、暦算家) E 3 1 5 9  
典膳(てんぜん・山本/生駒) → 春秀(はるひで・生駒いこま/山本、神職/医者) J 3 6 6 3  
典膳(てんぜん・岩崎) → 允健(としかけ・岩崎いわさき/藤原、神職/国学) U 3 1 2 9  
天全(てんぜん) → 長行(ながみち・小笠原、幕臣/詩歌) F 3 2 9 0  
天然(てんぜん) → 十丈(じゅうじょう、十丈園/俳人) X 2 1 5 8  
天然(てんぜん・徳川) → 斉脩(なりのおぶ・徳川、藩主/雅楽/詩) H 3 2 9 6  
天然(てんぜん・西岡) → 訓棟(のりたか・西岡/谷/秦、国学/歌) H 3 5 8 0  
田善(でんぜん・亜欧堂) → 善吉(ぜんきち・永田ながた、絵師/銅版画) M 2 4 0 3  
田泉舎(でんせんしゃ) → 一峰(いっぽう・河曲かわふ、俳人) B 1 1 6 6  
天湊(てんそう・木場) → 清生(きよぶ/きよお・木場こぼ、藩士/歌人) U 1 6 3 3  
転三(てんそう・天野) → 松斎(しょうさい・天野あまの、藩士) J 2 2 0 8  
E3002 殿造(でんそう・吉岡よしおか) ? - ? 江後期大阪の書家、1821「御家流道の話」著  
田蔵(でんそう・岩瀬) → 京伝(きょうでん・山東、質商/戯作) 1 6 3 7  
田蔵(田三でんそう・牧野) → 古白(こはく・牧野まさの/田口、武将/連歌) N 1 9 4 1  
伝三(でんそう・伊部) → 義成(よしなり・伊部いべ、藩士/歌人) F 4 7 4 3  
伝造(でんそう・児玉) → 氏光(うじみつ・児玉こだま、名主/国学) E 1 2 6 8  
伝蔵(でんそう・京屋) → 京伝(きょうでん・山東、黄/洒落本) 1 6 3 7  
伝蔵(でんそう・村田) → 春海(はるみ・村田、商家/国学/歌) 3 6 3 6  
伝蔵(でんそう・新井) → 明卿(あきのり・新井あらい、儒者) D 1 0 7 4  
伝蔵(伝三でんそう・内山) → 椿軒(ちんけん・内山、歌/狂歌) K 2 8 6 8  
伝蔵(でんそう・山本) → 秋水(しゅうすい・山本やまもと、藩儒/詩文) H 2 1 7 5  
伝蔵(でんそう・花木) → 重信(しげのぶ・花木はなき、藩士/歌人) Z 2 1 6 9  
伝蔵(でんそう・花木) → 重辰(しげとき・花木、重信男/藩士/歌) Z 2 1 7 0  
伝蔵(でんそう・松前) → 広長(ひろなが・松前、藩家老/修史事業) G 3 7 5 9  
伝蔵(でんそう・中嶋/鈴木) → 才兵衛(さいべえ・鈴木/中嶋、幕臣/儒) H 2 0 0 4  
伝蔵(でんそう・新楽) → 閑叟(かんそう・新楽にいら、幕臣/蝦夷紀行) G 1 5 4 9  
伝蔵(でんそう・牧野) → 成著(しげあきら・牧野、幕臣/文筆家) Q 2 1 5 3  
伝蔵(でんそう・朝岡) → 正章(まさあき・朝岡あさおか、儒者/歌/俳) B 4 0 0 5  
伝蔵(でんそう・花房) → 雷嶽(らいがく・花房はなぶさ、藩士/儒者) 4 8 2 6  
伝蔵(でんそう・新渡戸) → 維民(これたみ・新渡戸にとべ、藩士/兵学) O 1 9 4 8  
伝蔵(でんそう・市川) → 文字大夫(4世もじだゆう・常盤津、音曲/作曲) B 4 4 2 0  
伝蔵(でんそう・安藤) → 竜淵(りゅうえん・安藤あんどう、幕臣/書家) D 4 9 0 4  
伝蔵(でんそう・太田) → 保興(やすおき・太田おたの源、教育/歌人) F 4 5 5 4  
天臈堂(てんろうどう) → 風山(ふうざん・谷島、俳人) 3 8 7 0  
典則(てんそく・根岸/岸) → 典則(つねのり・根岸/中原/岸、商家/歌/禅) D 2 9 1 7  
典則(てんそく・青木) → 典則(つねのり・青木あおき、里正/国学/画) F 2 9 1 1  
典則(てんそく・所) → 典則(すけのり・所ところ/源、藩士/歌人) I 2 3 8 5  
典則(てんそく・大野) → 典則(つねのり・大野おのの宮島、国学/歌人) F 2 9 4 1  
典則(てんそく・松平) → 典則(つねのり・松平まつだいら、藩主/歌人) G 2 9 4 0  
典則(てんそく・矢部) → 典則(つねのり・矢部やべ、藩士/国学/歌) G 2 9 6 6  
天則(てんそく・羽倉) → 簡堂(かんどう・羽倉はくら、幕臣/儒者) E 1 5 1 3  
天則麿人(てんそくはいじん) → 竹窓(ちくそう・城じょう、藩士/儒者) D 2 8 3 8  
伝尊(でんそん;法諱) → 天桂(てんけい;道号・伝尊、曹洞僧) D 3 0 3 9  
典太(てんたい・倉石) → 侗窩(とうか・倉石くらしい、商家/藩儒) B 3 1 7 3  
天台(てんたい・石川) → 大椿(たいちん・石川いしかわ、儒者/詩) K 2 6 6 6  
天台(てんたい・伊達) → 村侯(むらととき・伊達だて、藩主/改革/歌) D 4 2 1 7  
天台善(てんたいぜん;号) → 直香(なおか・服部、書画/碁) 3 2 8 0  
E3003 天琢(てんたく;道号・宗球そうきゆう;法諱) 1437-1502 66 尾張の臨濟僧;春浦宗熙門;法嗣、  
1490大徳寺61世、京の明栄寺住、「賛語」著  
天沢(てんたく・東方) → 芝山(しざん・東方ひがしかた、藩士/儒者) D 2 1 8 0

- 伝太夫(でんだゆう・黒田) → 倫忠(のりただ・黒田/樽井、藩士/故実) E 3 5 9 6  
 伝太夫(でんだゆう・黒田) → 則恭(のりやす・黒田、藩士/和漢学) G 3 5 0 5  
 伝太夫(でんだゆう・安田) → 広治(ひろはる・安田/秦/藤本、神職/国学) G 3 7 9 5  
 伝太夫(でんだゆう・安田) → 吉苗(よしなえ・安田/藤本、広治養子/国学) P 4 7 7 8  
 伝太夫(でんだゆう・井村) → 木菘(ぼくおう・井村、俳人) C 3 9 9 3  
 伝太夫(でんだゆう・久野) → 二栗(じりつ・久野の、篆刻家) M 2 2 9 7  
 伝太夫(でんだゆう・久貝) → 蓼湾(りょうわん・久貝くがい、幕臣/詩人) J 4 9 6 9  
 伝太郎(でんたろう・井坂) → 徳辰(あつき・井坂、神職/歌人) E 1 0 7 0  
 伝太郎(でんたろう・美代) → 敦本(厚本あつもと・美代みしろ、儒者/医) E 1 0 8 9  
 田癡(でんち・田能村) → 直入(ちよくにゅう・田能村たのむら、絵師) K 2 8 3 2  
 天地庵(てんちあん) → 素丸(2世そまる・溝口、幕臣/俳人) E 2 5 3 6  
 天地庵(2世てんちあん) → 我泉(がせん・高畑、俳人;素丸門) M 1 5 7 4  
 天地庵(てんちあん) → 素蓮(それん・中島なかじま、俳人) E 2 5 5 7  
 天地一酔道人(てんちいつすいどうじん) → 正与(まさとも・新保しんぼう/朝妻、国学/神職) Q 4 0 2 9
- E3004 **天地玄黄**(てんちげんこう、天地けんこん、清水亀五郎)?-? 江戸本所一ツ目の狂歌作者;スキヤ連、徳和歌後万載集1首、才蔵集2首入  
 [足引きの山風吹きて散る花を谷へ蹴落す獅子のこ桜](才蔵集;二77/小桜は淡色の山桜)  
 天池斎(てんちさい) → 心祇(しんぎ・轍、俳人) D 2 2 7 6
- 3012 **天智天皇**(てんちてんのう、舒明天皇皇子)614-671<sup>58</sup> 母;宝皇女(皇極/斉明天皇)、  
 中臣鎌足と蘇我氏を討つ/大化改新を断行、661母斉明没後は皇太子のまま政務;  
 667大津遷都/668即位、戸籍作成/近江令制定、同母弟;大海人皇子(天武天皇)、  
 同母妹;間人皇女(孝徳天皇皇后)/子;大友皇子・持統天皇・志貴皇子ら多数、  
 歌人;万葉集:4首、勅撰4首;後撰(302)新古今(1689)玉葉(629/1361詞)新千載(1446)  
 [わたつみの豊旗雲に入日さし(みし)今夜こよひの月夜つくよ清さやけかりこそ](万葉15)  
 百人一首の後撰302[秋の田の]の歌は万葉2174(作者不詳)の改作で天皇との関係不詳?  
 [天智天皇の皇子名/号]皇子名;葛城皇子/開別ひらかすわけ皇子/中大兄皇子、  
 称号;淡海[近江]大津宮天皇、尊号;天命開別尊あめみことひらかすわけのみこと
- 3013 **天智婦人**(てんちぶにん、てんちのおみなめ、姓名不詳)?-? 天智天皇付女官か采女?、万葉歌人;150;長歌挽歌  
 天地房(てんちぼう) → 大年(たいねん・亀井かめい、儒/医者) K 2 6 9 0
- E3005 **天忠**(てんちゅう;法諱) ? - ? 江中期天台宗叡山雞足院僧、1730「地鎮極略」
- E3006 **天柱**(てんちゅう・梁田やなだ、名;邦敬、万代文軌男)?-1825 和泉堺の生/1782梁田象水の養嗣子、  
 播磨明石藩儒、「井田考」「四書異考」「天柱詩草」著、  
 [天柱(;号)の字/通称/別号]字;義浩、通称;八郎左衛門、別号;方正斎/西園/花痴  
 天中(てんちゅう;法諱・上藍) → 上藍(じょうらん;道号・天中、曹洞僧) L 2 2 9 0  
 天柱(てんちゅう・野見) → 嶺南(れいなん・野見のみ、医者/郷土史家) 5 1 5 8  
 天柱(てんちゅう・小早川) → 秀雄(ひでお・小早川/土肥/吉田、郷土史家) C 3 7 8 4  
 天柱(てんちゅう・今井) → 秀馨(ひでか・今井いまい、藩士/国学) I 3 7 5 4  
 田中(でんちゅう;号) → 幸清(ぎょうしゅう、社僧/歌人) C 1 6 6 3  
 田中(でんちゅう;号) → 耀清(ようしゅう;法諱、幸清男/社僧/歌) B 4 7 2 4  
 田中(でんちゅう;号) → 道清(どうしゅう/どうせい;法諱、社僧/歌人) F 3 1 3 7  
 田中(でんちゅう;号) → 良清(りょうしゅう;法諱、社僧/歌人) I 4 9 0 9  
 田疇(でんちゅう・前田) → 玄通(げんつう・前田まえだ、医者) L 1 8 4 6  
 天柱庵(てんちゅうあん) → 湖十(初世こじゅう・曾/深川、俳人) 1 9 3 1  
 田中庵(でんちゅうあん) → 銀鷄(ぎんけい・平亭、畑、医者/狂歌) D 1 6 9 5  
 伝忠軒蟠竜韜功庵主(でんちゅうけんぱんりゅうとうこうあんしゅ) → 忠明(ただあき・大江、兵法家) P 2 6 0 7  
 天柱山人(てんちゅうさんじん) → 隆正(たかまさ・大国/山本/野之口/今井、国学/歌) 2 6 1 7  
 田中法印(でんちゅうほういん) → 行清(ぎょうしゅう;法諱、社僧/歌人) C 1 6 6 4  
 伝千代(でんちよ・藤/斎藤) → 斉延(まさのぶ・藤とう/斎藤/藤原、神職) F 4 0 6 1
- E3007 **天頂**(てんちゅう;法諱) ? - ? 江中期浄土宗知恩院寺の寺務僧、  
 本願寺との宗名争に1776沙汰書提出;1776「宗名一件細書」著、寺社奉行への使僧

- E3008 **恬澄**(てんちよう;法諱・浄空じようくう;号)?-1827 山城浄土宗西山派安楽寺で出家;禅林寺学寮で修学、安楽寺住職、宗学;澹空門/東山学寮衆頭職、1826紀州梶取総持寺45世、1825「阿弥陀経聞書」著
- 天超院(てんちよういん) → 武元(たけちか・松平まつだいら、藩主) O 2 6 4 5  
 伝長老(でんちようろう) → 崇伝(すうでん;法諱・以心;道号、臨濟僧/幕政参画) 2 3 0 5  
 天丁(てんてい・石尾) → 有則(ありのり・石尾いしお、藩士/歌/宗教) G 1 0 9 9  
 篆亭(てんてい) → 有斐(ゆうひ・石原/江戸屋、商家/俳人) D 4 6 6 4  
 伝貞(でんてい;初法諱) → 忍激(にんげき;法諱、浄土僧) G 3 3 7 0  
 点々齋(てんてんさい) → 蘿道(らどう・永田ながた、俳人/琴) B 4 8 4 9  
 顛々道人(てんてんどうじん) → 惇斎(じゆんさい・藤田ふじた、書家) K 2 1 7 5
- E3009 **天童**(てんどう・木沢きざわ、名;大淵/九如、藩儒国幹男)1765/6-1819<sup>55-54</sup> 信州松本藩士/儒;父門、詩文に長ず、独学で稗史から経史まで涉獵/1806藩校崇教館助教、「癸亥曆法」「幼学」「名山麓内」「琵琶緒三百余篇」「君箴」「作易解」「東間両泉の略誌」著、[天童(;号)の字/通称/別号]字:澹兮たんけい、通称;源一郎、別号;樟山
- E3010 **田東**(でんとう) ? - ? 江戸俳人;1767丸窓「豆鉄砲」卷末真先天満宮奉納撰に評入
- 伝灯(でんとう;字) → 詢道(じゆんどう;法諱、真宗本願寺派僧) L 2 1 6 4  
 伝灯(でんとう;字) → 唯阿(ゆいあ;法諱・伝灯、真言僧) 4 6 3 1  
 田堂(でんどう・高橋) → 花陶(かとう・高橋たかはし、俳人) O 1 5 1 8  
 天堂一叟(てんどういつそう) → 一叟(いつそう・鈴木・飛鳥園4世、俳人) B 1 1 5 7  
 天道外史(てんどうがいし) → 梅逸(ばいいつ・山本やまと、絵師) 3 6 5 3  
 顛道人(てんどうじん・市河) → 米庵(べいあん・市河、儒者/詩/書家) 2 7 0 0
- 3014 **伝内**(でんない・都みやく) 1606 - 1680<sup>75</sup> 歌舞伎作者、江戸市村座の続狂言、「今川忍び車」
- C3014 **伝内**(初世でんない・舟木ふなき、名;包早/幸早)1686?-? 料理人;幕府御台所組頭小川甚四郎門、四条園部流料理を修得/金沢藩お抱料理人;前田家献立と料理法を記録/1733改名;幸早、1729「料理無言抄」32「料理方故実伝略」、33「調飪ちようじん禁忌弁略」著(自序)、49「ちから草」編
- D3036 **伝内**(2世でんない・舟木ふなき、名;安信、初世伝内男)?-? 江中期;明和安永1764-81頃の料理人、加賀金沢藩お抱料理頭;1768包丁式に「鶴の包丁」担当、1776「式正膳部集解」著、「庖厨調飪ほうちゆうちようじん規矩」著
- [2世伝内(;通称)の別通称]別通称;長左衛門
- 伝内(でんない・建部たけべ) → 賢文(かたぶみ・かたぶん、建部、武将/書家) 1 5 1 9  
 伝内(でんない・伊藤) → 朶年(だねん・伊藤いとう、商家/俳人) S 2 6 1 7  
 伝内(でんない・大岡) → 道信(みちのぶ・大岡おおおか、絵師) C 4 1 1 9  
 伝内(でんない・木場) → 清生(きよぶ・きよお・木場こは、藩士/歌人) U 1 6 3 3
- E3011 **天南**(てんなん;道号・松薫しょうくん;法諱)1573-1640<sup>68</sup> 三河の曹洞僧;1581(9歳)鳳山等膳門;出家、下野の大中寺の乾嶺良雄・門庵宗関門;法嗣、家康に厚遇され碩学料を贈与、1615家康の命で大中寺13世、触頭制確立に尽力、1628越後出雲崎に謫居、「天南代」著
- E3012 **天爾**(てんに;法諱) 1640 - ? 1709存 京の天台宗真如堂無量院住僧、1690刊「頭戒三類抄」1709「本願念仏天台一宗略因」著
- E3013 **天如**(てんによ;法諱・峻山しゆんざん;字、北代きたしろ禎左衛門男)1752-1827<sup>76</sup> 阿波三好郡州津村真言僧、徳島観音寺千手院の快観門;出家、諸国遊学、禅学;井上大雲門/律行;密門律師門、東大寺戒壇で受戒/1789-1804頃飲光に随侍、両部神道;徳島観音寺に神祇灌頂壇を開く、「神道大意」「神道要集」「神道灌頂清規」「神祇灌頂軌」「四海領掌大事」「十種神宝聞書」著、[天如(;法諱)の幼名/号]幼名;八重八、号;閑々子/換水和尚
- 伝女(でんによ) → 伝女(でんじよ/でんによ、尾張熱田俳人) D 3 0 8 0  
 典仁親王(てんにんしんのう) → 典仁親王(すけひとしんのう、閑院宮/歌人) C 2 3 8 9
- E3014 **天年**(てんねん;道号・浄寿じようじゆ;法諱、小島こじま息安男)1710-67<sup>58</sup> 伊勢松阪の黄檗僧;1718(9歳)山城甘南備寺で得度出家、南嶺元勲門;1729嗣法、洛東神光寺住持、宇治万福寺聖林院住寺/洛東岡崎に介石庵開創、大典頭常・大潮元皓・木村兼葭堂らと交流、詩・篆刻を嗜む、1767江戸浜嶋元成もとなり宅で病没、「介石抄稿」著、「介石終南禅師遺稿」(浜嶋元成編)、印譜「巽斎捐因」「終南悟心印譜」に刻印、

[天年浄寿の号] 法号;終南、号;終南山人/介石、伊藤華岡(書家)の弟

E3015 天年(てんねん・杉崎すぎさき、名;基/道部、通称;伯徳/文蔵)1796-1877<sup>82</sup> 下総五郷の儒者;朝川善庵門、1841「五字教」著

- 天然(てんねん、天然宗左)→ 宗左(宗佐・4世そうさ・千せん、茶人) H 2 5 3 6  
天然(てんねん・野呂) → 天然(てんぜん・野呂、医者) D 3 0 9 8  
天然(てんねん、俳人) → 天然(てんぜん、俳人) D 3 0 9 9  
天年(てんねん・浅見) → 左逸(さいつ・浅見あさみ、医者/俳人) G 2 0 9 6  
天年(てんねん・長井) → 松堂(しょうどう・長井/大江、医者/漢学) L 2 2 2 3  
天年(てんねん・田中) → 真(まこと・田中たなか、神道家) Q 4 0 5 6  
典年(てんねん・山田) → 典年(のりとし・山田やまだ、歌人) H 3 5 0 1  
天然画仙(てんねんがせん) → 林谷(りんこく・細川ほそかわ/広瀬、篆刻家/詩人) K 4 9 2 7  
天然斎(てんねんさい) → 宗左(宗佐・4世そうさ・千せん、茶人) H 2 5 3 6  
天年子(てんねんし) → 櫟亭(れきてい・足立あだち/江沢、蘭学者) 5 1 8 0  
天念舎(てんねんしゃ) → 長嘯(ちようしやう・北山、俳人) I 2 8 9 6  
伝能(でんのう;字) → 日境(にちきやう;法諱・明静院、日蓮僧) B 3 3 3 0  
恬囊館(てんのうかん) → 蘭阪(らんぱん・三浦みうら/松田、医/本草) D 4 8 1 3  
天王寺五郎兵衛(てんのうじごろうべえ) → 義太夫(ぎだゆう・竹本、浄瑠璃) 1 6 1 8  
天王寺屋(てんのうじや) → 富十郎(初世とみじゅうろう・中村、歌伎役) 3 1 5 8  
天王寺屋市郎兵衛(てんのうじやいちろうべえ) → 市郎兵衛(いちろうべえ・天王寺屋、書肆) G 1 1 6 8  
伝之衛門(でんのえもん・加藤) → 正修(まさのぶ・加藤かとう、藩士) F 4 0 7 1  
伝之丞(でんのじやう・橋村/吉沢) → 正竹(まさたけ・橋村/度会、神職/古典) D 4 0 3 2  
伝之丞(でんのじやう・沢田) → 眉山(びざん・沢田さわだ、藩儒/書/詩人) C 3 7 3 0  
伝之丞(でんのじやう・小田切) → 春江(しゅんこう・小田切おだぎり、藩士/絵師) J 2 1 6 3  
伝之丞(でんのじやう・刑部) → 玄(げん・刑部おさかべ、藩士/神職/歌人) N 1 8 6 6  
伝之丞(でんのじやう・前田) → 政兼(まさかね・前田まえだ、藩士/国学者) S 4 0 5 2  
伝之進(でんのしん・栗原) → 保信(やすのぶ・栗原くりはら/源/長坂、名主/国学) F 4 5 8 6  
伝之助(でんのすけ・並河) → 天民(てんみん・並河、儒/医/雅楽/神道) E 3 0 3 4  
伝之助(でんのすけ・鎮西) → 清行(きよゆき・鎮西ちんぜい、神職/歌人) U 1 6 7 4  
伝之助(でんのすけ・牛田/大岡) → 雲峯(うんぼう・大岡おおおか、絵師) E 1 2 0 5  
伝之助(でんのすけ・梅谷) → 安良(やすら・梅谷うめたに、藩士/国学者) F 4 5 4 4

E3016 田梅(田榎でんばい、田福の母の弟?)?-? 俳人;1783維駒これこま「五車反古ごしゃほうぐ」入、

[紙屋川花野に橋をわたしけり](五車反古;350/紙屋川;京北野社付近紙屋院にある川、対岸の秋の花野を楽しむために橋を渡してある)

- 天瀑(てんぱく・林) → 述斎(じゆっさい・林/松平、幕府儒官) I 2 1 9 4  
伝八(でんぱち・鮎川) → 一雄(いちゆう・鮎川あゆかわ、絵/華道家) G 1 1 5 2  
伝八(でんぱち・藤咲) → 僊潭(せんたん・藤咲ふじさき、儒者/藩士) M 2 4 9 2  
伝八(でんぱち・柘植) → 信春(のぶはる・柘植つげ、藩士/国学/歌) J 3 5 1 6  
田八悟(でんぱちご) → 八悟(はちご・田所、俳人) E 3 6 8 4  
伝八郎(でんぱちろう・浅井) → 忠能(ただのり・浅井/橋、幕臣/歌人) G 2 6 0 6  
伝八郎(でんぱちろう・岡本) → 吾声(ごせい・岡本、俳人) M 1 9 8 5  
天磐如石(てんぱんじよせき) → 柏巖(はくがん・性節、黄檗僧) I 3 6 8 8  
田豹(でんひょう・吉田) → 周斎(しゅうさい・吉田よしだ、藩医・儒者) X 2 1 2 9  
天鬢院(てんびんいん・:法号) → 頼喬(よりたか・相良さがら、藩主/歌人) Q 4 7 1 9

E3067 天秤真地目(てんびんのまじめ)? - ? 狂歌;1787「狂歌才蔵集」入;534、

[剣術の込む手薙ぐ手はならひしが十文字さへよめぬかなしさ](才蔵集;534、こむ手;突き/なぐ手;払い、蜘蛛手・角繩・十文字[平家物語;橋合戦])

E3017 天府(てんぶ・葆光斎、松平まつだいら、名;正升まさのり、正温まさあつ男)1742-1804<sup>63</sup> 大河内松平家6代、上総大多喜4代藩主;1767襲封、備前守/大坂加番/1803致仕、詐諧;1790大江丸「俳讎悔」序

- 天府(てんぶ;号) → 周璽(しゅうがく;法諱・巖中、臨濟僧) H 2 1 0 0

- 天府(てんぷ;号) → 五大(こだい・菊池、俳人) N 1 9 0 4  
 天晋(てんぷ) → 其残(きざん・山田/岩波、俳人/画) K 1 6 6 8  
 天風脈脈老禪(てんぷうみやくみやくろうぜん) → 慈英(じえい;法諱・天章;道号、臨濟僧) B 2 1 1 9  
 E3018 田福(でんぷく・川田かわだ、名;維鱗) 1721-93 73 京五条室町の太物呉服商(屋号;井筒屋)、  
 撰津池田にも開店、俳人;練石・蕪村門、謡曲/絵画/器物鑑定に長ず、  
 几董・月溪・日初・荒木蘭皐と交流、晩年は弟に家業を譲渡;剃髪、妻は俳人百池の叔母、  
 「丙午月並句集」著、1784几董「蕪村句集」跋、  
 1772几董「其雪影」2句/73「あけ鳥」1句/76「続明鳥」3句/83維駒「五車反古」14句入、  
 [明けやすき夜を朝がほの二葉哉](其雪影;巻尾279)、  
 [田福(;号)の字/通称/別号]字;奮卿、通称;庄兵衛、剃髪後の号;祐作、別号;松倚亭  
 伝平(でんべい・条野じょうの) → 有人(あるんど・山々亭、人情本/落語) C 1 0 0 6  
 伝平(でんべい・中川) → 良俊(よしとし・中川なががわ、商家/儒者) O 4 7 1 4  
 E3019 伝兵衛(でんべえ・猪俣いのまた)?- 1664 長崎の南蛮通事、医者:カスペルスハンベルゲン門、  
 「阿蘭陀流外科書」著  
 E3020 伝兵衛(でんべえ・瀬戸物屋)?- ? 江中期大阪心齋橋筋北久太郎町の書肆、  
 1730「金葉百人一首歌文庫」著  
 E3021 伝兵衛(でんべえ・富永、別通称;平十郎)?-? 江中期歌舞伎作者;富永平兵衛門、1732江戸森田座入、  
 1738河原崎座で立作者、津打半右衛門・中田菊助と合作、1732「猛勢権五郎景政」著、  
 1733「絵屏風酒呑童子」35「漁船靈験入間川」38「寿紅葉景政」39「産衣女将門」「星合貌曾我」著  
 E3022 伝兵衛(でんべえ・花輪はなわ、宣清/清宣) 1785-? 1856存 和算家:甲斐武田家の算法を主唱、謡曲、  
 1845「峽算法」46「峽算早割法」著  
 E3023 伝兵衛(でんべえ・津田つだ、名;長道、伝右衛門男) 1798-1875 78 因幡鳥取藩士;  
 1832藩主池田斉訓の近習、1836家督/1845大坂留守居役兼目付および京留守居役、  
 1839帰郷、御使番、1853藩校尚徳館学頭、1857御軍式御用取扱;軍式改正に参画、  
 1864軍艦役に再任;征長に反対、堀庄次郎暗殺事件が発生;職務御免、1869参政、  
 権大参事となる、「警備考」「武場鄙策」「学校秘鄙策」外著多数、  
 [伝兵衛(;通称)の別通称] 牧太/優也  
 伝兵衛(でんべえ・松田) → 政名(まさな・松田/藤原、藩士/馬術家) E 4 0 8 9  
 伝兵衛(でんべえ・遠藤) → 正友(せいゆう/まさとも・遠藤えんどう、俳人) D 2 4 0 3  
 伝兵衛(でんべえ・原田) → 蔵六(ぞうろく・原田はらだ、商家/記録) J 2 5 2 5  
 伝兵衛(でんべえ・蓑田) → 長胤(ながたね・蓑田みのだ、藩士/書簡) E 3 2 1 9  
 伝兵衛(でんべえ・井坂) → 徳辰(あつとき・井坂、神職/歌人) E 1 0 7 0  
 伝兵衛(でんべえ・内藤) → 長就(ながなり・内藤ないとう、幕臣/和学) O 3 2 0 1  
 伝兵衛(でんべえ・高垣) → 重枝(しげえ・高垣たかがき、藩士) Q 2 1 6 5  
 伝兵衛(でんべえ・十一屋) → 以直(もちなお・富岡とみおか、商家/心学者) B 4 4 5 1  
 伝兵衛(でんべえ・野口/山口) → 起業(おきのり・山口やまぐち、国学/神職) C 1 4 9 4  
 伝兵衛(でんべえ・熊谷) → 竹堂(ちくどう・熊谷くまがい、儒者/詩人) D 2 8 5 7  
 伝兵衛(でんべえ・近江屋) → 祇徳(初世ぎとく・仲、札差/俳人) B 1 6 6 0  
 伝兵衛(でんべえ・大石) → 千引(ちびき・大石おおい、国学者/歌) 2 8 1 6  
 伝兵衛(でんべえ・近江屋) → 田鶴丸(たづまる・蘆辺あしべ/岩田、狂歌) 2 6 3 9  
 伝兵衛(でんべえ・著屋めどきや) → 尹勝(ただかつ・上坂かみさか、書肆) P 2 6 3 9  
 伝兵衛(でんべえ・清水) → 貞固(さだかた・清水しみず、藩士/歌人) B 2 0 7 8  
 伝兵衛(でんべえ・遠山/北条) → 国隆(くにたか・福島くしま、幕臣/軍学) C 1 7 8 1  
 伝兵衛(でんべえ・東郷) → 実門(さねかど・東郷とうごう、藩士/歌人) O 2 0 8 6  
 伝兵衛(でんべえ・福島くしま) → 国雄(くにお・福島くしま、幕臣/軍学) D 1 7 6 8  
 伝兵衛(でんべえ・田中) → 正晴(まさはる・田中たなか、国学者/歌人) Q 4 0 5 8  
 伝兵衛(でんべえ・西沢) → 子温(しおん・西沢にしざわ、書家) P 2 1 7 5  
 伝兵衛(でんべえ・和田) → 宜歳(よしとし・和田わだ/和、商家/国学) E 4 7 9 4  
 伝兵衛(でんべえ・浅沼) → 御実(みさね・浅沼あさぬま、藩士/歌人) I 4 1 0 6  
 伝兵衛(でんべえ・難波) → 周政(かねまさ・難波なんば、陪臣/歌人) V 1 5 2 9

- 伝兵衛(でんべえ・内藤/久村)→ 楚山(そざん・内藤/久村、俳人) J 2 5 7 6  
 伝兵衛(でんべえ・平井) → 寛敬(ひろたか・平井ひらい、藩士/歌人) K 3 7 7 7  
 伝兵衛(でんべえ・林) → 保綱(やすつな・林はやし、酒造業/歌人) G 4 5 4 5  
 伝兵衛(でんべえ・伴) → 能弘(よしひろ・伴はん/捨井、商家/歌人) O 4 7 6 8  
 伝兵衛(でんべえ・丹波屋)→ 分外(ぶんがい・梁瀬やなせ、書肆/俳人) E 3 8 9 1  
 天変の少将(てんべんのしょうしょう)→ 能俊(よしとし・源みなもと、大納言/治部卿) Q 4 7 4 7
- E3024 **天姥**(てんぼ・松山まつやま、名;敬和、昆敬男/本姓;源)1726-8358 播磨安志藩士/江戸小石川住、  
 書家:細井九阜門/のち書家で一家、入江北海と交流、「書学大意」「書論」「右軍帖」著、  
 [天姥(;号)の字/通称/別号]字;伯義、通称;源蔵/源三郎、別号;雲隠
- E3025 **天姥**(てんぼ・宮本みやもと、名;道孟、常則男)1741-182383 信濃埴科郡戸倉の豪農、俳人:白雄しらお門、  
 白雄に随従し北陸・上方を行脚、地方文化の啓発、1784判者、葛三・治泉の師、  
 1789「八葉集」1801「つきよほとけ」撰/07「犬樞いぬかや集」、「文化甲子春」、追善集「はなの」、  
 [天姥(;号)の通称/別号]通称;清吉/八郎兵衛、  
 別号;古慊/虎杖/虎杖庵(初世)/鳳子房/姨山庵/曲津上/更科一七庵/歩山庵/梨翁/青橘  
 天姥(てんぼ・新妻にいづま/につま)→ 道斎(どうさい・新妻、儒者) E 3 1 4 2
- E3026 **天歩**(てんぼ・雲府観うんぷかん)?- ? 経歴不詳/読本作者;  
 1797「邂逅わくらば物語」-98「棧道かけはし物語」著
- E3027 **天浦**(てんぼ・吉川よしかわ、吉川林久男/本姓;藤原)1819-5840 代々常陸鹿島神宮の祠官、  
 儒:宮本茶村門、昌平黌出/1849中神職、師茶村の処罰に藩儒会沢正志斎に嘆願書;赦免、  
 1840「垂囊たたく録」64「無所苟斎詩鈔」、「無所苟斎雑記」「観楓唱和詩遊方録」著、  
 [天浦(;号)の名/字/通称/別号]名;堅/久堅(ひさかた)、字;多節、通称;仲之輔/仲之助、  
 別号;無所苟斎むしやうさい  
 天保(てんぼ・筒井) → 尚堂(しょうどう・筒井ついで、書家) L 2 2 1 9
- E3028 **転蓬**(てんぼう・天狗堂てんどう)?- ? 江中期;浮世草子作者、  
 1716「西鶴伝授車」著(版元;宗吉)、版元の京の書肆村上宗吉と同一か?  
 天放(てんぼう/天放山人)→ 玄道(げんどう/はるみち・矢野、国学) C 1 8 8 4  
 天放(てんぼう・宇津木) → 昆台(こんだい・宇津木[-城]/于、医者) G 1 9 5 9  
 天放(てんぼう・丹羽) → 謝庵(しゃあん・丹羽/藤、儒者/絵師) F 2 1 9 9
- E3029 **伝芳**(でんぼう) ?- ? 室町期歌人;1457武家歌合参(正徹・心敬らと);2首入  
 [やまぶきの色にうつろふ秋のはもこころ深くは見えぬ山かな](武家歌合;12山黄葉)
- E3030 **殿峰**(でんぼう・広江ひろえ、名;為盛)1756-182267 長門下関西細江町の代々醤油醸造業;伊予屋、  
 長府藩御用達/土地の年寄格、詩文/書画/篆刻を嗜む、篆刻;富益斎門、  
 西江楼を文化サロンとして開放;頼山陽・田能村竹田・菊舎尼らと交流、「西江堂印譜」著、  
 息子;広江秋水(しゅうすい、詩人)、息女;山名さく(歌・俳人)、  
 [殿峰(;号)の字/通称/別号]字;文竜、通称;吉右衛門、別号;西江堂
- E3031 **伝芳**(でんぼう・下郷しもさと、名;景雄、亀章男)1762-181958 尾張鳴海千代倉家7世/6世学海[亀洞]嗣、  
 俳人:養父(伯父)学海の遺志を継承し芭蕉俳書「七百五十韻」「次韻」等を覆刻、「常棣」編、  
 [伝芳(;号)の通称/別号]通称;勘右衛門/次郎四郎/是助、別号;知足斎/小山園  
 参照 → 鳴海の千代倉家(なるみのちよくらげ)
- E3032 **田鳳**(でんぼう・鶴田つるた)1804-4037歳 甲斐東山梨郡上加納川の酒造業、  
 俳人;漫々・卓池門、1836「かりさしき」編、「山柿集」編、三河の卓池庵で没、  
 十三回忌追善集「くはのつゑ」;呉雪編、  
 [田鳳(;号)の通称/]通称;慶輔、別号;栖霞園(せいかえん)/山壽  
 伝法和尚(でんぼうおしょう) → 澄豪(ちやうごう;法諱、天台学僧) I 2 8 3 1  
 伝芳和尚(でんぼうおしょう) → 紹芳(じやうほう;法諱、臨濟僧/連歌) B 2 2 5 8  
 天放散人(てんぼうさんじん) → 玄道(げんどう/はるみち・矢野、儒/国学者) C 1 8 8 4  
 天方潤(てんぼうじゅん) → 照道(てるみち・生花斎/橋、医者/狂歌) C 3 0 9 7  
 天放生(てんぼうじやう) → 霞亭(かてい・北条ほうじやう、儒者/詩人) F 1 5 5 2  
 伝法心院(でんぼうしんいん) → 宣存(せんそん/せんぞん;法諱、天台僧) M 2 4 8 7  
**天保四天王**(てんぼうのしてんのう);天保時代(1830-44)活躍の主要歌人

- 景樹(かげき・香川、桂園、1768-1843) 1 5 1 2  
 → 信友(のぶとも・伴、1773-1846) 3 5 1 0  
 → 篤胤(あつたね・平田、気吹之舎いぶきのや、1776-1843) 1 0 2 2  
 → 守部(もりべ・橘、蓬壺、1781-1849) 4 4 2 8  
 天保毫士(てんぼうもうし) → 泰歳(やすとし・伊藤/中臣/朝野、国学) C 4 5 2 7  
 伝法屋(田穂屋でんぼうや) → 染太夫(初世そめだゆう竹本、浄瑠璃太夫) K 2 5 4 4  
 転法輪大臣(てんぼうりんのおとど) → 公修((きんおさ・三条/転法輪三条、歌/記録) Q 1 6 7 1
- E3033 **天穆**(てんぼく・牧まき、尚政男) 1809-1863 55 美作真庭郡久世の蘭学者:箕作阮甫門、  
 1845浜松藩主水野忠邦に出仕/51致仕、横浜で翻訳業、1855「歩操軌範」56「騎操規範」訳、  
 1858「蘭語通」著、59「貨幣編」訳、「風船問答」「ベルリンスブラウ製法」著、  
 [天穆(;名)の通称/号]通称;穆中、号;培蘭/寺山
- E3066 **天保川成**(てんぼのかわなり) ? - ? 狂歌;1785「後万載集」(835)/87「才蔵集」入;  
 [秋の夜の空も今宵は晴れ勝負得手えて(得意技)をさしたり角力場の月](才蔵集;221)  
 典馬(てんま・岡本) → 常彦(つねひこ・岡本おかもと、絵師) D 2 9 3 3  
 天満孫四郎(てんまごしろ) → 孫四郎(まごしろ・江戸えど、説教節太夫) 4 0 7 5  
 天満屋久七(てんまやきゅうしち) → 久七(きゅうしち・天満屋、歌舞伎役・作者) G 1 6 4 2  
 天満屋藤十郎(てんまやとうじゅうろう) → 河東(初世かとう・十寸見ますみ、浄瑠璃太夫) 1 5 2 5
- E3034 **天民**(てんみん・並河なみかわ・なびかわ、名;亮/良弼、俚斎男) 1679-1718 40 山城紀伊郡横大路村の出身、  
 京・鳥羽に住、儒者;1691伊藤仁斎門、経世的;師仁斎説に疑義;東涯と二分し一派を成す、  
 誠所せいしょの弟、医/神道/雅楽に通ず、雅楽「問寰録」「關疆録」/神道「かたそきの記」著、  
 經学「論語遺説」「疑語孟字義」/「義経百首軍歌」著、  
 「天民遺言」「天民先生遺稿拾録」(門弟編)、馬杉亨庵こうあんの師、  
 [天民(;号)の字/通称]字;簡亮/伝亮/永亮、通称;伝之助/復一/勘介/勘助
- E3035 **天民**(てんみん・但馬たじま) ? - ? 江後期但馬の医者:野呂天然門/大阪住、  
 但馬鶴城城主田結莊左近将監の末裔、1815「傷寒挙踏さよばく」(天洋と共著)、田結莊千里の父
- E3036 **天民**(てんみん・志賀しが/初姓;布ぬの、名;英達) 1822/24?-7655-53? 伊予宇和島の医者:三和玄溪門、  
 長崎で蘭学;通詞名村定五郎門/医;1843紀州華岡鷺洲門、1847帰郷し宇和島町医、  
 宇和島藩の種痘医;長崎から最新の医療技術導入/1860宇和島藩の典医、1870志賀に改姓、  
 維新後は軍医、「救気懼心」著、  
 [天民(;通称)の初通称/号]初通称;清志、号;高養楼
- 天民(てんみん・大窪) → 詩仏(しぶつ・大窪おおくぼ、儒者/詩人) 2 1 3 2  
 天民(てんみん;号) → 仙厓(せんがい;道号・義梵;法諱、臨濟僧/禅画) F 2 4 0 1  
 天民(てんみん・堀) → 文之(ふみゆき・堀ほり、医者/和学) I 3 8 7 0  
 天民(てんみん・山下) → 玄良(はるよし・山下やました、医者) K 3 6 9 2  
 天民(てんみん・林はやし) → 徳則(とくのり・林はやし、大庄屋/海防策) L 3 1 2 9  
 天民(てんみん・斯波:変名) → 繁実(しげざね・岡谷おかや、藩士/勤王家) S 2 1 7 5
- 3015 **天武天皇**(てんむてんのう、大海人皇子/諡:天淳中原瀛真人あまのぬなはらおきのまひと、舒明帝皇子) 622-686 65  
 母;斉明天皇/妃;天智皇女の太田皇女・鸕野讃良ののさら皇女など、668皇太子/671出家、  
 吉野隠棲/672壬申乱に勝利、浄御原に即位;在位673-686、八色姓やくさのかばね制定/律令制定、  
 国史編纂着手、万葉歌;長歌1首/短3首;21(額田王に答)/25(長歌)/27/103(藤原夫人に贈)、  
 [よき人のよしとよく見てよしと言ひし吉野よく見よよき人よく見](万葉集;卷一27)
- 天明堂人(てんめいどうじん) → 天明老人(てんめいらうじん、狂歌) E 3 0 3 7
- 天明七名家**(てんめいななめいか); 天明朝[1781-89]前後の7名の有名俳人  
 → 蕪村(ぶそん・谷口/与謝) 1716-83 3 8 1 1  
 → 仏仙(ぶつせん・山叩) 1721-90 D 3 8 3 7  
 → 蘭更(らんざんこう・高桑) 1726-98 4 8 0 3  
 → 樗良(ちよら・三浦) 1729-80 2 8 3 1  
 → 晧台(きょうたい・加藤/岸上) 1732-92 1 6 3 6  
 → 蝶夢(ちようむ・五升庵) 1732-95 2 8 2 6  
 → 白雄(しろお・加舎かや) 1738-91 2 2 1 4

- 天明入道(てんめいにゅうどう)→天明老人(てんめいらうじん、大工棟梁/狂歌) E 3 0 3 7
- E3037 **天明老人**(てんめいらうじん、姓;小間切/通称;本田ほんだ甚三郎)1781-1861<sup>81</sup> 江戸日本橋の大工棟梁、狂歌:小槌側判者、道場を開く:天明調復興に努力、1853-54「東都花日千両」編、1855「狂歌四季人物」56「狂歌江都名所図会」57「狂歌大和人物」58「狂歌四季遊」編、1858「狂歌文茂智登理」編、「狂歌百物語」編、「狂歌化物尽」「狂歌合」著、[天明老人の別号] 近亭三七/下手内匠へたのたくみ/尽語楼/飛驒山人//天明堂人
- 田面舎(でんめんしゃ・蒲) → 八十村(やそむら・蒲がま、正茂男/商/国学/歌) F 4 5 7 7
- 田面舎(でんめんしゃ・蒲) → 清民(きよたみ・蒲がま、八十村男/商家/国学) T 1 6 9 4
- 天模(てんも;字・木村) → 芥舟(かいしゅう・木村きむら、幕臣/日記) I 1 5 7 2
- E3038 **天目**(てんもく;法諱、別法諱;日盛)?-?<sup>1308/37</sup> 伊豆波多野の日蓮僧:日蓮門、関東各地を行脚、日蓮の遺教を宣揚/1300日蓮最高弟日昭らを批判、下総佐野妙顕寺・江戸妙国寺を創建、常陸本門寺創建;門流を天目門徒と称、「本迹問答」「本迹問答七重勝劣義」「円極実義抄」、[天目(;法諱)の号/通称]号;浄法房/上法房、通称;卿公/美濃阿闍梨、母;熱原国重女
- E3039 **天目**(てんもく・飯室いむろ、名;偉文/字;武中/通称;近右衛門、信重男)1730-91<sup>62</sup> 江戸の儒者、美作津山藩主松平康致に招聘され1765創設の津山学問所の講師/詩人、「天目詩集」著
- E3040 **天目**(てんもく・志村むら、名;益之ますゆき、勝之進男)1745-1817<sup>73</sup> 甲斐の朱子学;加賀美光章門、篆刻家;高芙蓉門、長崎に遊学;神道・心学;手島堵庵門/書を修得、江戸住;俳諧;俳人敲氷と親交、帰郷;神学をもとに教育、1788「忠女福伝」/95「瓊浦印譜」著、[天目(;号)の字/通称/別号]字;子謙、通称;礼助、別号;青玉園
- 天目庵(てんもくあん) → 秀億(しゅうおく・明田、俳人) G 2 1 8 7
- 天目軒(てんもくけん) → 士前(しぜん・永井ながい、庄屋/俳人) U 2 1 1 8
- 天目山人(てんもくさんじん) → 元恭(げんきょう・広瀬ひろせ、蘭医/砲術) I 1 8 6 0
- 天門(てんもん・新井) → 文山(ぶんざん・新井/林、儒/詩文/藩士) F 3 8 4 2
- 点也(てんや) → 鬼貫(おにつら・上島、俳人) 1 4 2 4
- 伝弥(でんや・吉田) → 茂貞(しげさだ・吉田よしだ、藩士/弓術家) R 2 1 0 0
- 伝弥(でんや・菅野) → 治太夫(じだゆう・松本まつもと、浄瑠璃太夫) E 2 1 5 1
- E3041 **天祐**(てんゆう;道号・梵嘏ぼんか;法諱)?-? 室町期臨濟僧;雪心周安門;法嗣、京の万寿寺住持、1464「京城万寿寺禅寺記」、「万寿語録」「覺雲天祐和尚語録」「文庫記並官務文庫記」
- E3042 **天宥**(てんゆう;法諱、初法諱;宥誉ゆうよ)1593-1674<sup>82</sup> (一説;<sup>61or69</sup>) 羽前吉川村山郡の修験僧:1599(7歳)月山の日月寺入、羽黒山49代別当の宥俊門(;宥誉)、1630羽黒山50代別当に就任、1641東叡山天海の門下に入(天宥に改名)、羽黒一山を天台宗に改宗:湯殿山は従わず対立、1667智憲院らにより伊豆新島に配流;没、造庭/絵画/書/彫刻を嗜む、「天宥嶋文」「志万多与里はだより」著、[天宥の号] 宝前院、左京
- E3043 **天祐**(てんゆう;法諱) ? - 1708 下野那須の天台僧;1642日光輪王寺入;教城院住、日光山御堂別当4世/大僧都/法印、1678「滝尾山年中行事」79「滝尾山過去帳」著、1692「日光山本房并総徒旧蹟記」編、97「日光山堂社建立記」1700「日光山列祖伝」著
- E3044 **天祐**(てんゆう・寺島たらしま、名;俊平)1776-1849<sup>74</sup> 京柳馬場二条南の儒者、「名目典拠」[天祐(;号)の字/別号]字;吉公、別号;白鹿/俊叟
- E3045 **天游**(てんゆう・中なか、上田河陽男)1783-1835<sup>53</sup> 丹後の生/京住;母方の中氏を嗣、蘭学:1805大槻玄沢門/儒;古賀精里門、09海上随鷗門;随鷗女婿;妻定も医者/西宮で開業、1810女体解剖、歌;藤井高尚門、医は妻に任せ蘭学塾[思々齋塾]に専念、1824「解剖図」著、「思々齋漫筆」「算学一步」「視学一步」「引律」「引律提耳」「引律耳解」「鳴鏑瓊矛」著、中屋伊三郎の従弟、門弟;緒方洪庵・坪井信道ら、[天游(;号)の名/字/別号]名;玉樹たまき/環/多麻喜、字;環中、別号;思々齋/天遊/玉樹
- E3083 **天由**(てんゆう) ? - ? 武蔵の俳人、1832三蔦「四町よら集」入 [のけば長し寄れば短し藤の花](四町集入)
- 天游(てんゆう) → 通徹(つうてつ;法諱・清溪[谿]、臨濟僧) 2 9 4 1
- 天游(てんゆう・服部) → 蘇門(そもん・服部はつとり、漢学/仏典) E 2 5 4 2
- 天遊(てんゆう・横井) → 時庸(ときもち・横井/井、藩士/地誌) K 3 1 1 4

- 天遊(てんゆう・神谷) → 元等(もととも・神谷かみや、商家/国学者) J 4 4 7 2  
 天遊(てんゆう・越石) → 明秋(あきとし・越石こいし、藩士/歌人) H 1 0 5 7  
 天祐(てんゆう・思順) → 思順(しじゅん・天祐、歌人) D 2 1 9 4  
 天祐(てんゆう;道号) → 思順(しじゅん;法諱・天祐、臨濟僧/歌) D 2 1 9 4  
 天祐(てんゆう・金) → 岳陽(がくよう・金こん、儒者) H 1 5 8 0  
 天祐(てんゆう) → 慧敏(えいしん;法諱、真宗僧) D 1 3 9 8  
 天祐(てんゆう;号) → 義産(ぎさん;法諱・実苗;道号、曹洞僧) K 1 6 7 4  
 天祐(てんゆう・荻生) → 鳳鳴(ほうめい・荻生/物部/物、藩儒) C 3 9 5 4  
 天祐(てんゆう) → 頼房(よりふさ・肥田ひだ、幕臣/記録) J 4 7 7 0  
 天祐(てんゆう・原田) → 重種(しげたね・原田はらだ、神職/国学者) R 2 1 3 9  
 転幽(てんゆう;隠居号) → 野水(のづみ・岡田おかだ、商家/俳・茶人) 4 5 2 0
- E3046 伝祐(でんゆう;法諱・号;十乗房/心孝)?-? 室町期天台僧/法印、「薬師経見聞」
- E3047 伝雄(でんゆう;法諱・字;教遍房、俗姓;天竺) 1726-9974 上州新田郡由良村の真言僧;  
 1736(11歳)細谷村の教王寺恵音門;出家/淵竜門/1748高野山で修業;明眼院など住、  
 1792権少僧都/93大僧都、文庫を作製し書物保存、「庭儀灌頂行事手鏡」著
- E3048 伝雄(でんゆう・観阿) ? - 1818 筑後久留米の高良こうら山の座主55世/権僧正、詩歌、  
 芭蕉祀の桃青霊社の建立に助力、1789「高良玉垂宮略縁起」著
- 天祐院(てんゆういん) → 直矩(なおり・松平、藩主/日記/歌) C 3 2 0 5  
 天祐院(てんゆういん) → 助賢(すけとし・本多/戸田、藩主/歌) G 2 3 6 4  
 天祐院(てんゆういん) → 琨子(たまこ・稲葉いなば/伊達、歌人) V 2 6 6 9  
 天遊館(てんゆうかん) → 藍田(らんてん・伊東いとう/東/菱田、儒者) D 4 8 0 4  
 転幽齋(てんゆうさい) → 勝興(かつおき・小豆沢あずきざわ、歌人) T 1 5 4 1  
 天遊道人(てんゆうどうじん) → 大蘇(たいそ;道号・智玲;法諱、臨濟僧) K 2 6 5 2
- E3049 天与(てんよ;道号・清啓せいきい;法諱、知久心源男)?-? 1469存 信濃臨濟僧;伯元門、  
 1460建仁寺191世、2度遣明使[1451-4/67-9正使]、「再度集」「万里集」、1466「酔雪齋記」著、  
 [天与清啓の号] 万里/万里叟/鵝湖/海樵老人
- 天誉(てんよ;号) → 大我(だいが・絶外、浄土僧) B 2 6 1 0  
 転誉(てんよ;法名) → 孤灯(ことう;法諱・転誉、浄土僧) N 1 9 1 6  
 転誉(てんよ・輪蓮社) → 存統(ぞんとう;法諱、浄土僧、天文) F 2 5 6 8  
 伝誉(でんよ・灯蓮社) → 牛沢(ぎゅうたく;法諱、浄土僧) M 1 6 8 0  
 伝余(でんよ・藤井) → 維濟(これなり・藤井ふじい/藤原、国学者) O 1 9 6 3
- E3050 天鷹(てんよう;道号・祖祐そゆう;法諱、俗姓;波多野) 1336-141378 加賀の曹洞僧;丹波の通幻寂霊門、  
 1391嗣法/尾張正眼寺・総持寺等歴住/丹波洞光寺・尾張雲興寺を開山、「万松録事略」著
- E3051 天洋(てんよう・藤田ふじた、名;正夫) 1788-1879長寿92 越前丸岡藩侍医/蘭方医、解剖学;野呂天然門、  
 医業の傍ら谷町に詩文の朴齋塾を開、1815「傷寒挙踏きまぼく」(;天民と共著)  
 [天洋(;通称)の字/号]字;伯元/号;朴齋/二峯庵
- 天洋(てんよう・馬田) → 柳浪(りゅうろう・馬田うまた/広津、医/戯作者) F 4 9 8 8  
 伝養(でんよう) → 理峯(りほう;法諱・春応房、真言僧/梵曲) C 4 9 5 1  
 天擘院(てんよういん;法号) → 豊房(とよふさ・山内やまのうち、藩主/儒/歌) R 3 1 5 5  
 恬養軒(てんようけん) → 勝義(かつよし・上杉うえずぎ、藩主/文筆) O 1 5 0 0  
 田螺(でんら・太田) → 保興(やすおき・太田おた/源、教育/歌人) F 4 5 5 4
- E3052 天籟(てんらい・館たち、本姓;齋藤) 1778-182750 出羽大館の儒者;1796(19歳)山本北山門/娘婿、  
 北山門下の三才(大田錦城・朝川善庵と)、1825帰郷;秋田藩校明德館教授、詩人;七絶など、  
 [天籟(;号)の字/通称/別号]字;豹、通称;豹蔵、別号;海庵/小倉山房
- E3053 天来(てんらい・牧岡まきおか) 1786-1861自殺76 摂津難波村の俳人;左逸門、  
 1841「誹諧七草」著;貞門道統の立場から梅室を論難;しかし反論多し、  
 1861難波の天保山沖に投身、  
 「誰やらか之巻」「誹諧花兎」/1851「誹諧新花兎」編、「誹諧嘉定撰」「天来点取帳」編、  
 [天来(;号)の別号] 反古庵ほうぐあん/花咲庵/貞虎/松夢陳人/黒淵漁夫
- E3054 天来(てんらい・岡おか、名;次敏つぐとし/通称;織部、号;無学齋) 1792-186473 讃岐丸亀藩士、

俳人；鳳朗門、上記の復古庵天来と混同され易い

- E3055 **天籟**(てんらい・市野いちの/初姓；安井、名；靖) 1830-86<sup>57</sup> 伯父の嗣子、尾張藩士；小納戸詰格、儒者/詩文；鶉飼蘭齋・沢田眉山・阿部松園・秦松洲・森春濤などの門、武術・茶・挿花を嗜む、「天籟余響」「琴堂文稿并韻語」「小説字類」「從軍百絶」「文体明辨題目拔粹」著、「評語箋」編、[天籟(；号)の字/通称/別号]字；節夫、通称；俊蔵、別号；無絃琴堂、法号；無絃院
- 天籟(てんらい；号) → 鼎三(ていざん；道号・即一、曹洞僧) 3 0 9 4  
天籟(てんらい・久坂) → 玄機(げんき・久坂くさか、医者/海防) I 1 8 3 7  
天籟(てんらい・遠田) → 昌庵(しょうあん・遠田とおだ、蘭学者) G 2 2 6 4  
天籟(てんらい・奥村) → 邦光(くにみつ・奥村おくむら/橘、神職/歌人) E 1 7 0 9  
天籟(てんらい・原) → 昌言(まさこと・原はら、庄屋/歌人) R 4 0 9 7  
天楽(てんらく；法名) → 成烈(なりてる・三橋、幕臣/文筆家) H 3 2 6 7  
天楽道人(てんらくどうじん) → 適(かなう・藤田ふじた、絵師/国学) V 1 5 5 6  
天楽楼主人(てんらくろうしゅじん) → 履軒(りけん・中井なかい、漢学者) 4 9 0 1  
天羅坊(てんらぼう) → 紹簾(紹廉しょうれん・小野、俳人) C 2 2 0 5  
天曆御乳母少納言(てんりやくのおおんめとのしょうなごん) → 少納言(しょうなごん・天曆御乳母) B 2 2 1 5  
天曆贈太皇太后宮(てんりやくのぞうたいこうたいごうぐう) → 安子(あんし・藤原、村上天皇皇后) C 1 0 1 1  
天曆太后(てんりやくのたいごう) → 穩子(おんし・藤原、醍醐天皇中宮/歌) B 1 4 2 6  
天曆中宮(てんりやくのちゅうぐう) → 安子(あんし・村上天皇皇后、歌) C 1 0 1 1  
天曆帝(てんりやくのみかど) → 村上天皇(むらかみてんのう、詩歌) 4 2 1 2
- E3056 **天龍**(てんりゅう・吐雲閣/吐雲亭)?-? 京の俳人；元禄1688-1704頃点者として活動、1690「白うるり」編(；独吟歌仙/言水・団水らの判)、91「師走比」
- 田竜(でんりゅう・稲垣) → 正雄(まさお・稲垣いながき、名主/天文暦学) N 4 0 7 0  
天隆院(てんりゅういん；法号) → 宗衍(むねのぶ・松平、藩主/浄瑠璃) C 4 2 1 2  
天隆院(てんりゅういん；法号) → 義真(よしざね・宗そう/平、藩主) D 4 7 5 1  
天竜翁(てんりゅうおう、天竜窟) → 中彦(なかひこ・太田おた/丸山、藩医/歌) L 3 2 4 5  
天竜堂(てんりゅうどう) → 亮英(りょうえい；法諱・円空；字、天台僧) G 4 9 4 8  
天竜道人(てんりゅうどうじん) → 虚庵(きょあん・渋川、絵師) N 1 6 0 8  
天竜比丘(てんりゅうびく) → 祐室(ゆうむろ；法諱・円海；字、真言僧) D 4 6 7 8
- E3057 **天梁**(てんりょう・吉田よしだ、名；柳) 1800-1874<sup>75</sup> 上総佐原の儒者；吉田竹窓門、「天梁随筆」著
- 伝領(でんりょう；字) → 日宏(にちこう；法諱・玉泉坊、日蓮僧) B 3 3 7 6  
伝了(でんりょう；字) → 日崇(にっそう；法諱・信入院、日蓮僧) E 3 3 8 5  
田良(でんりょう・劉/白水) → 箏山(そうざん・白水しろず/劉、医者) H 2 5 4 8  
天量院(てんりょういん；法号) → 利視(としみ・南部なんぶ、藩主/俳人) N 3 1 7 8  
天梁院(てんりょういん；法号) → 宗利(むねとし・伊達だて、藩主/歌) B 4 2 8 4  
転陵院(てんりょういん；法号) → 宗睦室(むねちかのしつ・徳川、藩主室/歌) B 4 2 6 1
- E3058 **天倫**(てんりん；道号・宗忽そうこつ；法諱、国英法鑑禅師、俗姓；上月) 1626-97<sup>72</sup> 丹後の臨濟僧；1637(12歳)大徳寺の清巖宗渭門；出家、諸師に参禅/清巖の法嗣/1675大徳寺218世、和泉祥雲寺・堺南宗寺住持/江戸品川東海寺の輪番；1696致仕、没後；1704禅師号を贈与、「正燈正譜」「天倫和尚語録」著、「勅諭国英法鑑禅師年譜」(鶴洲編)
- 天琳(てんりん・得蓮社) → 浄巖(じょうがん；法諱、浄土僧) I 2 2 9 2  
天臨閣(てんりんかく) → 梅厓(ばいがい・十時とき、儒者/書画) 3 6 8 2  
点林堂(てんりんどう) → 昌造(しょうぞう・本木もとき、通事/近代印刷) K 2 2 6 2
- E3059 **天嶺**(てんれい；道号・呑補どんぼ；法諱、号；氷覆) 1509-88<sup>80</sup> 下野曹洞僧；同国都賀大中寺快叟良慶門、快叟の嗣法/1569上州竜門寺住持、1574下野皆川に傑岑寺開山/75下野大中寺7世、1587「天嶺和尚語録」、「天嶺代」著
- E3060 **天嶺**(てんれい；道号・性空しょうくう；法諱、伊東いとう重長男) 1669-1740<sup>72</sup> 仙台の臨濟僧；伊東重孝事件に甥の父が連座し配流；その後の出生のため松島瑞巖寺の通玄法達門に入、1693陸前燕沢の聖徳寺住持/京妙心寺住持/瑞巖寺住持、晩年は近江川並の乾徳寺に住、1727/32「燕南記譚」編/34「狄島夜話記」/38「松島夜話」著、「松島摘藁」「西方資糧」著、1738「雲居国師年譜」編、「大悲円満国師略行由並終焉瑞鹿堂記」編；

(大悲円満国師は瑞巖寺中興の雲居希膺うんごきょう1582-1659)、

[天嶺性空の号] 鶴堂/水月/角里/雪松/有聴堂

天靈(てんれい;字) → 道契(どうかい;法諱・天靈、真言僧) D 3 1 2 3

天靈(てんれい;字) → 榮巖(えいごん;法諱・天靈、真言僧) C 1 3 7 5

典礼(てんれい・小野田) → 素寧(もとやす・小野田おのだ/雲井、医/詩歌/画) J 4 4 4 9

天蓮社暁誉還阿(てんれんしゃぎょうよかんあ) → 位産(いさん;法諱、浄土僧) F 1 1 5 5

転蓮社漸誉風航(てんれんしゃぜんよふうこう) → 了吟(りょうぎん;法諱、浄土僧) H 4 9 0 9

伝蓮社桑誉(てんれんしゃそうよ) → 了的(りょうてき;法諱・導故;字、浄土僧) J 4 9 0 1

E3061 天露(てんろ;道号・大暁だいがう;法諱)?-? 江後期天保1830-44頃武州羽生の曹洞僧;  
建福寺20世、1832「建福寺略記」著

点盧(てんろ;号) → 懐円(かいえん;法諱・点盧、真言僧) I 1 5 4 0

田廬(でんろ→たぶせ) → 真幸(まさき・長瀬ながせ、藩士/国学者) 4 0 0 8

E3062 天老(てんろう・小見山こみやま、名;友張)?-1809 名古屋の医者/香具商開店/俳人;暁台・士朗門、  
1800刊「梅蔵人」編、少女しょうじょ(僧/俳人)の弟、  
[人の気につれて桜の咲きにけり](梅蔵人)、

[天老(;号)の通称/別号]通称;宗法/宗甫、別号;玉兔齋ぎよくとさい/春岱子しゅんたいし

参考 「天姥」は「てんぼ」→ 天姥(てんぼ・松山、書家) E 3 0 2 4

天姥(てんぼ・宮本、俳人) E 3 0 2 5

E3063 天響(てんりゅう・兼子かねこ、名;穆、宍戸光賢男) 1759-1829<sup>71</sup> 兼子孝範の養子;妻は孝範女、  
常陸水戸の儒者、儒;井上金峨門、帰郷後新治郡府中(石岡)で経史を講義、  
算数・書法・武技を門人に教育、医術に通ず、「経験薬方」「老子折中」著、  
[天響(;号)の字/通称/法号]字;如風、通称;八三郎、法号;至徳院

天老坊(てんろうぼう) → 一叟(いっそう・飛鳥園5世貞哉、俳人) C 1 1 9 0

E3064 天泐(てんろく・児島こじま、名;景范かげのり)?-1725 江戸の儒者;木下順庵門、  
1714金沢藩主前田綱紀に招聘され伴読・顧問、詩文に長じ数百編作、  
「児島景范集」「真珠船」「北行集」、1713忍斎「関原軍記大成」跋文、  
[天泐(;号)の字/通称/別号]字;宋文、通称;平十郎/平兵衛、別号;常耕斎

伝六(でんろく・須藤) → 忘斎(ぼうさい・須藤すどう、藩士/教授) 3 9 9 1

伝六(でんろく・五十嵐) → 武雄(たけお・五十嵐いがらし、藩士/歌) V 2 6 3 4

伝六(でんろく・菊池) → 長秋(ながあき・菊池さくち、農政/和漢学) L 3 2 8 6

伝六郎(でんろくろう・遠田) → 自省(よりみ・遠田とおだ、藩士/日記) J 4 7 7 8

天和堂(てんわどう) → 松葉軒(しょうようけん、書肆/雑俳) B 2 2 9 0